平成29年度

高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る調査

報　告　書

平成30年3月

沖　縄　県

《 目 次 》

I. 調査の目的と内容 1
1．調査の目的 1
2．調査の内容 1
II. 高等教育を巡る国内及び県内情勢の整理 2
1．国内の動向整理 2
(1) 大学の位置付けに関わるもの 2
(2) 高等教育へのアクセス向上に関わるもの 2
2．県内の状況整理 3
(1) 高等教育への進学をめぐる状況 3
(2) 高等教育へのアクセス向上に資する取組 4
III. 県内若者等の進学･進路決定ニーズの把握 5
1．高校生・保護者アンケート 5
(1) 調査の目的 5
(2) 調査の概要 5
(3) 調査結果 8
2．進学・進路決定者アンケート 88
(1) 調査の概要 88
(2) 調査結果 90
3．進学への影響要因の分析 133
(1) 大学進学を断念する生徒とその属性 133
(2) 大学進学への影響要因 137
IV. 県内産業界等の人材ニーズの把握 142
1．調査の目的 142
2．調査の概要 142
(1) インタビュー調査の対象とした団体・企業の概要 142
(2) インタビュー調査項目 143
(3) インタビュー調査実施期間 143
3．調査結果 143
(1) 人材確保（採用）の状況 143
(2) 人材育成の状況 147
(3) 人材確保・育成における高等教育機関との連携の状況 150
(4) 沖縄県内の高等教育機関への期待・要望 153
(5) 沖縄県内の高等教育に関する環境整備についての行政への要望 154

Ⅴ．　本県の高等教育のあり方に係る有識者の意見聴取 157
１．調査の目的 157
２．調査の概要 157
(1) インタビュー調査の対象とした有識者 157
(2) インタビュー項目 157
(3) インタビュー実施期間 157
３．調査結果 158
(1) 高校生の進学における課題と求められる支援策 158
(2) 高校生の進学率の向上に有効な取り組み 162
(3) 沖縄の発展に資する人材の育成・確保 164
Ⅵ. 高等教育を受ける機会の創出･環境整備等に係る主な手法の整理 166
１．高等教育を受ける機会の創出・環境整備に向けた取組の方向性 166
(1) 大学進学を断念する生徒への経済的支援 166
(2) 生徒の学力の向上 166
(3) 生徒の進学意欲の向上 166
(4) 県内高等教育機関の受け皿の拡大 167
２．高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る主な手法 167
(1) 大学進学を断念する生徒への経済的支援 167
(2) 生徒の学力の向上 168
(3) 生徒の進学意欲の向上 169
(4) 県内高等教育機関の受け皿の拡大 170
(5) その他 176

参考資料

生徒用アンケート 調査票 ..... 資料－1
保護者用アンケート 調査票 ..... 資料－9
進学･進路決定者アンケート 調査票 ..... 資料－17

Ⅰ. 調査の目的と内容

１．調査の目的

沖縄２１世紀ビジョン基本計画【改定計画】では、沖縄県の将来を担う若者が、これからの社会で必要とされる知識や技能、幅広い教養と高度な技術等を身に付け、長期的に沖縄の発展を支える人材となるよう、大学の設置・拡充等、高等教育を受ける機会の創出・環境整備等の諸施策を推進する方針が示されている。

こうした方針を踏まえて、本業務は、沖縄県における高等教育を受ける機会の創出・環境整備等の諸施策を検討する基礎資料を作成することを目的に実施したものである。

２．調査の内容

上記の目的を達成するため、本調査では以下の(1)～(6)を実施した。

(1) 高等教育を巡る国内及び県内情勢の整理
(2) 県内若者等の進学・進路決定ニーズの把握
(3) 県内産業界等の人材ニーズの把握
(4) 沖縄県の高等教育のあり方に係る有識者の意見聴取
(5) 高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る主な手法の整理
(6) 報告書の作成

II. 高等教育を巡る国内及び県内情勢の整理

１．国内の動向整理

(1) 大学の位置付けに関わるもの

① 専門職大学の制度化（学校教育法の一部改正。平成 31 年４月１日施行）

特定業種における業務遂行能力の育成に加え、特に企業での長期実習や関連の職業分野に関する教育を通じ、高度な「実践力」や豊かな「創造性」を培う教育に重点を置く「専門職大学」と「専門職短期大学」を大学制度の中に位置付け、「専門職業人材」の養成を図る。

上記の大学・短期大学では、長期の企業内実習等、産業界等との連携により、教育課程を編成・実施するとともに、教員の資質向上を図る。また、前期・後期の課程区分や、一定期間の実務経験の修業年限への通算など、社会人の学び直しにも対応できる内容となる。

課程修了者には、「学士（専門職）」または「短期大学士（専門職）」の学位が授与される。

② 地方創生に資する大学改革（平成 29 年 12 月有識者会議最終報告）

「①地方大学の振興」と「②東京の大学の新増設の抑制、地方移転」が大きな柱である。

①では、地方大学は「特色」を備えることが重要であり、また「首長のリーダーシップによる産学官連携の強力な推進」や、産官学のコンソーシアムによる「地域の中核的な産業の振興とその専門人材育成」を推進。（例：地（知）の拠点 COC+）

②では、「東京 23 区内での大学の定員増を認めない」（総定員の範囲内でのスクラップ・アンド・ビルドは可）。また、地方へのサテライトキャンパスの設置を推進。

大学は、世界水準の学術研究、グローバルトップエリート人材を輩出するＧ型（グローバル型）と、特色ある地域の中核産業を支える専門人材を育成・確保するＬ型（ローカル型）に機能分化すべきとの考え方に基づいている。

(2) 高等教育へのアクセス向上に関わるもの

① 給付型奨学金制度の創設等（日本学生支援機構法の一部改正、平成 30 年度から本格実施）

「住民税非課税世帯の生徒」「生活保護受給世帯の生徒」「社会的養護を必要とする生徒」のうち、機構から提示するガイドラインを踏まえて各高校が定める基準を満たした生徒に対して給付される奨学金制度が、平成 30 年度からスタートする（平成 29 年度は、新たに私立の大学等に進学し、自宅外から通学する住民税非課税世帯の学生と、国公私立大学等に進学する社会的養護を必要とする学生を対象に、先行実施）。

給付月額は、国公立（自宅）で２万円～私立（自宅外）で４万円となっており、「在学中のアルバイトを前提とした額」と説明されている。

また、無利子型奨学金についても、非課税世帯学生の成績基準を実質的に撤廃し、貸与基準を満たす全ての学生が無利子型奨学金を借りられるようになった。

② 奨学金返還方法の見直し等（日本学生支援機構）

平成 29 年４月から、新たな所得連動返還型奨学金制度がスタートした。借りた奨学金

の総額により１回あたりの返還額が決まる、従来の「定額返還方式」ではなく、毎月の返還金額が市町村民税の課税対象所得に基づいて決定される（課税対象所得はマイナンバーを利用して把握される）。第一種奨学金に平成 29 年度以降に採用された者が対象。

また、同年５月には、減額返還制度が拡充され、当初割賦金額を３分の１に減額して返還する方法が選択できるようになった（従来は２分の１）。

さらに、平成 30 年度に高等教育機関に進学するものから、第一種奨学金の貸与月額の選択肢が増設される（ただし、進学先の学校の種類や通学方法により選択できる月額は異なる）。

③ 教育無償化

国の「新しい経済政策パッケージ」（平成 29 年 12 月 8 日閣議決定）には、低所得世帯に限定した高等教育の無償化（大学、短期大学、高等専門学校、専門学校）の実現が盛り込まれている。

具体的には、高等教育機関への交付による授業料の減免措置、住民税非課税世帯の子どもを対象とした国立大学の授業料免除のほか、私立大学の場合は、国立大学の授業料に加えて、私立大学の平均授業料の水準を勘案した一定額を加算して対応する。

そのほか、給付型奨学金については、支援を受けた学生が学業に専念できるよう、生活に必要な費用を賄えるような措置を講じることとされている。

なお、支援対象者の要件については、高校在学時の成績だけではなく、本人の学習意欲を確認するとともに、進学後の学習状況について一定の要件を課し、これに満たない場合には、支援が打ち切られる。

支援措置の対象となる大学にも、「①実務経験のある教員による科目の配置」「②外部人材の理事への任命が一定割合を超えている」「③成績評価基準を定めるなど厳格な成績管理を実施・公表している」「④法令に則り財務・経営情報を開示している」という要件が定められている。

２．<u>県内の状況整理</u>

(1) 高等教育への進学をめぐる状況

① 進路の状況

沖縄県における高等教育進学率は上昇傾向にあり、大学・短大進学者数も微増しているものの、平成 29 年３月の県内全日制・定時制高校卒業者に占める大学・短大進学者の割合は、39.5%（全国は 54.7%）で、全国ワースト１である。

また、大学進学者の県外進学比率も上昇傾向にあり、大学進学者の約半数は県外に転出している。

（資料：文部科学省「学校基本調査」）

② 世帯の状況

国の教育ローンを利用した世帯の平均年収は 400.9 万円（全国は 668.0 万円）であり、全国の６割程度の水準である。また、離島はさらに低く、381.8 万円である。

学生一人当たりの入学費用は、沖縄全体で 152.0 万円、離島で 182.8 万円であり、進学先での住居費に差がある（沖縄全体 27.0 万円、離島 55.5 万円）。

世帯年収に占める教育費の負担割合は、年収分布が最も多い「200 万円以上 400 万円未満」で沖縄全体 51.0%、離島 60.9%であり、特に「200 万未満」では沖縄全体・離島とも 100%を超え、家計のみで対応することが困難な状況である。

（資料：沖縄振興開発金融公庫「「平成 28 年度沖縄公庫教育資金利用者調査報告」について」）

(2) 高等教育へのアクセス向上に資する取組

① 内閣府による沖縄県特化奨学金の創設

沖縄県内の専門学校生を対象に、返済不要の給付型奨学金制度を平成 30 年度から創設する。

これは、既存の奨学金を補完するものであり、また、沖縄経済を担う産業分野の人材育成にも資するよう、主として観光や情報通信分野の専門学校に進学した場合に経済的支援を行う。

② 沖縄県による進学率向上のための取組

沖縄県では、能力があるにもかかわらず、経済的な理由で県外進学が困難な県内高等学校等生徒の県外難関大学等への進学を促進するため、「沖縄県県外進学大学生奨学金」を給付している。奨学金の額は、入学支度金が 30 万円以内（入学金や受験料実費額）、月額奨学金が 7 万円以内（学費や住居費・光熱水費実費額）であり、給付対象は 25 人以内である。また、グローバル社会で活躍できる人材育成も目的とした事業であるため、対象となる大学は、文部科学省からスーパーグローバル大学として採択されている県外の 35 大学としている。

また、県内高等学校生徒の県外国公立大学等への進学を推進するため、関東地区・関西地区・九州地区等を主な研修先として、大学教授等による講義体験や事前・事後学習会等の県外国公立大学等合格支援プログラムを提供する「沖縄県進学力グレードアッププログラム」を実施している。

③ 宮古島市における高等教育機関設置可能性調査（平成 28 年度）

宮古島市では、平成 28 年度に、若者の定住人口増加に向け、高等教育機関の設置に向けた可能性を把握するための調査を実施した。

調査の結果、設置は、経営面から「設立」ではなく「誘致」が望ましいこと、校種は、市の規模を鑑みて、経営の安定が見込める「専門学校」が望ましいこと等の結論が得られている。

④ 管理栄養士を養成する新たな学部の設置（平成 31 年度開設予定）

沖縄大学は、県の補助事業を活用し、管理栄養士を養成する新たな学部の設置（平成 31 年 4 月開設予定）を計画している。

県が学部の設置に対する補助を行う「管理栄養士養成課程設置補助事業」は、沖縄県の健康長寿日本一復活に向け、県内に管理栄養士養成課程を設置する大学法人等に対して、設置に必要な費用の一部を助成するものであり、栄養分野の人材育成や研究の拠点となる施設設備を促進するとともに、栄養関係職種の資質向上を図ることを目的としている。

「Ⅲ．県内若者等の進学･進路決定ニーズの把握」（目次）

１．高校生・保護者アンケート 5
(1) 調査の目的 5
(2) 調査の概要 5
① 調査対象 5
② 調査方法 5
③ 調査項目 6
④ 調査時期 7
⑤ 有効回収数 7
⑥ その他 7
(3) 調査結果 8
① 回答者の属性 8
1) 生徒 8
ア．通学する高等学校の種類（問１） 8
イ．通学している高等学校の所在地（問１） 9
ウ．性別（問２） 10
エ．兄弟姉妹の人数（問３） 11
オ．世帯の経済的な面から見た暮らし向き（問 26） 12
2) 保護者 13
ア．生徒との続柄（問１） 13
イ．生徒から見た家族構成（問 19） 13
ウ．保護者の年齢（問 20） 15
エ．保護者の最終学歴（問 21） 15
オ．保護者の職業（問 22） 16
カ．１年間の世帯年収（税引前）（問 23） 17
② 高等学校卒業後の進路について 18
1) 高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（生徒問４・保護者問２） 18
2) 就職する理由（生徒問５・保護者問３） 22
3) 大学へ進学する理由（生徒問６・保護者問４） 25
4) 短期大学・専門学校へ進学する理由（生徒問７・保護者問５） 28
③ 進学先について 31
1) 進学を予定している学校で学びたい分野（生徒問８・保護者問６） 31
2) 進学を予定している学校の所在地域（生徒問９・保護者問７） 34
3) 県内に志望する分野の学部・学科が新設された場合の進学意向（生徒問 10） 36
4) 進学する学校を決める際に重視すること（生徒問 11・保護者問８） 37
5) 進路選択に当たっての心配ごと（生徒問 12・保護者問９） 42
④ 心配ごとがない場合の希望の進路について 45
1) 高等学校卒業後の進路（心配ごとがない場合の希望）（生徒問 13・保護者問 10） 45
2) 心配ごとがない場合の希望の進学先で学びたい分野（生徒問 14・保護者問 11） 49

3）心配ごとがない場合の希望の進学先地域（生徒問 15・保護者問 12）.....54
4）希望の進路と現実的な進路との違いの有無（生徒問 16・保護者問 13）.....57
5）希望の進路と現実的な進路との違いの詳細（特別集計）.....58
⑤ 進路選択に影響する事項について.....61
1）希望と現実の差異に関係する事項とその度合い（生徒問 17・保護者問 14）.....61
2）進学を支援する制度の認知度（生徒問 18・保護者問 15）.....65
3）進路の選択に一番大きな影響を与えている人物（生徒問 19）.....68
4）進路に関する情報の入手先（生徒問 20・保護者問 17）.....69
5）家庭内での進路に関するコミュニケーションの状況（生徒問 21・保護者問 16）...72
6）通学している高等学校の進路指導に対する要望（生徒問 22・保護者問 18）.....74
⑥ 通学中の高等学校や自分自身（の暮らし）について.....77
1）通学している高等学校について感じていること（生徒問 23）.....77
2）自分自身について感じていること（生徒問 24）.....83
3）現状の生活全般についての満足度（生徒問 25）.....86
2．進学・進路決定者アンケート.....88
(1) 調査の概要.....88
① 調査方法.....88
② 調査項目.....88
③ 調査時期.....88
④ 回収数.....88
⑤ 集計.....89
(2) 調査結果.....90
① 回答者の属性.....90
1）性別.....90
2）年齢.....91
3）現在の居住地域.....92
4）学歴.....93
5）卒業した高校の教育課程.....94
6）卒業した高等学校の種類.....95
7）卒業した学校の所在地域.....96
8）兄弟姉妹の人数.....97
9）高校３年生当時の経済的な面から見た暮らし向き.....98
② 高等学校卒業後の進路について.....99
1）高校卒業後の実際の進路.....99
2）就職した理由.....100
3）大学へ進学した理由.....102
4）短期大学・専門学校へ進学した理由.....104
5）実際の進路で学んでいる（学んでいた）分野.....106
6）実際に進学した学校の所在地域.....108
7）進学する学校を決める際に重視したこと.....110
8）進路を選択する際の心配ごと.....113

9）全く心配ごとがない場合の希望の進路 115
10）希望の進路で学びたかった分野 117
11）希望の進路の学校の所在地域 120
12）実際の進路と希望の進路との差異に関係する事項とその度合い 123
13）進路の選択に一番大きな影響を与えた人 125
14）沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援とその重要度 126
15）自分自身について感じていること 128
16）現状の生活全般についての満足度 132
３．進学への影響要因の分析 133
(1) 大学進学を断念する生徒とその属性 133
① 大学進学を断念する生徒の存在 133
② 大学進学を断念している生徒の属性 133
(2) 大学進学への影響要因 137

III. 県内若者等の進学・進路決定ニーズの把握

1．高校生・保護者アンケート

(1) 調査の目的

沖縄県内の高校生が進路を選択するに当たって、どのような要素が影響を与えているかを把握するため、沖縄県内の高校３年生とその保護者を対象にアンケート調査を実施した。

今回のアンケート調査では、高等学校卒業後に予定している「現実的な進路」と全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとした場合の「希望の進路」を尋ねることにより、希望と現実のギャップを把握するとともに、そのギャップの要因分析を行った。

(2) 調査の概要

本調査では、生徒を対象としたアンケートとその保護者を対象としたアンケートの２種類を実施した。それぞれの実施概要は、以下のとおりである。

① 調査対象

■生徒アンケート

沖縄県内の北部、中南部、離島の３地域から、地域別の分析に必要となるサンプル数を確保することを前提に、調査対象とする 28 の高等学校と各高校での調査票配布件数を以下のとおり選定した。

調査対象の高等学校と対象クラスの選定に当たっては、本調査の趣旨を踏まえて、一定数の大学進学者のいる普通科の高校を中心とし、文系・理系にクラスが分けられている高校については、全体としての文系・理系の生徒数の比率が偏らないように配慮した。

なお、具体的な進路と進路選択に当たっての考え方等を尋ねることが中心となるアンケートのため、高校３年生を調査対象とした。

図表 III-1　アンケート調査の対象とした高等学校と調査票配布件数

（単位:校, 件）

地　域	普通		専門		合計	
	学校数	配布数	学校数	配布数	学校数	配布数
北　部	5	608	2	194	7	802
中南部	11	833	3	233	14	1,066
離　島	4	594	3	198	7	792
合　計	20	2,035	8	625	28	2,660

■保護者アンケート

上記の生徒の保護者を調査対象とした。

② 調査方法

生徒・保護者用の調査票及び提出用封筒（生徒用・保護者用と世帯用）をセットし、対象となる生徒に配布した。また、回答調査票は、生徒用・保護者用の封筒に別々に封入した後、世帯用封筒にまとめて封入してもらう形で回収した。

なお、調査票の配布・回収については、県の教育庁を通じて各高校の進路指導担当者に

協力を依頼した上で、各高校別に必要となる調査票のセットを送付して、配布・回収を依頼した。ただし、自宅外から通学する生徒については、生徒を通じて離れて住む保護者に調査票を郵送し、それぞれの調査票を郵送で直接回収する方法を採用した。

③ 調査項目

今回のアンケート調査における主な質問項目は、以下のとおりである。

■生徒アンケート

・回答者属性（学校名、学科・コース、性別、兄弟姉妹の人数、経済的な暮らし向き）
・高等学校卒業後の進路（現実的な予定）
・進学する理由、就職する理由
・進学して学びたい分野、進学予定の学校のある地域
・沖縄県内に大学・専門学校が新設された場合の進学意向
・進学する学校を決める際に重視すること
・進路選択に当たっての心配ごと
・心配ごとがない場合の高等学校卒業後の進路（希望の進路）
・心配ごとがない場合に進学して学びたい分野、進学したい学校のある地域
・希望する進路と現実的な進路の違いとその要因
・進学支援制度の認知度
・進路に影響を与える人物
・進路に関する情報の入手先
・家庭内でする進路についての話
・高等学校の進路指導への要望
・高等学校について感じていること
・自分自身について当てはまること
・生活全般の満足度

■保護者アンケート

・回答者属性等（生徒との続柄、家族構成、親の年齢・最終学歴・仕事、世帯年収）
・子どもの高等学校卒業後の進路（現実的な予定）
・子どもが進学する理由、就職する理由
・子どもが進学して学びたい分野、進学予定の学校のある地域
・子どもが進学する学校を決める際に重視すること
・進路選択に当たっての心配ごと
・子どもの心配ごとがない場合の高等学校卒業後の進路（希望の進路）
・子どもが心配ごとがない場合に進学して学びたい分野、進学したい学校のある地域
・子どもの希望する進路と現実的な進路の違いとその要因
・進学支援制度の認知度
・進路に関する情報の入手先
・家庭内でする進路についての話
・高等学校の進路指導への要望

④ 調査時期

平成 29 年 11 月 20（月）～ 12 月 25 日（月）

⑤ 有効回収数

・生徒アンケート　　：　1,954 件（有効回収率：73.5%）

・保護者アンケート　：　1,899 件（有効回収率：71.4%）

（注 1）県内の高等学校 28 校に調査への協力を依頼したが、うち1校については期日内に回答の提出が間に合わなかったため、以下の結果は回答を得られた27校からの回答を対象に集計したものである。

（注 2）生徒とその保護者の有効調査票が揃って回収されたのは 1,891 件であった。

⑥ その他

以下のアンケート調査結果の分析及び「３．進学への影響要因の分析」（133 ページ～）に当たっては、琉球大学法文学部 長谷川裕教授にアドバイスをいただいた。

次ページ以降に掲載するクロス集計表の構成及び網掛け等の凡例は、以下のとおり。

●クロス集計表の構成

クロス集計表は、上段が実数、下段が構成比（%）である。

●網掛け等の凡例

「全体」の構成比と比べて、

・10 ポイント以上構成比が高い項目は**白抜字**

・５ポイント以上構成比が高い項目は**灰色塗りつぶし**

・５ポイント以上構成比が低い項目は***斜体字***

・10 ポイント以上構成比が低い項目は***斜体字***

(3) 調査結果

① 回答者の属性

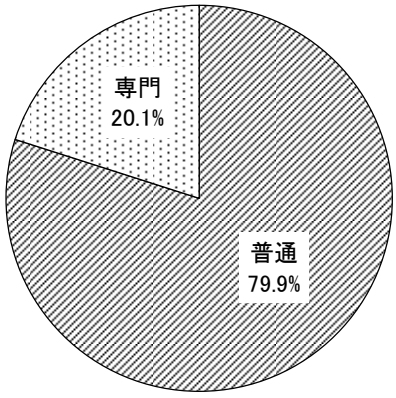
1) 生徒

ア. 通学する高等学校の種類（問１）

普通高校に通学している生徒が約８割、専門高校に通学している生徒が約２割である。

世帯年収別にみると、世帯年収が高くなるほど普通高校に進学する生徒の割合が高くなり、年収 200 万円未満では、約３割が専門高校に通学している。

図表 III-2　通学する高等学校の種類



（n=1,954）

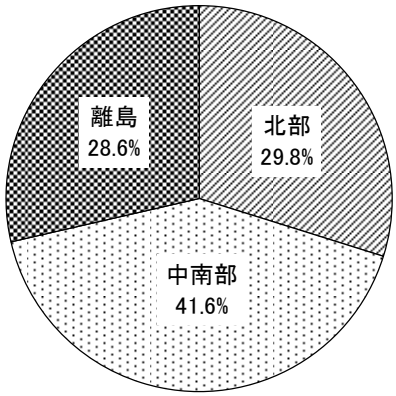
図表 III-3　通学する高等学校の種類（高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	普通	専門
全 体		1,954	1,562	392
		100.0	79.9	20.1
地域別	北部	583	468	115
		100.0	80.3	19.7
	中南部	812	639	173
		100.0	78.7	21.3
	離島	559	455	104
		100.0	81.4	18.6
世帯年収別	200万円未満	292	205	87
		100.0	*70.2*	29.8
	200万円以上400万円未満	600	460	140
		100.0	76.7	23.3
	400万円以上600万円未満	430	359	71
		100.0	83.5	16.5
	600万円以上800万円未満	263	240	23
		100.0	91.3	*8.7*
	800万円以上	230	211	19
		100.0	91.7	*8.3*

イ．通学している高等学校の所在地（問１）

中南部の高校に通学している生徒が約４割、北部と離島の高校に通学している生徒が、それぞれ約３割である。

図表 III-4　通学している高等学校の所在地



(n=1,954)

図表 III-5　通学している高等学校の所在地（学校種別・世帯年収別）

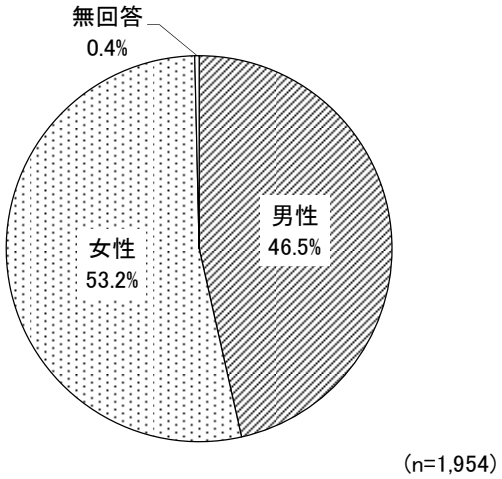
		サンプル数	北部	中南部	離島
全体		1,954	583	812	559
		100.0	29.8	41.6	28.6
学校種別	普通	1,562	468	639	455
		100.0	30.0	40.9	29.1
	専門	392	115	173	104
		100.0	29.3	44.1	26.5
世帯年収別	200万円未満	292	93	99	100
		100.0	31.8	***33.9***	**34.2**
	200万円以上400万円未満	600	187	241	172
		100.0	31.2	40.2	28.7
	400万円以上600万円未満	430	121	186	123
		100.0	28.1	43.3	28.6
	600万円以上800万円未満	263	69	133	61
		100.0	26.2	**50.6**	***23.2***
	800万円以上	230	49	116	65
		100.0	***21.3***	**50.4**	28.3

ウ．性別（問２）

性別は、男性が 46.5%、女性が 53.2%で、女性がやや多い。

学校種別にみると、普通高校では男女それぞれが約５割で概ね均等であるのに対し、専門高校では女性が約６割と、女性のほうが多くなっている。

図表 III-6　性別



図表 III-7　性別（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

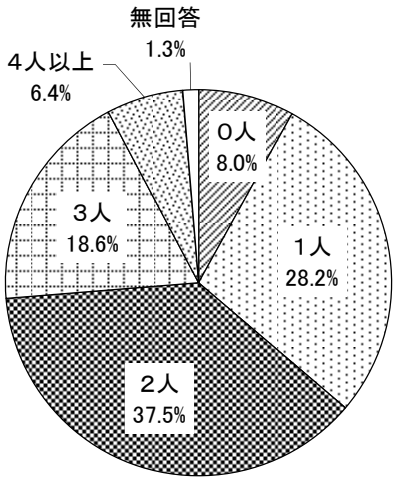
		サンプル数	男性	女性	無回答
全体		1,954	908	1,039	7
		100.0	46.5	53.2	0.4
学校種別	普通	1,562	749	806	7
		100.0	48.0	51.6	0.4
	専門	392	159	233	0
		100.0	*40.6*	59.4	0.0
地域別	北部	583	277	302	4
		100.0	47.5	51.8	0.7
	中南部	812	368	443	1
		100.0	45.3	54.6	0.1
	離島	559	263	294	2
		100.0	47.0	52.6	0.4
世帯年収別	200万円未満	292	134	157	1
		100.0	45.9	53.8	0.3
	200万円以上400万円未満	600	269	329	2
		100.0	44.8	54.8	0.3
	400万円以上600万円未満	430	211	219	0
		100.0	49.1	50.9	0.0
	600万円以上800万円未満	263	140	123	0
		100.0	53.2	*46.8*	0.0
	800万円以上	230	102	127	1
		100.0	44.3	55.2	0.4

エ．兄弟姉妹の人数（問３）

兄弟姉妹の人数（本人を除く）で最も割合が高いのは「２人」（37.5%）、次に「１人」（28.2%）、「３人」（18.6%）が続き、兄弟姉妹が２人以上いる生徒が６割を超える。

世帯年収別にみると、「200 万円未満」では、「０人」の割合が全体よりも高く、「２人」の割合が全体よりも低い。

図表 III-8　兄弟姉妹の人数



(n=1,954)

図表 III-9　兄弟姉妹の人数（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

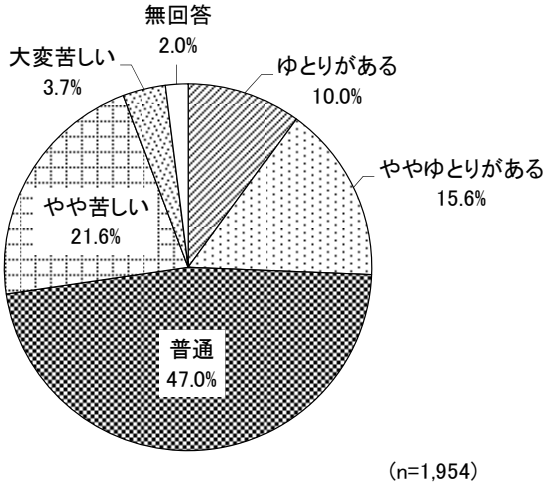
		サンプル数	0人	1人	2人	3人	4人以上	無回答
全体		1,954	157	551	732	363	125	26
		100.0	8.0	28.2	37.5	18.6	6.4	1.3
学校種別	普通	1,562	126	451	596	279	91	19
		100.0	8.1	28.9	38.2	17.9	5.8	1.2
	専門	392	31	100	136	84	34	7
		100.0	7.9	25.5	34.7	21.4	8.7	1.8
地域別	北部	583	41	147	218	111	55	11
		100.0	7.0	25.2	37.4	19.0	9.4	1.9
	中南部	812	66	256	309	137	36	8
		100.0	8.1	31.5	38.1	16.9	4.4	1.0
	離島	559	50	148	205	115	34	7
		100.0	8.9	26.5	36.7	20.6	6.1	1.3
世帯年収別	200万円未満	292	40	94	80	53	22	3
		100.0	**13.7**	32.2	***27.4***	18.2	7.5	1.0
	200万円以上400万円未満	600	53	167	220	119	31	10
		100.0	8.8	27.8	36.7	19.8	5.2	1.7
	400万円以上600万円未満	430	26	115	174	82	30	3
		100.0	6.0	26.7	40.5	19.1	7.0	0.7
	600万円以上800万円未満	263	17	72	109	52	12	1
		100.0	6.5	27.4	41.4	19.8	4.6	0.4
	800万円以上	230	10	74	97	32	15	2
		100.0	4.3	32.2	42.2	13.9	6.5	0.9

オ．世帯の経済的な面から見た暮らし向き（問 26）

暮らし向きは、「普通」（47.0%）が約半数を占め、約４分の１が「ゆとりがある」（「ゆとりがある」（10.0%）＋「ややゆとりがある」（15.6%））、残りの４分の１が「苦しい」（「やや苦しい」（21.6%）＋「大変苦しい」（3.7%））と回答している。

世帯年収別にみると、600 万円以上では「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の割合が全体よりも高いのに対し、200 万円未満では「やや苦しい」と「大変苦しい」が全体よりも高く、回答が概ね整合している。

図表 III-10　世帯の経済的な面から見た暮らし向き



図表 III-11　世帯の経済的な面から見た暮らし向き（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

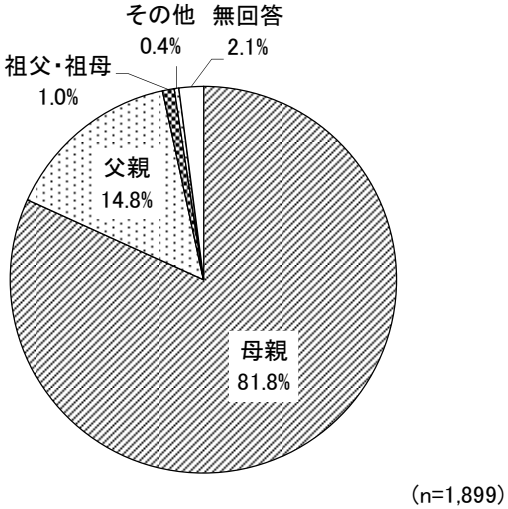
		サンプル数	ゆとりがある	ややゆとりがある	普通	やや苦しい	大変苦しい	無回答
全体		1,954	196	305	919	422	73	39
		100.0	10.0	15.6	47.0	21.6	3.7	2.0
学校種別	普通	1,562	163	251	726	337	55	30
		100.0	10.4	16.1	46.5	21.6	3.5	1.9
	専門	392	33	54	193	85	18	9
		100.0	8.4	13.8	49.2	21.7	4.6	2.3
地域別	北部	583	42	87	282	145	17	10
		100.0	7.2	14.9	48.4	24.9	2.9	1.7
	中南部	812	101	139	374	155	29	14
		100.0	12.4	17.1	46.1	19.1	3.6	1.7
	離島	559	53	79	263	122	27	15
		100.0	9.5	14.1	47.0	21.8	4.8	2.7
世帯年収別	200万円未満	292	12	23	104	121	27	5
		100.0	*4.1*	*7.9*	*35.6*	41.4	9.2	1.7
	200万円以上400万円未満	600	28	57	329	150	26	10
		100.0	*4.7*	*9.5*	54.8	25.0	4.3	1.7
	400万円以上600万円未満	430	39	75	214	81	12	9
		100.0	9.1	17.4	49.8	18.8	2.8	2.1
	600万円以上800万円未満	263	38	60	127	29	2	7
		100.0	14.4	22.8	48.3	*11.0*	0.8	2.7
	800万円以上	230	65	64	85	12	2	2
		100.0	28.3	27.8	*37.0*	*5.2*	0.9	0.9

2) 保護者

ア．生徒との続柄（問１）

保護者アンケートに回答した保護者の生徒との続柄は、「母親」（81.8%）が約８割を占める。

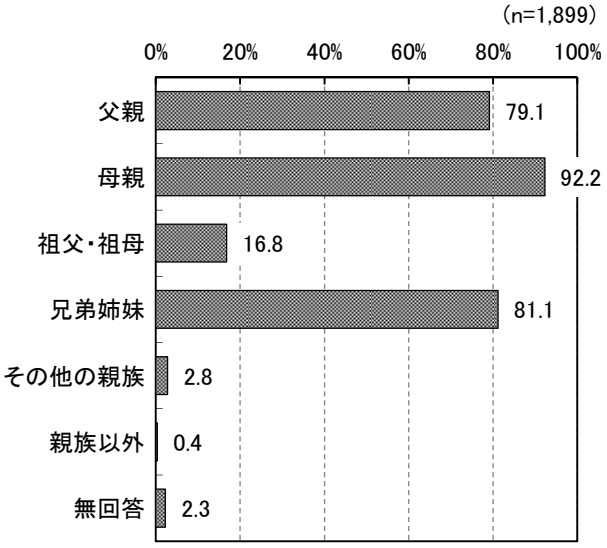
図表 III-12　生徒との続柄



イ．生徒から見た家族構成（問 19）

生徒から見た家族構成は、「母親」が 92.2%であるのに対し、「父親」が 79.1%であり、約１割は母子世帯であることが推察される。

図表 III-13　生徒から見た家族構成



生徒から見た家族構成を兄弟姉妹の人数別にみると、兄弟姉妹が「０人」では「父親」がいる割合（60.8%）が全体よりも約 18 ポイント低い一方で、「祖父・祖母」がいる割合（26.8%）は全体より約 10 ポイント高く、兄弟姉妹がいない生徒の中には、母子世帯で、かつ祖父母と同居している世帯が比較的多いことが推察される。

図表 III-14　生徒から見た家族構成（兄弟姉妹の人数別）

		サンプル数	父親	母親	祖父・祖母	兄弟姉妹	その他の親族	親族以外	無回答
全体		1,899	1,502	1,751	319	1,541	54	7	44
		100.0	79.1	92.2	16.8	81.1	2.8	0.4	2.3
兄弟姉妹人数別	0人	153	93	135	41	0	13	1	3
		100.0	***60.8***	88.2	**26.8**	***0.0***	**8.5**	0.7	2.0
	1人	538	411	498	81	472	15	3	11
		100.0	76.4	92.6	15.1	**87.7**	2.8	0.6	2.0
	2人	707	591	659	104	630	14	2	18
		100.0	83.6	93.2	14.7	**89.1**	2.0	0.3	2.5
	3人以上	469	384	435	86	424	9	1	8
		100.0	81.9	92.8	18.3	**90.4**	1.9	0.2	1.7

生徒から見た家族構成を予定の進路別にみると、進学予定先の高等教育機関の種類が低位になるほど、「父親」がいる割合が低くなる傾向が見られ、「就職する（家業・家事従事を含む）」（69.9%）では、全体を 10 ポイント近く下回っている。

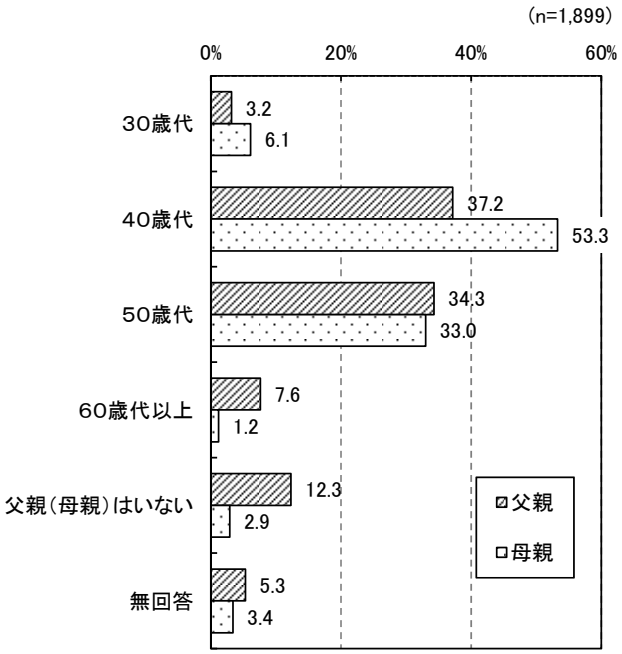
図表 III-15　生徒から見た家族構成（予定の進路別）

		サンプル数	父親	母親	祖父・祖母	兄弟姉妹	その他の親族	親族以外	無回答
全体		1,899	1,502	1,751	319	1,541	54	7	44
		100.0	79.1	92.2	16.8	81.1	2.8	0.4	2.3
予定の進路別	大学へ進学する	1,047	874	984	173	863	23	0	11
		100.0	83.5	94.0	16.5	82.4	2.2	0.0	1.1
	短期大学へ進学する	67	54	63	19	59	1	0	2
		100.0	80.6	94.0	**28.4**	**88.1**	1.5	0.0	3.0
	専門学校へ進学する	397	290	351	64	306	15	6	20
		100.0	***73.0***	88.4	16.1	77.1	3.8	1.5	5.0
	就職する（家業・家事従事を含む）	143	100	129	22	113	6	0	5
		100.0	***69.9***	90.2	15.4	79.0	4.2	0.0	3.5
	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	18	13	18	4	14	0	0	0
		100.0	***72.2***	**100.0**	**22.2**	77.8	0.0	0.0	0.0
	その他	13	7	10	4	9	2	0	1
		100.0	***53.8***	***76.9***	**30.8**	***69.2***	**15.4**	0.0	**7.7**

ウ．保護者の年齢（問 20）

保護者の年齢で最も割合が高いのは、父親・母親とも「40 歳代」（父親 37.2%、母親 53.3%）で、次に「50 歳代」（同 34.3%、33.0%）が続く。

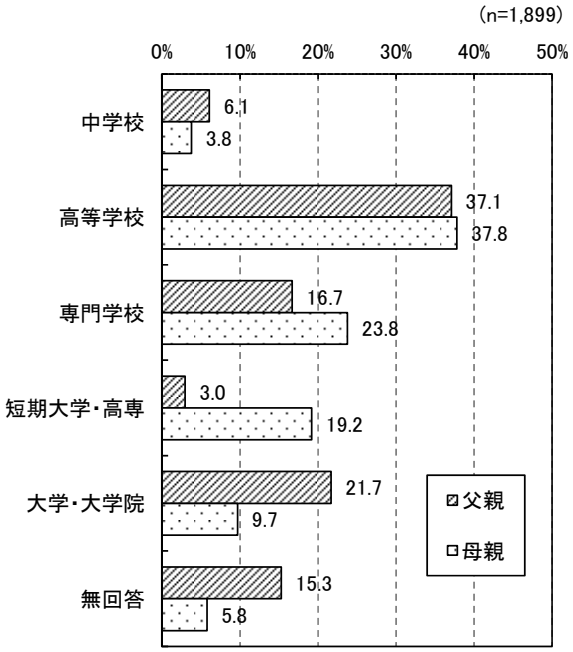
図表 III-16 保護者の年齢



エ．保護者の最終学歴（問 21）

保護者の最終学歴で最も割合が高いのは、父親、母親とも「高等学校」（父親 37.1%、母親 37.8%）で、次いで父親では「大学・大学院」（21.7%）、「専門学校」（16.7%）の順、母親では、「専門学校」（23.8%）、「短期大学・高専」（19.2%）の順であり、最終学歴が「大学・大学院」の母親の割合（9.7%）は、１割に満たない。

図表 III-17 保護者の最終学歴

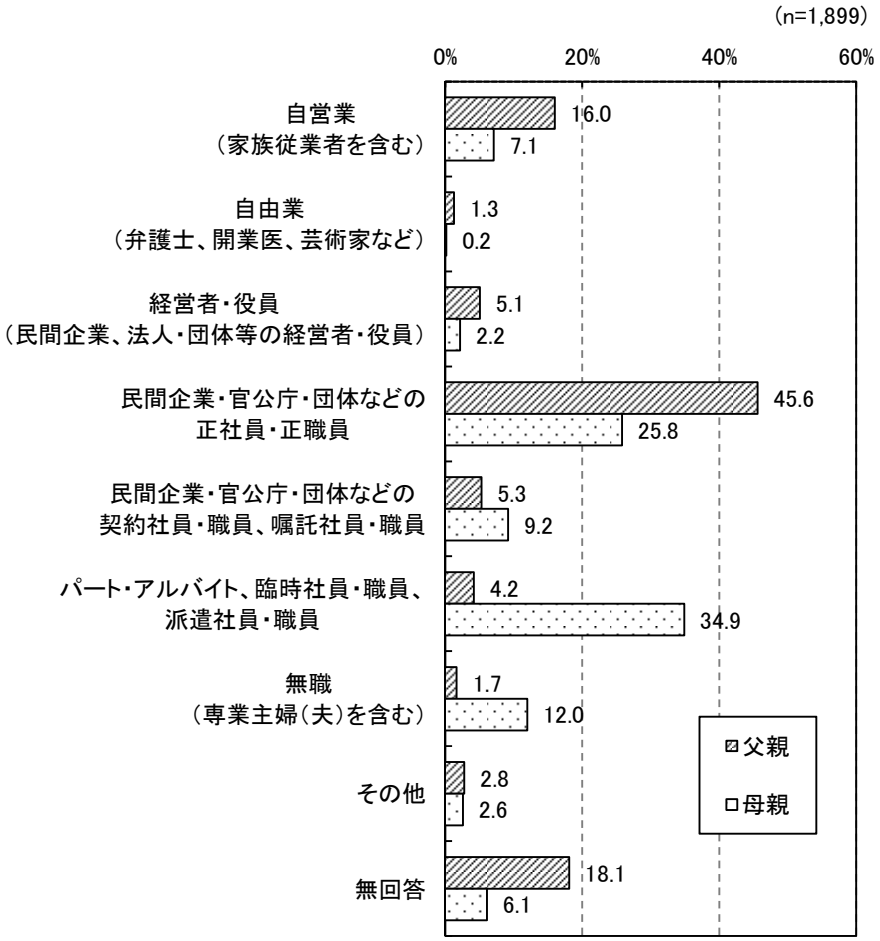


オ．保護者の職業（問 22）

保護者の職業は、父親では「民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員」（45.6%）が約半数を占め、無回答を除くと、次に割合が高いのは「自営業（家族従業者を含む）」（16.0%）である。

一方、母親では、「パート・アルバイト、臨時社員・職員、派遣社員・職員」（34.9%）の割合が最も高く、次に「民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員」（25.8%）が続く。

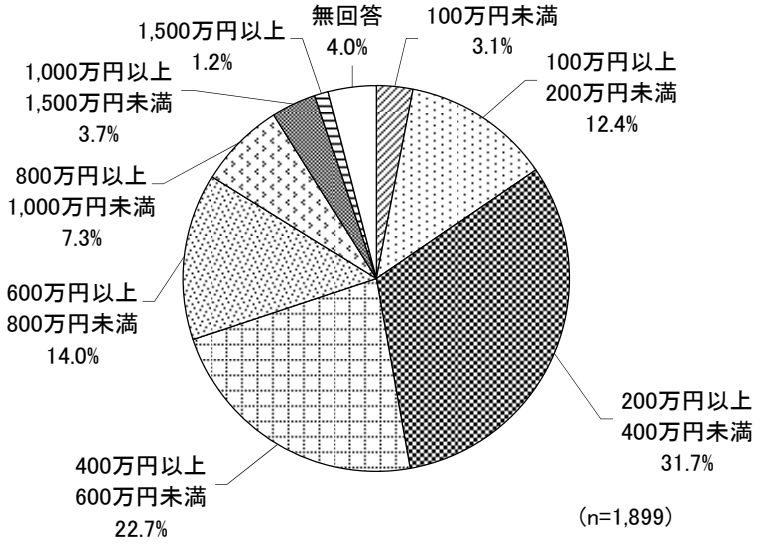
図表 III-18 保護者の職業



カ．１年間の世帯年収（税引前）（問 23）

１年間の世帯年収（税引前）で最も割合が高いのは、「200 万円以上 400 万円未満」（31.7%）であり、次に「400 万円以上 600 万円未満」（22.7%）、「600 万円以上 800 万円未満」（14.0%）が続くが、全体の約半数（47.2%）は、400 万円未満である。

図表 III-19　1年間の世帯年収（税引前）



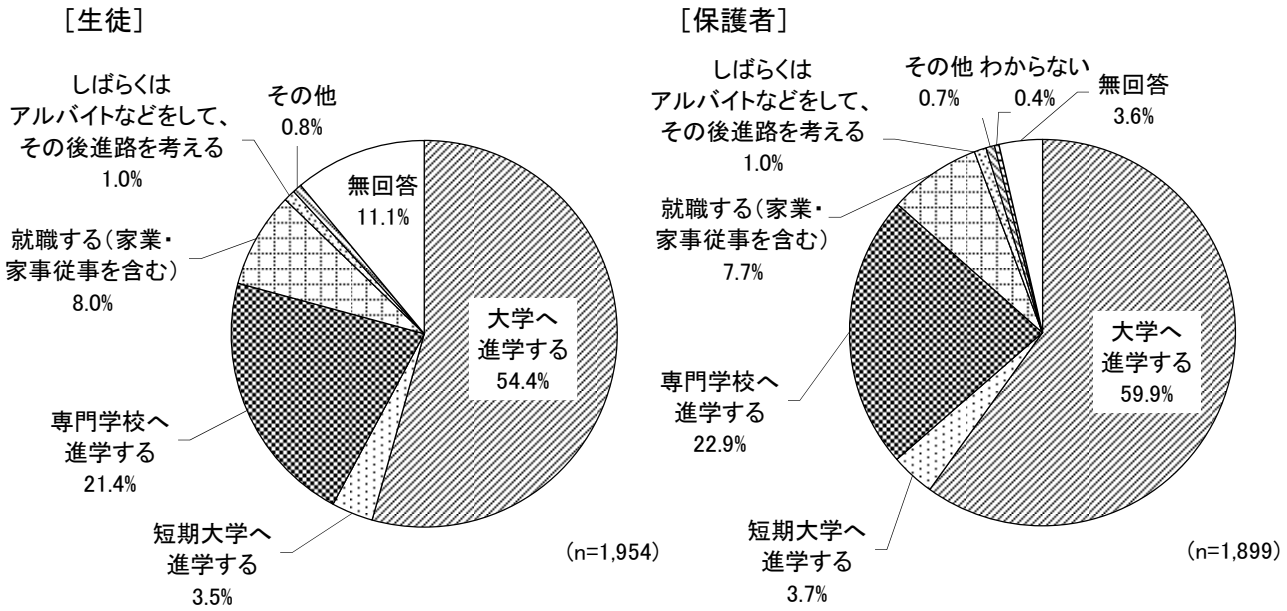
② 高等学校卒業後の進路について

1) 高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（生徒問４・保護者問２）

高校卒業後の進路（現実的な予定）で最も割合が高いのは、「大学へ進学する」（生徒 54.4%、保護者 59.9%）であり、次に「専門学校へ進学する」（同 21.4%、22.9%）が続く。生徒の半数程度は大学進学、約２割は専門学校への進学を予定しており、保護者の認識もほぼ同様である。一方、「就職する（家業・家事従事を含む）」の割合は、生徒 8.0%、保護者 7.7%であり、約１割にとどまっている。

生徒と保護者の回答比率（円グラフ）に数ポイントの差がみられるが、生徒と保護者の回答のクロス集計結果をみると、この回答比率の差の主な原因は生徒のみが回答しているケース（保護者調査票未回収）と保護者の無回答によるものであることが分かる。

図表 III-20 高等学校卒業後の進路（現実的な予定）



図表 III-21 高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（生徒の回答と保護者の回答）

		サンプル数	保護者の回答								保護者調査票未回収分
			大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	わからない	無回答	
全体（保護者）		1,899 100.0	1,138 59.9	70 3.7	435 22.9	147 7.7	19 1.0	14 0.7	7 0.4	69 3.6	63 ―
生徒の回答	大学へ進学する	1,062 100.0	1,002 **94.4**	0 0.0	6 0.6	1 0.1	0 0.0	0 0.0	1 0.1	37 3.5	15 1.4
	短期大学へ進学する	68 100.0	2 2.9	59 **86.8**	2 2.9	0 0.0	0 0.0	1 1.5	0 0.0	3 4.4	1 1.5
	専門学校へ進学する	418 100.0	12 2.9	2 0.5	370 **88.5**	2 0.5	2 0.5	0 0.0	0 0.0	9 2.2	21 5.0
	就職する（家業・家事従事を含む）	156 100.0	0 0.0	0 0.0	2 1.3	127 **81.4**	2 1.3	2 1.3	1 0.6	9 5.8	13 8.3
	しばらくはアルバイトなどをして、その	19 100.0	1 5.3	0 0.0	0 0.0	2 10.5	10 **52.6**	2 10.5	3 15.8	0 0.0	1 5.3
	その他	15 100.0	2 13.3	0 0.0	1 6.7	0 0.0	2 13.3	7 **46.7**	0 0.0	1 6.7	2 13.3
	無回答	216 100.0	116 53.7	9 4.2	52 24.1	14 6.5	2 0.9	2 0.9	2 0.9	9 4.2	10 4.6
生徒調査票未回収分		8	3	0	2	1	1	0	0	1	0

生徒の回答を学校種別にみると、普通高校では「大学へ進学する」（64.0%）の割合が高く、約６割を占めるが、専門高校では「専門学校へ進学する」（37.8%）と「就職する（家業・家事従事を含む）」（28.3%）の割合が高い。

地域別では、中南部で「大学へ進学する」（66.7%）が約７割を占めており、北部では「専門学校へ進学する」（29.3%）の割合が全体よりもやや高くなっている。

世帯年収別では、年収が高くなるほど「大学へ進学する」の割合も高い傾向がみられる一方で、「専門学校へ進学する」と「就職する（家業・家事従事を含む）」は、年収が低くなるほど割合が高い傾向がみられる。

兄弟姉妹の人数別にみると、兄弟姉妹の数が少ないほうが「大学へ進学する」の割合が高い傾向が見られる。

図表 III-22　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,062	68	418	156	19	15	216
		100.0	54.4	3.5	21.4	8.0	1.0	0.8	11.1
学校種別	普通	1,562	1,000	50	270	45	13	8	176
		100.0	64.0	3.2	17.3	2.9	0.8	0.5	11.3
	専門	392	62	18	148	111	6	7	40
		100.0	15.8	4.6	37.8	28.3	1.5	1.8	10.2
地域別	北部	583	261	26	171	44	4	5	72
		100.0	44.8	4.5	29.3	7.5	0.7	0.9	12.3
	中南部	812	542	24	108	59	8	7	64
		100.0	66.7	3.0	13.3	7.3	1.0	0.9	7.9
	離島	559	259	18	139	53	7	3	80
		100.0	46.3	3.2	24.9	9.5	1.3	0.5	14.3
世帯年収別	200万円未満	292	118	7	86	32	7	4	38
		100.0	40.4	2.4	29.5	11.0	2.4	1.4	13.0
	200万円以上400万円未満	600	296	34	135	58	5	2	70
		100.0	49.3	5.7	22.5	9.7	0.8	0.3	11.7
	400万円以上600万円未満	430	257	15	87	25	1	4	41
		100.0	59.8	3.5	20.2	5.8	0.2	0.9	9.5
	600万円以上800万円未満	263	181	6	37	8	3	1	27
		100.0	68.8	2.3	14.1	3.0	1.1	0.4	10.3
	800万円以上	230	166	3	27	10	1	0	23
		100.0	72.2	1.3	11.7	4.3	0.4	0.0	10.0

図表 III-23　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（兄弟姉妹の人数別）

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,062	68	418	156	19	15	216
		100.0	54.4	3.5	21.4	8.0	1.0	0.8	11.1
兄弟姉妹人数別	0人	157	101	2	29	7	1	2	15
		100.0	**64.3**	1.3	18.5	4.5	0.6	1.3	9.6
	1人	551	307	21	114	40	5	4	60
		100.0	55.7	3.8	20.7	7.3	0.9	0.7	10.9
	2人	732	408	21	151	53	5	9	85
		100.0	55.7	2.9	20.6	7.2	0.7	1.2	11.6
	3人以上	488	237	23	117	54	7	0	50
		100.0	***48.6***	4.7	24.0	11.1	1.4	0.0	10.2

父親及び母親の学歴別にみると、「大学へ進学する」の割合は、父親の最終学歴が「大学・大学院」である場合よりも、母親の最終学歴が「大学・大学院」である場合のほうが、やや高い（父親 70.2%、母親 74.4%）。

一方で、母親の最終学歴が「中学校」である場合は、父親の最終学歴が「中学校」の場合よりも、「就職する（家業・家事従事を含む）」の割合が高く（父親 9.2%、母親 17.1%）、約８ポイントの差がある。

このことから、高校卒業後の進路は、父親よりも母親の最終学歴の影響を受けることが推察される。

図表 III-24　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（父親の最終学歴別）

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,062	68	418	156	19	15	216
		100.0	54.4	3.5	21.4	8.0	1.0	0.8	11.1
父親の最終学歴別	中学校	98	46	3	30	9	2	0	8
		100.0	***46.9***	3.1	**30.6**	9.2	2.0	0.0	8.2
	高等学校	642	345	26	132	60	4	2	73
		100.0	53.7	4.0	20.6	9.3	0.6	0.3	11.4
	専門学校	292	174	14	64	8	2	1	29
		100.0	**59.6**	4.8	21.9	***2.7***	0.7	0.3	9.9
	短期大学・高専	51	35	0	9	4	0	0	3
		100.0	**68.6**	0.0	17.6	7.8	0.0	0.0	***5.9***
	大学・大学院	383	269	11	43	15	3	3	39
		100.0	**70.2**	2.9	***11.2***	3.9	0.8	0.8	10.2

図表 III-25 高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（母親の最終学歴別）

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,062	68	418	156	19	15	216
		100.0	54.4	3.5	21.4	8.0	1.0	0.8	11.1
母親の最終学歴別	中学校	70	25	2	23	12	1	1	6
		100.0	35.7	2.9	32.9	17.1	1.4	1.4	8.6
	高等学校	678	332	27	154	77	10	4	74
		100.0	49.0	4.0	22.7	11.4	1.5	0.6	10.9
	専門学校	432	249	16	93	23	2	1	48
		100.0	57.6	3.7	21.5	5.3	0.5	0.2	11.1
	短期大学・高専	351	234	14	51	10	2	3	37
		100.0	66.7	4.0	14.5	2.8	0.6	0.9	10.5
	大学・大学院	176	131	3	18	4	1	0	19
		100.0	74.4	1.7	10.2	2.3	0.6	0.0	10.8

■高校の大学進学（予定）者比率と高校卒業後の進路の関係

通学する高等学校の大学進学比率と卒業後の進路の関係を分析するため、生徒の高等学校卒業後の進路（現実的な予定）の回答より、調査対象とした 27 の高等学校の大学進学（予定）者の比率を算出し、以下のとおり高等学校を４つのカテゴリーに区分した。

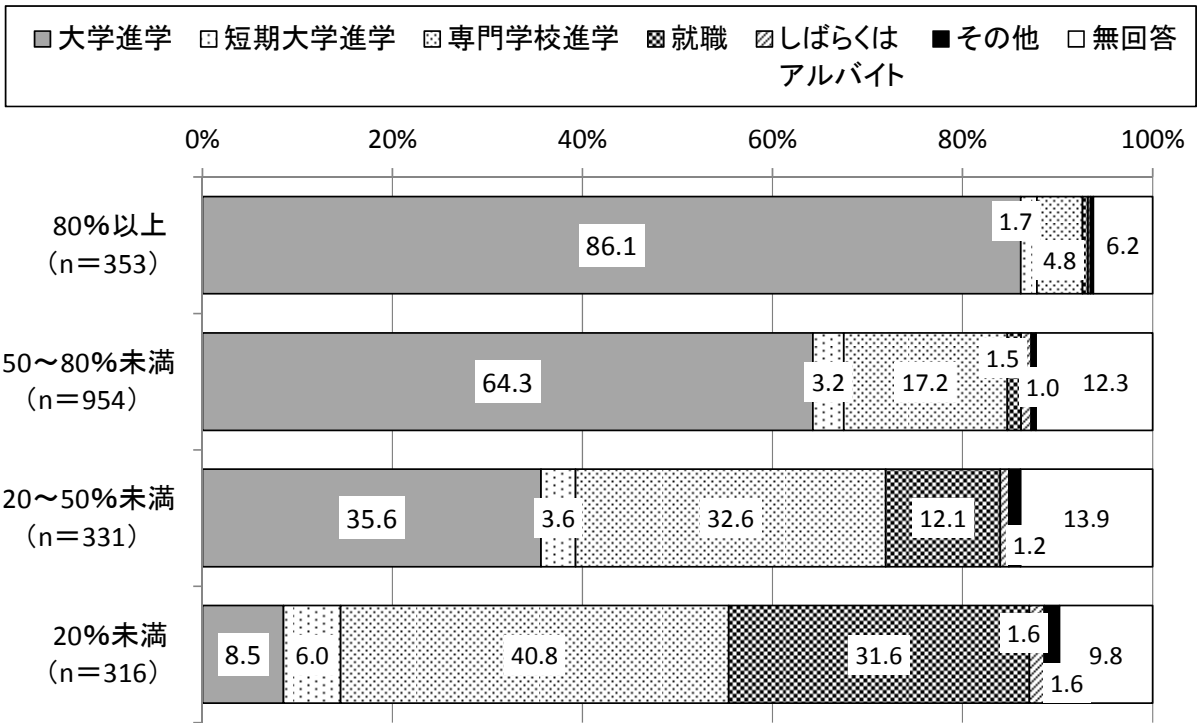
●大学進学（予定）者比率による高等学校の区分

・大学進学（予定）者比率：20%未満［該当する高等学校：８校］
・大学進学（予定）者比率：20～50%未満［該当する高等学校：６校］
・大学進学（予定）者比率：50～80%未満［該当する高等学校：８校］
・大学進学（予定）者比率：80%以上［該当する高等学校：６校］

（注）調査対象校中 1 校について、普通科とそれ以外の学科に分けて大学進学（予定）者比率を算出したため、この高校は2校分のカウントとなっている。このため、該当高校の総数は 28 となる。

高等学校の大学進学（予定）者の比率別に卒業後の進路（現実的な予定）をみると、大学進学（予定）者の比率が「20～50%未満」の高校は、「50～80%未満」の高校と比べて、「大学進学」の比率が約 30 ポイント低下し「専門学校進学」と「就職」の比率が高くなっている。

図表 III-26　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（高校の大学進学(予定)者比率別）



2) 就職する理由（生徒問５・保護者問３）

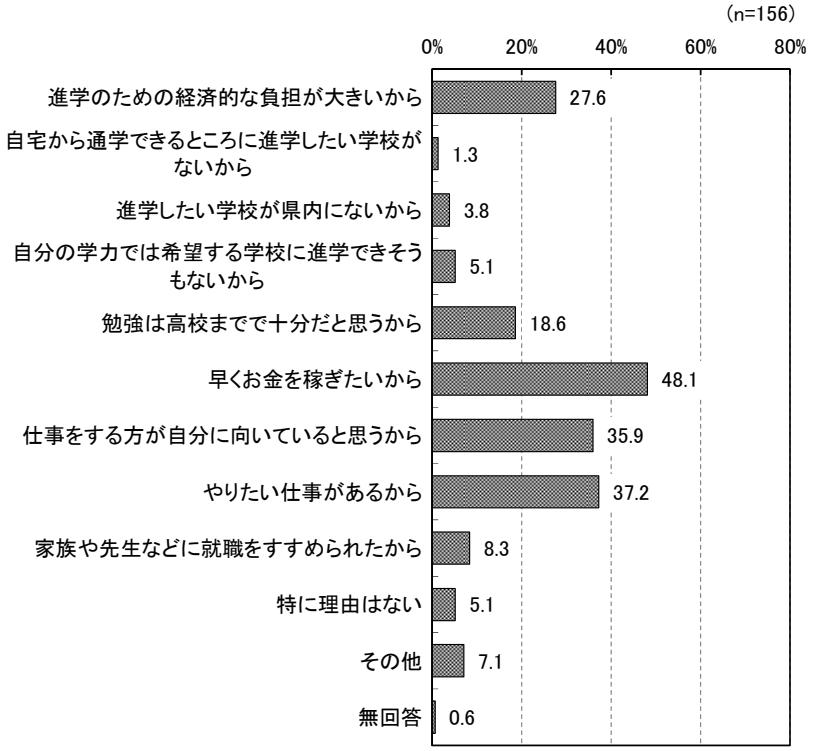
高校卒業後の現実的な予定として、「就職する（家業・家事従事を含む)」を選んだ生徒と保護者に、就職する理由（保護者アンケートでは「(保護者から見た）子どもが就職する理由」）を尋ねた。

生徒では「早くお金を稼ぎたいから」(48.1%)、「やりたい仕事があるから」(37.2%)、「仕事をする方が自分に向いているから」(35.9%）の順に割合が高く、「進学のための経済的な負担が大きいから」は 27.6%にとどまっている。

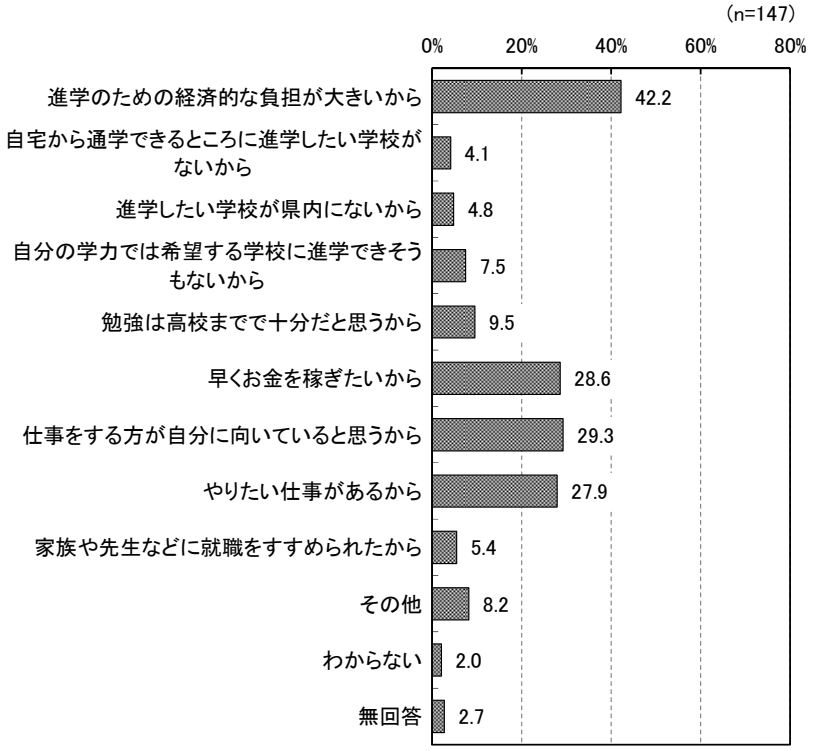
一方、保護者では「進学のための経済的な負担が大きいから」(42.2%）の割合が、生徒を約 15 ポイント上回っており、生徒と保護者の意識にずれがあることが推察される。

図表 III-27　就職する理由

［生徒］



［保護者］



（注）保護者向けの設問は「お子さんが就職する理由は何だと思われますか。」

生徒の回答を学校種別にみると、普通高校も専門高校も、最も割合が高いのは「早くお金を稼ぎたいから」（普通 51.1%、専門 46.8%）だが、「やりたい仕事があるから」という積極的理由の割合（普通 42.2%、専門 35.1%）は、普通高校のほうがやや高くなっている。

地域別では、北部では、「やりたい仕事があるから」の割合（22.7%）が、全体を 10 ポイント以上下回っている。

図表 III-28 就職する理由（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	進学のための経済的な負担が大きいから	自宅から通学できるところに進学したい学校がないから	進学したい学校が県内にないから	自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから	勉強は高校までで十分だと思うから	早くお金を稼ぎたいから	仕事をする方が自分に向いていると思うから	やりたい仕事があるから	家族や先生などに就職をすすめられたから	特に理由はない	その他	無回答
全体		156	43	2	6	8	29	75	56	58	13	8	11	1
		100.0	27.6	1.3	3.8	5.1	18.6	48.1	35.9	37.2	8.3	5.1	7.1	0.6
学校種別	普通	45	13	0	3	3	9	23	16	19	4	1	2	0
		100.0	28.9	0.0	6.7	6.7	20.0	51.1	35.6	42.2	8.9	2.2	4.4	0.0
	専門	111	30	2	3	5	20	52	40	39	9	7	9	1
		100.0	27.0	1.8	2.7	4.5	18.0	46.8	36.0	35.1	8.1	6.3	8.1	0.9
地域別	北部	44	14	0	3	3	9	21	14	10	4	4	4	1
		100.0	31.8	0.0	6.8	6.8	20.5	47.7	31.8	22.7	9.1	9.1	9.1	2.3
	中南部	59	16	1	3	2	11	30	27	24	2	3	1	0
		100.0	27.1	1.7	5.1	3.4	18.6	50.8	45.8	40.7	3.4	5.1	1.7	0.0
	離島	53	13	1	0	3	9	24	15	24	7	1	6	0
		100.0	24.5	1.9	0.0	5.7	17.0	45.3	28.3	45.3	13.2	1.9	11.3	0.0
世帯年収別	200万円未満	32	14	1	0	1	4	22	10	13	1	1	2	0
		100.0	43.8	3.1	0.0	3.1	12.5	68.8	31.3	40.6	3.1	3.1	6.3	0.0
	200万円以上400万円未満	58	18	1	3	3	9	21	23	22	4	2	2	1
		100.0	31.0	1.7	5.2	5.2	15.5	36.2	39.7	37.9	6.9	3.4	3.4	1.7
	400万円以上600万円未満	25	4	0	2	3	8	14	10	8	6	0	3	0
		100.0	16.0	0.0	8.0	12.0	32.0	56.0	40.0	32.0	24.0	0.0	12.0	0.0
	600万円以上800万円未満	8	0	0	0	0	3	3	4	5	1	1	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	37.5	37.5	50.0	62.5	12.5	12.5	0.0	0.0
	800万円以上	10	3	0	1	0	2	5	4	5	0	0	0	0
		100.0	30.0	0.0	10.0	0.0	20.0	50.0	40.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0

男女別にみると、女性の「進学ための経済的な負担が大きいから」の割合（39.2%）は、男性（17.1%）を約 22 ポイント上回っており、また、「早くお金を稼ぎたいから」（男性 40.2%、女性 56.8%）でも、女性が男性を約 16 ポイント上回るなど、経済的な理由で就職を選択する傾向は、女性のほうが強いと考えられる。

図表 III-29 就職する理由（男女別）

		サンプル数	進学のための経済的な負担が大きいから	自宅から通学できるところに進学したい学校がないから	進学したい学校が県内にないから	自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから	勉強は高校までで十分だと思うから	早くお金を稼ぎたいから	仕事をする方が自分に向いていると思うから	やりたい仕事があるから	家族や先生などに就職をすすめられたから	特に理由はない	その他	無回答
全体		156	43	2	6	8	29	75	56	58	13	8	11	1
		100.0	27.6	1.3	3.8	5.1	18.6	48.1	35.9	37.2	8.3	5.1	7.1	0.6
男女別	男性	82	14	0	1	6	18	33	32	32	9	3	6	0
		100.0	***17.1***	0.0	1.2	7.3	22.0	***40.2***	39.0	39.0	11.0	3.7	7.3	0.0
	女性	74	29	2	5	2	11	42	24	26	4	5	5	1
		100.0	**39.2**	2.7	6.8	2.7	14.9	**56.8**	32.4	35.1	5.4	6.8	6.8	1.4

3）大学へ進学する理由（生徒問６・保護者問４）

現実的な予定として、「大学へ進学する」を選んだ生徒と保護者に、大学へ進学する理由（保護者は「（保護者から見た）子どもが大学へ進学する理由」）を尋ねた。

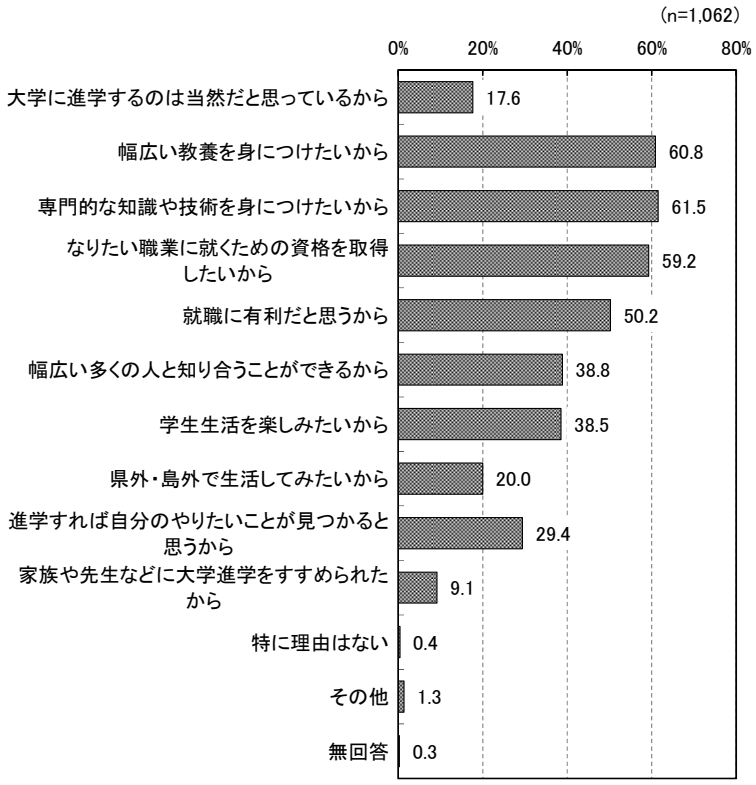
生徒・保護者とも、順位の違いはあるものの、上位３つは共通で、「幅広い教養を身につけたいから」（生徒 60.8%、保護者 55.5%）、「専門的な知識や技術を身につけたいから」（生徒 61.5%、保護者 58.3%）、「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」（生徒 59.2%、保護者 62.4%）である。

一方、生徒と保護者の割合に差があるのは、上位３つと同様、将来の進路に関係する「就職に有利だと思うから」（生徒 50.2%、保護者 39.7%）は、生徒と保護者に約 11 ポイントの差があり、生徒のほうが、卒業後の進路をより強く意識していることがうかがえる。

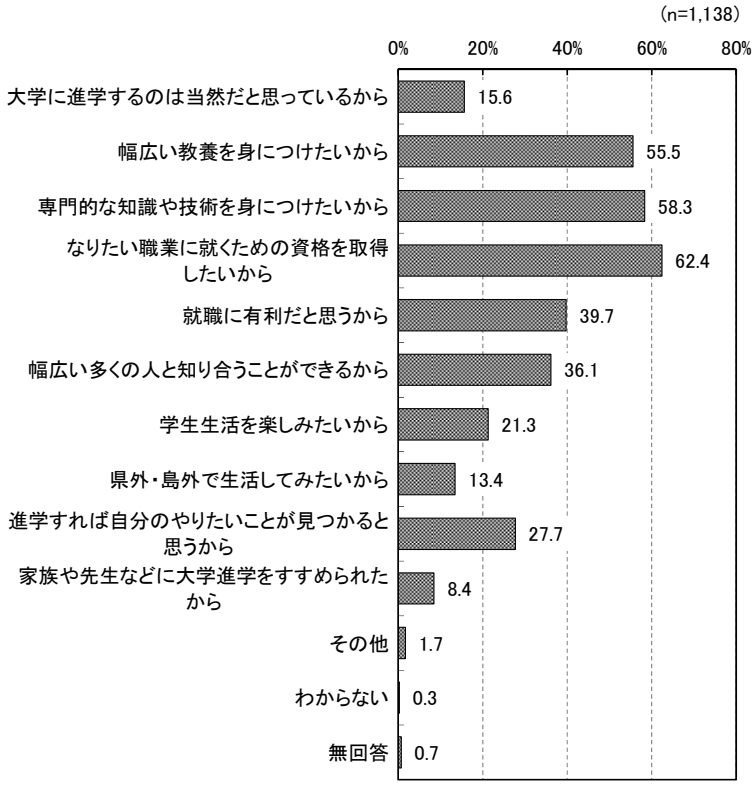
また、上記以外では生活の変化への期待に関連する項目である「学生生活を楽しみたいから」（生徒 38.5%、保護者 21.3%）や「県外・島外で生活してみたいから」（生徒 20.0%、保護者 13.4%）で、生徒と保護者の割合に差が現れている。

図表 III-30　大学へ進学する理由

［生徒］



［保護者］



（注）保護者向けの設問は「お子さんが大学へ進学する理由は何だと思われますか。」

生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では「専門的な知識や技術を身につけたいから」（67.7%）の割合が、全体よりもやや高い一方で、「幅広い教養を身につけたいから」（50.0%）や「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」（46.8%）の割合が、全体よりも 10 ポイント以上低くなっている。

また、地域別にみると、離島では「県外・島外で生活してみたいから」（29.0%）の割合が、全体よりもやや高くなっている。

世帯年収別では、800 万円以上で、「幅広い教養を身につけたいから」（68.1%）、「学生生活を楽しみたいから」（44.6%）、「県外・島外で生活してみたいから」（28.3%）など、就職や専門知識の習得に直接関係しない項目の割合が、全体よりもやや高くなっているほか、「大学に進学するのは当然だと思っているから」（24.7%）の割合も高い。

一方、200 万円未満では、「幅広い多くの人と知り合うことができるから」（54.2%）や「進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから」（39.8%）といった、自身の可能性を広げることへの期待に関連する項目の割合が、全体よりも 10 ポイント以上高くなっている。

図表 III-31　大学へ進学する理由（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	大学に進学するのは当然だと思っているから	幅広い教養を身につけたいから	専門的な知識や技術を身につけたいから	なりたい職業に就くための資格を取得したいから	就職に有利だと思うから	幅広い多くの人と知り合うことができるから	学生生活を楽しみたいから	県外・島外で生活してみたいから	進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから	家族や先生などに大学進学をすすめられたから	特に理由はない	その他	無回答
全体		1,062	187	646	653	629	533	412	409	212	312	97	4	14	3
		100.0	17.6	60.8	61.5	59.2	50.2	38.8	38.5	20.0	29.4	9.1	0.4	1.3	0.3
学校種別	普通	1,000	182	615	611	600	508	388	383	204	297	93	3	11	3
		100.0	18.2	61.5	61.1	60.0	50.8	38.8	38.3	20.4	29.7	9.3	0.3	1.1	0.3
	専門	62	5	31	42	29	25	24	26	8	15	4	1	3	0
		100.0	*8.1*	*50.0*	67.7	*46.8*	*40.3*	38.7	41.9	*12.9*	*24.2*	6.5	1.6	4.8	0.0
地域別	北部	261	43	169	164	170	133	104	110	54	71	22	0	7	0
		100.0	16.5	64.8	62.8	65.1	51.0	39.8	42.1	20.7	27.2	8.4	0.0	2.7	0.0
	中南部	542	103	328	330	304	285	208	217	83	164	56	3	5	1
		100.0	19.0	60.5	60.9	56.1	52.6	38.4	40.0	15.3	30.3	10.3	0.6	0.9	0.2
	離島	259	41	149	159	155	115	100	82	75	77	19	1	2	2
		100.0	15.8	57.5	61.4	59.8	*44.4*	38.6	*31.7*	29.0	29.7	7.3	0.4	0.8	0.8
世帯年収別	200万円未満	118	17	79	77	72	64	64	47	25	47	16	0	1	0
		100.0	14.4	66.9	65.3	61.0	54.2	54.2	39.8	21.2	39.8	13.6	0.0	0.8	0.0
	200万円以上400万円未満	296	42	173	177	168	141	108	105	43	79	20	2	5	2
		100.0	14.2	58.4	59.8	56.8	47.6	36.5	35.5	*14.5*	26.7	6.8	0.7	1.7	0.7
	400万円以上600万円未満	257	43	148	159	145	129	95	101	55	79	23	0	5	1
		100.0	16.7	57.6	61.9	56.4	50.2	37.0	39.3	21.4	30.7	8.9	0.0	1.9	0.4
	600万円以上800万円未満	181	34	106	115	118	87	69	69	32	47	24	0	1	0
		100.0	18.8	58.6	63.5	65.2	48.1	38.1	38.1	17.7	26.0	13.3	0.0	0.6	0.0
	800万円以上	166	41	113	100	98	84	62	74	47	49	11	1	1	0
		100.0	24.7	68.1	60.2	59.0	50.6	37.3	44.6	28.3	29.5	6.6	0.6	0.6	0.0

第１志望の進学予定地域別に大学への進学理由をみると、「県外（国内）」に進学予定の生徒は、「県外・島外で生活してみたいから」（42.4%）の割合が特に高くなっている。

図表 III-32　大学へ進学する理由（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	大学に進学するのは当然だと思っているから	幅広い教養を身につけたいから	専門的な知識や技術を身につけたいから	なりたい職業に就くための資格を取得したいから	就職に有利だと思うから	幅広い多くの人と知り合うことができるから	学生生活を楽しみたいから	県外・島外で生活してみたいから	進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから	家族や先生などに大学進学をすすめられたから	特に理由はない	その他	無回答
全体		1,062	187	646	653	629	533	412	409	212	312	97	4	14	3
		100.0	17.6	60.8	61.5	59.2	50.2	38.8	38.5	20.0	29.4	9.1	0.4	1.3	0.3
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	409	70	261	247	224	234	164	180	6	126	56	2	3	0
		100.0	17.1	63.8	60.4	54.8	**57.2**	40.1	**44.0**	***1.5***	30.8	13.7	0.5	0.7	0.0
	県内（自宅から通学できない地域）	189	26	112	113	116	87	67	67	16	61	13	0	3	1
		100.0	13.8	59.3	59.8	61.4	46.0	35.4	35.4	***8.5***	32.3	6.9	0.0	1.6	0.5
	県外（国内）	441	85	264	283	282	202	172	157	187	117	27	2	8	0
		100.0	19.3	59.9	64.2	63.9	45.8	39.0	35.6	**42.4**	26.5	6.1	0.5	1.8	0.0
	海外	11	2	4	4	2	6	5	4	2	4	1	0	0	0
		100.0	18.2	***36.4***	***36.4***	***18.2***	54.5	**45.5**	36.4	18.2	**36.4**	9.1	0.0	0.0	0.0

4）短期大学・専門学校へ進学する理由（生徒問７・保護者問５）

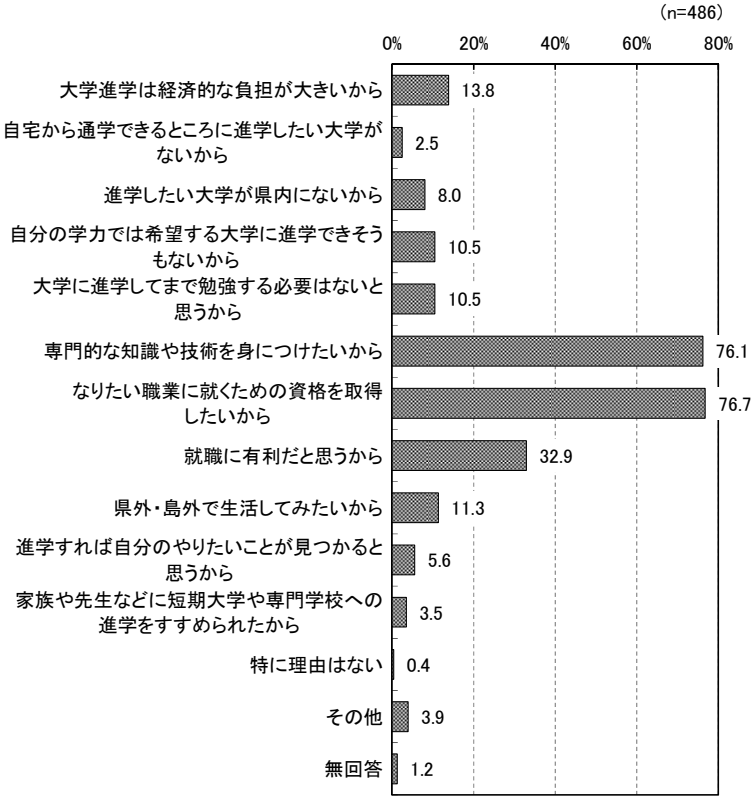
現実的な予定として、「短期大学へ進学する」または「専門学校へ進学する」を選んだ生徒と保護者に、短期大学・専門学校へそれぞれ進学する理由（保護者は「（保護者から見た）子どもが短期大学または専門学校へ進学する理由」）を尋ねた。

生徒･保護者ともに､「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」（生徒 76.7%、保護者 75.4%）､「専門的な知識や技術を身につけたいから」（生徒 76.1%､保護者 72.1%）の割合が突出しており、将来の職業に直結することが強く意識されていることがわかる。

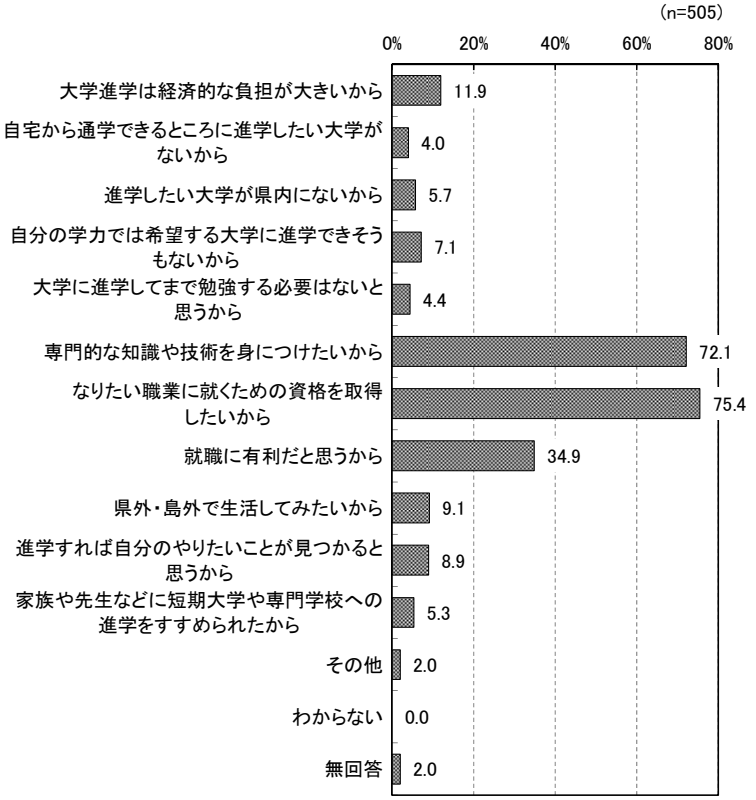
また、進学予定先が短期大学・専門学校の回答者では、全般的に、生徒と保護者の回答は概ね同様の傾向を示しているが､「大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから」（生徒 10.5%、保護者 4.4%）では、他の項目に比べてやや差が開いている。

図表 III-33　短期大学・専門学校へ進学する理由

［生徒］



［保護者］



（注）保護者向けの設問は「お子さんが短期大学または専門学校へ進学する理由は何だと思われますか。」

生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では、「専門的な知識や技術を身につけたいから」の割合（83.1%）が、普通高校（72.5%）を約 10 ポイント上回っているが、普通高校では、「自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから」（14.1%）の割合が、専門高校（3.6%）を約 11 ポイント上回っている。

地域別では、離島で「県外・島外で生活してみたいから」の割合（16.6%）が、全体よりもやや高くなっている。

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど、「大学進学は経済的な負担が大きいから」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-34　短期大学・専門学校へ進学する理由（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	大学進学は経済的な負担が大きいから	自宅から通学できるところに進学したい大学がないから	進学したい大学が県内にないから	自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから	大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから	専門的な知識や技術を身につけたいから	なりたい職業に就くための資格を取得したいから	就職に有利だと思うから	県外・島外で生活してみたいから	進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから	家族や先生などに短期大学や専門学校への進学をすすめられたから	特に理由はない	その他	無回答
全体		486	67	12	39	51	51	370	373	160	55	27	17	3	19	6
		100.0	13.8	2.5	8.0	10.5	10.5	76.1	76.7	32.9	11.3	5.6	3.5	0.6	3.9	1.2
学校種別	普通	320	49	7	25	45	41	232	239	106	36	17	13	2	16	3
		100.0	15.3	2.2	7.8	14.1	12.8	72.5	74.7	33.1	11.3	5.3	4.1	0.6	5.0	0.9
	専門	166	18	5	14	6	10	138	134	54	19	10	4	1	3	3
		100.0	10.8	3.0	8.4	***3.6***	6.0	**83.1**	80.7	32.5	11.4	6.0	2.4	0.6	1.8	1.8
地域別	北部	197	23	5	15	19	21	145	153	74	16	11	7	0	7	3
		100.0	11.7	2.5	7.6	9.6	10.7	73.6	77.7	37.6	8.1	5.6	3.6	0.0	3.6	1.5
	中南部	132	16	5	16	20	14	110	102	35	13	5	6	0	5	0
		100.0	12.1	3.8	12.1	15.2	10.6	**83.3**	77.3	***26.5***	9.8	3.8	4.5	0.0	3.8	0.0
	離島	157	28	2	8	12	16	115	118	51	26	11	4	3	7	3
		100.0	17.8	1.3	5.1	7.6	10.2	73.2	75.2	32.5	**16.6**	7.0	2.5	1.9	4.5	1.9
世帯年収別	200万円未満	93	15	2	7	11	12	72	72	35	19	8	0	0	2	2
		100.0	16.1	2.2	7.5	11.8	12.9	77.4	77.4	37.6	**20.4**	8.6	0.0	0.0	2.2	2.2
	200万円以上400万円未満	169	30	5	10	12	19	128	125	53	14	9	9	1	5	3
		100.0	17.8	3.0	5.9	7.1	11.2	75.7	74.0	31.4	8.3	5.3	5.3	0.6	3.0	1.8
	400万円以上600万円未満	102	15	4	10	14	10	81	80	35	10	6	3	0	7	0
		100.0	14.7	3.9	9.8	13.7	9.8	79.4	78.4	34.3	9.8	5.9	2.9	0.0	6.9	0.0
	600万円以上800万円未満	43	2	1	6	5	5	32	34	16	4	2	4	0	2	0
		100.0	***4.7***	2.3	**14.0**	11.6	11.6	74.4	79.1	37.2	9.3	4.7	**9.3**	0.0	4.7	0.0
	800万円以上	30	1	0	3	5	2	23	23	8	4	0	1	1	1	0
		100.0	***3.3***	0.0	10.0	**16.7**	6.7	76.7	76.7	***26.7***	13.3	***0.0***	3.3	3.3	3.3	0.0

③ 進学先について

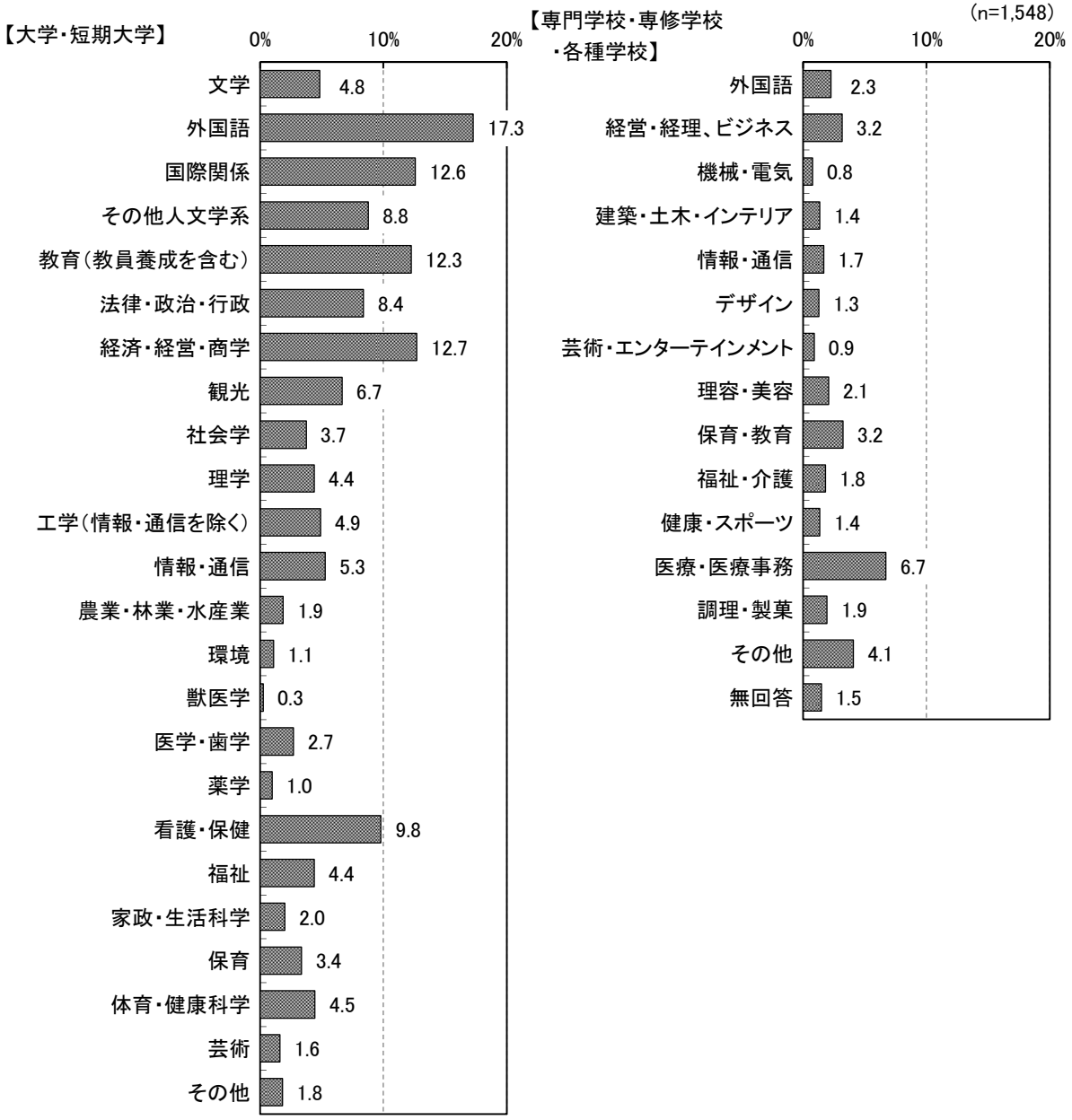
1) 進学を予定している学校で学びたい分野（生徒問８・保護者問６）

大学・短期大学・専門学校へ進学を予定している生徒（以下「進学予定者」）と保護者に、進学予定先で学びたい分野（保護者アンケートでは「(保護者から見た）子どもが進学予定先で学びたい分野」）について尋ねた。

生徒・保護者とも、順位の違いはあるものの、上位は共通で、大学・短期大学では「外国語」（生徒 17.3%、保護者 12.8%）、「国際関係」（同 12.6%、10.9%）、「教育（教員養成を含む)」（同 12.3%、13.8%）、「経済・経営・商学」（同 12.7%、12.5%）、「看護・保健」（同 9.8%、10.5%）で、専門学校等では「医療・医療事務」（同 6.7%、6.0%）である。

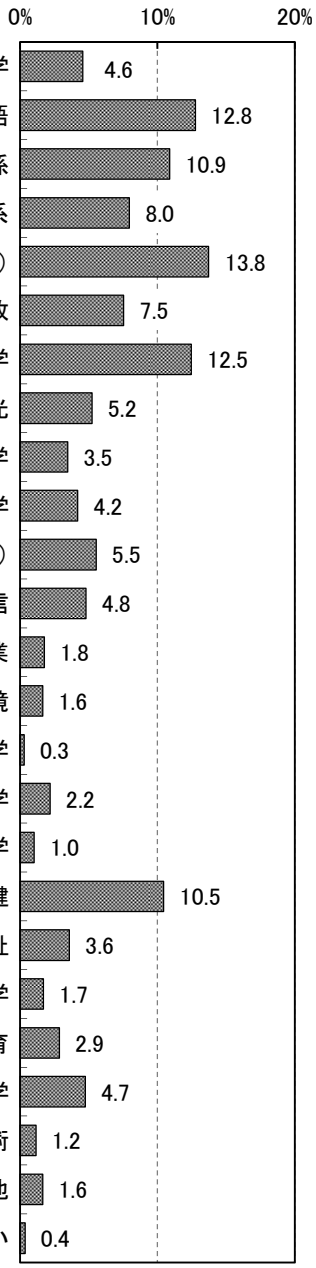
図表 III-35　進学を予定している学校で学びたい分野

［生徒］



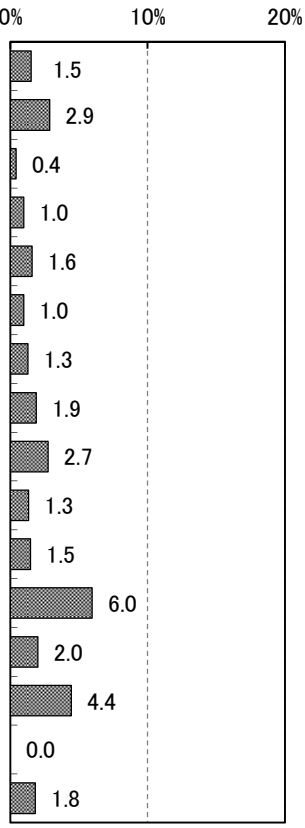
［保護者］

【大学・短期大学】



【専門学校・専修学校・各種学校】

（n=1,643）



図表 III-36 ［参考］進学を予定している学校で学びたい分野
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

【大学・短期大学】

		サンプル数	文学	外国語	国際関係	その他人文学系	教育（教員養成を含む）	法律・政治・行政	経済・経営・商学	観光	社会学	理学	工学（情報・通信を除く）	情報・通信	農業・林業・水産業	環境	獣医学	医学・歯学	薬学	看護・保健	福祉	家政・生活科学	保育	体育・健康科学	芸術	その他
全体		1,548	75	268	195	136	190	130	197	103	58	68	76	82	29	17	4	42	15	152	68	31	52	69	25	28
		100.0	4.8	17.3	12.6	8.8	12.3	8.4	12.7	6.7	3.7	4.4	4.9	5.3	1.9	1.1	0.3	2.7	1.0	9.8	4.4	2.0	3.4	4.5	1.6	1.8
学校種別	普通	1,320	70	244	184	123	179	125	182	97	54	67	75	68	26	17	4	38	15	146	61	30	40	64	22	22
		100.0	5.3	18.5	13.9	9.3	13.6	9.5	13.8	7.3	4.1	5.1	5.7	5.2	2.0	1.3	0.3	2.9	1.1	11.1	4.6	2.3	3.0	4.8	1.7	1.7
	専門	228	5	24	11	13	11	5	15	6	4	1	1	14	3	0	0	4	0	6	7	1	12	5	3	6
		100.0	2.2	***10.5***	***4.8***	5.7	***4.8***	***2.2***	***6.6***	2.6	1.8	0.4	0.4	6.1	1.3	0.0	0.0	1.8	0.0	***2.6***	3.1	0.4	5.3	2.2	1.3	2.6
地域別	北部	458	19	69	53	28	63	24	48	28	16	7	12	20	8	5	2	16	2	49	15	11	19	24	6	6
		100.0	4.1	15.1	11.6	6.1	13.8	5.2	10.5	6.1	3.5	1.5	2.6	4.4	1.7	1.1	0.4	3.5	0.4	10.7	3.3	2.4	4.1	5.2	1.3	1.3
	中南部	674	43	140	104	72	84	70	109	60	32	38	43	45	15	7	1	15	10	71	37	13	19	22	11	11
		100.0	6.4	20.8	15.4	10.7	12.5	10.4	16.2	8.9	4.7	5.6	6.4	6.7	2.2	1.0	0.1	2.2	1.5	10.5	5.5	1.9	2.8	3.3	1.6	1.6
	離島	416	13	59	38	36	43	36	40	15	10	23	21	17	6	5	1	11	3	32	16	7	14	23	8	11
		100.0	3.1	14.2	9.1	8.7	10.3	8.7	9.6	3.6	2.4	5.5	5.0	4.1	1.4	1.2	0.2	2.6	0.7	7.7	3.8	1.7	3.4	5.5	1.9	2.6
世帯年収別	200万円未満	211	9	37	26	19	22	19	34	12	9	6	6	15	1	3	0	2	1	10	4	1	3	4	4	2
		100.0	4.3	17.5	12.3	9.0	10.4	9.0	16.1	5.7	4.3	2.8	2.8	7.1	0.5	1.4	0.0	0.9	0.5	***4.7***	1.9	0.5	1.4	1.9	1.9	0.9
	200万円以上400万円未満	465	22	72	55	43	62	37	52	28	21	22	20	24	3	3	2	15	1	42	23	4	23	20	9	7
		100.0	4.7	15.5	11.8	9.2	13.3	8.0	11.2	6.0	4.5	4.7	4.3	5.2	0.6	0.6	0.4	3.2	0.2	9.0	4.9	0.9	4.9	4.3	1.9	1.5
	400万円以上600万円未満	359	16	67	41	23	41	34	45	33	7	13	25	20	9	4	0	9	4	37	15	8	15	23	5	3
		100.0	4.5	18.7	11.4	6.4	11.4	9.5	12.5	9.2	1.9	3.6	7.0	5.6	2.5	1.1	0.0	2.5	1.1	10.3	4.2	2.2	4.2	6.4	1.4	0.8
	600万円以上800万円未満	224	8	41	34	27	32	16	32	21	8	12	10	11	8	4	1	8	2	33	19	6	5	12	5	10
		100.0	3.6	18.3	15.2	12.1	14.3	7.1	14.3	9.4	3.6	5.4	4.5	4.9	3.6	1.8	0.4	3.6	0.9	14.7	8.5	2.7	2.2	5.4	2.2	4.5
	800万円以上	196	14	37	30	20	27	19	25	7	11	13	15	7	6	3	1	7	6	24	7	10	3	7	2	2
		100.0	7.1	18.9	15.3	10.2	13.8	9.7	12.8	3.6	5.6	6.6	7.7	3.6	3.1	1.5	0.5	3.6	3.1	12.2	3.6	5.1	1.5	3.6	1.0	1.0

【専門学校・専修学校・各種学校】

		サンプル数	外国語	経営・経理、ビジネス	機械・電気	建築・土木・インテリア	情報・通信	デザイン	芸術・エンターテインメント	理容・美容	保育・教育	福祉・介護	健康・スポーツ	医療・医療事務	調理・製菓	その他	無回答
全体		1,548	35	49	12	21	26	20	14	32	50	28	21	104	30	63	23
		100.0	2.3	3.2	0.8	1.4	1.7	1.3	0.9	2.1	3.2	1.8	1.4	6.7	1.9	4.1	1.5
学校種別	普通	1,320	21	27	11	15	18	8	8	20	26	19	20	78	14	46	15
		100.0	1.6	2.0	0.8	1.1	1.4	0.6	0.6	1.5	2.0	1.4	1.5	5.9	1.1	3.5	1.1
	専門	228	14	22	1	6	8	12	6	12	24	9	1	26	16	17	8
		100.0	6.1	**9.6**	0.4	2.6	3.5	5.3	2.6	5.3	**10.5**	3.9	0.4	11.4	**7.0**	7.5	3.5
地域別	北部	458	13	23	7	4	15	5	2	13	21	15	10	45	9	24	5
		100.0	2.8	5.0	1.5	0.9	3.3	1.1	0.4	2.8	4.6	3.3	2.2	9.8	2.0	5.2	1.1
	中南部	674	13	12	3	6	8	10	7	10	13	8	5	29	6	13	7
		100.0	1.9	1.8	0.4	0.9	1.2	1.5	1.0	1.5	1.9	1.2	0.7	4.3	0.9	1.9	1.0
	離島	416	9	14	2	11	3	5	5	9	16	5	6	30	15	26	11
		100.0	2.2	3.4	0.5	2.6	0.7	1.2	1.2	2.2	3.8	1.2	1.4	7.2	3.6	6.3	2.6
世帯年収別	200万円未満	211	4	12	3	2	4	5	4	6	14	4	1	22	7	13	4
		100.0	1.9	5.7	1.4	0.9	1.9	2.4	1.9	2.8	6.6	1.9	0.5	10.4	3.3	6.2	1.9
	200万円以上400万円未満	465	14	17	3	5	13	4	3	12	16	9	8	25	9	22	8
		100.0	3.0	3.7	0.6	1.1	2.8	0.9	0.6	2.6	3.4	1.9	1.7	5.4	1.9	4.7	1.7
	400万円以上600万円未満	359	7	12	4	6	6	5	4	4	6	9	6	26	9	13	6
		100.0	1.9	3.3	1.1	1.7	1.7	1.4	1.1	1.1	1.7	2.5	1.7	7.2	2.5	3.6	1.7
	600万円以上800万円未満	224	2	2	2	7	0	2	1	4	5	1	1	10	1	4	2
		100.0	0.9	0.9	0.9	3.1	0.0	0.9	0.4	1.8	2.2	0.4	0.4	4.5	0.4	1.8	0.9
	800万円以上	196	3	3	0	0	1	2	0	2	1	1	0	9	2	5	2
		100.0	1.5	1.5	0.0	0.0	0.5	1.0	0.0	1.0	0.5	0.5	0.0	4.6	1.0	2.6	1.0

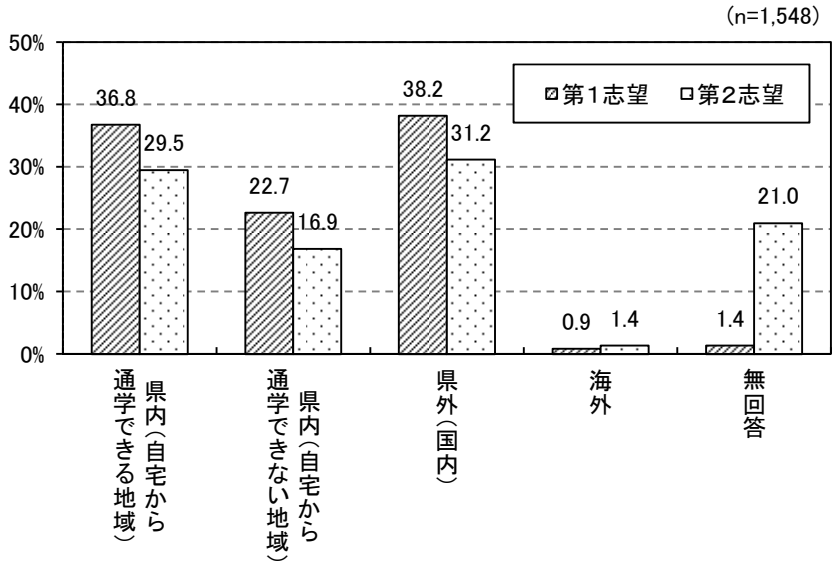
2) 進学を予定している学校の所在地域（生徒問９・保護者問７）

進学予定者と保護者に、進学を予定している学校の所在地（保護者アンケートでは「(保護者から見た）子どもが進学を予定している学校のある地域」）について尋ねた。

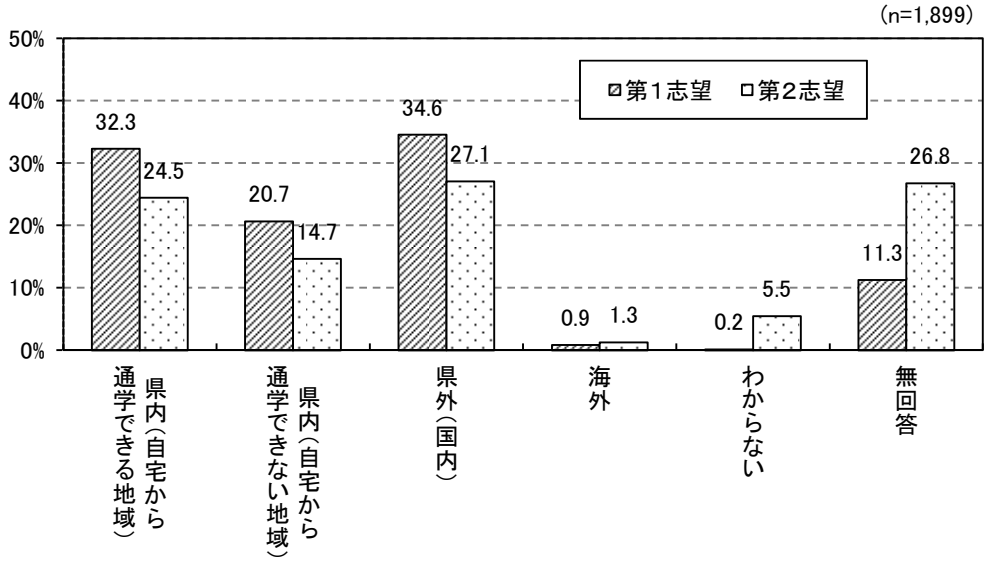
生徒・保護者、また第１志望・第２志望とも、最も割合が高いのは「県外（国内)」で、次に「県内（自宅から通学できる地域)」、「県内（自宅から通学できない地域)」、「海外」が続く。また、生徒・保護者それぞれの割合についても、傾向の大きな差はみられない。

図表 III-37　進学を予定している学校の所在地域

［生徒］



［保護者］



生徒の回答における第１志望の学校の所在地域を学校種別にみると、専門高校では「県外（国内)」（32.9%）が普通高校（39.1%）よりもやや低くなっている。

地域別にみると、北部では「県内（自宅から通学できない地域)」（32.3%）が他地域よりやや高く、中南部では「県内（自宅から通学できる地域)」（60.1%）が大幅に高い。また、離島では、「県外（国内)」（56.3%）が約６割を占め、「県内（自宅から通学できない地域)」（35.8%）を大幅に上回っている。

世帯年収別では、年収が高くなるほど「県外（国内)」の割合が高く、800 万円以上では約６割（57.1%）にのぼるが、200 万円未満では約３割（27.5%）にとどまっている。

図表 III-38　進学を予定している学校（第1志望）の所在地域
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	県内（自宅から通学できる地域）	県内（自宅から通学できない地域）	県外（国内）	海外	無回答
全体		1,548	569	352	591	14	22
		100.0	36.8	22.7	38.2	0.9	1.4
学校種別	普通	1,320	474	299	516	14	17
		100.0	35.9	22.7	39.1	1.1	1.3
	専門	228	95	53	75	0	5
		100.0	41.7	23.2	32.9	0.0	2.2
地域別	北部	458	143	148	160	2	5
		100.0	31.2	32.3	34.9	0.4	1.1
	中南部	674	405	55	197	9	8
		100.0	60.1	8.2	29.2	1.3	1.2
	離島	416	21	149	234	3	9
		100.0	5.0	35.8	56.3	0.7	2.2
世帯年収別	200万円未満	211	78	71	58	0	4
		100.0	37.0	33.6	27.5	0.0	1.9
	200万円以上400万円未満	465	184	114	156	3	8
		100.0	39.6	24.5	33.5	0.6	1.7
	400万円以上600万円未満	359	135	77	138	5	4
		100.0	37.6	21.4	38.4	1.4	1.1
	600万円以上800万円未満	224	82	42	94	3	3
		100.0	36.6	18.8	42.0	1.3	1.3
	800万円以上	196	58	24	112	1	1
		100.0	29.6	12.2	57.1	0.5	0.5

進学予定先別に所在地域をみると、大学では「県外（国内)」（41.5%）が最も高いのに対し、短期大学と専門学校では「県内（自宅から通学できない地域)」（それぞれ 35.3%と 33.3%）が最も高い。

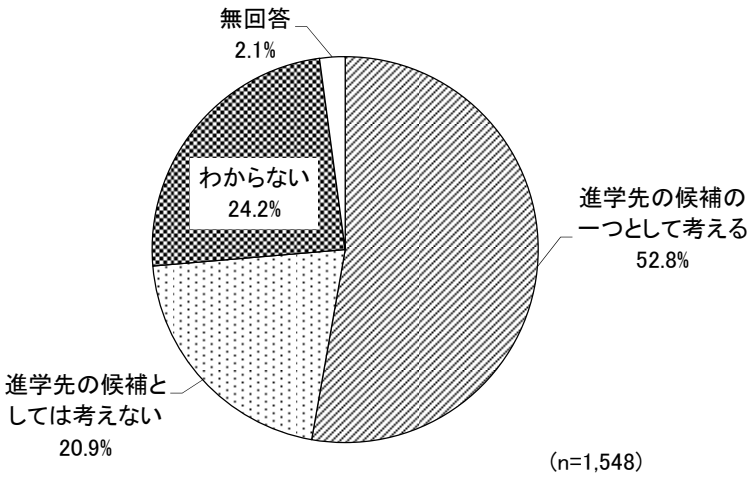
図表 III-39　進学を予定している学校（第1志望）の所在地域（進学予定先別）

		サンプル数	県内（自宅から通学できる地域）	県内（自宅から通学できない地域）	県外（国内）	海外	無回答
全体		1,548	569	352	591	14	22
		100.0	36.8	22.7	38.2	0.9	1.4
進学予定先別	大学へ進学する	1,062	409	189	441	11	12
		100.0	38.5	17.8	41.5	1.0	1.1
	短期大学へ進学する	68	19	24	21	2	2
		100.0	27.9	35.3	30.9	2.9	2.9
	専門学校へ進学する	418	141	139	129	1	8
		100.0	33.7	33.3	30.9	0.2	1.9

3) 県内に志望する分野の学部・学科が新設された場合の進学意向（生徒問 10）

進学予定者に、志望する分野の学部・学科等が、沖縄県内の大学や専門学校等に新設された場合の進学意向を尋ねたところ、「進学先の候補の一つとして考える」（52.8%）が約半数を占める一方で、約２割（20.9%）は「進学先の候補としては考えない」と回答している。

図表 III-40　志望する分野の学部･学科が新設された場合の進学意向



地域別にみると、中南部では「進学先の候補の一つとして考える」（58.9%）が全体よりもやや高いのに対し、離島では「進学先の候補としては考えない」（29.1%）が全体よりもやや高くなっている。

図表 III-41　志望する分野の学部･学科等が新設された場合の進学意向
（学校種別･高校所在地域別･世帯年収別）

		サンプル数	進学先の候補の一つとして考える	進学先の候補としては考えない	わからない	無回答
全体		1,548	817	323	375	33
		100.0	52.8	20.9	24.2	2.1
学校種別	普通	1,320	715	284	296	25
		100.0	54.2	21.5	22.4	1.9
	専門	228	102	39	79	8
		100.0	*44.7*	17.1	**34.6**	3.5
地域別	北部	458	243	79	126	10
		100.0	53.1	17.2	27.5	2.2
	中南部	674	397	123	144	10
		100.0	**58.9**	18.2	21.4	1.5
	離島	416	177	121	105	13
		100.0	***42.5***	**29.1**	25.2	3.1
世帯年収別	200万円未満	211	110	40	54	7
		100.0	52.1	19.0	25.6	3.3
	200万円以上400万円未満	465	247	82	126	10
		100.0	53.1	17.6	27.1	2.2
	400万円以上600万円未満	359	193	74	84	8
		100.0	53.8	20.6	23.4	2.2
	600万円以上800万円未満	224	118	51	51	4
		100.0	52.7	22.8	22.8	1.8
	800万円以上	196	103	55	36	2
		100.0	52.6	**28.1**	*18.4*	1.0

志望する分野の学部・学科等が県内に新設された場合の進学意向を第１志望の進学予定地域別にみると、県内に進学予定の生徒では約６割が「進学先の候補の一つとして考える」と回答しているが、「県外（国内）」に進学予定の生徒では「進学先の候補としては考えない」（35.9%）が全体よりも 15 ポイント以上高くなっている。

図表 III-42　志望する分野の学部・学科等が新設された場合の進学意向
（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	進学先の候補の一つとして考える	進学先の候補としては考えない	わからない	無回答
全体		1,548	817	323	375	33
		100.0	52.8	20.9	24.2	2.1
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	569	354	62	148	5
		100.0	**62.2**	***10.9***	26.0	0.9
	県内（自宅から通学できない地域）	352	208	40	100	4
		100.0	**59.1**	***11.4***	28.4	1.1
	県外（国内）	591	249	212	125	5
		100.0	***42.1***	**35.9**	21.2	0.8
	海外	14	4	9	1	0
		100.0	***28.6***	**64.3**	***7.1***	0.0

4）進学する学校を決める際に重視すること（生徒問 11・保護者問８）

進学予定者と保護者に、進学する学校を決める際に重視すること（保護者アンケートでは「（保護者から見た）子どもが進学する学校を決める際に重視すること」）を尋ねた。

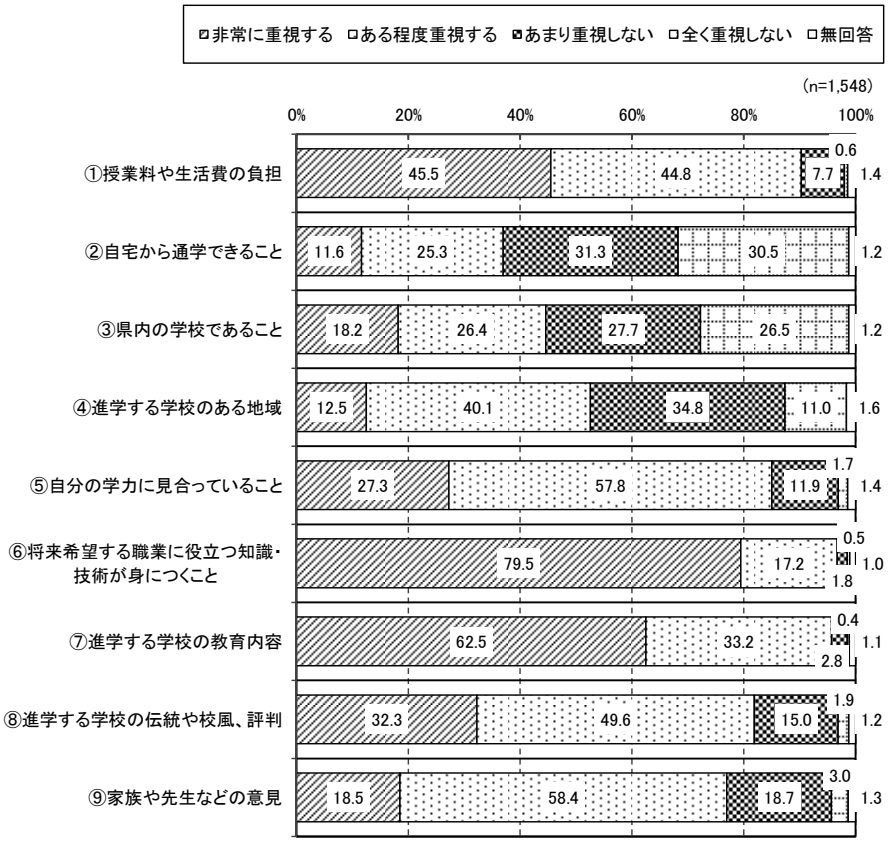
「重視する」（「非常に重視する」＋「ある程度重視する」の合計）の割合が高い項目は、上位２項目は生徒・保護者共通で、「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」（生徒 96.7%、保護者 95.0%）と「⑦進学する学校の教育内容」（同 95.7%、91.4%）である。

次に割合が高いのは、生徒では「①授業料や生活費の負担」（同 90.3%、81.8%）、保護者では「⑤自分の学力に見合っていること」（同 85.1%、85.5%）であり、「①授業料や生活費の負担」については、約９ポイントの差がある。

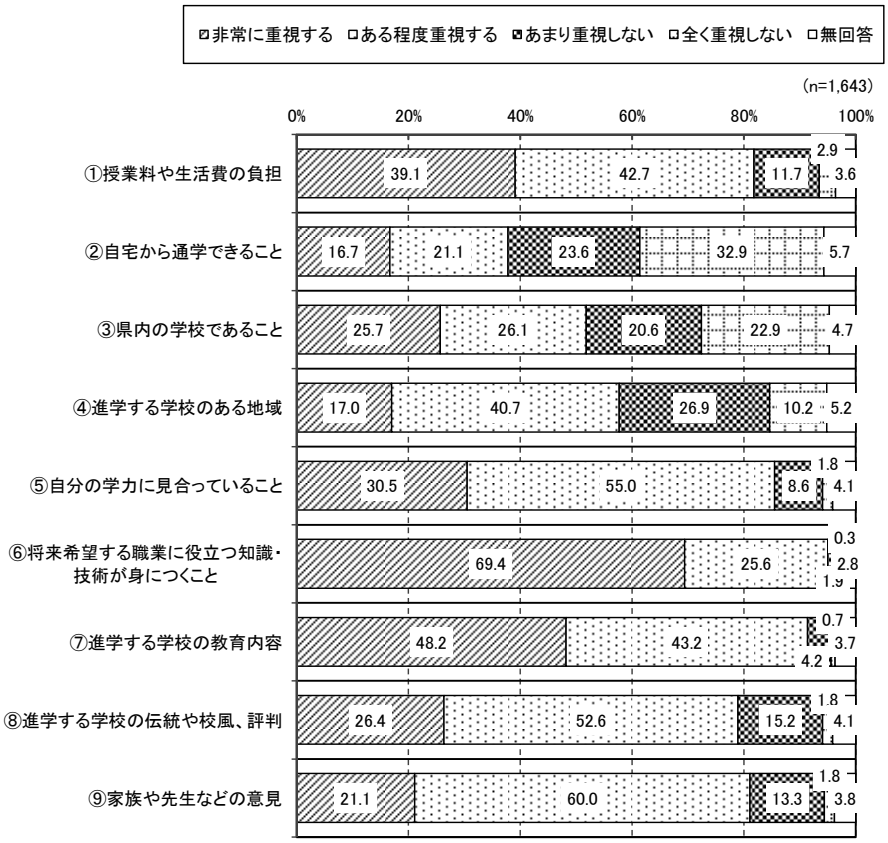
また、「非常に重視する」だけを見ると、全体的に保護者よりも生徒の割合が高い項目が多いが、進学先の地域に関連する項目である「②自宅から通学できること」（同 11.6%、16.7%）、「③県内の学校であること」（同 18.2%、25.7%）、「④進学する学校のある地域」（同 12.5%、17.0%）では、保護者の割合のほうが高く、かつ差が大きい。

図表 III-43 進学する学校を決める際に重視すること

［生徒］



［保護者］



生徒の「重視する」の回答を学校種別にみると、専門高校では「②自宅から通学できること」（49.1%）と「③県内の学校であること」（52.6%）の割合が普通高校を大きく上回っているが、「⑤自分の学力に見合っていること」（73.7%）の割合は、普通高校を大きく下回っている。

地域別では、中南部では「②自宅から通学できること」（54.7%）と「③県内の学校であること」（54.2%）の割合が他地域を大きく上回るのに対し、離島では、前者が 15.6%、後者が 26.9%と、他地域よりも大幅に低くなっている。

世帯年収別にみると、「①授業料や生活費の負担」と「③県内の学校であること」で、年収が低いほうが「重視する」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-44　進学する学校を決める際に重視すること（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	①授業料や生活費の負担	②自宅から通学できること	③県内の学校であること	④進学する学校のある地域	⑤自分の学力に見合っていること	⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと	⑦進学する学校の教育内容	⑧進学する学校の伝統や校風、評判	⑨家族や先生などの意見
全体		1,548	1,398	572	690	815	1,316	1,497	1,481	1,268	1,191
		100.0	90.3	37.0	44.6	52.6	85.0	96.7	95.7	81.9	76.9
学校種別	普通	1,320	1,198	460	570	696	1,148	1,275	1,262	1,081	1,018
		100.0	90.8	34.8	43.2	52.7	87.0	96.6	95.6	81.9	77.1
	専門	228	200	112	120	119	168	222	219	187	173
		100.0	87.7	**49.1**	**52.6**	52.2	***73.7***	97.4	96.1	82.0	75.9
地域別	北部	458	415	138	213	217	362	442	437	370	354
		100.0	90.6	***30.1***	46.5	***47.4***	***79.0***	96.5	95.4	80.8	77.3
	中南部	674	605	369	365	368	596	651	648	561	527
		100.0	89.8	**54.7**	**54.2**	54.6	88.4	96.6	96.1	83.2	78.2
	離島	416	378	65	112	230	358	404	396	337	310
		100.0	90.9	***15.6***	***26.9***	55.3	86.1	97.1	95.2	81.0	74.5
世帯年収別	200万円未満	211	196	84	115	105	177	204	204	180	156
		100.0	92.9	39.8	**54.5**	49.8	83.9	96.7	96.7	85.3	73.9
	200万円以上400万円未満	465	432	175	226	254	404	452	448	384	355
		100.0	92.9	37.6	48.6	54.6	86.9	97.2	96.3	82.6	76.3
	400万円以上600万円未満	359	319	134	151	201	290	350	344	296	283
		100.0	88.9	37.3	42.1	56.0	80.8	97.5	95.8	82.5	78.8
	600万円以上800万円未満	224	198	76	94	107	196	214	208	175	175
		100.0	88.4	33.9	42.0	47.8	87.5	95.5	92.9	78.1	78.1
	800万円以上	196	168	69	63	103	174	186	186	157	154
		100.0	85.7	35.2	***32.1***	52.6	88.8	94.9	94.9	80.1	78.6

（注）「非常に重視する」と「ある程度重視する」の合計。なお、構成比は、「非常に重視する」と「ある程度重視する」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「非常に重視する」と「ある程度重視する」の合計とは一致しないものがある。

進学する学校を決める際に「③県内の学校であること」をどの程度重視するかについて、第１志望の進学予定地域別に回答結果をみると、「県外（国内）」に進学予定の生徒では「全く重視しない」（56.3%）が最も多く、「あまり重視しない」（38.1%）と合わせると、全体で約 95%の生徒が県内の大学への進学にこだわりをもっていないことがわかる。

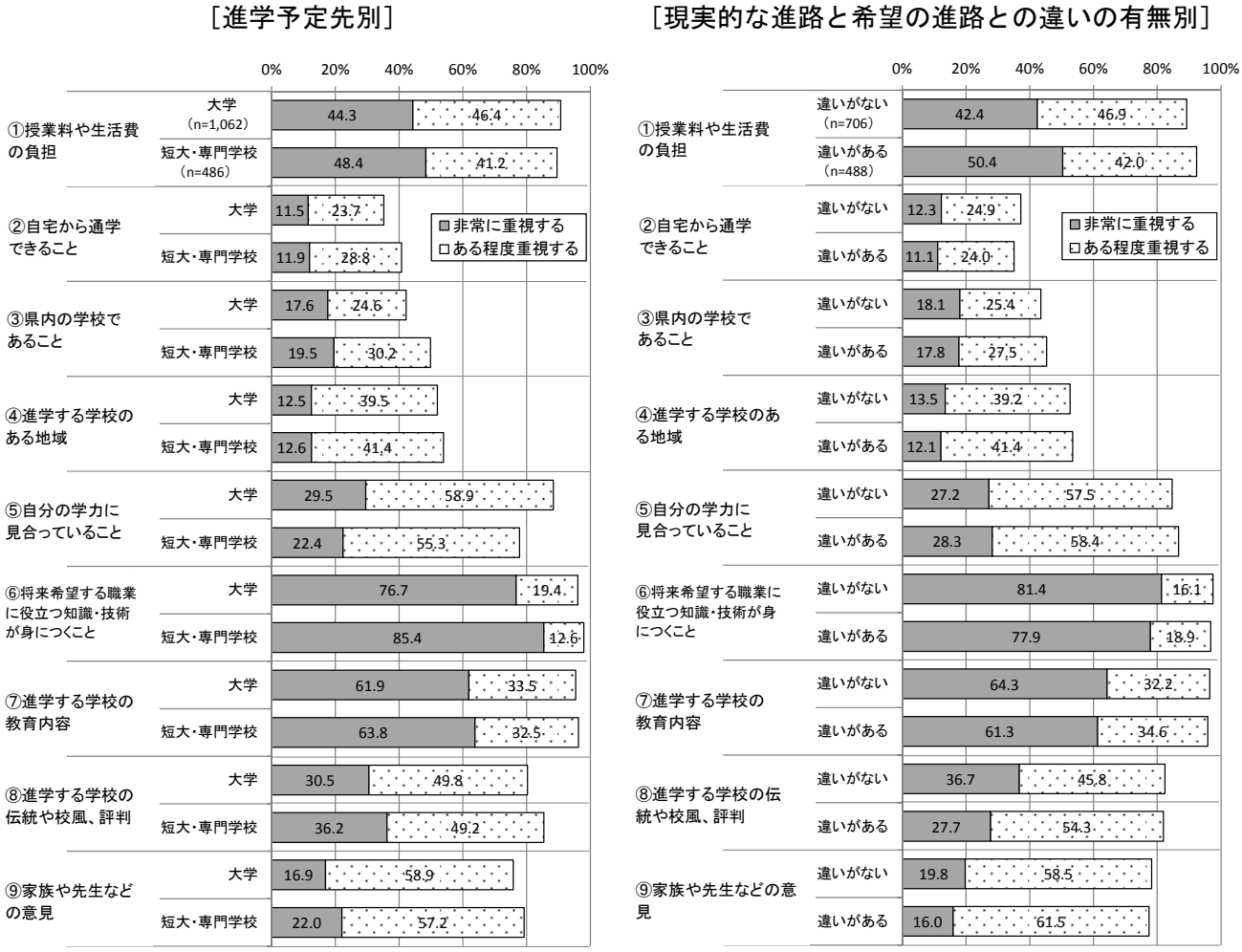
図表 III-45　進学する学校を決める際に「③県内の学校であることを」重視する程度
（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	非常に重視する	ある程度重視する	あまり重視しない	全く重視しない	無回答
全体		1,548	282	408	429	410	19
		100.0	18.2	26.4	27.7	26.5	1.2
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	569	197	234	112	25	1
		100.0	**34.6**	**41.1**	***19.7***	***4.4***	0.2
	県内（自宅から通学できない地域）	352	77	144	91	38	2
		100.0	21.9	**40.9**	25.9	***10.8***	0.6
	県外（国内）	591	4	26	225	333	3
		100.0	***0.7***	***4.4***	**38.1**	**56.3**	0.5
	海外	14	0	1	1	12	0
		100.0	***0.0***	***7.1***	***7.1***	**85.7**	0.0

進学予定先別にみると、大学進学予定者（以下「大学」）では、短大・専門学校進学予定者（以下「短大・専門学校」）よりも「⑤自分の学力に見合っていること」の割合が高いのに対し、短大・専門学校では、大学よりも「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」の割合がやや高くなっている。

また、現実的な進路と希望の進路に違いがある生徒（問 16）では、違いがない生徒よりも「①授業料や生活費の負担」の割合がやや高く、特に「非常に重視する」では約８ポイントの差がある。一方、違いがない生徒では、違いがある生徒よりも「⑧進学する学校の伝統や校風、評判」を「非常に重視する」割合が約９ポイント高い。

図表 III-46　進学する学校を決める際に重視すること（進学予定先別・現実/希望の違いの有無別）



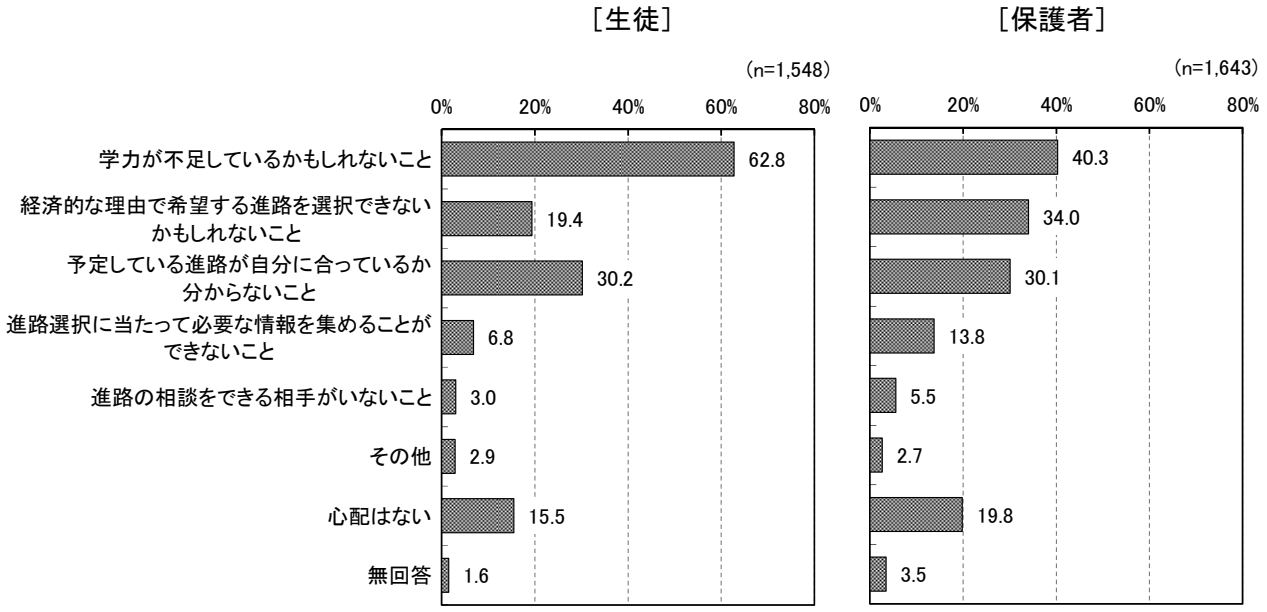
5) 進路選択に当たっての心配ごと（生徒問 12・保護者問９）

進学予定者と保護者に、それぞれ「自身が」進路選択に当たって心配していることを尋ねた。

生徒では、「学力が不足しているかもしれないこと」（62.8%）の割合が突出して高く、続く「予定している進路が自分に合っているか分からないこと」（30.2%）を約 32 ポイントも上回っている。一方で、保護者では「学力が不足しているかもしれないこと」の割合は 40.3%にとどまっており、生徒とは約 23 ポイントの差がある。

一方、「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」は、生徒が 19.4%、保護者が 34.0%で、約 15 ポイントの差が開いており、生徒は家庭の経済状況よりも自身の学力を心配している一方で、保護者は、子どもの学力よりも、進学先の選択への家庭の経済状況の影響を、より現実的な問題として心配していることがうかがえる。

図表 III-47　進路選択に当たっての心配ごと



生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では「学力が不足しているかもしれないこと」（40.4%）の割合が普通高校（66.7%）を大きく下回る一方で、「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」（25.9%）の割合が、普通高校（18.3%）よりもやや高くなっている。

世帯年収別では、年収が高いほど「学力が不足しているかもしれないこと」の割合が高く、年収が低いほど「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-48　進路選択に当たっての心配ごと（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	学力が不足しているかもしれないこと	経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと	予定している進路が自分に合っているか分からないこと	進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと	進路の相談をできる相手がいないこと	その他	心配はない	無回答
全体		1,548	972	300	468	106	47	45	240	24
		100.0	62.8	19.4	30.2	6.8	3.0	2.9	15.5	1.6
学校種別	普通	1,320	880	241	391	91	39	32	198	18
		100.0	66.7	18.3	29.6	6.9	3.0	2.4	15.0	1.4
	専門	228	92	59	77	15	8	13	42	6
		100.0	40.4	25.9	33.8	6.6	3.5	5.7	18.4	2.6
地域別	北部	458	272	96	143	31	17	10	76	9
		100.0	59.4	21.0	31.2	6.8	3.7	2.2	16.6	2.0
	中南部	674	453	131	191	51	13	21	99	6
		100.0	67.2	19.4	28.3	7.6	1.9	3.1	14.7	0.9
	離島	416	247	73	134	24	17	14	65	9
		100.0	59.4	17.5	32.2	5.8	4.1	3.4	15.6	2.2
世帯年収別	200万円未満	211	113	71	64	13	6	3	35	5
		100.0	53.6	33.6	30.3	6.2	2.8	1.4	16.6	2.4
	200万円以上400万円未満	465	287	99	115	35	10	11	79	8
		100.0	61.7	21.3	24.7	7.5	2.2	2.4	17.0	1.7
	400万円以上600万円未満	359	227	69	130	25	16	15	50	5
		100.0	63.2	19.2	36.2	7.0	4.5	4.2	13.9	1.4
	600万円以上800万円未満	224	153	29	70	16	7	12	33	4
		100.0	68.3	12.9	31.3	7.1	3.1	5.4	14.7	1.8
	800万円以上	196	141	14	48	12	3	1	29	2
		100.0	71.9	7.1	24.5	6.1	1.5	0.5	14.8	1.0

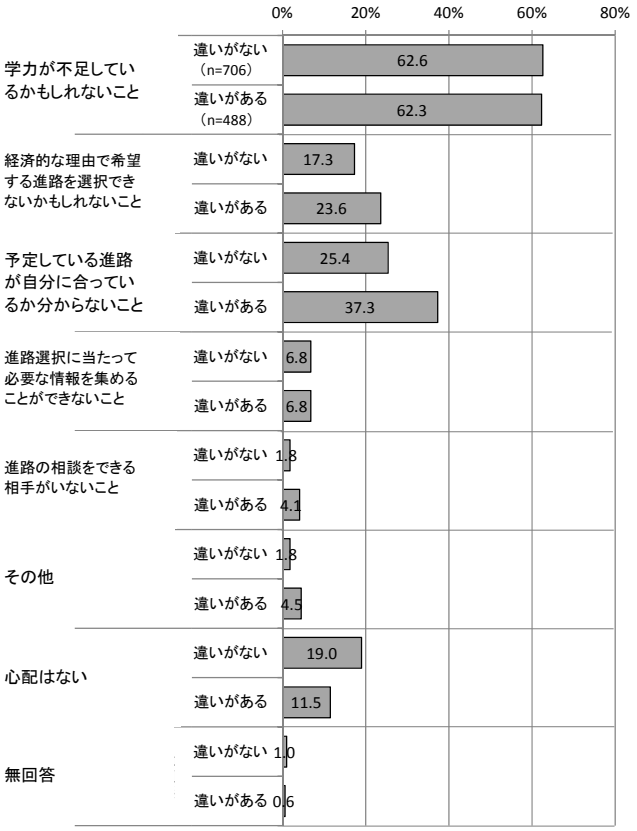
大学進学予定者（以下「大学」）では、短大進学予定者や専門学校進学予定者（以下「短大」「専門学校」）よりも「学力が不足しているかもしれないこと」の割合が大幅に高く、約 30 ポイントの差がある。一方、短大と専門学校では、大学よりも「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」や「予定している進路が自分に合っているか分からないこと」の割合がやや高く、また「心配はない」の割合も 7 ～14 ポイント程度高い。

図表 III-49 進路選択に当たっての心配ごと（進学予定先別）

		サンプル数	学力が不足しているかもしれないこと	経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと	予定している進路が自分に合っているか分からないこと	進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと	進路の相談をできる相手がいないこと	その他	心配はない	無回答
全体		1,548	972	300	468	106	47	45	240	24
		100.0	62.8	19.4	30.2	6.8	3.0	2.9	15.5	1.6
進学予定先別	大学へ進学する	1,062	786	187	297	76	31	30	127	11
		100.0	**74.0**	17.6	28.0	7.2	2.9	2.8	12.0	1.0
	短期大学へ進学する	68	28	16	23	7	3	1	20	0
		100.0	***41.2***	23.5	33.8	10.3	4.4	1.5	**29.4**	0.0
	専門学校へ進学する	418	158	97	148	23	13	14	93	13
		100.0	***37.8***	23.2	**35.4**	5.5	3.1	3.3	**22.2**	3.1

現実的な進路と希望の進路に違いがある生徒では、違いがない生徒よりも「予定している進路が自分に合っているか分からないこと」の割合が 10 ポイント以上高く、また「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」や「進路の相談をできる相手がいないこと」の割合もやや高い。

図表 III-50 進路選択に当たっての心配ごと（現実/希望の違いの有無別）

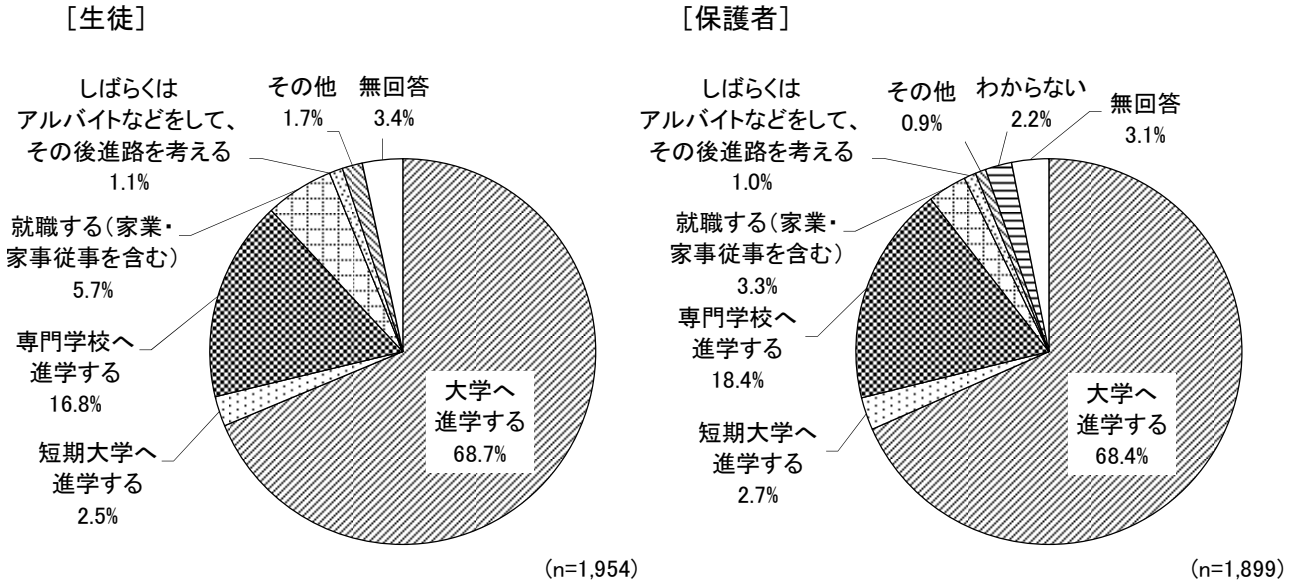


④ 心配ごとがない場合の希望の進路について

1) 高等学校卒業後の進路（心配ごとがない場合の希望）（生徒問 13・保護者問 10）

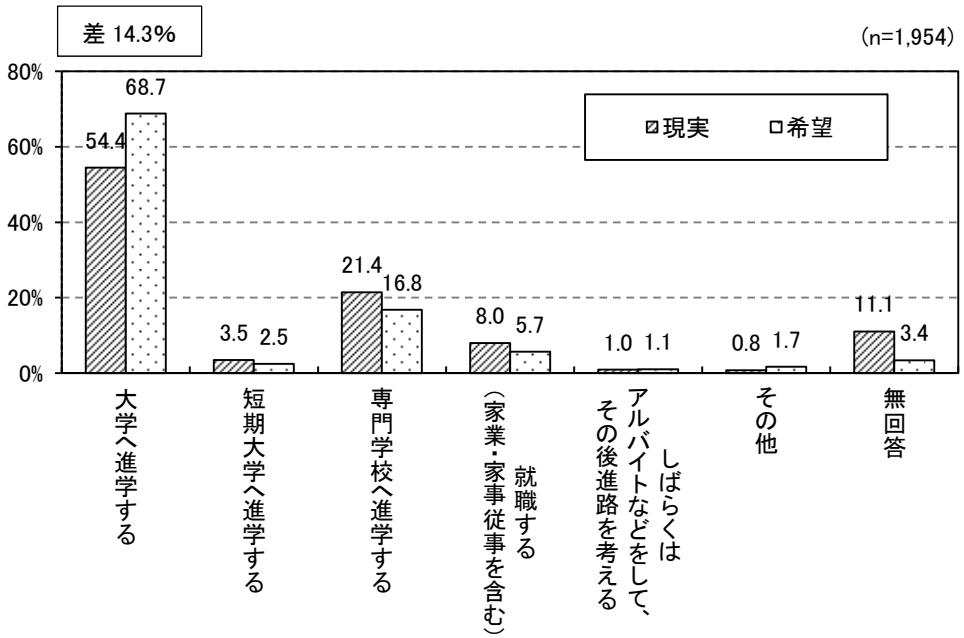
全く心配ごとがなく、自由に進路を選べるとした場合の希望の進路は、生徒・保護者とも「大学へ進学する」（生徒 68.7%、保護者 68.4%）の割合が最も高く、約７割を占め、次に「専門学校へ進学する」（同 16.8%、18.4%）、「就職する（家業・家事従事を含む）」（同 5.7%、3.3%）が続く。

図表 III-51　高等学校卒業後の進路（心配ごとがない場合の希望）



生徒の回答による現実的な予定の進路と、心配ごとがない場合の希望の進路を比較すると、大学進学を希望する生徒が 68.7%であるのに対し、現実的に大学に進学予定の生徒は 54.4%であり、希望と現実には約 14%の差がある。

図表 III-52　高等学校卒業後の進路希望（現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の比較）



学校種別、地域別、世帯年収別に「大学へ進学する」の現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の差をみると、特に差が大きいのは、地域別の「北部」と「離島」（ともに約18ポイント差）である。

図表 III-53　高等学校卒業後の進路（心配ごとがない場合の希望）
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

［心配ごとがない場合の希望］

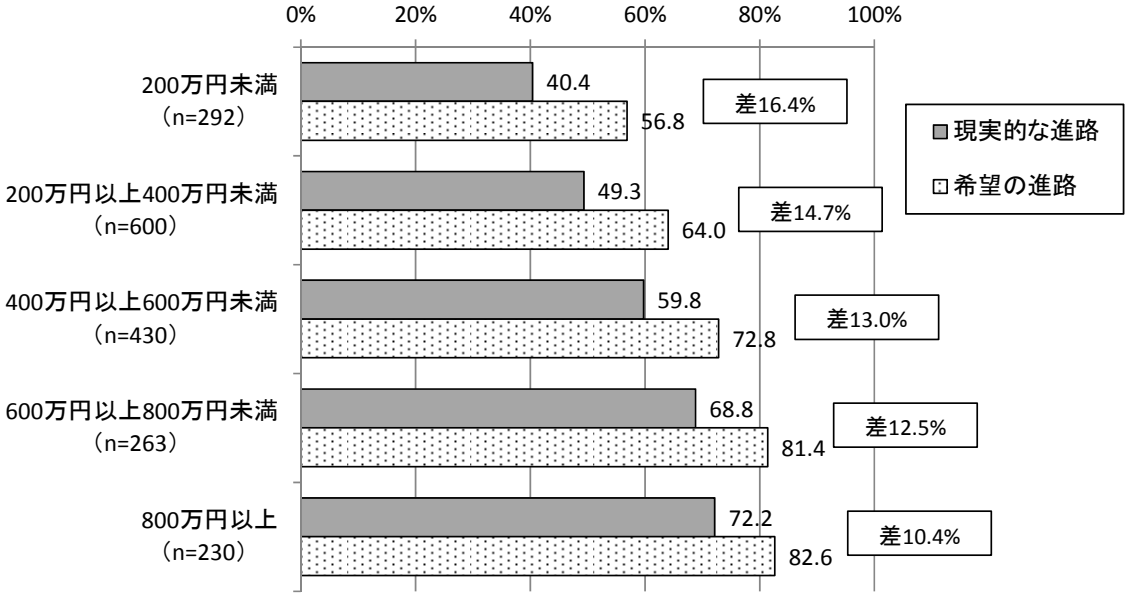
		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,343	49	329	112	22	33	66
		100.0	68.7	2.5	16.8	5.7	1.1	1.7	3.4
学校種別	普通	1,562	1,213	28	192	43	17	20	49
		100.0	77.7	1.8	12.3	2.8	1.1	1.3	3.1
	専門	392	130	21	137	69	5	13	17
		100.0	33.2	5.4	34.9	17.6	1.3	3.3	4.3
地域別	北部	583	366	19	129	25	9	11	24
		100.0	62.8	3.3	22.1	4.3	1.5	1.9	4.1
	中南部	812	616	16	93	50	7	16	14
		100.0	75.9	2.0	11.5	6.2	0.9	2.0	1.7
	離島	559	361	14	107	37	6	6	28
		100.0	64.6	2.5	19.1	6.6	1.1	1.1	5.0
世帯年収別	200万円未満	292	166	7	78	18	4	8	11
		100.0	56.8	2.4	26.7	6.2	1.4	2.7	3.8
	200万円以上400万円未満	600	384	24	114	39	9	8	22
		100.0	64.0	4.0	19.0	6.5	1.5	1.3	3.7
	400万円以上600万円未満	430	313	7	62	22	4	7	15
		100.0	72.8	1.6	14.4	5.1	0.9	1.6	3.5
	600万円以上800万円未満	263	214	4	25	9	4	2	5
		100.0	81.4	1.5	9.5	3.4	1.5	0.8	1.9
	800万円以上	230	190	1	17	10	1	5	6
		100.0	82.6	0.4	7.4	4.3	0.4	2.2	2.6

［現実的な予定（再掲）］

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,062	68	418	156	19	15	216
		100.0	54.4	3.5	21.4	8.0	1.0	0.8	11.1
学校種別	普通	1,562	1,000	50	270	45	13	8	176
		100.0	64.0	3.2	17.3	2.9	0.8	0.5	11.3
	専門	392	62	18	148	111	6	7	40
		100.0	15.8	4.6	37.8	28.3	1.5	1.8	10.2
地域別	北部	583	261	26	171	44	4	5	72
		100.0	44.8	4.5	29.3	7.5	0.7	0.9	12.3
	中南部	812	542	24	108	59	8	7	64
		100.0	66.7	3.0	13.3	7.3	1.0	0.9	7.9
	離島	559	259	18	139	53	7	3	80
		100.0	46.3	3.2	24.9	9.5	1.3	0.5	14.3
世帯年収別	200万円未満	292	118	7	86	32	7	4	38
		100.0	40.4	2.4	29.5	11.0	2.4	1.4	13.0
	200万円以上400万円未満	600	296	34	135	58	5	2	70
		100.0	49.3	5.7	22.5	9.7	0.8	0.3	11.7
	400万円以上600万円未満	430	257	15	87	25	1	4	41
		100.0	59.8	3.5	20.2	5.8	0.2	0.9	9.5
	600万円以上800万円未満	263	181	6	37	8	3	1	27
		100.0	68.8	2.3	14.1	3.0	1.1	0.4	10.3
	800万円以上	230	166	3	27	10	1	0	23
		100.0	72.2	1.3	11.7	4.3	0.4	0.0	10.0

また、世帯年収別に比較すると、世帯年収が低いほど、現実的な進路と希望の進路の差が大きい傾向がみられる。

図表 III-54　現実的な進路と希望の進路の比較（世帯年収別・「大学へ進学する」のみ）



就職等を含めた現実的な予定の進路別にみると、いずれの進路でも、予定の進路と希望の進路が合致する場合の割合が最も高いが、予定の進路が大学以外の場合、希望では「大学を進学する」を選択している生徒の割合は、「短期大学へ進学する」で約４割（44.1%）、「専門学校へ進学する」で約３割（34.4%）、「就職する（家業・家事従事含む）」で約２割（17.3%）であり、本来は大学への進学を希望していたが、結果的には大学進学以外の進路を予定している生徒が、一定数存在することがわかる。

また、現実的な予定の進路が「就職する（家業・家事従事含む）」では、「専門学校へ進学する」（24.4%）の割合も２割を超えている。

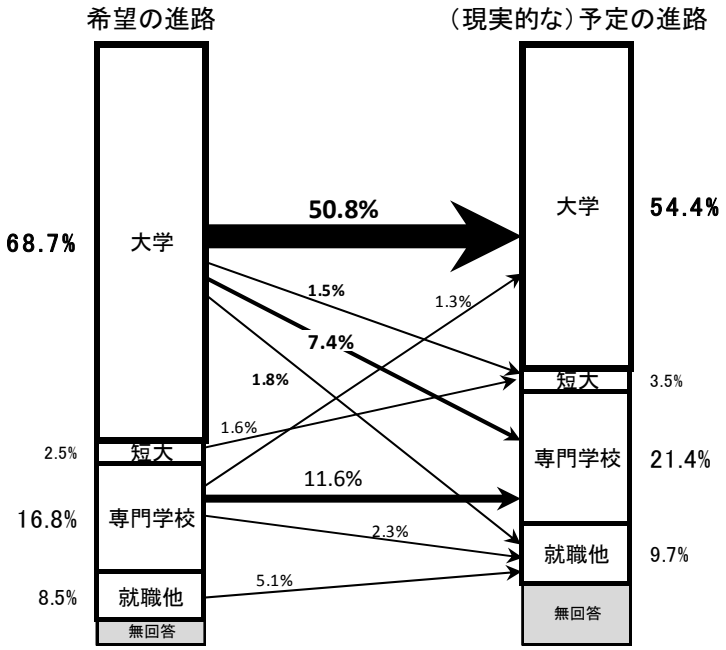
図表 III-55　高等学校卒業後の進路（心配ごとがない場合の希望）（予定の進路別）

		サンプル数	大学へ進学する	短期大学へ進学する	専門学校へ進学する	就職する（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	その他	無回答
全体		1,954	1,343	49	329	112	22	33	66
		100.0	68.7	2.5	16.8	5.7	1.1	1.7	3.4
予定の進路別	大学へ進学する	1,062	993	2	25	14	7	9	12
		100.0	93.5	0.2	2.4	1.3	0.7	0.8	1.1
	短期大学へ進学する	68	30	31	6	0	1	0	0
		100.0	44.1	45.6	8.8	0.0	1.5	0.0	0.0
	専門学校へ進学する	418	144	11	227	11	6	9	10
		100.0	34.4	2.6	54.3	2.6	1.4	2.2	2.4
	就職する（家業・家事従事を含む）	156	27	1	38	78	3	1	8
		100.0	17.3	0.6	24.4	50.0	1.9	0.6	5.1
	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	19	3	0	6	3	4	2	1
		100.0	15.8	0.0	31.6	15.8	21.1	10.5	5.3
	その他	15	5	0	1	0	0	8	1
		100.0	33.3	0.0	6.7	0.0	0.0	53.3	6.7

上記のクロス集計の結果より、心配ごとがない場合の希望の進路と現実的な予定の進路を比較して図示すると以下のようになる。

「希望の進路」では 68.7%の生徒が「大学へ進学」と回答しているが、現実的な「予定の進路」では「大学へ進学」は 54.4%と約 15 ポイント低くなる。希望では「大学へ進学」であった 7.4%の生徒が現実的には「専門学校へ進学」、1.5%が「短大へ進学」、1.8%が「就職する」など、希望の進路を実現できない予定となっている。

図表 III-56　高校卒業後の進路（心配ごとがない場合の「希望の進路」と現実的な「予定の進路」の比較）



（注）回答者全体（1,954人）に対する構成比。ただし、1%未満は非掲載。

2) 心配ごとがない場合の希望の進学先で学びたい分野（生徒問 14・保護者問 11）

全く心配ごとがなく、自由に進路を選べると仮定した場合に進学を希望する生徒と保護者に、希望の進学先で学びたい分野（保護者アンケートでは「(保護者から見た）子どもが希望の進学先で学びたい分野」）について尋ねた。

生徒・保護者とも、順位の違いはあるものの、上位は共通で、大学・短期大学では「外国語」（生徒 21.7%、保護者 16.5%)、「国際関係」（同 14.9%、13.9%)、「教育（教員養成を含む)」（同 12.1%、14.8%)、「経済・経営・商学」（同 13.6%、11.4%)、「看護・保健」（同 12.8%、13.2%）で、専門学校等では「医療・医療事務」（同 4.6%、4.4%）であり、上位に来る分野は、現実的な予定との違いがない。

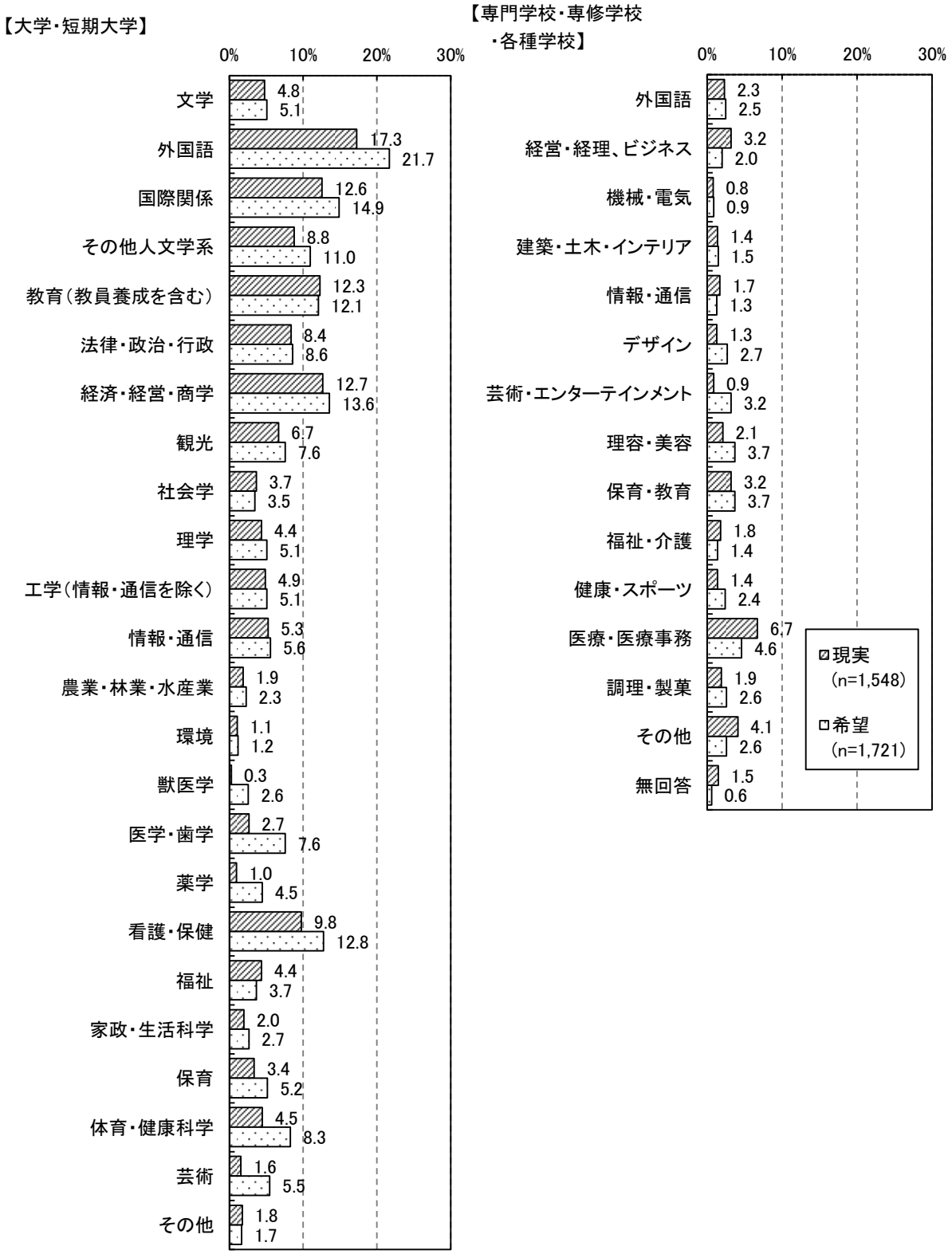
生徒の回答で、心配ごとがない場合の希望と現実的な予定とを比較すると、現実よりも希望の割合のほうが高く、かつ比較的差が大きい分野は、大学・短期大学では「外国語」（4.4 ポイント差)、「医学・歯学」（同 4.9)、「看護・保健」（同 3.0)、「体育・健康科学」（同 3.8)、「芸術」（同 3.9）である。

専門学校等では、大学・短期大学ほど現実と希望の差は大きくないものの、「デザイン」や「芸術・エンターテイメント」、「理容・美容」などで、現実よりも希望の割合が高く、かつ差が比較的大きくなっている。一方、「医療・医療事務」では、希望よりも現実の割合が高くなっている。

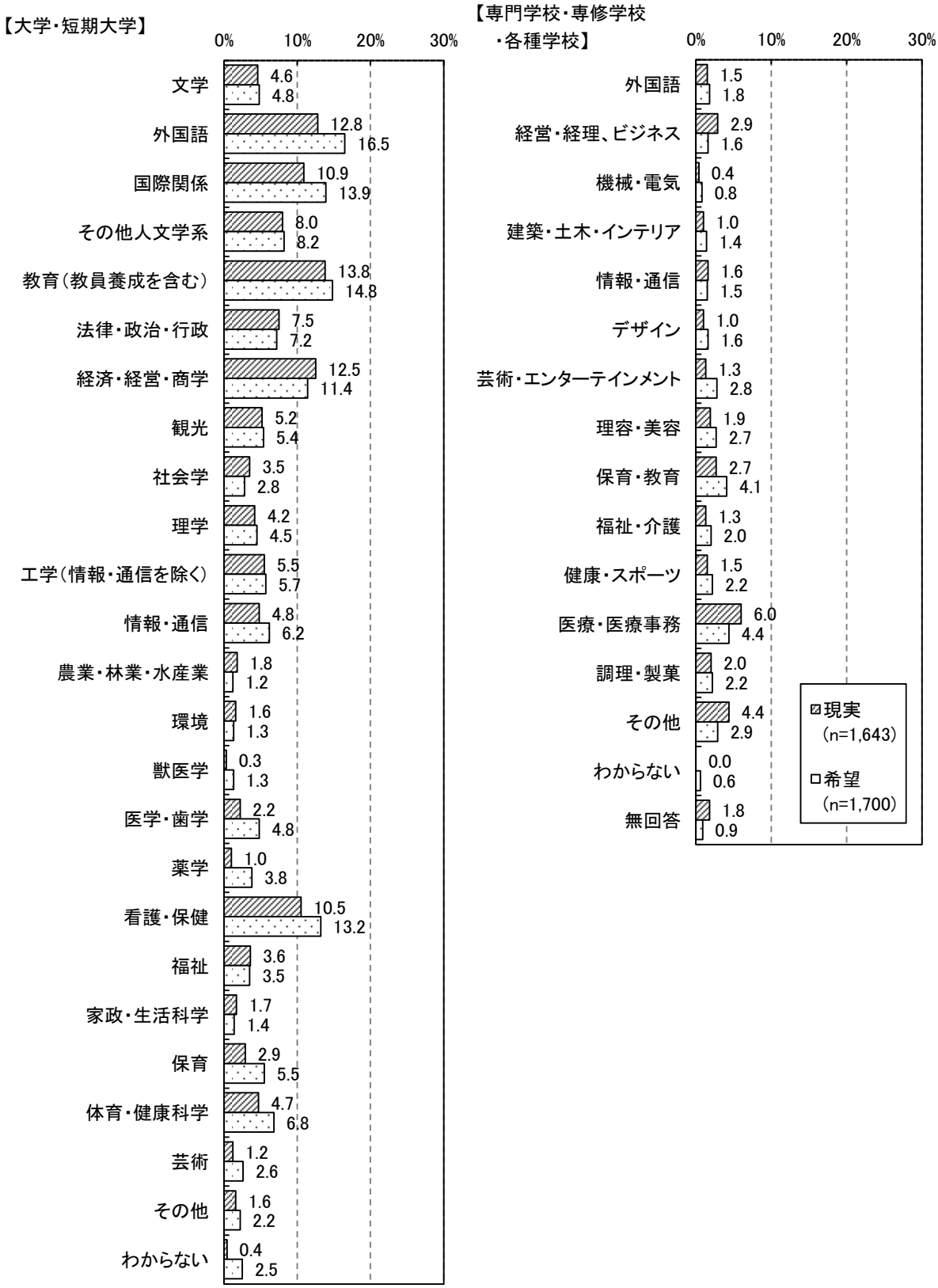
なお、保護者の回答の傾向も、生徒と概ね同様である。

図表 III-57　進学先で学びたい分野（現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の比較）

［生徒］



［保護者］


【大学・短期大学】
0%
10%
20%
30%
文学 4.6 4.8
外国語 12.8 16.5
国際関係 10.9 13.9
その他人文学系 8.0 8.2
教育（教員養成を含む） 13.8 14.8
法律・政治・行政 7.5 7.2
経済・経営・商学 12.5 11.4
観光 5.2 5.4
社会学 3.5 2.8
理学 4.2 4.5
工学（情報・通信を除く） 5.5 5.7
情報・通信 4.8 6.2
農業・林業・水産業 1.8 1.2
環境 1.6 1.3
獣医学 0.3 1.3
医学・歯学 2.2 4.8
薬学 1.0 3.8
看護・保健 10.5 13.2
福祉 3.6 3.5
家政・生活科学 1.7 1.4
保育 2.9 5.5
体育・健康科学 4.7 6.8
芸術 1.2 2.6
その他 1.6 2.2
わからない 0.4 2.5
【専門学校・専修学校・各種学校】
0%
10%
20%
30%
外国語 1.5 1.8
経営・経理、ビジネス 2.9 1.6
機械・電気 0.4 0.8
建築・土木・インテリア 1.0 1.4
情報・通信 1.6 1.5
デザイン 1.0 1.6
芸術・エンターテインメント 1.3 2.8
理容・美容 1.9 2.7
保育・教育 2.7 4.1
福祉・介護 1.3 2.0
健康・スポーツ 1.5 2.2
医療・医療事務 6.0 4.4
調理・製菓 2.0 2.2
その他 4.4 2.9
わからない 0.0 0.6
無回答 1.8 0.9
現実 (n=1,643)
希望 (n=1,700)

図表 III-58 ［参考］心配ごとがない場合の希望の進学先で学びたい分野
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

【大学・短期大学】

		サンプル数	文学	外国語	国際関係	その他人文学系	教育（教員養成を含む）	法律・政治・行政	経済・経営・商学	観光	社会学	理学	工学（情報・通信を除く）	情報・通信	農業・林業・水産業	環境	獣医学	医学・歯学	薬学	看護・保健	福祉	家政・生活科学	保育	体育・健康科学	芸術	その他
全体		1,721	88	374	256	190	209	148	234	130	61	87	87	96	39	21	44	130	78	220	63	46	89	142	95	29
		100.0	5.1	21.7	14.9	11.0	12.1	8.6	13.6	7.6	3.5	5.1	5.1	5.6	2.3	1.2	2.6	7.6	4.5	12.8	3.7	2.7	5.2	8.3	5.5	1.7
学校種別	普通	1,433	81	330	235	161	191	139	211	122	57	82	80	74	35	20	34	119	72	200	56	41	60	126	84	23
		100.0	5.7	23.0	16.4	11.2	13.3	9.7	14.7	8.5	4.0	5.7	5.6	5.2	2.4	1.4	2.4	8.3	5.0	14.0	3.9	2.9	4.2	8.8	5.9	1.6
	専門	288	7	44	21	29	18	9	23	8	4	5	7	22	4	1	10	11	6	20	7	5	29	16	11	6
		100.0	2.4	***15.3***	***7.3***	10.1	***6.3***	***3.1***	***8.0***	2.8	1.4	1.7	2.4	7.6	1.4	0.3	3.5	3.8	2.1	***6.9***	2.4	1.7	10.1	5.6	3.8	2.1
地域別	北部	514	18	96	71	42	59	27	59	34	16	15	17	29	8	6	14	41	22	75	21	16	33	45	26	8
		100.0	3.5	18.7	13.8	8.2	11.5	5.3	11.5	6.6	3.1	2.9	3.3	5.6	1.6	1.2	2.7	8.0	4.3	14.6	4.1	3.1	6.4	8.8	5.1	1.6
	中南部	725	47	183	113	99	97	78	112	75	36	41	48	44	19	8	15	51	38	93	29	19	32	46	39	10
		100.0	6.5	25.2	15.6	13.7	13.4	10.8	15.4	10.3	5.0	5.7	6.6	6.1	2.6	1.1	2.1	7.0	5.2	12.8	4.0	2.6	4.4	6.3	5.4	1.4
	離島	482	23	95	72	49	53	43	63	21	9	31	22	23	12	7	15	38	18	52	13	11	24	51	30	11
		100.0	4.8	19.7	14.9	10.2	11.0	8.9	13.1	4.4	1.9	6.4	4.6	4.8	2.5	1.5	3.1	7.9	3.7	10.8	2.7	2.3	5.0	10.6	6.2	2.3
世帯年収別	200万円未満	251	16	53	28	21	30	13	35	11	11	7	5	15	2	4	7	13	10	30	5	4	11	19	14	4
		100.0	6.4	21.1	11.2	8.4	12.0	5.2	13.9	4.4	4.4	2.8	2.0	6.0	0.8	1.6	2.8	5.2	4.0	12.0	2.0	1.6	4.4	7.6	5.6	1.6
	200万円以上400万円未満	522	29	107	77	55	63	46	67	41	20	24	30	27	5	2	15	37	18	53	19	12	38	47	30	7
		100.0	5.6	20.5	14.8	10.5	12.1	8.8	12.8	7.9	3.8	4.6	5.7	5.2	1.0	0.4	2.9	7.1	3.4	10.2	3.6	2.3	7.3	9.0	5.7	1.3
	400万円以上600万円未満	382	15	83	59	37	37	38	50	30	11	17	23	25	15	6	12	36	24	59	11	8	22	31	27	4
		100.0	3.9	21.7	15.4	9.7	9.7	9.9	13.1	7.9	2.9	4.5	6.0	6.5	3.9	1.6	3.1	9.4	6.3	15.4	2.9	2.1	5.8	8.1	7.1	1.0
	600万円以上800万円未満	243	10	55	37	40	39	20	36	28	9	19	13	16	9	5	5	16	10	40	19	9	8	21	10	6
		100.0	4.1	22.6	15.2	**16.5**	16.0	8.2	14.8	11.5	3.7	7.8	5.3	6.6	3.7	2.1	2.1	6.6	4.1	16.5	7.8	3.7	3.3	8.6	4.1	2.5
	800万円以上	208	11	49	34	30	33	22	32	10	8	16	12	8	4	4	3	22	13	30	7	9	5	14	13	3
		100.0	5.3	23.6	16.3	14.4	15.9	10.6	15.4	4.8	3.8	7.7	5.8	3.8	1.9	1.9	1.4	10.6	6.3	14.4	3.4	4.3	2.4	6.7	6.3	1.4

【専門学校・専修学校・各種学校】

		サンプル数	外国語	経営・経理、ビジネス	機械・電気	建築・土木・インテリア	情報・通信	デザイン	芸術・エンターテインメント	理容・美容	保育・教育	福祉・介護	健康・スポーツ	医療・医療事務	調理・製菓	その他	無回答
全体		1,721	43	34	15	25	23	47	55	64	64	24	42	79	44	45	10
		100.0	2.5	2.0	0.9	1.5	1.3	2.7	3.2	3.7	3.7	1.4	2.4	4.6	2.6	2.6	0.6
学校種別	普通	1,433	26	16	11	17	13	27	37	32	31	16	32	50	27	32	7
		100.0	1.8	1.1	0.8	1.2	0.9	1.9	2.6	2.2	2.2	1.1	2.2	3.5	1.9	2.2	0.5
	専門	288	17	18	4	8	10	20	18	32	33	8	10	29	17	13	3
		100.0	5.9	6.3	1.4	2.8	3.5	6.9	6.3	**11.1**	**11.5**	2.8	3.5	**10.1**	5.9	4.5	1.0
地域別	北部	514	18	12	6	6	9	18	15	24	28	11	23	36	20	19	4
		100.0	3.5	2.3	1.2	1.2	1.8	3.5	2.9	4.7	5.4	2.1	4.5	7.0	3.9	3.7	0.8
	中南部	725	12	15	5	8	8	15	21	16	15	8	9	21	8	14	3
		100.0	1.7	2.1	0.7	1.1	1.1	2.1	2.9	2.2	2.1	1.1	1.2	2.9	1.1	1.9	0.4
	離島	482	13	7	4	11	6	14	19	24	21	5	10	22	16	12	3
		100.0	2.7	1.5	0.8	2.3	1.2	2.9	3.9	5.0	4.4	1.0	2.1	4.6	3.3	2.5	0.6
世帯年収別	200万円未満	251	8	11	6	4	4	10	14	18	16	7	10	15	10	5	3
		100.0	3.2	4.4	2.4	1.6	1.6	4.0	5.6	7.2	6.4	2.8	4.0	6.0	4.0	2.0	1.2
	200万円以上400万円未満	522	16	12	4	10	10	15	20	25	23	7	13	25	13	15	2
		100.0	3.1	2.3	0.8	1.9	1.9	2.9	3.8	4.8	4.4	1.3	2.5	4.8	2.5	2.9	0.4
	400万円以上600万円未満	382	7	7	3	5	7	10	9	7	9	5	8	16	11	8	1
		100.0	1.8	1.8	0.8	1.3	1.8	2.6	2.4	1.8	2.4	1.3	2.1	4.2	2.9	2.1	0.3
	600万円以上800万円未満	243	2	2	2	5	0	4	4	6	5	2	3	5	3	3	1
		100.0	0.8	0.8	0.8	2.1	0.0	1.6	1.6	2.5	2.1	0.8	1.2	2.1	1.2	1.2	0.4
	800万円以上	208	3	1	0	1	1	4	3	3	3	2	2	6	3	7	1
		100.0	1.4	0.5	0.0	0.5	0.5	1.9	1.4	1.4	1.4	1.0	1.0	2.9	1.4	3.4	0.5

希望と現実の差が大きいもので、現実よりも希望の割合が高いのは、大学・短大の「医学・歯学」や「薬学」、「体育・健康科学」「芸術」など、県内に学部等がない（または少ない）分野であり、反対に大学・短大の「教育（教員養成を含む）」や、専門の「医療・医療事務」は、希望よりも現実の割合が高い。

世帯年収が 200 万円未満の生徒では、800 万円以上の生徒よりも、現実より希望の割合が高い分野が多い。また、現実的な進学先が県内（自宅から通学できる地域）の生徒では、県外の生徒よりも、現実より希望の割合が高い分野が多い。

図表 III-59　進学先で学びたい分野（現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の比較）

（現実・希望：%）

		全体（差：希望－現実）			世帯年収		現実的な進学先	
					800万円以上	200万円未満	県外	県内（自宅）
		現実	希望	差	差	差	差	差
大学・短大	文学	4.8	4.2	-0.6	-2.8	1.0	-0.7	-2.4
	外国語	17.3	17.9	0.6	0.5	-0.1	1.9	-0.5
	国際関係	12.6	12.2	-0.4	-1.9	-3.1	0.3	-2.8
	その他人文学系	8.8	9.1	0.3	1.6	-2.1	-0.1	0.6
	教育（教員養成を含む）	12.3	10.0	-2.3	-0.8	-0.5	-1.9	-1.9
	法律・政治・行政	8.4	7.1	-1.3	-1.0	-4.7	-0.6	-2.3
	経済・経営・商学	12.7	11.2	-1.5	-0.1	-4.6	-1.3	-3.4
	観光	6.7	6.2	-0.5	0.4	-2.1	0.0	-1.4
	社会学	3.7	2.9	-0.8	-2.5	-0.6	-1.2	-1.1
	理学	4.4	4.2	-0.2	-0.3	-0.5	-0.1	0.7
	工学（情報・通信を除く）	4.9	4.2	-0.7	-2.9	-1.2	-1.2	-0.8
	情報・通信	5.3	4.6	-0.7	-0.4	-2.2	-0.6	-0.7
	農業・林業・水産業	1.9	1.9	0.0	-1.5	0.2	-0.2	0.0
	環境	1.1	1.0	-0.1	0.0	-0.1	-0.2	-0.2
	獣医学	0.3	2.1	1.8	0.7	2.3	1.6	1.7
	医学・歯学	2.7	6.2	3.5	5.1	3.3	2.7	2.8
	薬学	1.0	3.7	2.7	2.1	2.8	0.9	3.6
	看護・保健	9.8	10.5	0.7	-0.4	5.1	-1.5	2.3
	福祉	4.4	3.0	-1.4	-0.8	-0.2	-1.6	-1.3
	家政・生活科学	2.0	2.2	0.2	-1.6	0.8	-0.3	1.1
	保育	3.4	4.2	0.8	0.4	2.2	0.9	0.5
	体育・健康科学	4.5	6.8	2.3	2.0	4.4	2.0	2.4
	芸術	1.6	4.5	2.9	4.1	2.7	2.8	3.0
	その他	1.8	1.4	-0.4	0.2	0.4	-0.5	-0.2
専門	外国語	2.3	2.1	-0.2	-0.3	0.7	-0.2	-0.1
	経営・経理、ビジネス	3.2	1.6	-1.6	-1.1	-2.1	-0.8	-2.6
	機械・電気	0.8	0.7	-0.1	0.0	0.6	-0.2	-0.1
	建築・土木・インテリア	1.4	1.2	-0.2	0.4	0.4	-0.2	-0.2
	情報・通信	1.7	1.1	-0.6	-0.1	-0.6	0.2	-1.8
	デザイン	1.3	2.2	0.9	0.6	0.9	1.0	0.7
	芸術・エンターテインメント	0.9	2.6	1.7	1.2	2.7	1.0	0.9
	理容・美容	2.1	3.1	1.0	0.2	3.1	0.4	0.0
	保育・教育	3.2	3.1	-0.1	0.7	-1.4	0.1	0.1
	福祉・介護	1.8	1.1	-0.7	0.3	0.4	-0.3	-1.2
	健康・スポーツ	1.4	2.0	0.6	0.8	2.8	-0.2	0.6
	医療・医療事務	6.7	3.8	-2.9	-2.2	-5.5	-3.0	-3.6
	調理・製菓	1.9	2.1	0.2	0.2	0.0	0.2	0.0
	その他	4.1	2.1	-2.0	0.2	-4.5	-2.2	-1.3
無回答		1.5	0.5	-1.0	-0.6	-0.9	0.1	-0.5

（注1）「進学先で学びたい分野」は、「現実的な予定」（現実）と「心配ごとがない場合の希望」（希望）のそれぞれの問で、3つまで選択できる質問形式としているが、回答者の平均選択（分野）数では希望が現実を上回る。このため、現実と希望の分野別選択率の比較に当たり、現実と希望の回答者の平均選択（分野）数が同じになるように調整している。
（注2）グレーの網掛けは差が2ポイント以上、白抜き文字は差が－2ポイント以下である。

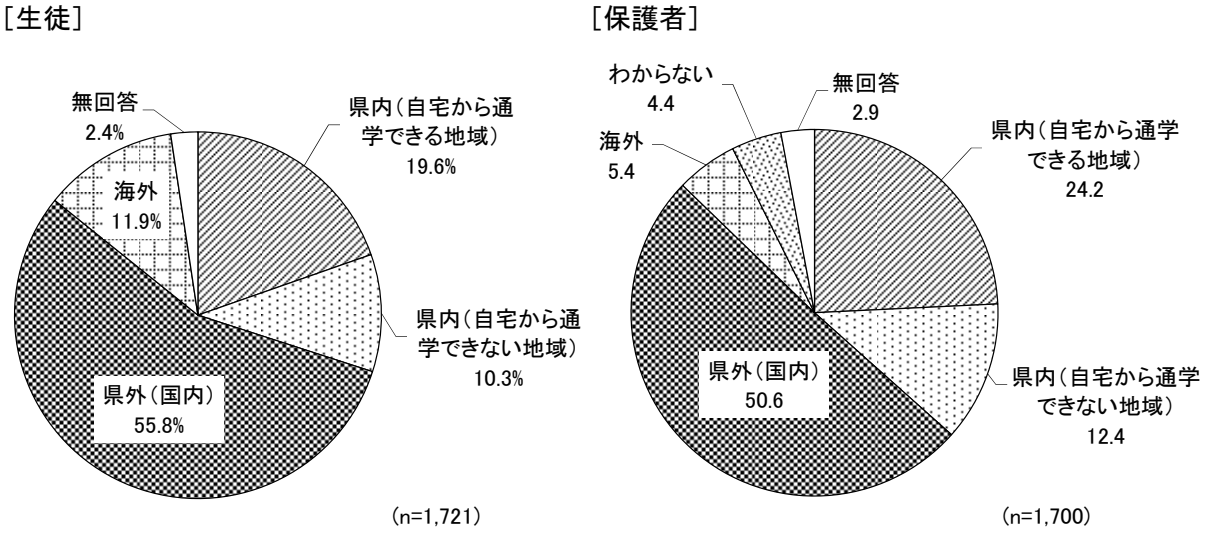
3) 心配ごとがない場合の希望の進学先地域（生徒問 15・保護者問 12）

全く心配ごとがなく、自由に進路を選べると仮定した場合に進学を希望する生徒と保護者に、希望の進学先地域（保護者アンケートでは「(保護者から見た）子どもの希望の進学先地域」）について尋ねた。

生徒・保護者とも、最も割合が高いのは「県外（国内)」で半数以上を占め、次に「県内（自宅から通学できる地域)」、「県内（自宅から通学できない地域)」、「海外」が続く。

生徒・保護者の順位は同じだが、海外を含む県外を希望する割合は生徒のほうがやや高く、「県外（国内)」(生徒 55.8%、保護者 50.6%）では約５ポイント、「海外」(同 11.9%、5.4%）では約７ポイントの差がある。

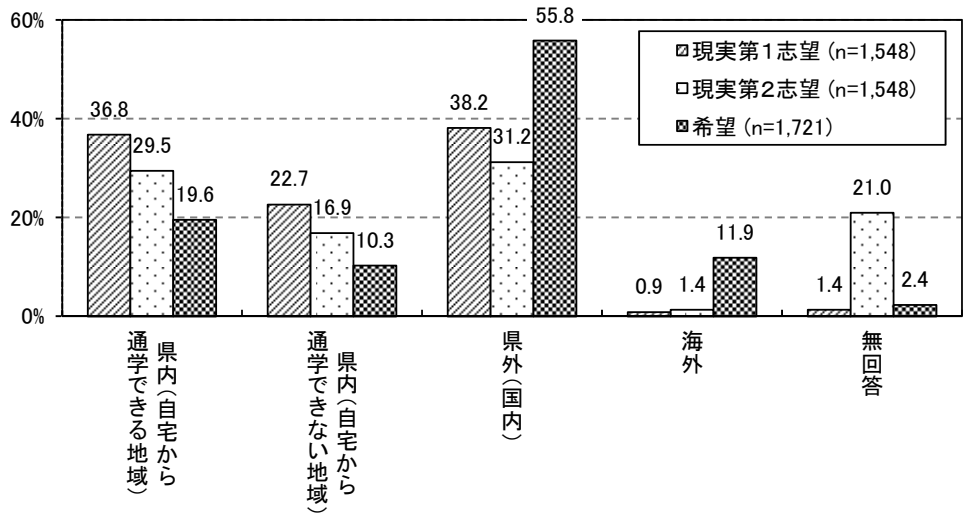
図表 III-60 心配ごとがない場合の希望の進学先地域



心配ごとがない場合、県外への進学を希望する生徒が 55.8%であるのに対し、現実的に県外に進学予定の生徒は、第１志望で 38.2%、第２志望で 31.2%であり、20 ポイント程度の差がある。

また、希望の進学先を「海外」とする生徒も 11.9%いるが、現実的に海外に進学予定の生徒は１%程度である。

図表 III-61 進学先の所在地域(現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の比較)



学校種別、地域別、世帯年収別に「県外（国内）」の現実的な予定と心配ごとがない場合の希望の差をみると、特に差が大きいのは、世帯年収別の「200 万円未満」（約 26 ポイント）である。

図表 III-62 心配ごとがない場合の希望の進学先地域
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

［心配ごとがない場合の希望］

		サンプル数	県内（自宅から通学できる地域）	県内（自宅から通学できない地域）	県外（国内）	海外	無回答
全体		1,721	338	178	960	204	41
		100.0	19.6	10.3	55.8	11.9	2.4
学校種別	普通	1,433	273	142	807	181	30
		100.0	19.1	9.9	56.3	12.6	2.1
	専門	288	65	36	153	23	11
		100.0	22.6	12.5	53.1	8.0	3.8
地域別	北部	514	85	92	250	72	15
		100.0	16.5	17.9	*48.6*	14.0	2.9
	中南部	725	231	22	376	80	16
		100.0	31.9	*3.0*	51.9	11.0	2.2
	離島	482	22	64	334	52	10
		100.0	*4.6*	13.3	69.3	10.8	2.1
世帯年収別	200万円未満	251	46	32	134	32	7
		100.0	18.3	12.7	53.4	12.7	2.8
	200万円以上400万円未満	522	116	59	282	57	8
		100.0	22.2	11.3	54.0	10.9	1.5
	400万円以上600万円未満	382	81	37	203	52	9
		100.0	21.2	9.7	53.1	13.6	2.4
	600万円以上800万円未満	243	47	20	143	32	1
		100.0	19.3	8.2	58.8	13.2	0.4
	800万円以上	208	29	16	132	22	9
		100.0	*13.9*	7.7	63.5	10.6	4.3

［現実的な予定（第１志望）（再掲）］

		サンプル数	県内（自宅から通学できる地域）	県内（自宅から通学できない地域）	県外（国内）	海外	無回答
全体		1,548	569	352	591	14	22
		100.0	36.8	22.7	38.2	0.9	1.4
学校種別	普通	1,320	474	299	516	14	17
		100.0	35.9	22.7	39.1	1.1	1.3
	専門	228	95	53	75	0	5
		100.0	41.7	23.2	*32.9*	0.0	2.2
地域別	北部	458	143	148	160	2	5
		100.0	*31.2*	32.3	34.9	0.4	1.1
	中南部	674	405	55	197	9	8
		100.0	60.1	*8.2*	*29.2*	1.3	1.2
	離島	416	21	149	234	3	9
		100.0	*5.0*	35.8	56.3	0.7	2.2
世帯年収別	200万円未満	211	78	71	58	0	4
		100.0	37.0	33.6	*27.5*	0.0	1.9
	200万円以上400万円未満	465	184	114	156	3	8
		100.0	39.6	24.5	33.5	0.6	1.7
	400万円以上600万円未満	359	135	77	138	5	4
		100.0	37.6	21.4	38.4	1.4	1.1
	600万円以上800万円未満	224	82	42	94	3	3
		100.0	36.6	18.8	42.0	1.3	1.3
	800万円以上	196	58	24	112	1	1
		100.0	*29.6*	*12.2*	57.1	0.5	0.5

現実的な進学予定地域別にみると、いずれの地域でも、予定の地域と希望の地域が合致する場合の割合が最も高いが、予定の地域が県内の場合、希望では「県外（国内）」を希望している割合は、「県内（自宅から通学できる地域）」で約４割（37.7%）、「県内（自宅から通学できない地域）」で約５割（47.9%）であり、本来は県外への進学を希望していたが、結果的に県内での進学を予定している生徒が多いことがわかる。

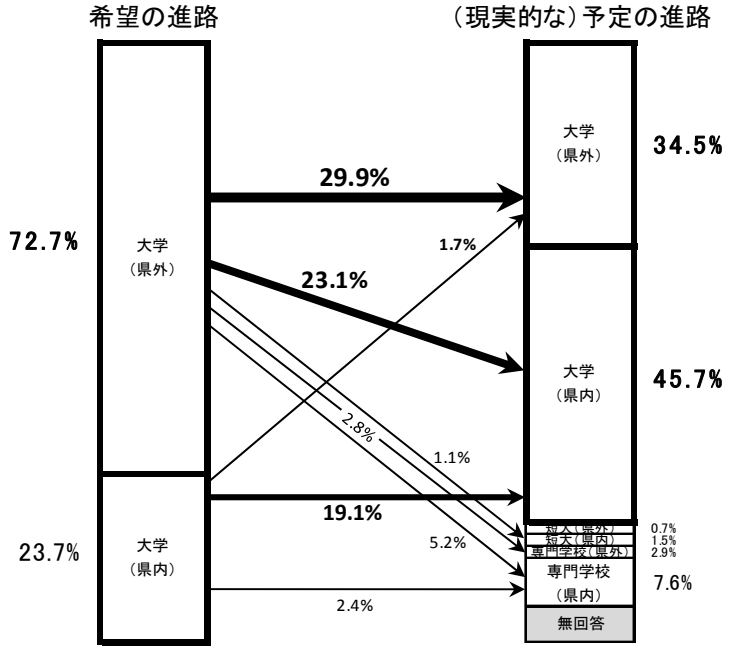
図表 III-63　心配ごとがない場合の希望の進学先地域（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	県内（自宅から通学できる地域）	県内（自宅から通学できない地域）	県外（国内）	海外	無回答
全体		1,721	338	178	960	204	41
		100.0	19.6	10.3	55.8	11.9	2.4
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	544	247	25	205	55	12
		100.0	45.4	4.6	37.7	10.1	2.2
	県内（自宅から通学できない地域）	336	28	102	161	38	7
		100.0	8.3	30.4	47.9	11.3	2.1
	県外（国内）	566	19	13	449	75	10
		100.0	3.4	2.3	79.3	13.3	1.8
	海外	12	0	0	0	11	1
		100.0	0.0	0.0	0.0	91.7	8.3

心配ごとがない場合に「大学へ進学」を希望する生徒について、現実的な予定の進路を県内・県外　別に整理して図示すると以下のようになる。

「大学へ進学」を希望する生徒の約７割（72.7%）が県外（海外を含む）の大学への進学を望んでいるが、現実的な予定の進路が「県外の大学」とする生徒は 34.5%にとどまり、それよりも多い 45.7%の生徒が「県内の大学」に進学の予定となっている。大学進学希望者に限ってみても、県外への進学を断念している生徒が多いことがわかる。

図表 III-64　心配ごとがない場合に大学進学を希望する生徒の現実的な予定の進路（県内・県外別）



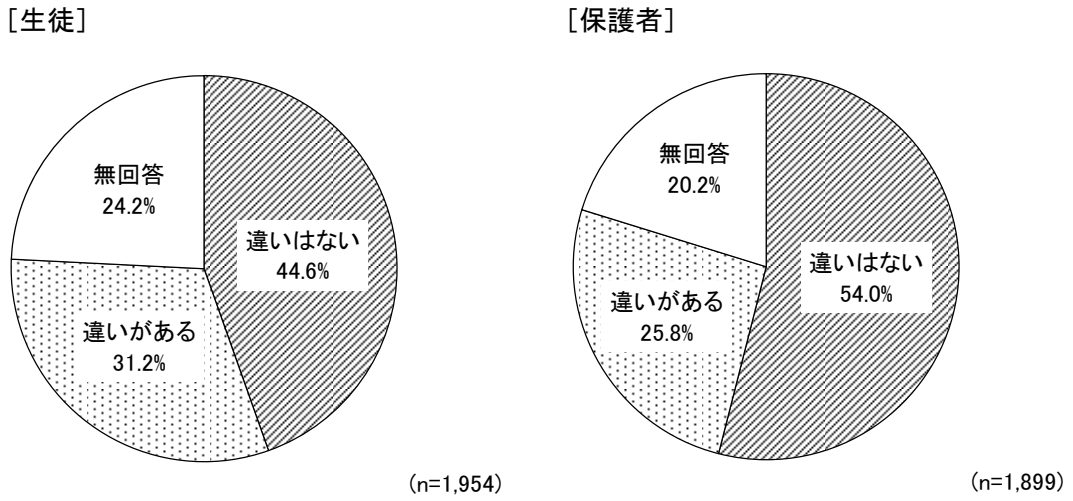
(注)「大学へ進学」を希望する回答者（1,309人）に対する構成比。
ただし、1%未満は非掲載。「県外」には「海外」を含む。

4) 希望の進路と現実的な進路との違いの有無（生徒問 16・保護者問 13）

全く心配ごとがなく自由に進路を選べる場合の希望の進路と、現実的な進路との違いの有無（保護者アンケートでは「(親からみた）子どもの希望の進路と現実的な進路との違いの有無」）を尋ねた。

「違いはない」（生徒 44.6%、保護者 54.0%）の割合が、保護者が生徒を約９ポイント上回っている一方で、「違いがある」（同 31.2%、25.8%）の割合は、生徒が約５ポイント上回っていることから、生徒と保護者の意識にずれがあることが推察される。

図表 III-65 希望の進路と現実的な進路との違いの有無



生徒の回答を世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど、「違いがある」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-66 希望の進路と現実的な進路との違いの有無（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	違いはない	違いがある	無回答
全体		1,954	871	610	473
		100.0	44.6	31.2	24.2
学校種別	普通	1,562	685	491	386
		100.0	43.9	31.4	24.7
	専門	392	186	119	87
		100.0	47.4	30.4	22.2
地域別	北部	583	262	181	140
		100.0	44.9	31.0	24.0
	中南部	812	359	241	212
		100.0	44.2	29.7	26.1
	離島	559	250	188	121
		100.0	44.7	33.6	21.6
世帯年収別	200万円未満	292	109	109	74
		100.0	*37.3*	37.3	25.3
	200万円以上400万円未満	600	278	196	126
		100.0	46.3	32.7	21.0
	400万円以上600万円未満	430	186	130	114
		100.0	43.3	30.2	26.5
	600万円以上800万円未満	263	124	80	59
		100.0	47.1	30.4	22.4
	800万円以上	230	110	60	60
		100.0	47.8	*26.1*	26.1

5) 希望の進路と現実的な進路との違いの詳細（特別集計）

ここでは、希望の進路と現実的な進路（就職を含めた進路、進学する場合の進学先学校種、進学先地域、進学先での専攻分野）の違いの詳細を、別途集計した。

以下の集計表の表頭に表示した項目の詳細は、以下のとおりである。

図表 III-67　希望の進路と現実的な進路との違いの詳細

集計表の種類	表頭項目の詳細
進路の一致状況	問4（現実的な進路）と問 13（希望の進路）への回答の比較。 ・「進路一致」は、現実と希望が一致している場合。 ・「進路不一致（下方）」は、現実が希望よりも下方である場合。 （例：希望が大学→現実が専門学校、希望が短大→現実が就職） ・「進路不一致（上方）」は、現実が希望よりも上方である場合。 （例：希望が専門学校→現実が大学、希望が就職→現実が短大）
進学先地域の 一致状況	問9（現実的な進学先地域）と問 15（希望の進学先地域）への回答の比較。 ・「進学先一致」は、現実と希望が一致している場合。 ・「進学先不一致（→内）」は、希望は県外だが、現実は県内である場合。 ・「進学先不一致（→外）」は、希望は県内だが、現実は県外である場合。 （※「県内」は、自宅からの通学の可否を問わない。）
専攻分野の一致状況	進学予定者の問8（現実的な専攻分野）と問 15（希望の専攻分野）への回答の比較。 ・「分野一致」は、現実と希望の分野が1つでも一致した場合。 ・「分野不一致」は、現実と希望の分野が全く一致しなかった場合。

進路の一致状況を学校種別にみると、専門高校では「進路不一致（下方）」（24.2%）の割合が、普通高校（11.1%）を大きく上回っている。

図表 III-68　進路の一致状況（学校種別）

		サンプル数	進路一致	進路不一致（下方）	進路不一致（上方）	無回答
全体		1,954	1,341	269	96	248
		100.0	68.6	13.8	4.9	12.7
学校種別	普通	1,562	1,117	174	71	200
		100.0	71.5	11.1	4.5	12.8
	専門	392	224	95	25	48
		100.0	*57.1*	24.2	6.4	12.2

進路の一致状況を予定の進路別にみると、「大学へ進学する」では、「進路一致」(93.5%)が９割を超えているが、「短期大学へ進学する」「専門学校へ進学する」「就職（家業・家事従事を含む)」では、「進路不一致（下方)」(それぞれ 44.1%、37.1%、42.3%）が約４割を占めており、大学進学予定者以外では、不本意な進路を選択している生徒が一定数存在することがわかる。

図表 III-69 進路の一致状況（予定の進路別）

		サンプル数	進路一致	進路不一致（下方）	進路不一致（上方）	無回答
全体		1,954	1,341	269	96	248
		100.0	68.6	13.8	4.9	12.7
予定の進路別	大学へ進学する	1,062	993	0	57	12
		100.0	93.5	0.0	5.4	1.1
	短期大学へ進学する	68	31	30	7	0
		100.0	45.6	44.1	10.3	0.0
	専門学校へ進学する	418	227	155	26	10
		100.0	54.3	37.1	6.2	2.4
	就職する（家業・家事従事を含む）	156	78	66	4	8
		100.0	50.0	42.3	2.6	5.1
	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	19	4	12	2	1
		100.0	21.1	63.2	10.5	5.3
	その他	15	8	6	0	1
		100.0	53.3	40.0	0.0	6.7

進学先地域の一致状況を進学予定地域別にみると、「県外（国内)」と「海外」では、「進学値一致」(それぞれ 88.7%、78.6%）の割合が高いのに対し、県内では、自宅からの通学の可否を問わず、「進学値不一致（→内)」(それぞれ 45.7%、56.5%）の割合が高くなっており、本来は県外や海外に進学を希望していたにもかかわらず、不本意な進学先を選択している生徒が、一定数存在することがわかる。

図表 III-70 進学先地域の一致状況（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	進学地一致	進学地不一致（→内）	進学地不一致（→外）	無回答
全体		1,954	937	459	32	526
		100.0	48.0	23.5	1.6	26.9
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	569	272	260	0	37
		100.0	47.8	45.7	0.0	6.5
	県内（自宅から通学できない地域）	352	130	199	0	23
		100.0	36.9	56.5	0.0	6.5
	県外（国内）	591	524	0	32	35
		100.0	88.7	0.0	5.4	5.9
	海外	14	11	0	0	3
		100.0	78.6	0.0	0.0	21.4

専攻分野の一致状況を進学予定先別にみると、「大学へ進学する」と「短期大学へ進学する」では、「分野一致」（それぞれ 84.1%、80.9%）の割合が約８割を占めるのに対し、「専門学校へ進学する」では「分野不一致」（35.9%）の割合が他の進学先よりも高く、専門学校進学者では、希望の専攻分野と現実の専攻分野のミスマッチが生じている生徒が比較的多いことが推察される。

図表 III-71　専攻分野の一致状況（進学予定先別）

		サンプル数	分野一致	分野不一致	無回答
全体		1,954	1,170	281	503
		100.0	59.9	14.4	25.7
進学予定先別	大学へ進学する	1,062	893	120	49
		100.0	84.1	11.3	*4.6*
	短期大学へ進学する	68	55	11	2
		100.0	80.9	16.2	*2.9*
	専門学校へ進学する	418	222	150	46
		100.0	*53.1*	35.9	*11.0*

⑤ 進路選択に影響する事項について

1）希望と現実の差異に関係する事項とその度合い（生徒問 17・保護者問 14）

問 16（保護者アンケートは問 13）で、希望の進路と現実的な進路に「違いがある」（保護者アンケートでは（(親からみた）子どもの希望の進路と現実的な進路に「違いがある」）と回答した生徒と保護者に、違いに影響する事項と、その度合いについて尋ねた。

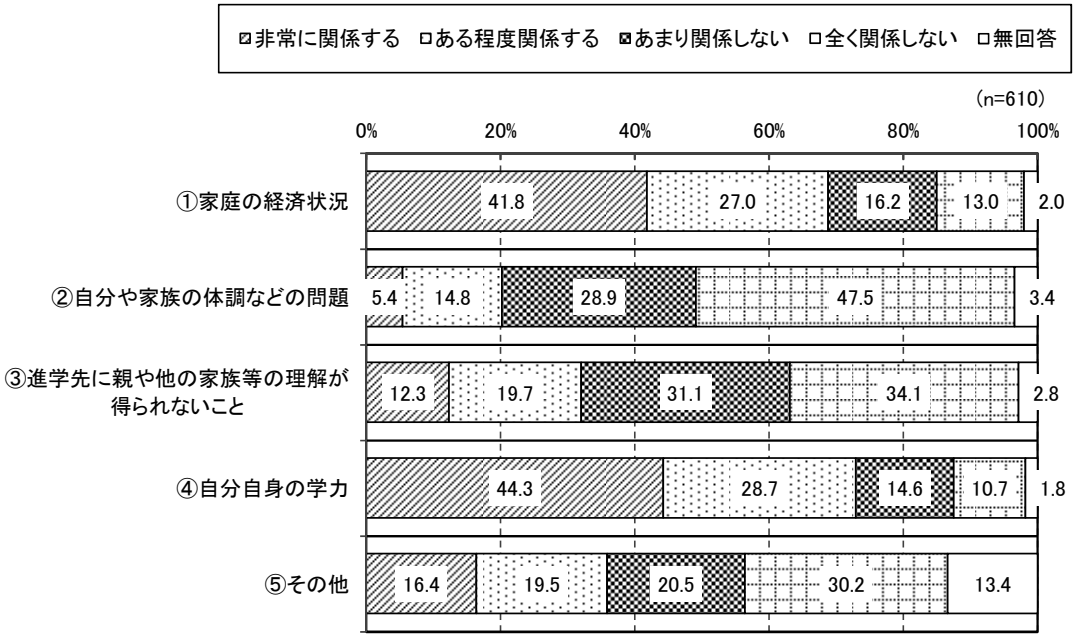
「非常に関係する」の割合で生徒と保護者の回答を比較すると、いずれも上位２項目は「①家庭の経済状況」（生徒 41.8%、保護者 60.4%）と「④自分自身の学力」（同 44.3%、27.1%）だが、いずれも生徒と保護者の割合の差が大きい。

「①家庭の経済状況」では、保護者の割合が生徒を約 19 ポイント上回っているが、「④自分自身の学力」では、反対に生徒の割合が保護者を約 17 ポイント上回っていることから、保護者は、生徒の進路選択が家庭の経済状況によって規定されると考える傾向にある一方で、生徒は、家庭の経済状況よりも、自身の学力によって規定されると考える傾向にあることが推察される。

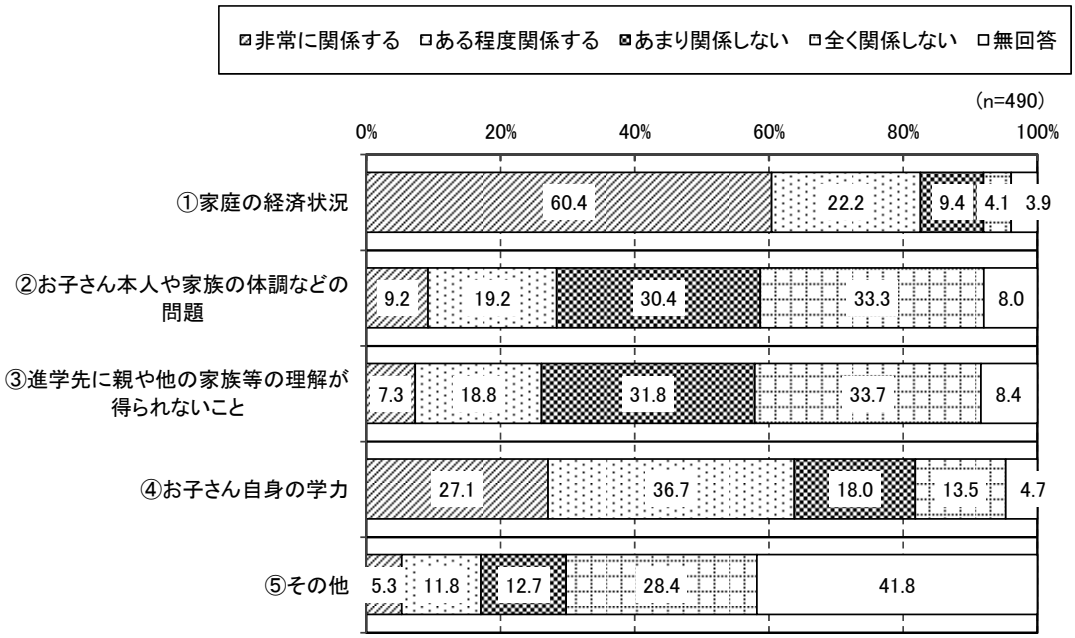
また、「③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと」に対する「関係する」（(「非常に関係する」と「ある程度関係する」の合計）を、生徒と保護者で比較すると、生徒が 32.0%、保護者が 26.1%と、生徒の割合がやや高くなっており、生徒と保護者の間に若干の意識のずれがある可能性が推察される。

図表 III-72 希望と現実の差異に関係する事項とその度合い

［生徒］



［保護者］



生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では、「②自分や家族の体調などの問題」（31.1%）の割合が普通高校（17.5%）よりも高い一方で、「④自分自身の学力」（63.9%）の割合は普通高校（75.2%）よりも低い。

世帯年収別では、年収が低くなるほど「①家庭の経済状況」の割合が高い傾向がみられるほか、「200 万円未満」では「②自分や家族の体調などの問題」、600 万円以上では、「④自分自身の学力」の割合がやや高くなっている。

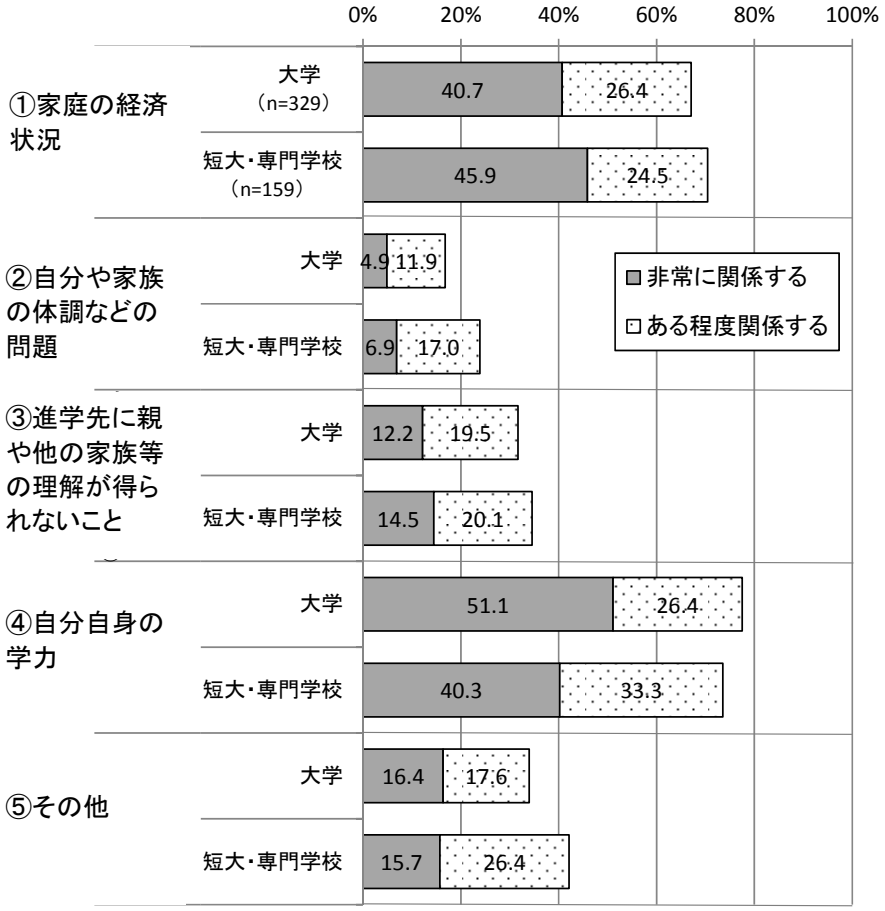
図表 III-73　希望と現実の差異に関係する事項とその度合い
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	①家庭の経済状況	②自分や家族の体調などの問題	③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと	④自分自身の学力	⑤その他
全体		610	420	123	195	445	219
		100.0	68.9	20.2	32.0	73.0	35.9
学校種別	普通	491	333	86	152	369	175
		100.0	67.8	17.5	31.0	75.2	35.6
	専門	119	87	37	43	76	44
		100.0	73.1	31.1	36.1	*63.9*	37.0
地域別	北部	181	125	40	56	130	77
		100.0	69.1	22.1	30.9	71.8	42.5
	中南部	241	164	46	72	177	72
		100.0	68.0	19.1	29.9	73.4	*29.9*
	離島	188	131	37	67	138	70
		100.0	69.7	19.7	35.6	73.4	37.2
世帯年収別	200万円未満	109	92	32	35	76	41
		100.0	84.4	29.4	32.1	69.7	37.6
	200万円以上400万円未満	196	144	33	67	141	71
		100.0	73.5	16.8	34.2	71.9	36.2
	400万円以上600万円未満	130	74	25	37	91	44
		100.0	*56.9*	19.2	28.5	70.0	33.8
	600万円以上800万円未満	80	53	9	23	63	29
		100.0	66.3	*11.3*	28.8	78.8	36.3
	800万円以上	60	31	14	21	47	25
		100.0	*51.7*	23.3	35.0	78.3	41.7

（注）「非常に重視する」と「ある程度重視する」の合計。なお、構成比は、「非常に関係する」と「ある程度関係する」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「非常に関係する」と「ある程度関係する」の合計とは一致しないものがある。

進学予定先別にみると、大学進学予定者（以下「大学」）では、短大・専門学校進学予定者（以下「短大・専門学校」）よりも「④自分自身の学力」の割合が高く、特に「非常に関係する」では 10 ポイント以上の差がある。一方、短大・専門学校では、「①家庭の経済状況」や「②自分や家族の体調などの問題」、「③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと」の割合が、大学よりもやや高くなっている。

図表 III-74　希望と現実の差異に関係する事項とその度合い



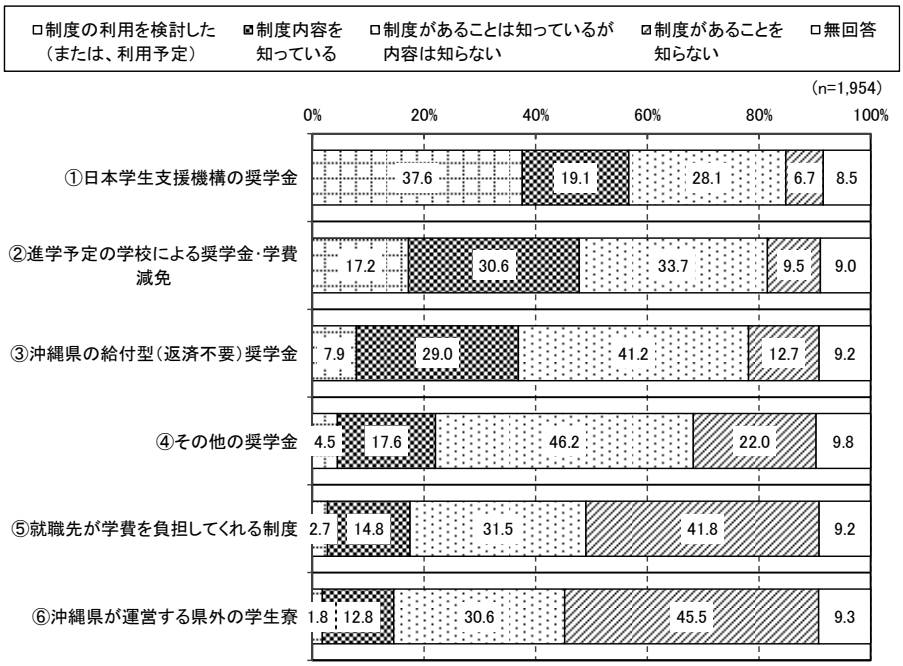
2) 進学を支援する制度の認知度（生徒問 18・保護者問 15）

進学を支援する制度で最も認知度（「知っている」とする選択肢の合計）が高いのは、生徒・保護者とも、「①日本学生支援機構の奨学金」（生徒 84.8%、保護者 86.0%）、次に「②進学予定の学校による奨学金・学費減免」（同 81.5%、78.9%）、「③沖縄県の給付型（返済不要）奨学金」（同 78.1%、72.7%）である。

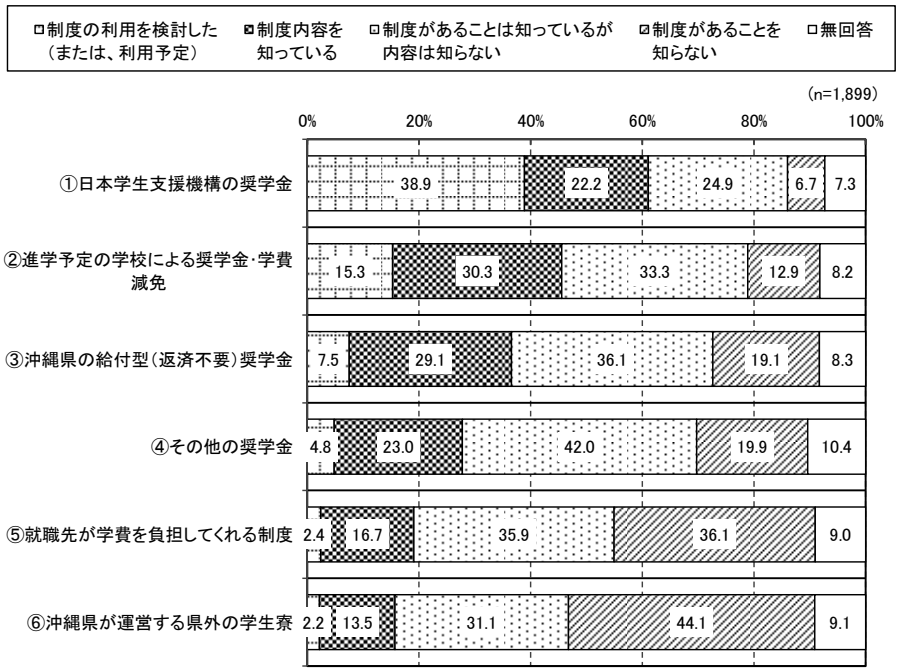
また、「①日本学生支援機構の奨学金」については、「利用を検討した（または、利用予定）」とする生徒と保護者は、いずれも約４割（それぞれ 37.6%、38.9%）にのぼるが、「③沖縄県の給付型（返済不要）奨学金」（同 7.9%、7.5%）は、１割に満たない。

図表 III-75 進学を支援する制度の認知度

［生徒］



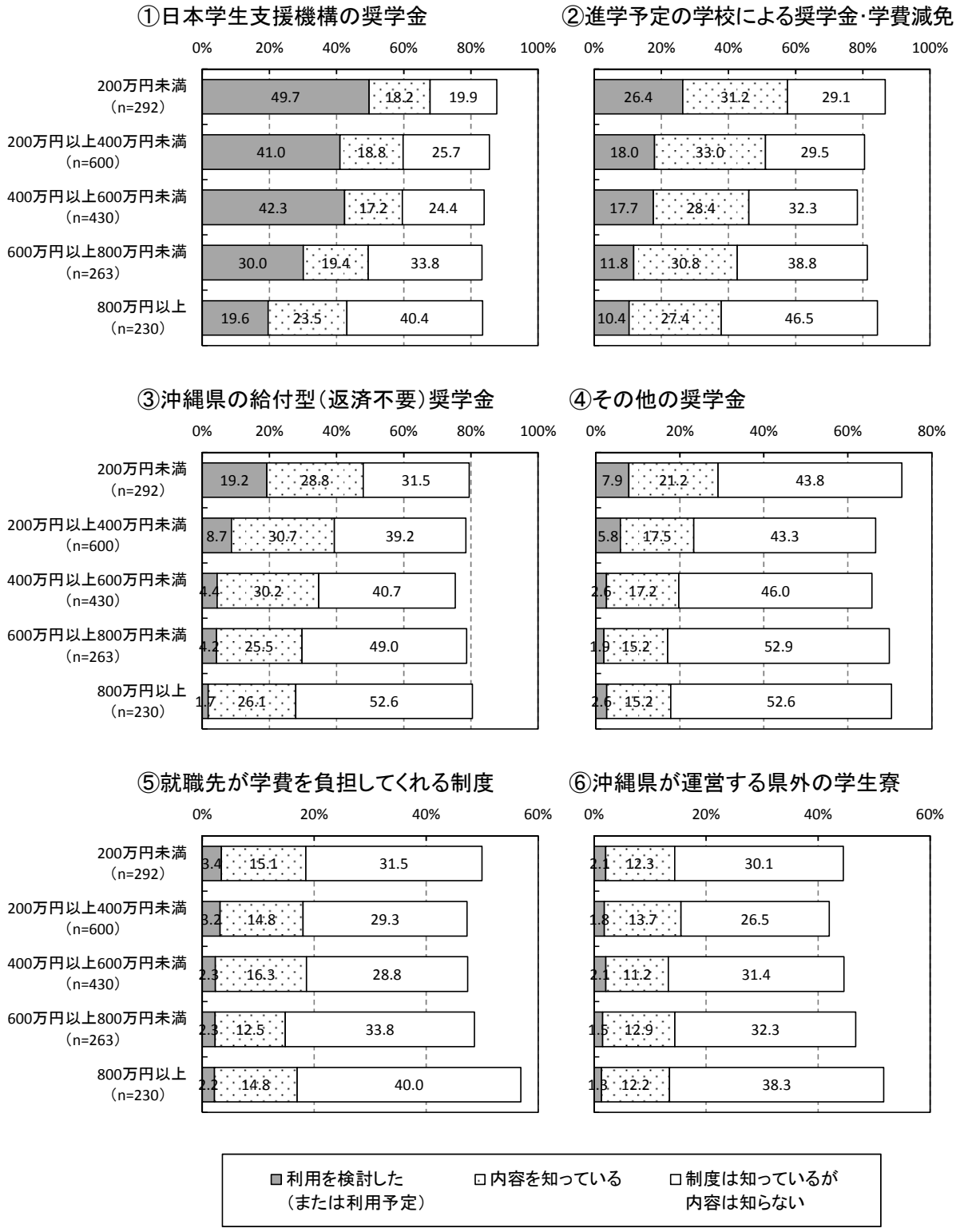
［保護者］



生徒の回答を世帯年収別にみると、奨学金（①～④）については、世帯年収が低いほど「利用を検討した（または利用予定）」の割合が高い傾向がみられるが、「⑤就職先が学費を負担してくれる制度」と「⑥沖縄県が運営する県外の学生寮」では、大きな差異はない。

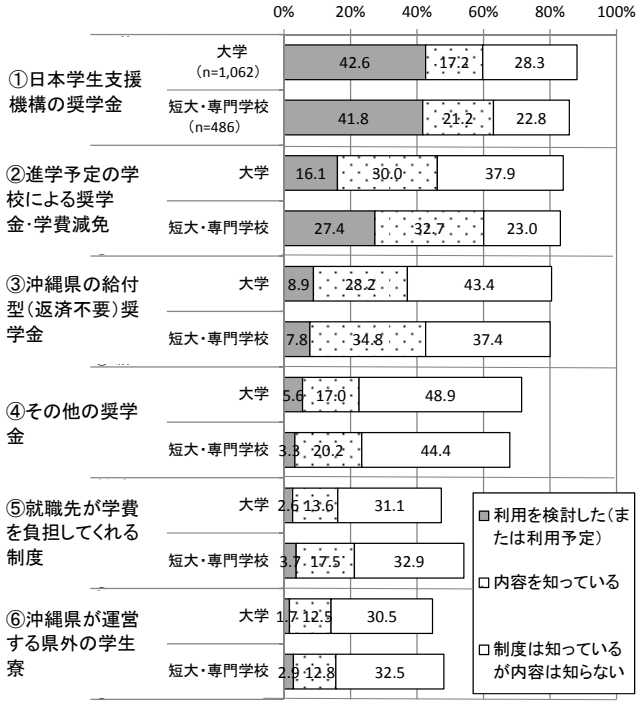
また、認知度全体を見た場合、「①日本学生支援機構の奨学金」以外では、「200 万円未満」では認知度が比較的高いが、200 万円以上 600 万円未満の区分では一旦低下し、600 万円以上で再び上昇する傾向がみられる。

図表 III-76　進学を支援する制度の認知度（世帯年収別）



進学予定先別にみると、短大・専門学校進学予定者では、大学進学予定者よりも「②進学予定の学校による奨学金・学費減免」を「利用を検討した（または利用予定）」とする割合が 10 ポイント以上高く、また、「⑤就職先が学費を負担してくれる制度」や「⑥沖縄県が運営する県外の学生寮」の認知度も、やや高くなっている。

図表 III-77　進学を支援する制度の認知度（進学予定先別）



生徒の認知度が最も高い「①日本学生支援機構の奨学金」に対する認知度を、就職を含む予定の進路別に見ると、「就職する（家業・家事従事を含む）」では、「制度の利用を検討した（または、利用予定）」（4.5%）の割合が非常に低い一方で、「制度があることは知っているが内容はしらない」（42.9%）と「制度があることを知らない」（16.0%）の割合が高くなっている。

図表 III-78　日本学生支援機構の奨学金に対する認知度（予定の進路別）

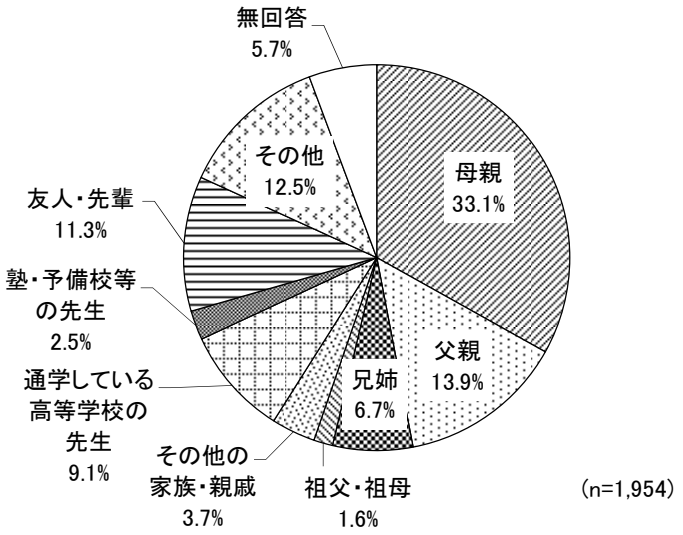
		サンプル数	制度の利用を検討した（または、利用予定）	制度内容を知っている	制度があることは知っているが内容は知らない	制度があることを知らない	無回答
全体		1,954	734	374	549	130	167
		100.0	37.6	19.1	28.1	6.7	8.5
予定の進路別	大学へ進学する	1,062	452	183	301	60	66
		100.0	42.6	17.2	28.3	5.6	6.2
	短期大学へ進学する	68	31	15	12	3	7
		100.0	**45.6**	22.1	***17.6***	4.4	10.3
	専門学校へ進学する	418	172	88	99	25	34
		100.0	41.1	21.1	23.7	6.0	8.1
	就職する（家業・家事従事を含む）	156	7	33	67	25	24
		100.0	***4.5***	21.2	**42.9**	**16.0**	**15.4**
	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	19	4	4	3	2	6
		100.0	***21.1***	21.1	***15.8***	10.5	**31.6**
	その他	15	1	5	3	5	1
		100.0	***6.7***	**33.3**	***20.0***	**33.3**	6.7

3) 進路の選択に一番大きな影響を与えている人物（生徒問 19）

進路の選択に一番大きな影響を与えている人物で最も割合が高いのは「母親」（33.1%）であり、次に「父親」（13.9%）、「その他」（12.5%）、「友人・先輩」（11.3%）が続く。

世帯年収別にみると、「200 万円未満」では、全体よりも「母親」（42.5%）の割合がやや高く、「父親」（8.6%）の割合がやや低い。

図表 III-79 進路の選択に一番大きな影響を与えている人物



図表 III-80 進路の選択に一番大きな影響を与えている人物
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	母親	父親	兄姉	祖父・祖母	その他の家族・親戚	通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）	塾・予備校等の先生	友人・先輩	その他	無回答
全体		1,954	647	271	131	31	72	178	48	221	244	111
		100.0	33.1	13.9	6.7	1.6	3.7	9.1	2.5	11.3	12.5	5.7
学校種別	普通	1,562	512	219	109	25	56	142	47	176	195	81
		100.0	32.8	14.0	7.0	1.6	3.6	9.1	3.0	11.3	12.5	5.2
	専門	392	135	52	22	6	16	36	1	45	49	30
		100.0	34.4	13.3	5.6	1.5	4.1	9.2	0.3	11.5	12.5	7.7
地域別	北部	583	196	72	30	14	31	45	9	70	76	40
		100.0	33.6	12.3	5.1	2.4	5.3	7.7	1.5	12.0	13.0	6.9
	中南部	812	279	104	50	6	25	93	24	92	98	41
		100.0	34.4	12.8	6.2	0.7	3.1	11.5	3.0	11.3	12.1	5.0
	離島	559	172	95	51	11	16	40	15	59	70	30
		100.0	30.8	17.0	9.1	2.0	2.9	7.2	2.7	10.6	12.5	5.4
世帯年収別	200万円未満	292	124	25	13	5	10	30	6	42	27	10
		100.0	**42.5**	***8.6***	4.5	1.7	3.4	10.3	2.1	14.4	9.2	3.4
	200万円以上400万円未満	600	197	74	42	7	23	65	9	73	78	32
		100.0	32.8	12.3	7.0	1.2	3.8	10.8	1.5	12.2	13.0	5.3
	400万円以上600万円未満	430	134	66	34	7	16	30	12	43	63	25
		100.0	31.2	15.3	7.9	1.6	3.7	7.0	2.8	10.0	14.7	5.8
	600万円以上800万円未満	263	77	49	11	4	8	22	10	29	37	16
		100.0	29.3	18.6	4.2	1.5	3.0	8.4	3.8	11.0	14.1	6.1
	800万円以上	230	69	38	25	3	9	21	8	18	22	17
		100.0	30.0	16.5	10.9	1.3	3.9	9.1	3.5	7.8	9.6	7.4

4) 進路に関する情報の入手先（生徒問 20・保護者問 17）

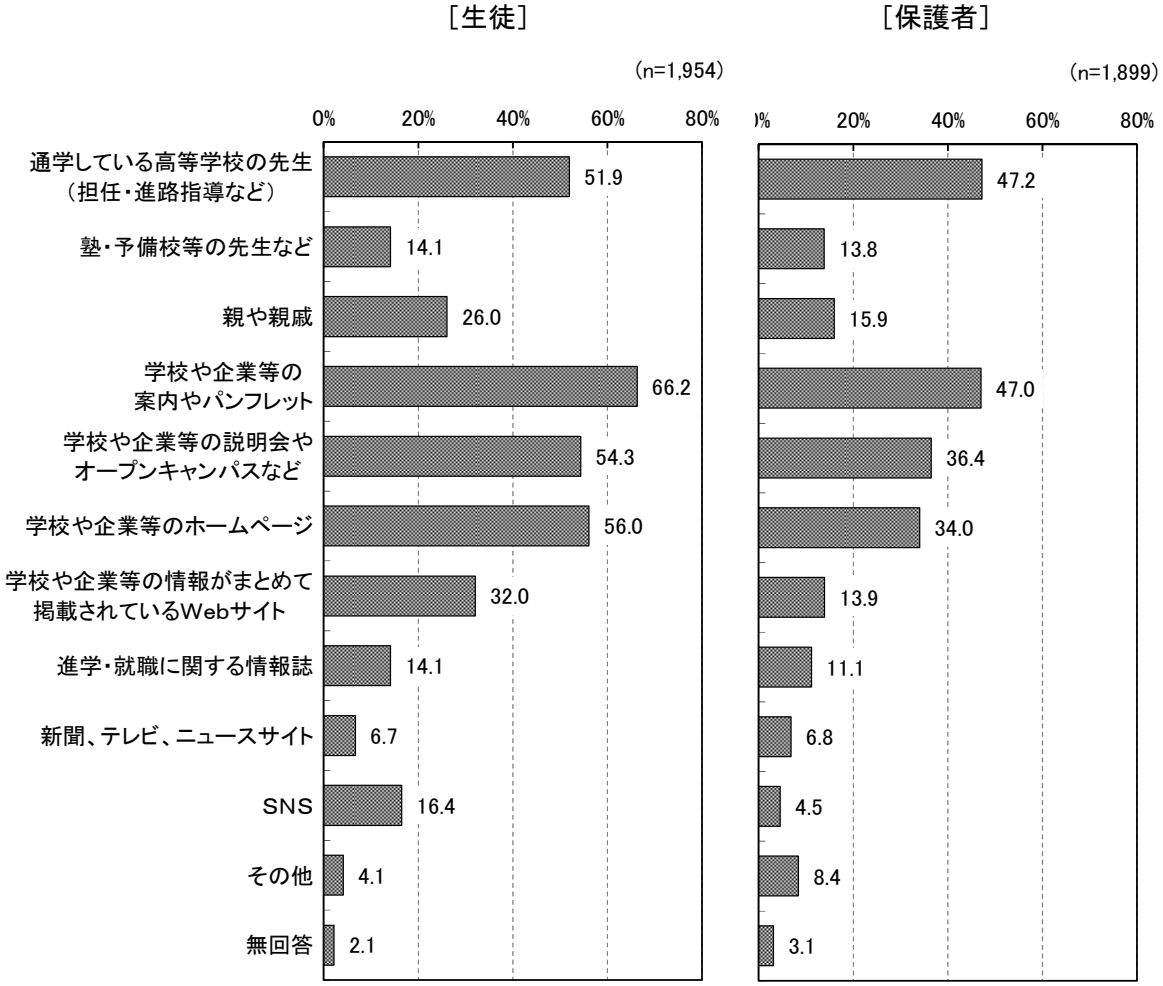
生徒と保護者に、それぞれ「自身の」進路に関する情報の入手先を尋ねた。

全般的に、保護者の回答割合は生徒よりも低く、進路に関する情報収集は、主に生徒が自ら行うケースが比較的多いことがうかがえる。

生徒の回答で最も割合が高いのは、「学校や企業等の案内やパンフレット」（66.2%）であり、次に「学校や企業等のホームページ」（56.0%）、「学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど」（54.3%）が続き、保護者では最も割合が高い「通学している高等学校の先生（担任・進路指導など）」は４番目である（生徒 51.9%、保護者 47.2%）。

また、生徒では、「学校や企業等の情報がまとめて掲載されている Web サイト」（32.0%）や「SNS」（16.4%）の割合も比較的高い。

図表 III-81　進路に関する情報の入手先



（注）「親や親戚」は、保護者アンケートでは「配偶者や親戚」。

生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では「塾・予備校等の先生など」（1.3%）と「学校や企業等の情報がまとめて掲載されている Web サイト」（21.9%）の割合が、普通高校を大幅に下回っている。

地域別にみると、中南部では、「通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）」や「学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど」（ともに 59.7%）のほか、「塾・予備校等の先生など」（20.4%）の割合が他地域よりも高いが、離島では、「通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）」（40.6%）や「学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど」（46.2%）の割合が、他地域を大きく下回っており、説明会やオープンキャンパスに関しては、地理的条件が機会に影響していることが推察される。

世帯年収別では、年収が高いほど、「塾・予備校等の先生など」と「親や親戚」の割合が高くなる傾向がみられる。

図表 III-82 進路に関する情報の入手先（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）	塾・予備校等の先生など	親や親戚	学校や企業等の案内やパンフレット	学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど	学校や企業等のホームページ	学校や企業等の情報がまとめて掲載されているWebサイト	進学・就職に関する情報誌	新聞、テレビ、ニュースサイト	SNS	その他	無回答
全体		1,954	1,014	275	509	1,294	1,061	1,095	625	275	130	321	80	42
		100.0	51.9	14.1	26.0	66.2	54.3	56.0	32.0	14.1	6.7	16.4	4.1	2.1
学校種別	普通	1,562	810	270	427	1,049	858	911	539	231	100	260	59	31
		100.0	51.9	17.3	27.3	67.2	54.9	58.3	34.5	14.8	6.4	16.6	3.8	2.0
	専門	392	204	5	82	245	203	184	86	44	30	61	21	11
		100.0	52.0	***1.3***	***20.9***	62.5	51.8	***46.9***	***21.9***	11.2	7.7	15.6	5.4	2.8
地域別	北部	583	302	55	156	391	318	297	160	79	36	86	26	17
		100.0	51.8	9.4	26.8	67.1	54.5	***50.9***	27.4	13.6	6.2	14.8	4.5	2.9
	中南部	812	485	166	216	544	485	487	288	116	51	127	28	12
		100.0	**59.7**	**20.4**	26.6	67.0	**59.7**	60.0	35.5	14.3	6.3	15.6	3.4	1.5
	離島	559	227	54	137	359	258	311	177	80	43	108	26	13
		100.0	***40.6***	9.7	24.5	64.2	***46.2***	55.6	31.7	14.3	7.7	19.3	4.7	2.3
世帯年収別	200万円未満	292	156	23	60	196	161	154	93	39	23	59	12	3
		100.0	53.4	***7.9***	***20.5***	67.1	55.1	52.7	31.8	13.4	7.9	20.2	4.1	1.0
	200万円以上400万円未満	600	313	62	149	412	333	335	208	84	47	92	25	14
		100.0	52.2	10.3	24.8	68.7	55.5	55.8	34.7	14.0	7.8	15.3	4.2	2.3
	400万円以上600万円未満	430	236	65	111	296	237	249	140	62	22	68	17	10
		100.0	54.9	15.1	25.8	68.8	55.1	57.9	32.6	14.4	5.1	15.8	4.0	2.3
	600万円以上800万円未満	263	129	52	85	161	142	151	86	39	11	40	14	5
		100.0	49.0	**19.8**	**32.3**	***61.2***	54.0	57.4	32.7	14.8	4.2	15.2	5.3	1.9
	800万円以上	230	118	56	79	145	121	136	70	36	16	39	6	4
		100.0	51.3	**24.3**	**34.3**	63.0	52.6	59.1	30.4	15.7	7.0	17.0	2.6	1.7

第１志望の進学予定地域別にみると、県内では、自宅からの通学の可否を問わず、「学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど」の割合が高いが、「県外（国内）」では割合が低く、一方で「学校や企業等のホームページ」や「学校や企業等の情報がまとめて掲載されている Web サイト」の割合が高くなっていることから、県内の学校や企業なら、自宅から通学できない地域でも、説明会やオープンキャンパスに参加することがそれほど難しくないが、県外の学校や企業の場合は、参加のハードルが比較的高いことがうかがえる。

また、「通学している高等学校の先生（担任・進路指導など）」の割合は、「県内（自宅から通学できる地域）」では 64.7％と高いが、「県内（自宅から通学できない地域）」では 51.7％に低下し、「県外（国内）」では 42.1％とさらに低くなっていることから、高校での進路指導にあたって、地域外の学校や企業の情報を十分に把握できていない可能性があることが推察される。

図表 III-83　進路に関する情報の入手先（第1志望の進学予定地域別）

		サンプル数	通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）	塾・予備校等の先生など	親や親戚	学校や企業等の案内やパンフレット	学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど	学校や企業等のホームページ	学校や企業等の情報がまとめて掲載されているWebサイト	進学・就職に関する情報誌	新聞、テレビ、ニュースサイト	SNS	その他	無回答
全体		1,954	1,014	275	509	1,294	1,061	1,095	625	275	130	321	80	42
		100.0	51.9	14.1	26.0	66.2	54.3	56.0	32.0	14.1	6.7	16.4	4.1	2.1
進学予定地域別	県内（自宅から通学できる地域）	569	368	115	169	409	374	338	188	71	34	73	13	3
		100.0	**64.7**	**20.2**	29.7	**71.9**	**65.7**	59.4	33.0	12.5	6.0	12.8	2.3	0.5
	県内（自宅から通学できない地域）	352	182	32	92	265	225	192	104	46	25	45	13	7
		100.0	51.7	9.1	26.1	**75.3**	**63.9**	54.5	29.5	13.1	7.1	12.8	3.7	2.0
	県外（国内）	591	249	83	128	386	293	379	225	101	42	131	29	4
		100.0	***42.1***	14.0	21.7	65.3	49.6	**64.1**	**38.1**	17.1	7.1	**22.2**	4.9	0.7
	海外	14	1	4	3	6	2	8	6	2	0	2	2	0
		100.0	***7.1***	**28.6**	21.4	***42.9***	***14.3***	57.1	**42.9**	14.3	***0.0***	14.3	**14.3**	0.0

5) 家庭内での進路に関するコミュニケーションの状況（生徒問 21・保護者問 16）

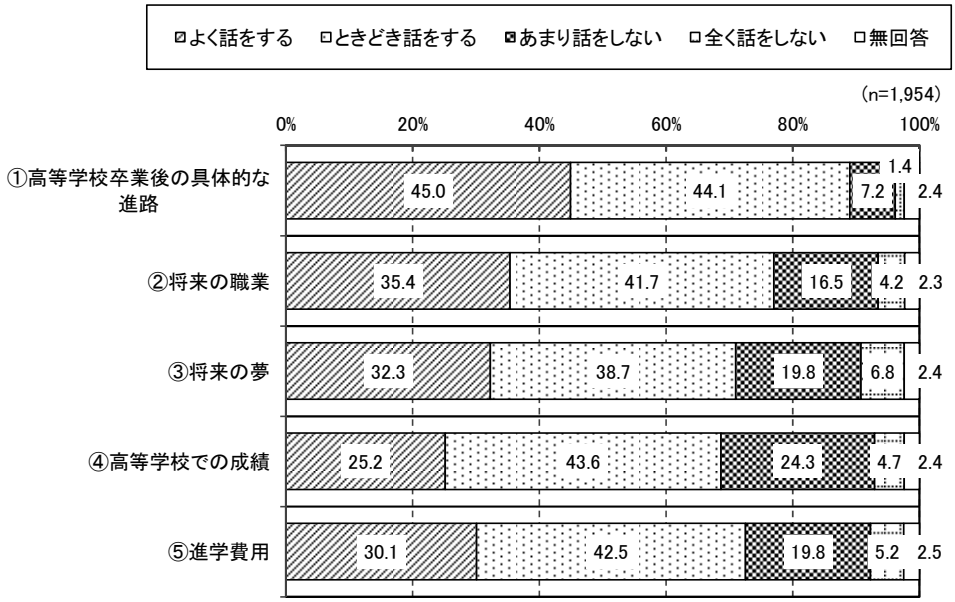
家庭内での進路に関するコミュニケーションの状況について、生徒・保護者それぞれに尋ねたところ、全般的に、「よく話をする」と「ときどき話をする」では、生徒の割合が保護者の割合を下回っており、生徒と保護者の間に認識のずれがあることが推察される。

また、「話をする」（「よく話をする」＋「ときどき話をする」の合計）割合の差が最も大きいのは、「④高等学校での成績」（生徒 68.8%、保護者 80.6%）であり、約 12 ポイントの差がある。

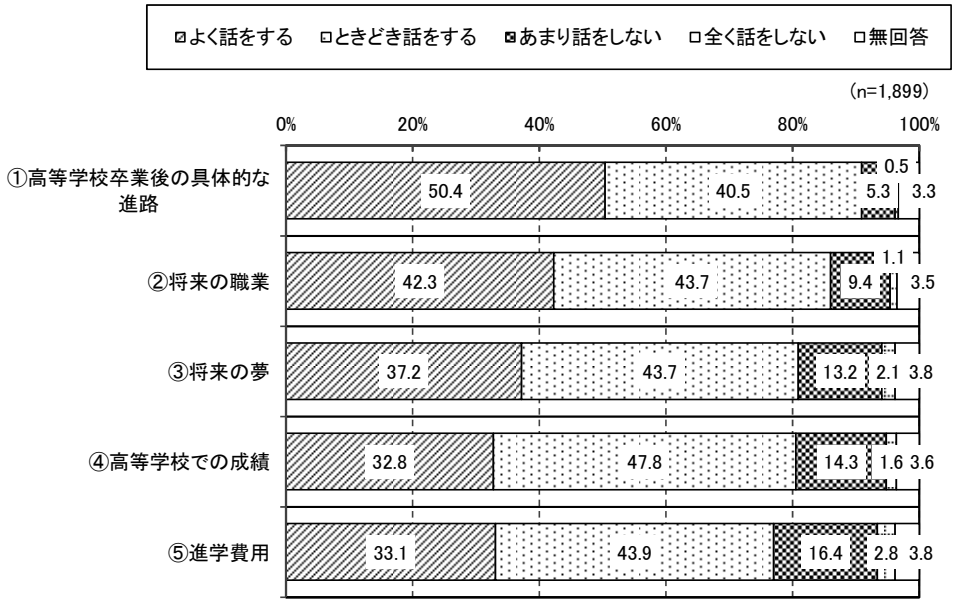
生徒の回答では、「①高等学校卒業後の具体的な進路」の「話をする」（89.1%）の割合は比較的高いが、それ以外の項目では８割に満たない。

図表 III-84　家庭内での進路に関するコミュニケーションの状況

［生徒］



［保護者］



各項目に「よく話をする」と回答した生徒の割合を世帯年収別にみると、600 万円以上では、「①高等学校卒業後の具体的な進路（学校、学部・学科、就職先など）」で全体よりも割合が高いが、「200 万円未満」では「⑤進学費用」の割合が全体を約 10 ポイント上回っており、「800 万円以上」と比較すると、約 17 ポイントの差がある。

図表 III-85　家庭内での進路に関するコミュニケーションの状況（「よく話をする」の割合）
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	①高等学校卒業後の具体的な進路	②将来の職業	③将来の夢	④高等学校での成績	⑤進学費用
全体		1,954	880	691	632	492	589
		100.0	45.0	35.4	32.3	25.2	30.1
学校種別	普通	1,562	719	558	510	403	469
		100.0	46.0	35.7	32.7	25.8	30.0
	専門	392	161	133	122	89	120
		100.0	41.1	33.9	31.1	22.7	30.6
地域別	北部	583	267	226	211	152	197
		100.0	45.8	38.8	36.2	26.1	33.8
	中南部	812	371	268	244	219	215
		100.0	45.7	33.0	30.0	27.0	26.5
	離島	559	242	197	177	121	177
		100.0	43.3	35.2	31.7	21.6	31.7
世帯年収別	200万円未満	292	122	112	104	76	118
		100.0	41.8	38.4	35.6	26.0	**40.4**
	200万円以上400万円未満	600	248	188	176	138	172
		100.0	41.3	31.3	29.3	23.0	28.7
	400万円以上600万円未満	430	197	139	122	114	129
		100.0	45.8	32.3	28.4	26.5	30.0
	600万円以上800万円未満	263	136	106	94	71	74
		100.0	**51.7**	40.3	35.7	27.0	28.1
	800万円以上	230	115	94	89	62	54
		100.0	50.0	**40.9**	**38.7**	27.0	***23.5***

6) 通学している高等学校の進路指導に対する要望（生徒問 22・保護者問 18）

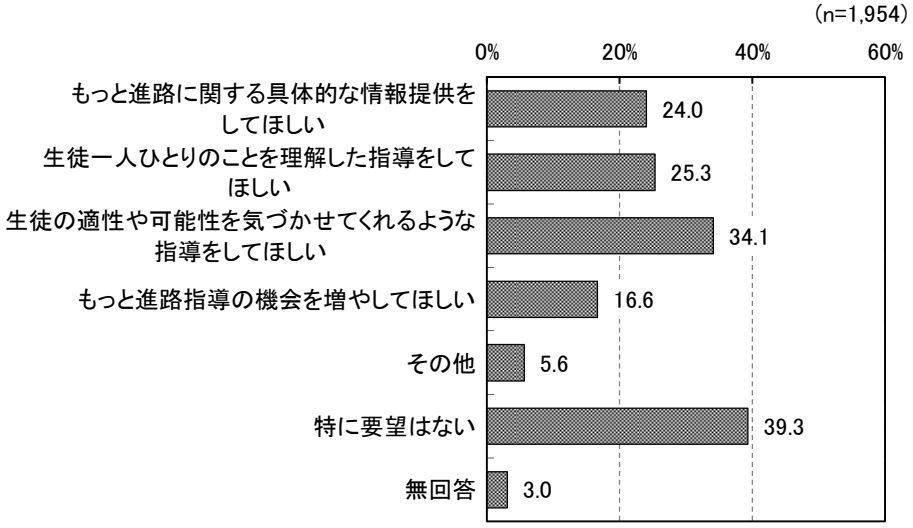
通学している高校の進路指導に対する要望を、生徒・保護者それぞれに尋ねたところ、全般的に、保護者の要望が生徒の要望を上回っている。

生徒の回答で最も割合が高いのは、「特に要望はない」（39.3%）を除くと、「生徒の適正や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい」（34.1%）であり、次に「生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい」（25.3%）、「もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい」（24.0%）が続く。

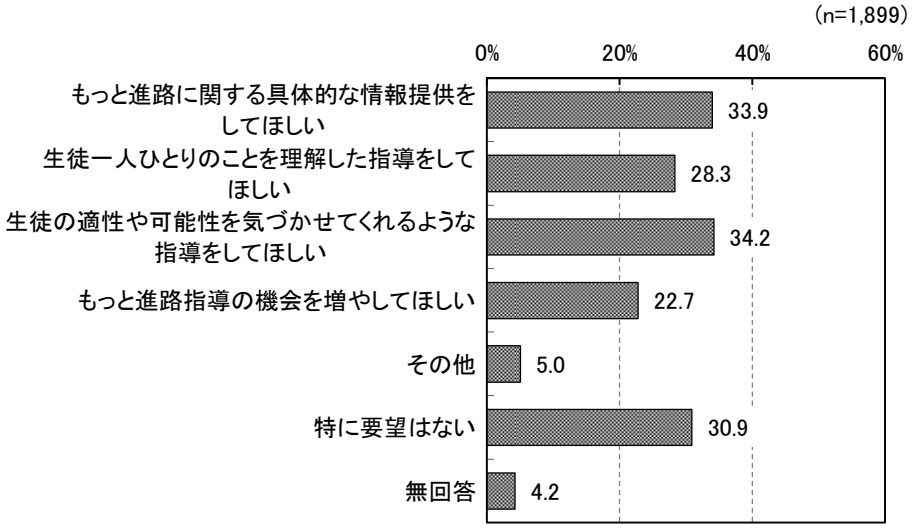
一方、保護者では、「生徒の適正や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい」（34.2%）の次が「もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい」（33.9%）であり、また「もっと進路指導の機会を増やしてほしい」（22.7%）の割合も、生徒よりやや高くなっている。

図表 III-86　通学している高等学校の進路指導に関する要望

［生徒］



［保護者］



生徒の回答を学校種別にみると、専門高校では「もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい」（17.3%）や「生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい」（26.0%）の割合が普通高校よりも低く、「特に要望はない」（46.4%）の割合が普通高校よりも高い。

図表 III-87　通学している高等学校の進路指導に関する要望（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい	生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい	生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい	もっと進路指導の機会を増やしてほしい	その他	特に要望はない	無回答
全体		1,954	469	494	666	325	109	767	59
		100.0	24.0	25.3	34.1	16.6	5.6	39.3	3.0
学校種別	普通	1,562	401	407	564	252	92	585	42
		100.0	25.7	26.1	36.1	16.1	5.9	37.5	2.7
	専門	392	68	87	102	73	17	182	17
		100.0	***17.3***	22.2	***26.0***	18.6	4.3	**46.4**	4.3
地域別	北部	583	128	129	177	93	28	252	21
		100.0	22.0	22.1	30.4	16.0	4.8	43.2	3.6
	中南部	812	195	201	294	140	44	306	19
		100.0	24.0	24.8	36.2	17.2	5.4	37.7	2.3
	離島	559	146	164	195	92	37	209	19
		100.0	26.1	29.3	34.9	16.5	6.6	37.4	3.4
世帯年収別	200万円未満	292	70	88	114	57	21	122	6
		100.0	24.0	30.1	39.0	19.5	7.2	41.8	2.1
	200万円以上400万円未満	600	139	133	195	96	28	239	14
		100.0	23.2	22.2	32.5	16.0	4.7	39.8	2.3
	400万円以上600万円未満	430	109	109	141	71	22	165	15
		100.0	25.3	25.3	32.8	16.5	5.1	38.4	3.5
	600万円以上800万円未満	263	67	68	102	41	15	94	6
		100.0	25.5	25.9	38.8	15.6	5.7	35.7	2.3
	800万円以上	230	57	60	73	36	12	92	11
		100.0	24.8	26.1	31.7	15.7	5.2	40.0	4.8

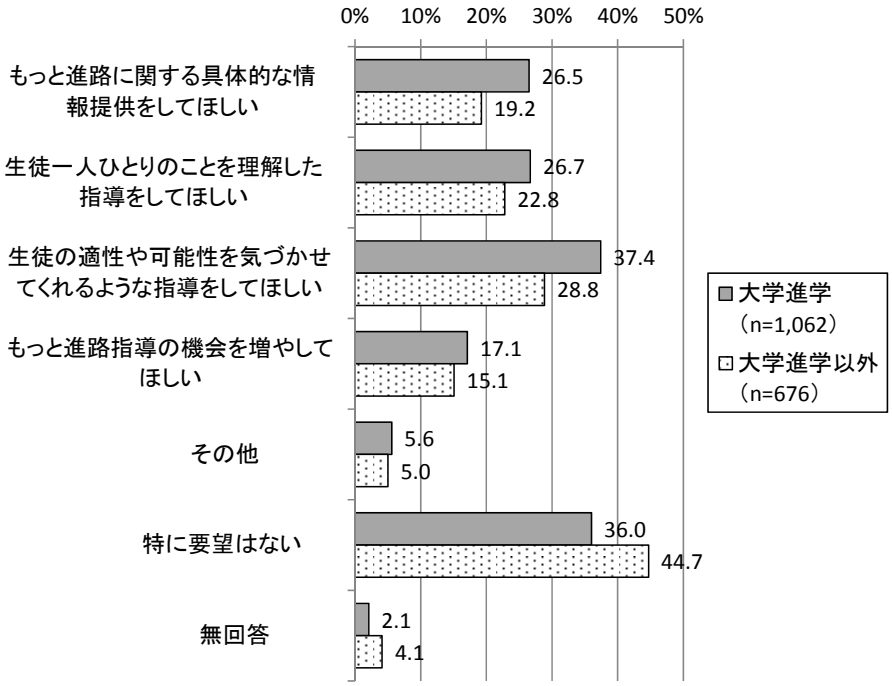
生活全般の満足度（問 25）別では、満足度が高いほど「特に要望はない」の割合が高く、それ以外の項目では、満足度が低いほど割合が高い傾向がみられる。

図表 III-88　通学している高等学校の進路指導に関する要望（生活全般の満足度別）

		サンプル数	もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい	生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい	生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい	もっと進路指導の機会を増やしてほしい	その他	特に要望はない	無回答
全体		1,954	469	494	666	325	109	767	59
		100.0	24.0	25.3	34.1	16.6	5.6	39.3	3.0
生活全般の満足度別	満足	490	108	98	139	74	20	223	15
		100.0	22.0	***20.0***	***28.4***	15.1	4.1	**45.5**	3.1
	どちらかといえば満足	736	174	182	244	109	34	303	12
		100.0	23.6	24.7	33.2	14.8	4.6	41.2	1.6
	どちらともいえない	479	114	126	178	85	31	171	16
		100.0	23.8	26.3	37.2	17.7	6.5	35.7	3.3
	どちらかといえば不満	151	43	57	63	32	12	42	3
		100.0	28.5	**37.7**	**41.7**	21.2	7.9	***27.8***	2.0
	不満	57	22	25	28	20	9	15	2
		100.0	**38.6**	**43.9**	**49.1**	**35.1**	**15.8**	***26.3***	3.5

予定の進路別にみると、大学進学予定者（以下「大学」）では、大学進学以外の進路予定者（以下「大学以外」）よりも、全般的に進路指導に関する要望が強いのに対し、大学以外では、大学よりも「特に要望はない」の割合が高い。

図表 III-89　通学している高等学校の進路指導に関する要望（進学予定先別）

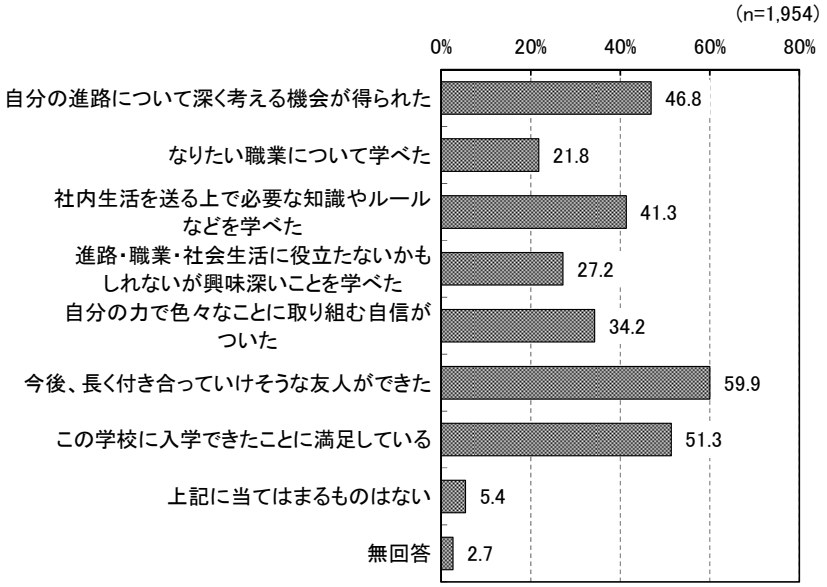


⑥ 通学中の高等学校や自分自身（の暮らし）について

1) 通学している高等学校について感じていること（生徒問 23）

通学している高等学校について感じていることで、最も割合が高いのは「今後、長くつきあっていけそうな友人ができた」（59.9%）であり、次に「この学校に入学できたことに満足している」（51.3%）、「自分の進路について深く考える機会が得られた」（46.8%）が続く。

図表 III-90 通学している高等学校について感じていること



学校種別にみると、専門高校では、「なりたい職業について学べた」（29.8%）の割合が普通高校よりも高いのに対し、「今後、長くつきあっていけそうな友人ができた」（52.6%）の割合はやや低く、「この学校に入学できたことに満足している」（37.8%）の割合は大幅に低くなっている。

地域別では、離島の「この学校に入学できたことに満足している」（46.2%）の割合が、他地域よりもやや低くなっている。

世帯年収別にみると、年収が高いほど、「この学校に入学できたことに満足している」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-91　通学している高等学校について感じていること
（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	自分の進路について深く考える機会が得られた	なりたい職業について学べた	社会生活を送る上で必要な知識やルールなどを学べた	進路・職業・社会生活には役立たないかもしれないが興味深いことを学べた	自分の力で色々なことに取り組む自信がついた	今後、長く付き合っていけそうな友人ができた	この学校に入学できたことに満足している	上記に当てはまるものはない	無回答
全体		1,954	915	425	807	531	669	1,171	1,003	106	52
		100.0	46.8	21.8	41.3	27.2	34.2	59.9	51.3	5.4	2.7
学校種別	普通	1,562	745	308	652	421	532	965	855	91	38
		100.0	47.7	19.7	41.7	27.0	34.1	61.8	54.7	5.8	2.4
	専門	392	170	117	155	110	137	206	148	15	14
		100.0	43.4	**29.8**	39.5	28.1	34.9	***52.6***	***37.8***	3.8	3.6
地域別	北部	583	259	146	237	172	204	346	308	28	14
		100.0	44.4	25.0	40.7	29.5	35.0	59.3	52.8	4.8	2.4
	中南部	812	418	162	350	226	281	496	437	37	21
		100.0	51.5	20.0	43.1	27.8	34.6	61.1	53.8	4.6	2.6
	離島	559	238	117	220	133	184	329	258	41	17
		100.0	42.6	20.9	39.4	23.8	32.9	58.9	***46.2***	7.3	3.0
世帯年収別	200万円未満	292	127	75	129	77	96	180	139	16	6
		100.0	43.5	25.7	44.2	26.4	32.9	61.6	47.6	5.5	2.1
	200万円以上400万円未満	600	305	135	255	165	226	346	310	26	16
		100.0	50.8	22.5	42.5	27.5	37.7	57.7	51.7	4.3	2.7
	400万円以上600万円未満	430	195	93	182	124	146	264	223	24	10
		100.0	45.3	21.6	42.3	28.8	34.0	61.4	51.9	5.6	2.3
	600万円以上800万円未満	263	123	47	96	66	78	155	143	14	9
		100.0	46.8	17.9	36.5	25.1	29.7	58.9	54.4	5.3	3.4
	800万円以上	230	116	51	103	64	90	158	132	9	4
		100.0	50.4	22.2	44.8	27.8	39.1	**68.7**	**57.4**	3.9	1.7

予定の進路別にみると、「就職する（家業・家事従事を含む）」では、「なりたい職業について学べた」（28.8%）の割合は全体よりやや高いが、「この学校に入学できたことに満足している」（39.1%）は全体を大幅に下回っており、「大学へ進学する」（56.7%）と比較すると、約 18 ポイントの差がある。

図表 III-92　通学している高等学校について感じていること（予定の進路別）

		サンプル数	自分の進路について深く考える機会が得られた	なりたい職業について学べた	社会生活を送る上で必要な知識やルールなどを学べた	進路・職業・社会生活には役立たないかもしれないが興味深いことを学べた	自分の力で色々なことに取り組む自信がついた	今後、長く付き合っていけそうな友人ができた	この学校に入学できたことに満足している	上記に当てはまるものはない	無回答
全体		1,954	915	425	807	531	669	1,171	1,003	106	52
		100.0	46.8	21.8	41.3	27.2	34.2	59.9	51.3	5.4	2.7
予定の進路別	大学へ進学する	1,062	548	199	475	313	408	683	602	50	20
		100.0	51.6	18.7	44.7	29.5	38.4	64.3	56.7	4.7	1.9
	短期大学へ進学する	68	33	13	31	16	32	42	36	2	0
		100.0	48.5	19.1	45.6	23.5	47.1	61.8	52.9	2.9	0.0
	専門学校へ進学する	418	161	113	146	98	108	224	185	22	17
		100.0	38.5	27.0	34.9	23.4	25.8	53.6	44.3	5.3	4.1
	就職する（家業・家事従事を含む）	156	75	45	62	38	47	78	61	10	7
		100.0	48.1	28.8	39.7	24.4	30.1	50.0	39.1	6.4	4.5
	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える	19	2	0	6	6	3	13	9	1	0
		100.0	10.5	0.0	31.6	31.6	15.8	68.4	47.4	5.3	0.0
	その他	15	4	2	2	2	2	6	6	3	1
		100.0	26.7	13.3	13.3	13.3	13.3	40.0	40.0	20.0	6.7

生活全般の満足度別では、満足度が低いほど「上記に当てはまるものはない」の割合が高く、それ以外の項目は、概ね、満足度が高いほど、割合も高い傾向がみられる。

図表 III-93　通学している高等学校について感じていること（生活全般の満足度別）

		サンプル数	自分の進路について深く考える機会が得られた	なりたい職業について学べた	社会生活を送る上で必要な知識やルールなどを学べた	進路・職業・社会生活には役立たないかもしれないが興味深いことを学べた	自分の力で色々なことに取り組む自信がついた	今後、長く付き合っていけそうな友人ができた	この学校に入学できたことに満足している	上記に当てはまるものはない	無回答
全体		1,954	915	425	807	531	669	1,171	1,003	106	52
		100.0	46.8	21.8	41.3	27.2	34.2	59.9	51.3	5.4	2.7
生活全般の満足度別	満足	490	288	137	231	162	220	338	321	14	5
		100.0	58.8	28.0	47.1	33.1	44.9	69.0	65.5	2.9	1.0
	どちらかといえば満足	736	354	171	334	200	271	491	424	15	3
		100.0	48.1	23.2	45.4	27.2	36.8	66.7	57.6	2.0	0.4
	どちらともいえない	479	198	83	173	113	134	238	191	45	3
		100.0	41.3	17.3	36.1	23.6	28.0	49.7	39.9	9.4	0.6
	どちらかといえば不満	151	55	23	50	38	30	72	47	20	4
		100.0	36.4	15.2	33.1	25.2	19.9	47.7	31.1	13.2	2.6
	不満	57	17	9	18	17	13	31	18	12	1
		100.0	29.8	15.8	31.6	29.8	22.8	54.4	31.6	21.1	1.8

■生徒の高校充実度と高校卒業後の進路の関係

生徒用調査票の問 23 は、通学している高等学校で学んだことや実現できたことを尋ねた問であり、この問の選択肢に該当するとした回答が多いほど、その生徒の高校生活は充実したものであると考えられる。そこで、問 23 の「上記に当てはまるものはない」を除く７つの選択肢[1]の回答数より、以下のとおり「高校充実度」を３つのカテゴリーに区分した。

●高校充実度の区分

・問 23 選択肢回答数０・１：高校充実度低位
・問 23 選択肢回答数２・３：高校充実度中位
・問 23 選択肢回答数４以上：高校充実度高位

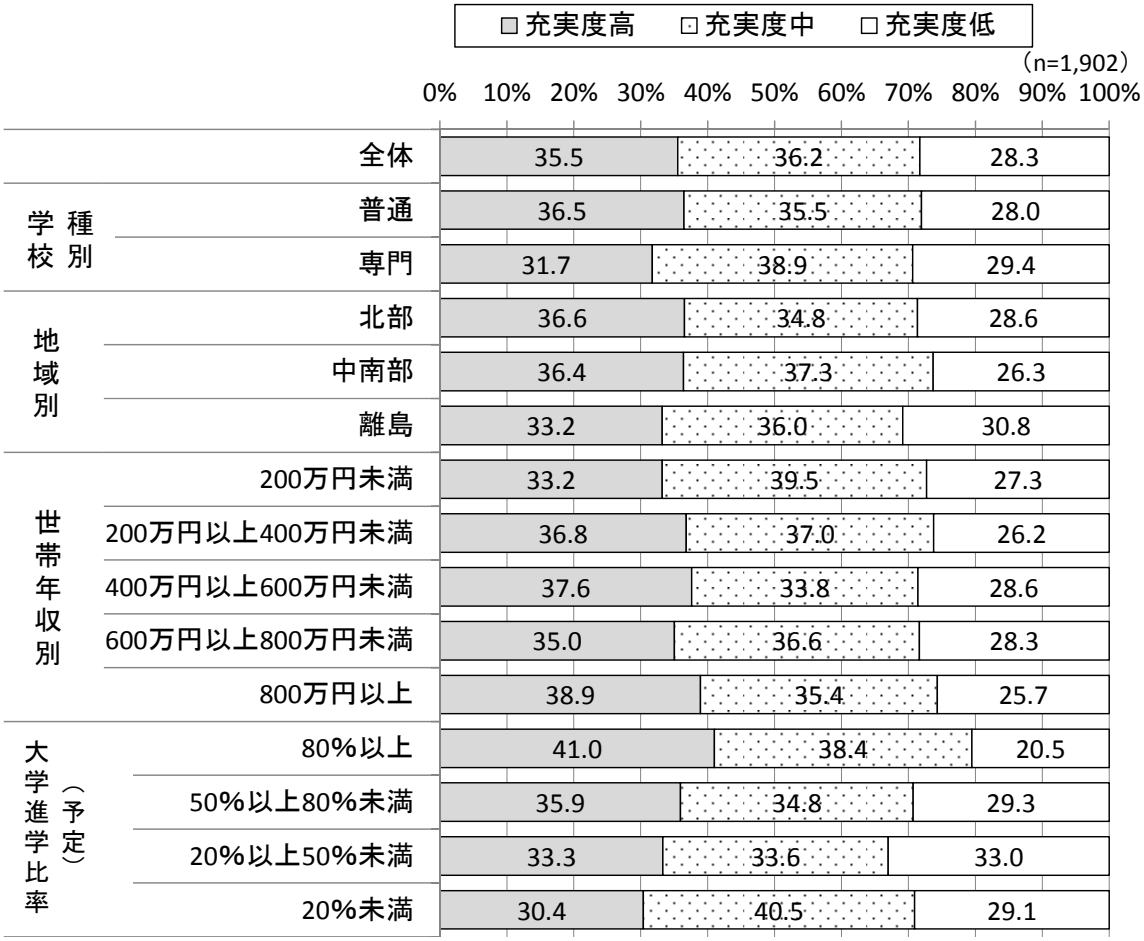
上記の基準より、問 23 の回答結果から区分した「高校充実度」と生徒の基本属性との関係をクロス集計した結果は以下のとおりである。学校種別、高校所在地域、世帯年収の違いによる「高校充実度」の差はないが、「大学進学比率（予定）」が高い高校の生徒ほど「高校充実度」が高くなる傾向がみられる。

また、「高校充実度」と高等学校卒業後の進路（現実的な予定）の関係をみると、「高校充実度」高位の生徒は低位や中位の生徒と比べて、「大学進学」の比率が高く、「専門学校進学」の比率が低くなっている。

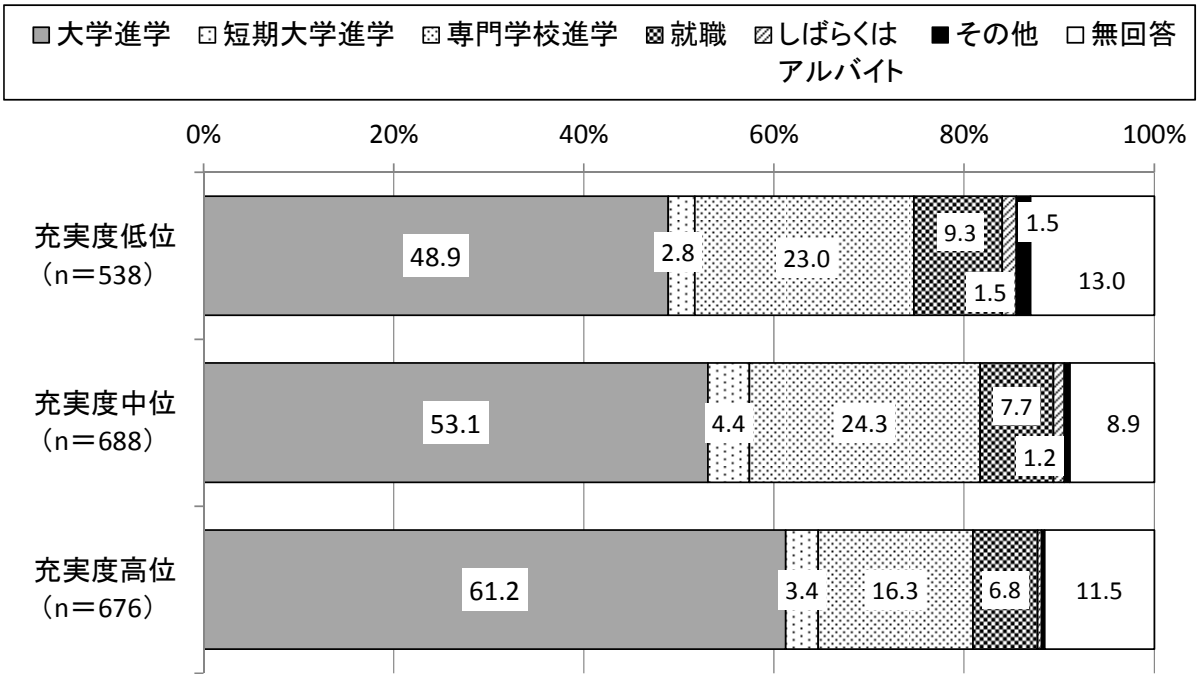
なお、「高校充実度」と進路指導への要望の関係をみると、「高校充実度」低位の生徒で「生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい」の回答がやや少なくなっているほかは、特に「高校充実度」と進路指導の要望に関係性は見出せない。

[1] 問 23 の「1. 自分の進路について深く考える機会が得られた」から「7. この学校に入学できたことに満足している」の7つの選択肢の回答データから算出したクロンバックのアルファ信頼性係数（「高校充実度」構成する個々の質問項目の内的整合性を図る評価する指標）を算出したところ 0.618 であった。この値は必ずしも十分に高いものではないが、大きく傾向を分析する上では問題ないと判断した。

図表 III-94　高校充実度（基本属性別）



図表 III-95　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（高校充実度区分別）



図表 III-96　通学している高等学校の進路指導に関する要望（高校充実度区分別）

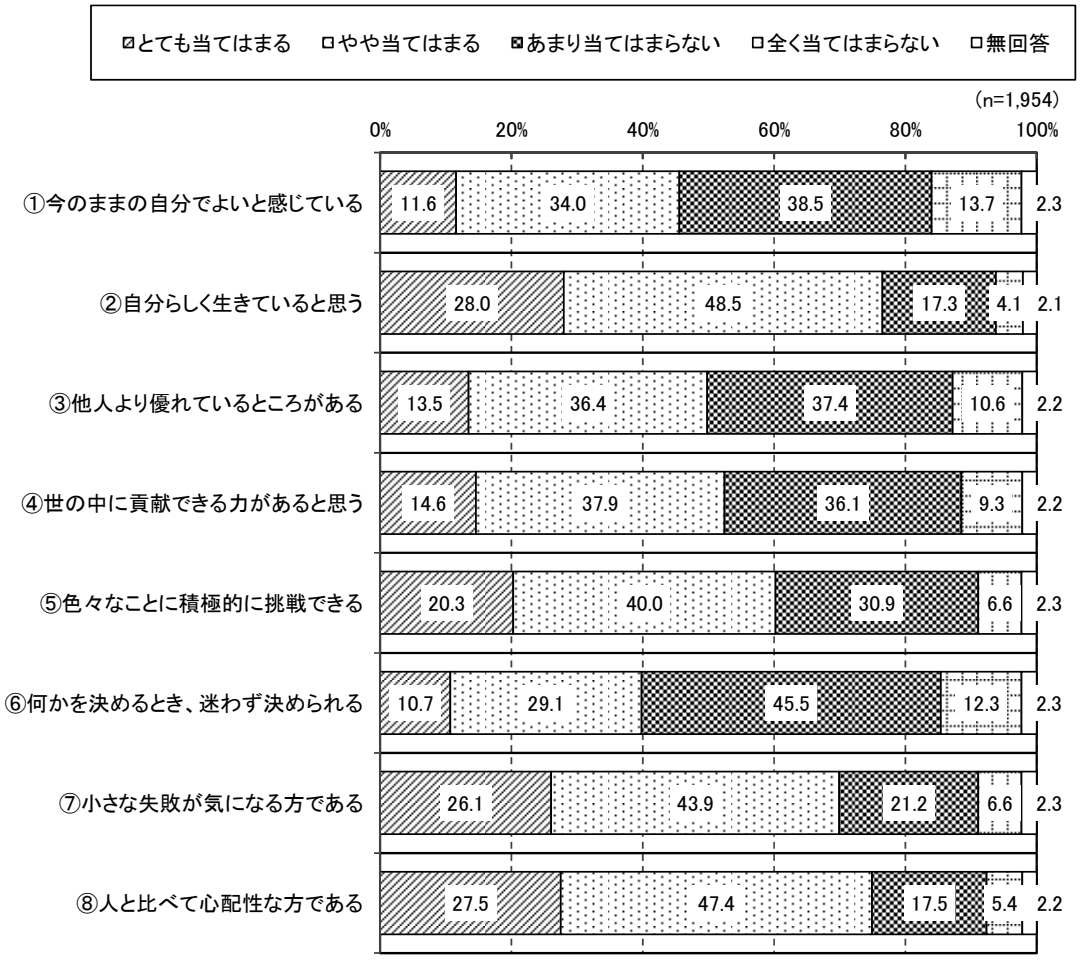
		サンプル数	もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい	生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい	生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい	もっと進路指導の機会を増やしてほしい	その他	特に要望はない	無回答
全体		1,954	469	494	666	325	109	767	59
		100.0	24.0	25.3	34.1	16.6	5.6	39.3	3.0
高校充実度	充実度低位	538	134	154	153	77	32	219	15
		100.0	24.9	28.6	***28.4***	14.3	5.9	40.7	2.8
	充実度中位	688	159	181	239	112	38	263	17
		100.0	23.1	26.3	34.7	16.3	5.5	38.2	2.5
	充実度高位	676	163	150	257	130	36	267	16
		100.0	24.1	22.2	38.0	19.2	5.3	39.5	2.4

2) 自分自身について感じていること（生徒問 24）

生徒が自分自身について「とても当てはまる」と回答している割合が高い項目は、「②自分らしく生きていると思う」（28.0%）であり、約３割にのぼるが、一方で、「⑦小さな失敗が気になる方である」（26.1%）と「⑧人と比べて心配性な方である」（27.5%）というネガティブな項目も、約３割となっている。

また、上記の３項目以外は、全般的に「当てはまる」（「とても当てはまる」と「やや当てはまる」）の割合が低く、「①今のままでよいと感じている」（45.6%）と回答した生徒は、約半数にとどまっている。

図表 III-97　自分自身について感じていること



地域別にみると、中南部で「③他人より優れているところがある」（55.2%）の割合が全体よりもやや高い。

世帯年収別では、800 万円以上では、自己を肯定する内容の項目の割合が総じて高く、特に「③他人より優れているところがある」（61.7%）の割合は全体を大きく上回っている。

図表 III-98　自分自身について感じていること（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	①今のままの自分でよいと感じている	②自分らしく生きていると思う	③他人より優れているところがある	④世の中に貢献できる力があると思う	⑤色々なことに積極的に挑戦できる	⑥何かを決めるとき、迷わず決められる	⑦小さな失敗が気になる方である	⑧人と比べて心配性な方である
全体		1,954	891	1,495	974	1,025	1,179	779	1,368	1,464
		100.0	45.6	76.5	49.8	52.5	60.3	39.9	70.0	74.9
学校種別	普通	1,562	693	1,196	780	835	951	627	1,095	1,170
		100.0	44.4	76.6	49.9	53.5	60.9	40.1	70.1	74.9
	専門	392	198	299	194	190	228	152	273	294
		100.0	50.5	76.3	49.5	48.5	58.2	38.8	69.6	75.0
地域別	北部	583	272	449	274	303	357	214	408	435
		100.0	46.7	77.0	47.0	52.0	61.2	36.7	70.0	74.6
	中南部	812	408	639	448	456	504	340	587	629
		100.0	50.2	78.7	**55.2**	56.2	62.1	41.9	72.3	77.5
	離島	559	211	407	252	266	318	225	373	400
		100.0	***37.7***	72.8	45.1	47.6	56.9	40.3	66.7	71.6
世帯年収別	200万円未満	292	116	224	152	158	176	116	208	219
		100.0	***39.7***	76.7	52.1	54.1	60.3	39.7	71.2	75.0
	200万円以上400万円未満	600	281	456	265	302	351	215	437	451
		100.0	46.8	76.0	***44.2***	50.3	58.5	35.8	72.8	75.2
	400万円以上600万円未満	430	193	324	217	222	255	171	301	326
		100.0	44.9	75.3	50.5	51.6	59.3	39.8	70.0	75.8
	600万円以上800万円未満	263	119	207	135	142	162	108	182	198
		100.0	45.2	78.7	51.3	54.0	61.6	41.1	69.2	75.3
	800万円以上	230	118	188	142	141	159	109	151	165
		100.0	**51.3**	**81.7**	**61.7**	**61.3**	**69.1**	**47.4**	65.7	71.7

（注）「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計。なお、構成比は、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計とは一致しないものがある。

■生徒の自己肯定感と高校卒業後の進路の関係

生徒用調査票の問 24 は、生徒が自分自身についてどう考えているかを尋ねた問であるが、この問で自己を肯定する内容の項目に「とても当てはまる」と回答している数が多い生徒ほど自己肯定感が強いと考えられる。そこで、問 24 の「①今のままの自分でよいと感じている」から「⑥何かを決めるとき、迷わずに決められる」の６つの項目[2]について、「とても当てはまる」を４点、「やや当てはまる」を３点、「あまり当てはまらない」を２点、「全く当てはまらない」を１点として回答者ごとに合計得点を求め、これを回答数（全ての質問に回答している場合６）で割って算出した平均得点より、以下のとおり「自己肯定感」を３つのカテゴリーに区分した。

●自己肯定感の区分

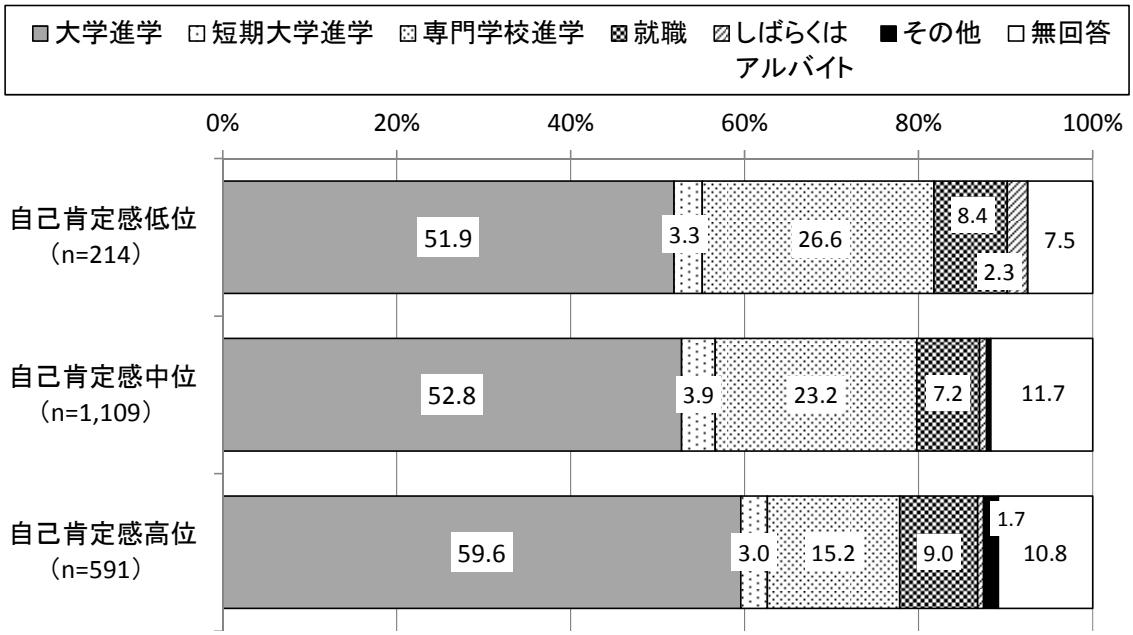
・平均得点２点未満：自己肯定感低位

・平均得点２点以上３点未満：自己肯定感中位

・平均得点３点以上：自己肯定感高位

上記の基準より、問 24 の回答結果から区分した「自己肯定感」と高等学校卒業後の進路（現実的な予定）の関係をみると、「自己肯定感」高位の生徒は低位や中位の生徒と比べて、「大学進学」の比率が高く、「専門学校進学」の比率が低くなっている。

図表 III-99　高等学校卒業後の進路（現実的な予定）（自己肯定感区分別）



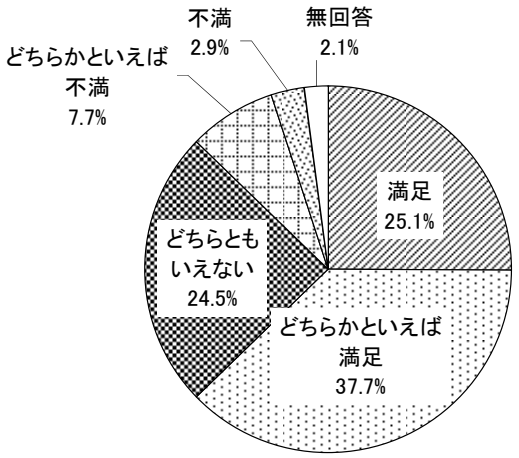
[2] 問 24 の「①今のままの自分でよいと感じている」から「⑥何かを決めるとき、迷わずに決められる」の6つの項目の回答データから算出したクロンバックのアルファ信頼性係数を算出したところ 0.825 であった。同じ問の質問「⑦小さな失敗が気になる方である」「⑧人と比べて心配性な方である」（否定的な項目のため得点の与え方は①～⑥と逆転）を加えた計8つの項目で同係数を算出すると 0.825 を下回ったため、自己肯定感の区分に使用する項目は①～⑥のみとした。

3) 現状の生活全般についての満足度（生徒問 25）

現状の生活全般についての満足度は、「満足」（25.1%）と「どちらかといえば満足」（37.7%）を合わせると、約６割が満足と回答している。

一方で、「どちらかといえば不満」（7.7%）と「不満」（2.9%）を合わせると、現状の生活に不満を持っている生徒は約１割いることがわかる。

図表 III-100 現状の生活全般についての満足度



(n=1,954)

世帯年収別にみると、世帯年収が高いほど、「満足」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-101 現状の生活全般についての満足度（学校種別・高校所在地域別・世帯年収別）

		サンプル数	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	無回答
全体		1,954	490	736	479	151	57	41
		100.0	25.1	37.7	24.5	7.7	2.9	2.1
学校種別	普通	1,562	379	593	395	120	44	31
		100.0	24.3	38.0	25.3	7.7	2.8	2.0
	専門	392	111	143	84	31	13	10
		100.0	28.3	36.5	21.4	7.9	3.3	2.6
地域別	北部	583	142	241	135	42	12	11
		100.0	24.4	41.3	23.2	7.2	2.1	1.9
	中南部	812	217	304	194	57	27	13
		100.0	26.7	37.4	23.9	7.0	3.3	1.6
	離島	559	131	191	150	52	18	17
		100.0	23.4	34.2	26.8	9.3	3.2	3.0
世帯年収別	200万円未満	292	60	104	86	28	8	6
		100.0	20.5	35.6	29.5	9.6	2.7	2.1
	200万円以上400万円未満	600	144	221	160	45	20	10
		100.0	24.0	36.8	26.7	7.5	3.3	1.7
	400万円以上600万円未満	430	104	178	95	30	13	10
		100.0	24.2	41.4	22.1	7.0	3.0	2.3
	600万円以上800万円未満	263	68	105	61	17	5	7
		100.0	25.9	39.9	23.2	6.5	1.9	2.7
	800万円以上	230	77	83	47	13	7	3
		100.0	**33.5**	36.1	20.4	5.7	3.0	1.3

進路の一致・不一致別では、「進路不一致（上方）」で、全体よりも「満足」（16.7%）の割合が低く、「どちらともいえない」（30.2%）の割合がやや高くなっている。

図表 III-102 現状の生活全般についての満足度（進路の一致・不一致別）

		サンプル数	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	無回答
全体		1,954	490	736	479	151	57	41
		100.0	25.1	37.7	24.5	7.7	2.9	2.1
進路の一致・不一致別	進路一致	1,341	351	519	313	100	34	24
		100.0	26.2	38.7	23.3	7.5	2.5	1.8
	進路不一致（下方）	269	58	102	73	20	11	5
		100.0	21.6	37.9	27.1	7.4	4.1	1.9
	進路不一致（上方）	96	16	35	29	8	6	2
		100.0	*16.7*	36.5	**30.2**	8.3	6.3	2.1

現実的な進路と希望の進路の違いの有無別にみると、「満足」「どちらかといえば満足」とも、違いがない場合のほうが、割合が高くなっている。

図表 III-103 現状の生活全般についての満足度（現実/希望の進路の違いの有無別）

		サンプル数	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満	無回答
全体		1,954	490	736	479	151	57	41
		100.0	25.1	37.7	24.5	7.7	2.9	2.1
進路の違い別	現実／希望の違いなし	871	257	352	179	51	16	16
		100.0	29.5	40.4	20.6	5.9	1.8	1.8
	現実／希望の違いあり	610	126	219	176	52	29	8
		100.0	20.7	35.9	28.9	8.5	4.8	1.3

２．進学・進路決定者アンケート

(1) 調査の概要

① 調査方法

■調査Ａ

インターネット調査会社が保有するモニターの中から、18 歳（高校卒業年齢）の時点で沖縄県内に居住し、高等学校、専門学校、短期大学、大学・大学院を卒業した方（中退を除く）を抽出し、インターネットによるアンケート（以下「Web アンケート」）を実施した。

■調査Ｂ

就職活動支援サービス提供会社が保有する学生のモニターの中から、実家住所が沖縄県として登録されている学生を抽出し、Web アンケートを実施した。

② 調査項目

今回のアンケートにおける主な質問項目は、以下のとおりである。

・回答者属性（卒業高校の所在地・学科、在学中の学校、性別、年齢、兄弟姉妹の人数、経済的な暮らし向き）
・高等学校卒業直後の進路
・進学した理由
・進学した学校で学んだ分野、進学した学校のある地域
・心配ごとがない場合の高校卒業後の進路（希望の進路）
・心配ごとがない場合に進学して学びたかった分野、進学したかった学校のある地域
・希望する進路と実際の進路の違いとその要因
・沖縄県の高校生が希望する進路を選べるようになるために必要な支援
・進学する学校を決める際に重視すること
・高校卒業後の進路選択に当たって心配だったこと
・自分自身について当てはまること
・生活全般の満足度

③ 調査時期

■調査Ａ

平成 29 年 12 月 1 日（金）～ 12 月 16 日（土）

■調査Ｂ

平成 30 年 1 月 12 月（金）～ 1 月 23 日（火）

④ 回収数

965 件（有効回収）

⑤ 集計

モニターによる回答結果を集計したところ、男女で回答数に大きな差（男性の回答数と女性の回答数の比がほぼ１：２）があることが確認されたため、全体集計のバランスを確保するために、ウェイトバック集計[3]（男性の回答数を女性の回答の２倍に重み付け）を行った。

次ページ以降の Web アンケートの集計結果は、全てウェイトバック集計によるものである。

[3] **ウェイトバック集計**：回収されたサンプル（標本）を母集団の構成にあわせて調整して集計する方法。属性別にサンプルに重みづけして集計することで、母集団の構成比に合わせて補正した集計結果が得られる。

(2) 調査結果

① 回答者の属性

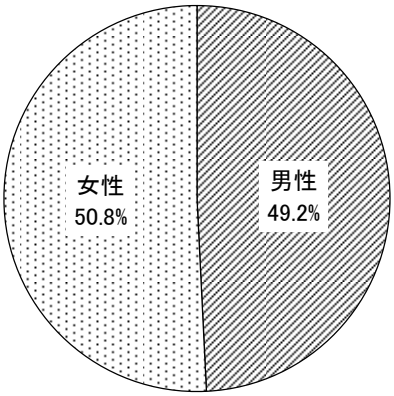
1) 性別

回答者の性別は、男性・女性がほぼ半数ずつとなっている。

学校種別では、「専門高校」で男性よりも女性の割合が高く、地域別では「離島」で女性の割合が高い。

また、高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「大変苦しい」では、女性の割合が男性を大きく上回っている。

図表 III-104　性別



(n=965)

図表 III-105　性別（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

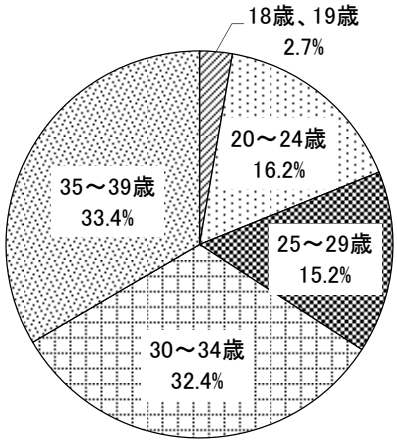
		サンプル数	男性	女性
全体		965	475	490
		100.0	49.2	50.8
学校種別	普通	754	378	375
		100.0	50.2	49.8
	専門	206	93	112
		100.0	45.4	54.6
地域別	北部	65	30	35
		100.0	46.5	53.5
	中南部	841	425	415
		100.0	50.6	49.4
	離島	54	17	38
		100.0	*30.6*	69.4
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	33	39
		100.0	45.8	54.2
	ややゆとりがある	169	89	80
		100.0	52.7	47.3
	普通	323	176	146
		100.0	54.7	*45.3*
	やや苦しい	271	124	147
		100.0	45.7	54.3
	大変苦しい	130	53	78
		100.0	*40.5*	59.5

（注）「学校種別」は卒業した高校の種類、「地域別」は卒業した高校の所在地域、「高3時の暮らし向き別」は高校3年生当時の経済的な面から見た暮らし向きである。（以下同様）

2) 年齢

回答者の年齢で、最も割合が高いのは「35～39 歳」（33.4%）であり、次に「30～34 歳」（32.4%）、「20～24 歳」（16.2%）、「25～29 歳」（15.2%）が続く。

図表 III-106　年齢



（n=965）

図表 III-107　［参考］年齢（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	18歳、19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳
全体		965	26	156	147	313	323
		100.0	2.7	16.2	15.2	32.4	33.4
学校種別	普通	754	18	134	111	237	254
		100.0	2.4	17.8	14.7	31.4	33.7
	専門	206	8	22	34	74	68
		100.0	4.0	*10.6*	16.5	35.9	33.0
地域別	北部	65	2	10	3	26	24
		100.0	2.3	15.1	*4.7*	40.7	37.2
	中南部	841	24	139	138	267	273
		100.0	2.9	16.5	16.4	31.7	32.5
	離島	54	1	8	4	17	25
		100.0	1.4	13.9	*6.9*	31.9	45.8
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	5	12	5	37	14
		100.0	6.3	16.7	*7.3*	51.0	*18.8*
	ややゆとりがある	169	6	26	29	47	60
		100.0	3.6	15.6	17.0	28.1	35.7
	普通	323	8	54	45	104	111
		100.0	2.6	16.8	14.0	32.2	34.3
	やや苦しい	271	8	46	46	81	90
		100.0	2.8	17.0	17.0	30.1	33.1
	大変苦しい	130	0	17	22	43	48
		100.0	0.0	13.3	16.8	32.9	37.0

3) 現在の居住地域

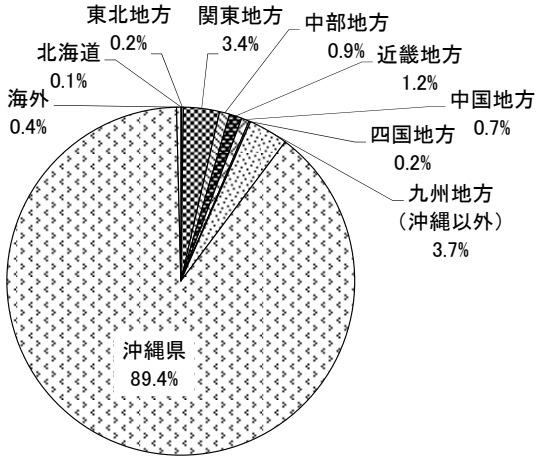
現在の居住地域は、「沖縄県」（89.4%）が約９割を占める。

他地域で、比較的割合が高いのは、「九州地方（沖縄以外）」（3.7%）と「関東地方」（3.4%）である。

「沖縄県」の割合を学校種別にみると、専門高校（94.9%）の割合が普通高校よりもやや高く、地域別では、離島（83.3%）の割合が他地域よりもやや低くなっている。

また、高校３年生当時の暮らし向き別に居住地域をみると、「沖縄県」の割合は、「ゆとりがある」（81.3%）と「大変苦しい」（94.2%）に約 13 ポイントの差があるほか、「関東地方」の割合は、「ゆとりがある」に近づくほど高い傾向がみられる。

図表 III-108　現在の居住地域



(n=965)

図表 III-109　現在の居住地域（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方（沖縄以外）	沖縄県	海外
全体		965	1	2	32	9	11	7	2	35	862	4
		100.0	0.1	0.2	3.4	0.9	1.2	0.7	0.2	3.7	89.4	0.4
学校種別	普通	754	1	2	29	9	8	7	2	29	666	4
		100.0	0.1	0.2	3.8	1.2	1.0	0.9	0.2	3.8	88.3	0.5
	専門	206	0	0	4	0	2	0	0	5	195	0
		100.0	0.0	0.0	1.8	0.0	1.1	0.0	0.0	2.2	**94.9**	0.0
地域別	北部	65	0	0	0	1	2	2	0	5	57	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	1.2	2.3	2.3	0.0	7.0	87.2	0.0
	中南部	841	0	2	30	8	7	4	2	26	759	4
		100.0	0.0	0.2	3.6	1.0	0.8	0.4	0.2	3.0	90.3	0.4
	離島	54	1	0	2	0	2	2	0	3	45	0
		100.0	1.4	0.0	4.2	0.0	2.8	2.8	0.0	5.6	***83.3***	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	0	0	5	2	2	0	0	5	59	0
		100.0	0.0	0.0	6.3	2.1	3.1	0.0	0.0	7.3	***81.3***	0.0
	ややゆとりがある	169	0	1	9	2	2	2	0	2	152	0
		100.0	0.0	0.4	5.4	1.3	0.9	0.9	0.0	0.9	90.2	0.0
	普通	323	1	1	11	1	3	5	1	17	283	0
		100.0	0.2	0.2	3.5	0.2	0.9	1.6	0.2	5.4	87.6	0.0
	やや苦しい	271	0	0	8	3	3	0	1	8	246	2
		100.0	0.0	0.0	2.8	1.1	1.1	0.0	0.3	3.1	90.8	0.8
	大変苦しい	130	0	0	0	2	2	0	0	3	123	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2	0.0	0.0	2.3	94.2	1.2

4) 学歴

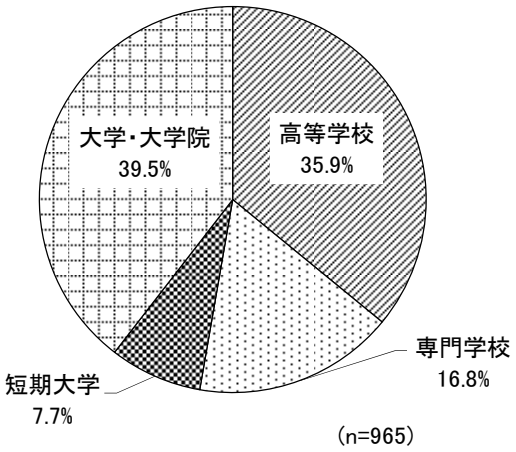
学歴で最も割合が高いのは、「大学・大学院」（39.5%）だが、「高等学校」（35.9%）の割合も同様に高い。

学校種別にみると、専門高校では、「高等学校」（53.5%）の割合が普通高校を大きく上まわり、普通高校では、「大学・大学院」（45.0%）の割合が、専門高校を大きく上まわる。

地域別にみると、北部では、他地域と比較して「高等学校」（41.9%）と「専門学校」（22.1%）の割合がやや高いのに対し、「大学・大学院」（24.4%）の割合が低い。

高校３年生当時の暮らし向き別では、「大変苦しい」に近づくほど「高等学校」の割合が高く、「ゆとりがある」に近づくほど「大学・大学院」の割合が高くなっている。

図表 III-110 最終学歴



(注)調査Bの回答者は在学中の学校。

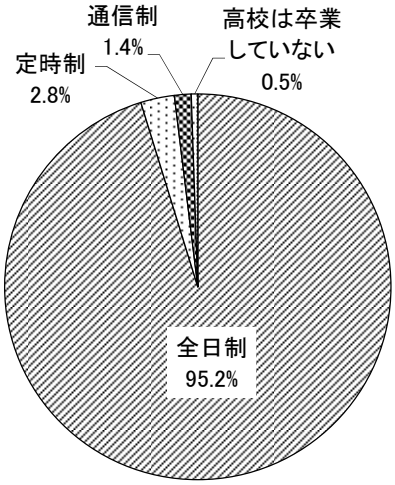
図表 III-111 最後に卒業した学校（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	高等学校	専門学校	短期大学	大学・大学院
全体		965	347	162	75	381
		100.0	35.9	16.8	7.7	39.5
学校種別	普通	754	237	122	56	339
		100.0	31.4	16.2	7.4	45.0
	専門	206	110	38	19	38
		100.0	53.5	18.7	9.2	18.7
地域別	北部	65	27	14	8	16
		100.0	41.9	22.1	11.6	24.4
	中南部	841	301	135	61	344
		100.0	35.8	16.1	7.3	40.9
	離島	54	19	11	6	18
		100.0	34.7	20.8	11.1	33.3
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	20	8	4	41
		100.0	27.1	10.4	5.2	57.3
	ややゆとりがある	169	41	31	11	86
		100.0	24.1	18.3	6.7	50.9
	普通	323	108	58	26	130
		100.0	33.4	18.0	8.2	40.4
	やや苦しい	271	112	44	22	92
		100.0	41.5	16.4	8.1	34.0
	大変苦しい	130	66	21	11	32
		100.0	50.9	16.2	8.7	24.3

5) 卒業した高校の教育課程

卒業した高校の教育課程は、「全日制」（95.2%）がほとんどを占めている。

図表 III-112　卒業した高校の教育課程



（n=965）

図表 III-113　[参考]卒業した高校の教育課程（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

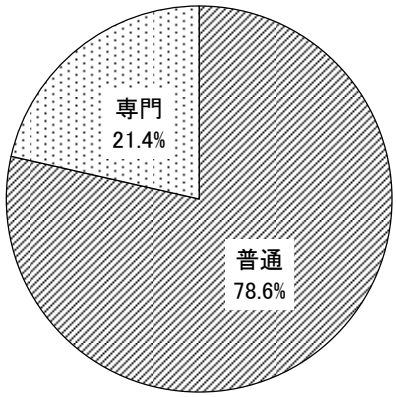
		サンプル数	全日制	定時制	通信制	高校は卒業していない
全体		965	919	27	14	5
		100.0	95.2	2.8	1.4	0.5
学校種別	普通	754	726	16	12	0
		100.0	96.3	2.1	1.6	0.0
	専門	206	193	11	2	0
		100.0	93.8	5.5	0.7	0.0
地域別	北部	65	61	2	2	0
		100.0	94.2	2.3	3.5	0.0
	中南部	841	807	24	10	0
		100.0	96.0	2.9	1.2	0.0
	離島	54	51	2	2	0
		100.0	94.4	2.8	2.8	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	69	1	1	2
		100.0	95.8	1.0	1.0	2.1
	ややゆとりがある	169	166	2	1	0
		100.0	98.2	1.3	0.4	0.0
	普通	323	308	11	3	1
		100.0	95.6	3.3	0.9	0.2
	やや苦しい	271	257	6	5	2
		100.0	95.0	2.2	1.9	0.8
	大変苦しい	130	118	8	4	1
		100.0	90.8	5.8	2.9	0.6

6) 卒業した高等学校の種類

普通高校を卒業した回答者が約８割、専門高校を卒業した回答者が約２割である。

地域別にみると、離島では専門高校（34.7%）の割合が他地域よりも高く、高校３年生当時の暮らし向き別では、「大変苦しい」で専門高校（32.0%）の割合が高くなっている。

図表 III-114　卒業した高等学校の種類



(n=960)

(注)選択肢を以下のとおり束ねた。
普通高校:普通科、英語・国際・人文系学科、理数系学科、総合学科
専門高校:工業・デザイン系学科、商業系学科、情報系学科、農業系学科、水産系学科、家政・福祉・調理・看護系学科、芸術・体育系学科、その他

図表 III-115　卒業した高等学校の種類(高校所在地域別・高3時の暮らし向き別)

		サンプル数	普通	専門
全体		960	754	206
		100.0	78.6	21.4
地域別	北部	65	48	17
		100.0	74.4	25.6
	中南部	841	670	170
		100.0	79.7	20.3
	離島	54	35	19
		100.0	*65.3*	34.7
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	71	57	14
		100.0	79.8	20.2
	ややゆとりがある	169	149	20
		100.0	87.9	*12.1*
	普通	322	252	70
		100.0	78.2	21.8
	やや苦しい	268	209	60
		100.0	77.8	22.2
	大変苦しい	130	88	41
		100.0	*68.0*	32.0

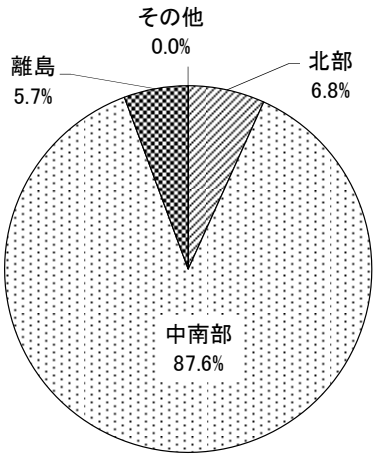
7) 卒業した学校の所在地域

卒業した学校の所在地域で最も割合が高いのは、「中南部」（87.6%）である。現在の高校３年生とは傾向が異なるのは、高校生アンケートでは、対象校の抽出にあたって地域別のバランスを調整していることが理由である。

高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「ゆとりがある」では「中南部」（93.6%）の割合がやや高くなっている。

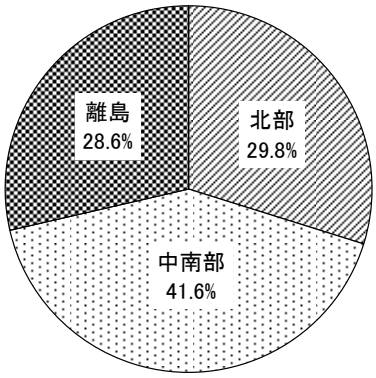
図表 III-116　卒業した学校の所在地域

[Web アンケート回答者]



(n=960)

[高校３年生（参考)]



(n=1,954)

図表 III-117　卒業した学校の所在地域（学校種別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	北部	中南部	離島	その他
全体		960	65	841	54	0
		100.0	6.8	87.6	5.7	0.0
学校種別	普通	754	48	670	35	0
		100.0	6.4	88.9	4.7	0.0
	専門	206	17	170	19	0
		100.0	8.1	82.8	9.2	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	71	2	66	3	0
		100.0	2.1	**93.6**	4.3	0.0
	ややゆとりがある	169	8	150	11	0
		100.0	4.5	88.8	6.7	0.0
	普通	322	27	279	16	0
		100.0	8.4	86.7	4.9	0.0
	やや苦しい	268	17	234	17	0
		100.0	6.5	87.4	6.2	0.0
	大変苦しい	130	11	111	8	0
		100.0	8.7	85.5	5.8	0.0

8) 兄弟姉妹の人数

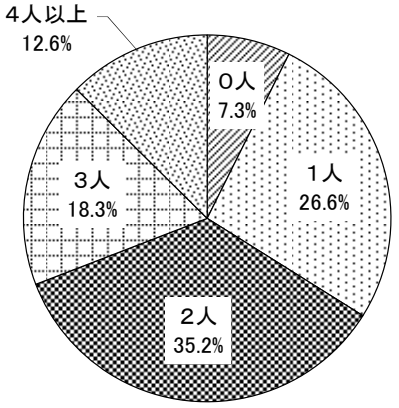
兄弟姉妹の人数で、最も割合が高いのは「２人」(35.2%) であり、次に「１人」(26.6%)「３人」(18.3%) が続く。現在の高校３年生の回答と比較すると、「４人以上」(12.6%) の割合がやや高くなっている。

学校種別にみると、専門高校では３人以上の割合が普通高校よりも高く、地域別では、離島で「４人以上」の割合が他地域を大幅に上回っている。

高校３年生当時の暮らし向き別では、「ゆとりがある」と「大変苦しい」で、「４人以上」の割合がやや高くなっている。

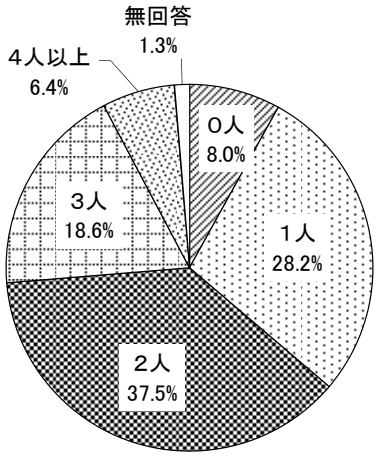
図表 III-118　兄弟姉妹の人数

[Web アンケート回答者]



(n=965)

[高校３年生（参考)]



(n=1,954)

図表 III-119　兄弟姉妹の人数（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	0人	1人	2人	3人	4人以上
全体		965	71	256	340	176	121
		100.0	7.3	26.6	35.2	18.3	12.6
学校種別	普通	754	57	210	280	127	80
		100.0	7.6	27.8	37.2	16.8	10.6
	専門	206	10	46	60	49	41
		100.0	4.8	22.3	***28.9***	**23.8**	**20.1**
地域別	北部	65	5	11	26	16	7
		100.0	7.0	***17.4***	**40.7**	**24.4**	10.5
	中南部	841	60	230	302	150	99
		100.0	7.2	27.4	35.9	17.8	11.7
	離島	54	2	14	12	10	16
		100.0	4.2	26.4	***22.2***	18.1	**29.2**
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	8	14	29	8	14
		100.0	10.4	***18.8***	**40.6**	***10.4***	**19.8**
	ややゆとりがある	169	11	47	73	23	15
		100.0	6.3	28.1	**43.3**	13.4	8.9
	普通	323	24	88	106	75	29
		100.0	7.5	27.3	32.9	**23.4**	8.9
	やや苦しい	271	13	81	92	50	35
		100.0	4.7	29.8	34.0	18.4	13.1
	大変苦しい	130	16	26	39	21	28
		100.0	12.1	***20.2***	***30.1***	16.2	**21.4**

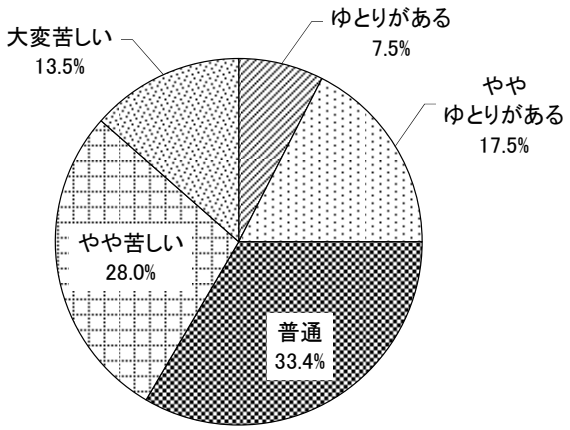
9) 高校３年生当時の経済的な面から見た暮らし向き

高校３年生当時の経済的な面からみた暮らし向きで、最も割合が高いのは「普通」（33.4%）だが、「やや苦しい」（28.0%）と「大変苦しい」（13.5%）と合わせると、約４割が「苦しい」と回答している。一方、現在の高校３年生では、「普通」の割合が高く、「苦しい」の割合は３割に満たない。

学校種別にみると、専門高校では「大変苦しい」（20.1%）の割合が普通高校よりもやや高く、地域別では、北部で「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」の割合が、他地域よりもやや低くなっている。

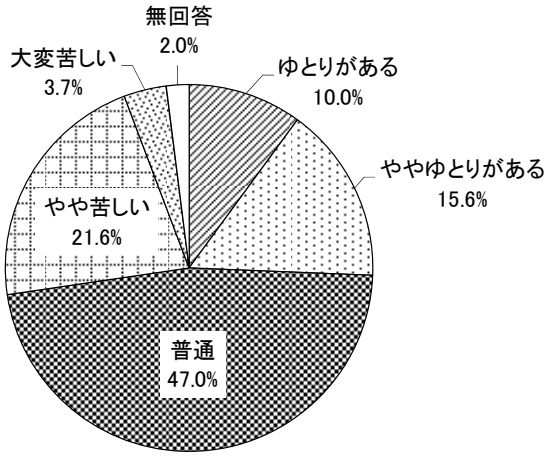
図表 III-120　高校3年生当時の経済的な面から見た暮らし向き

[Web アンケート回答者]



(n=965)

[高校３年生（参考）]



(n=1,954)

図表 III-121　高校3年生当時の経済的な面から見た暮らし向き（学校種別・高校所在地域別）

		サンプル数	ゆとりがある	ややゆとりがある	普通	やや苦しい	大変苦しい
全体		965	72	169	323	271	130
		100.0	7.5	17.5	33.4	28.0	13.5
学校種別	普通	754	57	149	252	209	88
		100.0	7.5	19.7	33.4	27.7	11.7
	専門	206	14	20	70	60	41
		100.0	7.0	*9.9*	34.1	28.9	**20.1**
地域別	北部	65	2	8	27	17	11
		100.0	*2.3*	*11.6*	**41.9**	26.7	17.4
	中南部	841	66	150	279	234	111
		100.0	7.9	17.8	33.2	27.9	13.2
	離島	54	3	11	16	17	8
		100.0	5.6	20.8	29.2	30.6	13.9

② 高等学校卒業後の進路について

1) 高校卒業後の実際の進路

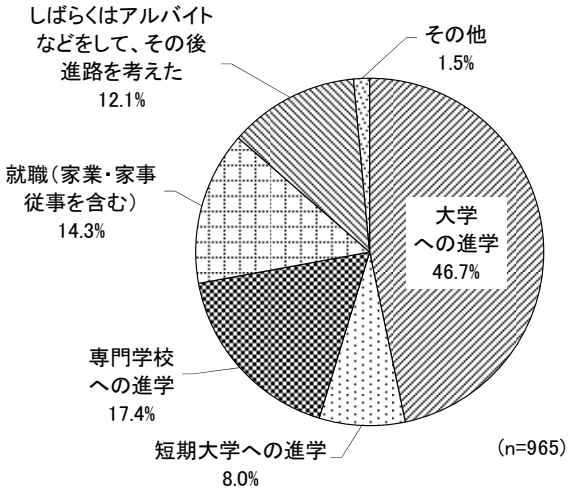
高校卒業後の実際の進路で最も割合が高いのは、「大学への進学」（46.7%）で、次に「専門学校への進学」（17.4%）、「就職（家業・家事従事を含む）」（14.3%）が続く。また、「しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考えた」（12.1%）も約１割を占める。

学校種別にみると、普通高校では「大学への進学」（52.7%）の割合が高いのに対し、専門高校では「就職（家業・家事従事を含む）」（26.0%）の割合が高い。

地域別では、北部で「専門学校への進学」（24.4%）が他地域よりもやや高く、離島では「就職（家業・家事従事を含む）」（20.8%）の割合がやや高い。

高校３年生当時の暮らし向き別では、「ゆとりがある」に近づくほど「大学への進学」の割合が高く、「大変苦しい」に近づくほど「就職（家業・家事従事を含む）」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-122 高校卒業後の実際の進路



図表 III-123 高校卒業後の実際の進路（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	大学への進学	短期大学への進学	専門学校への進学	就職（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考えた	その他
全体		965	451	77	168	138	117	14
		100.0	46.7	8.0	17.4	14.3	12.1	1.5
学校種別	普通	754	397	60	121	84	81	10
		100.0	52.7	7.9	16.1	11.2	10.8	1.3
	専門	206	51	17	46	54	33	5
		100.0	24.9	8.4	22.3	26.0	16.1	2.2
地域別	北部	65	21	8	16	11	8	2
		100.0	32.6	11.6	24.4	16.3	11.6	3.5
	中南部	841	406	65	139	116	102	12
		100.0	48.3	7.7	16.6	13.8	12.1	1.4
	離島	54	21	5	12	11	5	0
		100.0	38.9	8.3	22.2	20.8	9.7	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	48	3	10	6	4	2
		100.0	66.7	4.2	13.5	8.3	5.2	2.1
	ややゆとりがある	169	99	12	31	11	13	3
		100.0	58.5	7.1	18.3	6.7	7.6	1.8
	普通	323	151	29	65	40	35	4
		100.0	46.7	8.9	20.1	12.4	10.7	1.2
	やや苦しい	271	117	21	38	49	44	2
		100.0	43.2	7.8	13.9	18.1	16.2	0.8
	大変苦しい	130	36	12	25	32	22	4
		100.0	27.7	9.2	19.1	24.3	16.8	2.9

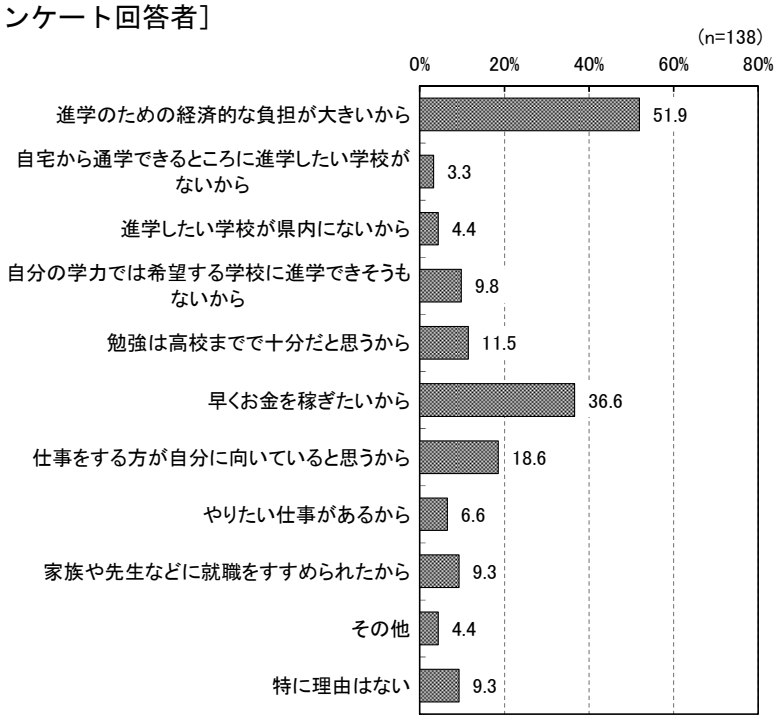
2) 就職した理由

就職した回答者の理由は、「進学のための経済的な負担が大きいから」（51.9%）の割合が圧倒的に高く、続く「早くお金を稼ぎたいから」(36.6%) と約 15 ポイントの差がある。

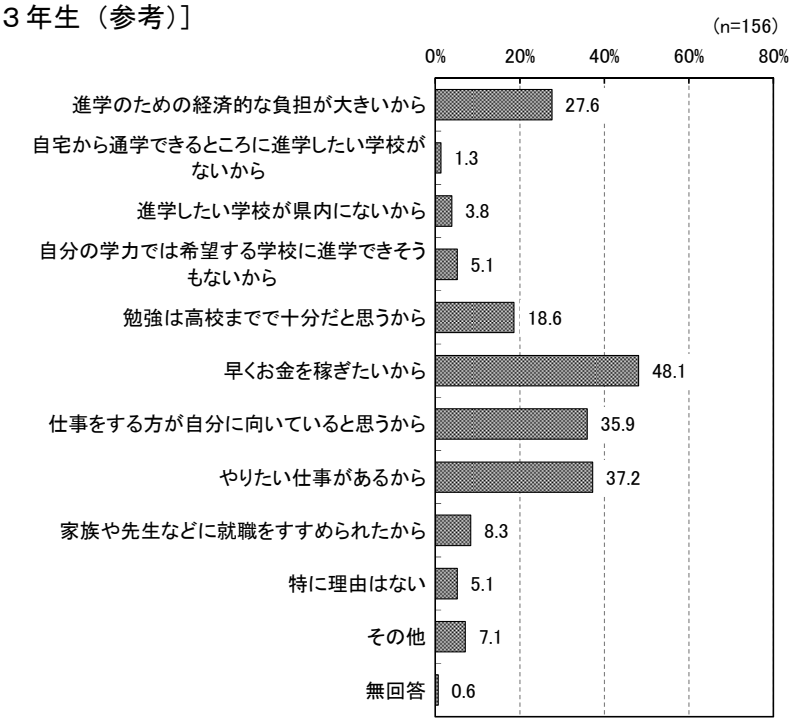
一方、現在の高校３年生は、経済的負担の大きさよりも「仕事をする方が自分に向いていると思うから」（35.9%）や「やりたい仕事があるから」（37.2%）の割合が高い。

図表 III-124　就職した理由

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考)]



図表 III-125 ［参考］就職した理由（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	進学のための経済的な負担が大きいから	自宅から通学できるところに進学したい学校がないから	進学したい学校が県内にないから	自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから	勉強は高校までで十分だと思うから	早くお金を稼ぎたいから	仕事をする方が自分に向いていると思うから	やりたい仕事があるから	家族や先生などに就職をすすめられたから	その他	特に理由はない
全体		138	72	5	6	14	16	51	26	9	13	6	13
		100.0	51.9	3.3	4.4	9.8	11.5	36.6	18.6	6.6	9.3	4.4	9.3
学校種別	普通	84	41	5	2	6	9	31	11	8	11	3	11
		100.0	49.1	5.4	2.7	7.1	10.7	36.6	13.4	8.9	13.4	3.6	12.5
	専門	54	30	0	4	8	7	20	14	2	2	3	2
		100.0	56.3	0.0	7.0	14.1	12.7	36.6	26.8	2.8	2.8	5.6	4.2
地域別	北部	11	8	0	0	2	1	3	1	2	1	1	2
		100.0	71.4	0.0	0.0	14.3	7.1	28.6	7.1	14.3	7.1	7.1	14.3
	中南部	116	60	5	6	11	12	44	22	7	10	5	10
		100.0	51.3	3.9	5.2	9.1	10.4	37.7	18.8	5.8	8.4	4.5	8.4
	離島	11	5	0	0	2	3	4	3	1	2	0	2
		100.0	40.0	0.0	0.0	13.3	26.7	33.3	26.7	6.7	20.0	0.0	13.3
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	6	2	0	2	2	0	0	2	0	1	0	1
		100.0	37.5	0.0	25.0	37.5	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	12.5
	ややゆとりがある	11	3	2	0	2	2	5	5	2	0	0	1
		100.0	26.7	13.3	0.0	13.3	13.3	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	6.7
	普通	40	14	1	1	2	8	13	10	2	2	2	5
		100.0	34.0	1.9	1.9	3.8	18.9	32.1	24.5	3.8	5.7	3.8	13.2
	やや苦しい	49	33	2	3	5	5	23	9	2	5	2	4
		100.0	67.7	3.1	6.2	10.8	10.8	47.7	18.5	4.6	9.2	3.1	7.7
	大変苦しい	32	20	1	1	3	2	10	1	3	5	3	2
		100.0	61.9	2.4	2.4	9.5	4.8	31.0	2.4	9.5	16.7	9.5	7.1

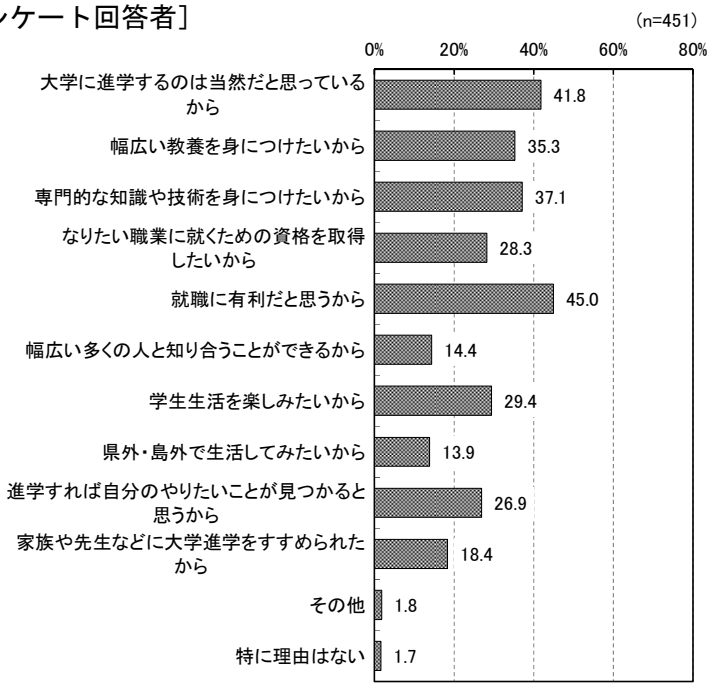
3) 大学へ進学した理由

大学に進学した回答者の理由で最も割合が高いのは、「就職に有利だと思うから」（45.0%）で、次に「大学に進学するのは当然だと思っているから」（41.8%）が続く。

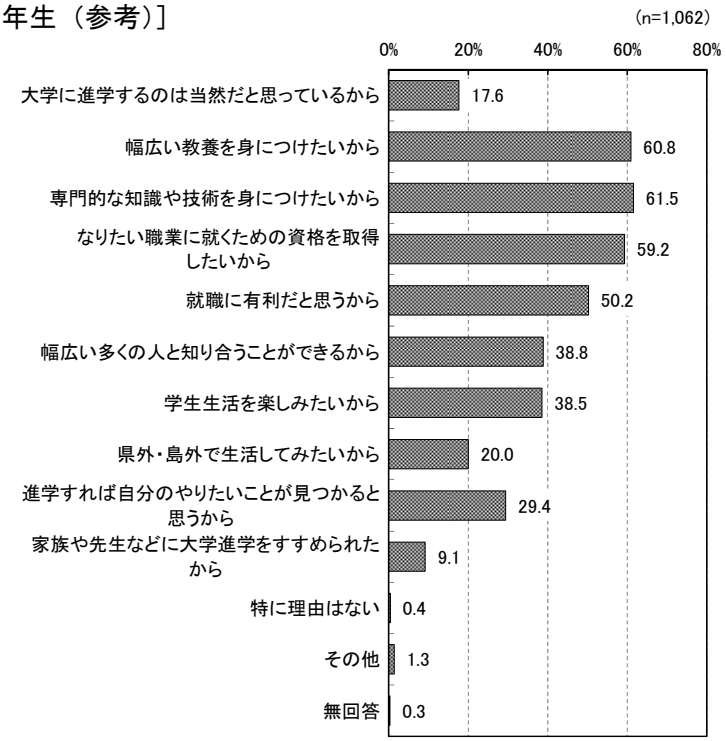
一方、現在の高校３年生では、「大学に進学するのは当然だと思っているから」の割合は２割に満たず、反対に、Web アンケート回答者では割合が低い「幅広い教養を身につけたいから」や「専門的な技術を身につけたいから」「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」「幅広い多くの人と知り合うことができるから」等の割合が高くなっている。

図表 III-126 大学へ進学した理由

［Web アンケート回答者］



［高校３年生（参考）］



学校種別にみると、専門高校では「専門的な知識や技術を身につけたいから」（45.6%）や「家族や先生などに大学進学をすすめられたから」（25.0%）の割合が普通高校よりもやや高いのに対し、「大学に進学するのは当然だと思っているから」（22.1%）や「就職に有利だと思うから」（33.8%）等の割合は、普通高校よりも低くなっている。

高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「ゆとりがある」に近づくほど「大学に進学するのは当然だと思っているから」の割合が高くなっている。

図表 III-127　大学へ進学した理由（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	大学に進学するのは当然だと思っているから	幅広い教養を身につけたいから	専門的な知識や技術を身につけたいから	なりたい職業に就くための資格を取得したいから	就職に有利だと思うから	幅広い多くの人と知り合うことができるから	学生生活を楽しみたいから	県外・島外で生活してみたいから	進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから	家族や先生などに大学進学をすすめられたから	その他	特に理由はない
全体		451	188	159	167	127	203	65	133	63	121	83	8	8
		100.0	41.8	35.3	37.1	28.3	45.0	14.4	29.4	13.9	26.9	18.4	1.8	1.7
学校種別	普通	397	175	143	144	112	185	57	119	58	110	70	8	7
		100.0	44.0	36.1	36.2	28.1	46.7	14.4	30.0	14.6	27.7	17.6	2.1	1.7
	専門	51	11	16	23	15	17	8	14	5	11	13	0	1
		100.0	22.1	30.9	45.6	29.4	33.8	14.7	26.5	8.8	22.1	25.0	0.0	1.5
地域別	北部	21	4	11	11	7	8	4	5	3	5	5	0	1
		100.0	17.9	50.0	50.0	32.1	35.7	17.9	21.4	14.3	25.0	25.0	0.0	3.6
	中南部	406	175	141	146	111	190	60	121	53	111	74	8	6
		100.0	43.0	34.7	36.0	27.3	46.8	14.7	29.7	13.0	27.3	18.2	2.0	1.5
	離島	21	8	8	11	9	5	2	8	7	5	4	0	1
		100.0	35.7	35.7	50.0	42.9	25.0	7.1	35.7	32.1	25.0	17.9	0.0	3.6
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	48	32	14	18	17	20	10	17	11	12	9	2	0
		100.0	65.6	29.7	37.5	35.9	42.2	20.3	35.9	23.4	25.0	18.8	3.1	0.0
	ややゆとりがある	99	50	41	41	25	32	14	20	17	20	17	2	0
		100.0	50.4	42.0	42.0	25.2	32.1	13.7	19.8	16.8	20.6	16.8	1.5	0.0
	普通	151	64	55	48	41	70	21	42	17	47	31	2	5
		100.0	42.5	36.5	32.0	27.0	46.5	14.0	28.0	11.5	31.5	20.5	1.0	3.0
	やや苦しい	117	38	32	45	32	66	17	43	11	33	22	2	2
		100.0	32.9	27.1	38.7	27.1	56.1	14.8	36.8	9.7	28.4	18.7	1.9	1.9
	大変苦しい	36	5	17	14	13	15	3	11	6	8	5	2	1
		100.0	12.5	45.8	39.6	35.4	41.7	8.3	29.2	16.7	22.9	12.5	4.2	2.1

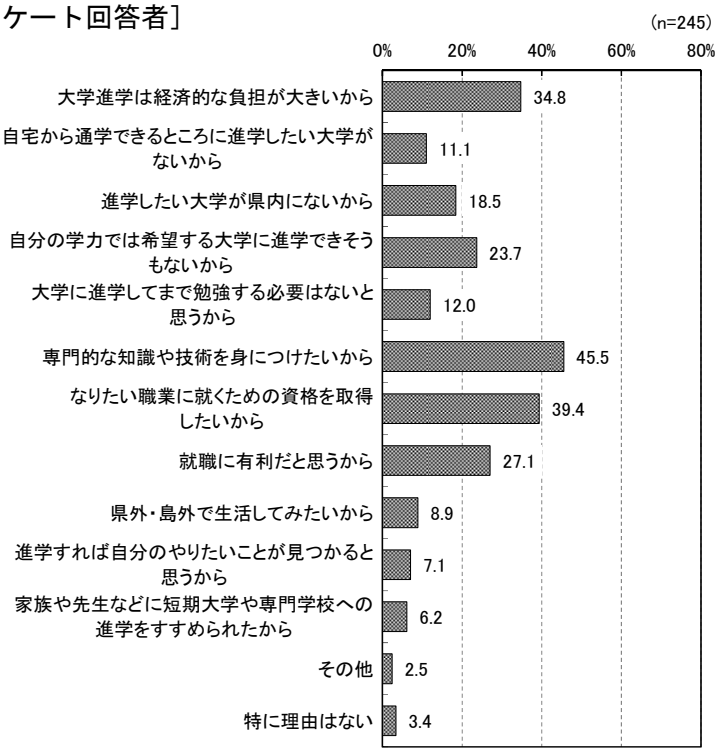
4) 短期大学・専門学校へ進学した理由

短期大学・専門学校へ進学した理由で最も割合が高いのは、「専門的な知識や技術を身につけたいから」（45.5%）であり、次に「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」（39.4%）、「大学進学は経済的な負担が大きいから」（34.8%）が続く。

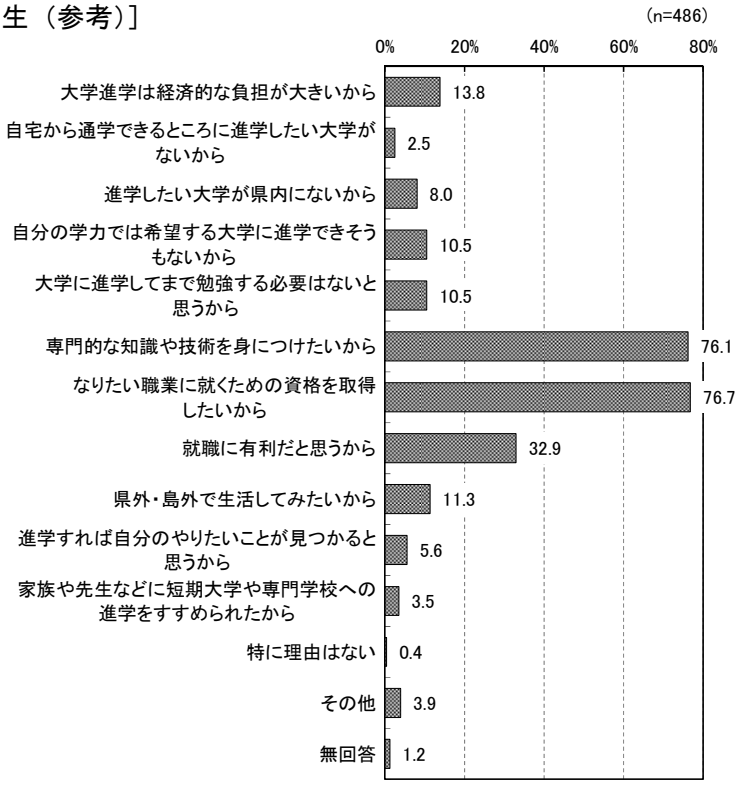
一方、現在の高校３年生では、「専門的な知識や技術を身につけたいから」と「なりたい職業に就くための資格を取得したいから」が突出しており、「大学進学は経済的な負担が大きいから」の割合は低い。

図表 III-128 短期大学・専門学校へ進学した理由

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考）]



図表 III-129 ［参考］短期大学・専門学校へ進学した理由
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	大学進学は経済的な負担が大きいから	自宅から通学できるところに進学したい大学がないから	進学したい大学が県内にないから	自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから	大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから	専門的な知識や技術を身につけたいから	なりたい職業に就くための資格を取得したいから	就職に有利だと思うから	県外・島外で生活してみたいから	進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから	家族や先生などに短期大学や専門学校への進学をすすめられたから	その他	特に理由はない
全体		245	85	27	45	58	29	112	97	66	22	17	15	6	8
		100.0	34.8	11.1	18.5	23.7	12.0	45.5	39.4	27.1	8.9	7.1	6.2	2.5	3.4
学校種別	普通	181	60	20	35	44	20	81	68	46	14	14	12	5	3
		100.0	33.3	10.8	19.6	24.6	10.8	45.0	37.5	25.4	7.9	7.5	6.7	2.5	1.7
	専門	63	25	8	10	14	10	29	28	20	8	3	3	2	5
		100.0	39.3	11.9	15.5	21.4	15.5	46.4	44.0	31.0	11.9	4.8	4.8	2.4	8.3
地域別	北部	23	9	1	5	5	2	11	14	8	4	3	0	2	0
		100.0	38.7	*3.2*	22.6	22.6	*6.5*	48.4	**58.1**	**32.3**	**16.1**	**12.9**	*0.0*	6.5	0.0
	中南部	204	73	25	38	47	26	93	77	54	17	14	14	5	7
		100.0	35.8	12.2	18.5	23.2	12.5	45.8	37.6	26.6	8.1	6.6	6.6	2.2	3.3
	離島	17	3	2	2	5	2	6	5	4	2	0	2	0	2
		100.0	*18.2*	9.1	13.6	**31.8**	13.6	*36.4*	*31.8*	22.7	9.1	*0.0*	9.1	0.0	**9.1**
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	13	2	0	2	2	3	8	5	3	3	3	1	1	1
		100.0	*11.8*	*0.0*	*11.8*	*17.6*	**23.5**	**64.7**	41.2	23.5	**23.5**	**23.5**	5.9	5.9	5.9
	ややゆとりがある	43	12	10	11	13	7	15	20	15	5	1	2	0	2
		100.0	*28.1*	**22.8**	**26.3**	**29.8**	15.8	*35.1*	**45.6**	**35.1**	12.3	*1.8*	3.5	0.0	3.5
	普通	93	23	5	14	19	10	42	34	17	8	3	2	2	5
		100.0	*24.2*	*4.8*	15.3	20.2	10.5	45.2	36.3	*18.5*	8.9	3.2	2.4	2.4	5.6
	やや苦しい	59	26	5	8	17	7	28	22	14	5	7	6	0	1
		100.0	**44.9**	7.7	*12.8*	**29.5**	11.5	47.4	37.2	24.4	7.7	11.5	10.3	0.0	1.3
	大変苦しい	37	23	8	11	7	3	18	16	17	1	4	5	3	0
		100.0	**61.2**	**22.4**	**28.6**	*18.4*	8.2	49.0	42.9	**44.9**	*2.0*	10.2	**12.2**	**8.2**	0.0

5) 実際の進路で学んでいる（学んでいた）分野

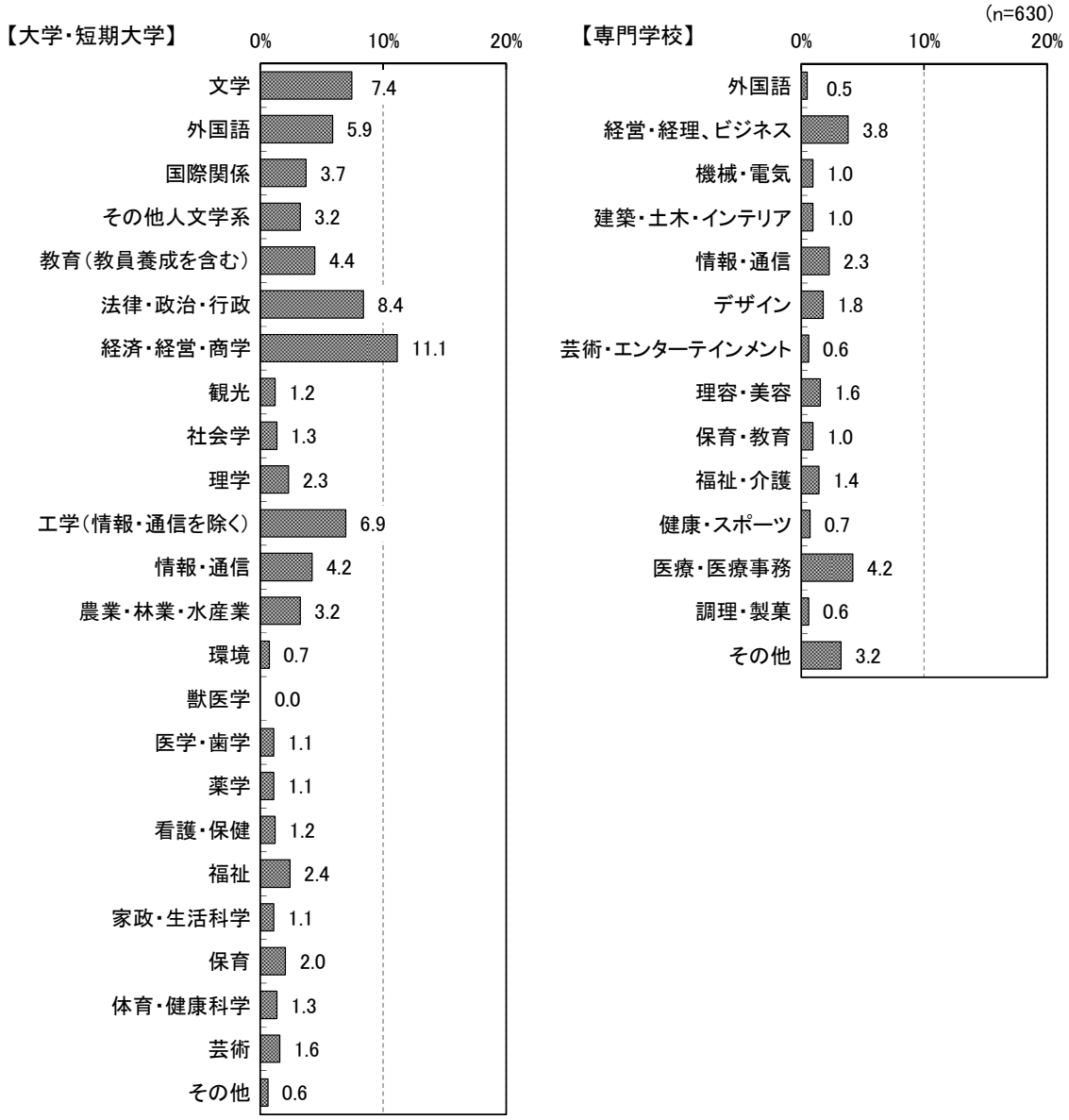
大学・短期大学・専門学校に進学した回答者が学んでいる（学んでいた分野）を尋ねた。

大学・短期大学では、「経済・経営・商学」（11.1%）の割合が最も高く、次に「法律・政治・行政」（8.4%）、「文学」（7.4%）、「工学（情報・通信を除く）」（6.9%）が続く。

専門学校では「医療・医療事務」（4.2%）の割合が最も高く、次に「経営・経理、ビジネス」（3.8%）が続く。

なお、現在の高校３年生が予定の進学先で学びたい分野の上位は、大学・短期大学では「外国語」「経済・経営・商学」「国際関係」「教育（教員養成を含む）」「看護・保健」、専門学校等では「医療・医療事務」である。

図表 III-130 実際の進路で学んでいる（学んでいた）分野



（注）高校卒業後の「実際の進路」で進学（大学、短大、専門学校）、「希望の進路」で進学以外（就職等）を選択した回答者は、この設問に回答していない。

図表 III-131 ［参考］実際の進路で学んでいる（学んでいた）分野
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

【大学・短期大学】

		サンプル数	文学	外国語	国際関係	その他人文学系	教育（教員養成を含む）	法律・政治・行政	経済・経営・商学	観光	社会学	理学	工学（情報・通信を除く）	情報・通信	農業・林業・水産業	環境	獣医学	医学・歯学	薬学	看護・保健	福祉	家政・生活科学	保育	体育・健康科学	芸術	その他
全体		630	47	37	23	20	28	53	70	8	8	14	44	26	20	5	0	7	7	8	15	7	13	8	10	4
		100.0	7.4	5.9	3.7	3.2	4.4	8.4	11.1	1.2	1.3	2.3	6.9	4.2	3.2	0.7	0.0	1.1	1.1	1.2	2.4	1.1	2.0	1.3	1.6	0.6
学校種別	普通	527	40	35	20	17	25	47	59	7	8	14	39	20	14	5	0	7	7	7	14	5	8	8	9	4
		100.0	7.6	6.7	3.9	3.3	4.7	9.0	11.2	1.3	1.6	2.7	7.4	3.7	2.7	0.9	0.0	1.3	1.3	1.3	2.6	0.9	1.6	1.4	1.7	0.7
	専門	100	5	2	3	3	2	5	11	1	0	0	5	7	6	0	0	0	0	1	2	2	5	1	1	0
		100.0	5.3	1.5	3.0	3.0	2.3	5.3	11.4	0.8	0.0	0.0	4.5	6.8	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.5	2.3	4.5	0.8	0.8	0.0
地域別	北部	39	2	2	2	2	2	2	4	0	0	2	2	2	2	0	0	0	1	1	0	1	2	0	0	0
		100.0	3.8	3.8	3.8	3.8	5.8	3.8	9.6	0.0	0.0	3.8	3.8	3.8	5.8	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9	0.0	1.9	3.8	0.0	0.0	0.0
	中南部	553	41	35	21	17	23	49	63	6	8	13	39	25	17	5	0	6	5	7	14	5	11	8	10	4
		100.0	7.5	6.4	3.8	3.1	4.1	8.9	11.4	1.1	1.4	2.3	7.1	4.5	3.0	0.8	0.0	1.1	0.8	1.2	2.6	1.0	1.9	1.4	1.8	0.7
	離島	34	2	0	1	2	2	2	3	2	1	0	3	0	2	0	0	1	2	0	1	1	1	1	0	0
		100.0	6.7	***0.0***	2.2	4.4	6.7	6.7	8.9	4.4	2.2	0.0	8.9	0.0	4.4	0.0	0.0	2.2	4.4	0.0	2.2	2.2	2.2	2.2	0.0	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	56	5	5	3	3	3	5	5	1	4	0	5	0	2	1	0	1	2	1	0	0	1	0	3	0
		100.0	9.5	8.1	5.4	5.4	5.4	9.5	8.1	1.4	**6.8**	0.0	8.1	0.0	4.1	1.4	0.0	1.4	2.7	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	5.4	0.0
	ややゆとりがある	126	10	8	6	2	9	17	8	0	2	5	5	8	2	2	0	2	2	2	2	2	2	1	2	1
		100.0	7.8	6.6	4.8	1.8	7.2	13.2	6.6	0.0	1.2	4.2	4.2	6.6	1.8	1.2	0.0	1.8	1.8	1.8	1.2	1.2	1.8	0.6	1.2	0.6
	普通	222	13	12	7	5	14	17	24	2	2	7	15	8	10	2	0	2	2	2	5	2	4	4	4	2
		100.0	5.8	5.4	3.1	2.4	6.1	7.5	10.9	1.0	0.7	3.1	6.8	3.7	4.4	0.7	0.0	0.7	1.0	1.0	2.0	1.0	1.7	1.7	1.7	1.0
	やや苦しい	164	15	8	7	5	2	10	25	2	2	2	17	8	5	1	0	2	1	2	7	2	3	4	1	1
		100.0	9.2	5.0	4.1	3.2	0.9	6.0	15.1	1.4	0.9	1.4	10.6	4.6	3.2	0.5	0.0	0.9	0.5	1.4	4.1	1.4	1.8	2.3	0.5	0.5
	大変苦しい	62	4	4	1	5	1	5	8	2	0	0	2	2	1	0	0	1	0	0	2	1	3	0	1	0
		100.0	6.1	6.1	1.2	7.3	1.2	7.3	13.4	3.7	0.0	0.0	2.4	3.7	1.2	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	3.7	1.2	4.9	0.0	1.2	0.0

【専門学校】

		サンプル数	外国語	経営・経理、ビジネス	機械・電気	建築・土木・インテリア	情報・通信	デザイン	芸術・エンターテインメント	理容・美容	保育・教育	福祉・介護	健康・スポーツ	医療・医療事務	調理・製菓	その他
全体		630	3	24	6	6	14	11	4	10	6	9	5	26	4	20
		100.0	0.5	3.8	1.0	1.0	2.3	1.8	0.6	1.6	1.0	1.4	0.7	4.2	0.6	3.2
学校種別	普通	527	2	20	5	5	11	6	3	5	5	6	5	17	2	17
		100.0	0.4	3.7	0.9	1.0	2.0	1.1	0.6	1.0	1.0	1.1	0.9	3.3	0.4	3.1
	専門	100	1	5	2	1	4	5	1	4	1	3	0	9	2	4
		100.0	0.8	4.5	1.5	0.8	3.8	5.3	0.8	3.8	0.8	3.0	0.0	9.1	1.5	3.8
地域別	北部	39	1	1	0	2	0	2	0	1	0	2	1	5	0	3
		100.0	1.9	1.9	0.0	3.8	0.0	3.8	0.0	1.9	0.0	3.8	1.9	**11.5**	0.0	7.7
	中南部	553	2	23	6	3	13	8	4	8	6	8	4	21	2	16
		100.0	0.4	4.2	1.1	0.5	2.3	1.4	0.7	1.4	1.1	1.4	0.7	3.8	0.4	2.9
	離島	34	0	0	0	2	2	2	0	1	0	0	0	1	2	2
		100.0	0.0	0.0	0.0	4.4	4.4	6.7	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	2.2	4.4	4.4
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	56	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	2	2	0	1
		100.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	2.7	0.0	0.0	4.1	4.1	0.0	1.4
	ややゆとりがある	126	1	5	2	0	5	4	0	0	2	1	0	3	0	5
		100.0	0.6	4.2	1.2	0.0	3.6	3.0	0.0	0.0	1.2	0.6	0.0	2.4	0.0	4.2
	普通	222	2	8	3	2	5	5	3	4	2	3	2	13	2	5
		100.0	0.7	3.7	1.4	1.0	2.0	2.0	1.4	1.7	1.0	1.4	1.0	5.8	1.0	2.4
	やや苦しい	164	1	7	0	2	3	2	0	5	1	4	0	6	1	4
		100.0	0.5	4.1	0.0	1.4	1.8	0.9	0.0	2.8	0.5	2.3	0.0	3.7	0.5	2.3
	大変苦しい	62	0	3	2	2	2	2	0	0	2	2	0	2	1	5
		100.0	0.0	4.9	2.4	2.4	3.7	2.4	0.0	0.0	2.4	2.4	0.0	3.7	1.2	**8.5**

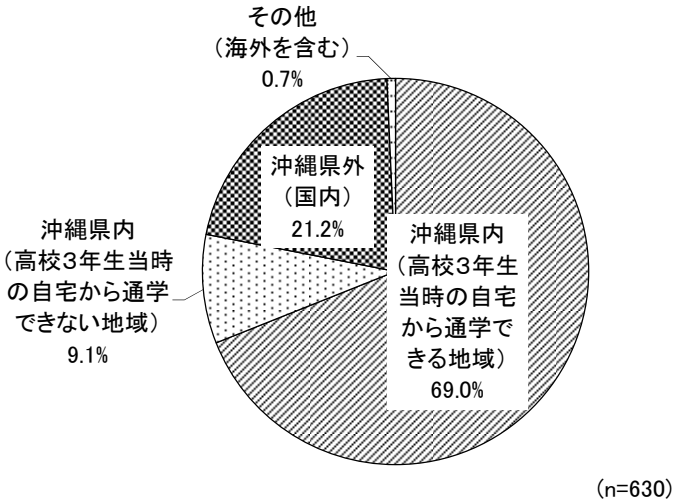
6) 実際に進学した学校の所在地域

実際に進学した学校の所在地域は、「沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できる地域)」（69.0%）が約７割を占め、次いで「沖縄県外（国内)」（21.2%）が多く、「沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できない地域」（9.1%）は１割に満たない。

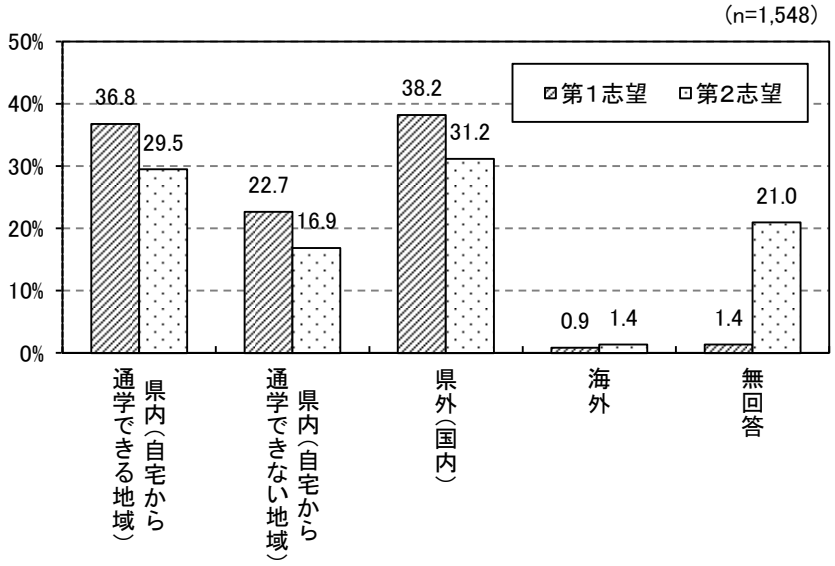
一方、現在の高校３年生では、「県内（自宅から通学できる地域)」の割合は、第１志望が約４割、第２志望が約３割で、Web アンケート回答者とは大きな差がある。

図表 III-132 実際に進学した学校の所在地域

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考)]



(注)高校卒業後の「実際の進路」で進学(大学、短大、専門学校)、「希望の進路」で進学以外(就職等)を選択した回答者は、この設問に回答していない。

学校種別にみると、専門高校では「沖縄県外（国内）」（13.6%）の割合が普通高校より低く、また高校３年生当時の暮らし向き別では、「大変苦しい」に近いほど「沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できる地域）」の割合が高く、「ゆとりがある」に近いほど「沖縄県外（国内）」の割合が高い傾向がみられる。

図表 III-133 実際の進路の学校の所在地域（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できる地域）	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できない地域）	沖縄県外（国内）	その他（海外を含む）
全体		630	434	57	133	5
		100.0	69.0	9.1	21.2	0.7
学校種別	普通	527	362	42	119	4
		100.0	68.7	8.0	22.6	0.7
	専門	100	70	15	14	1
		100.0	70.5	15.2	*13.6*	0.8
地域別	北部	39	21	10	8	0
		100.0	*53.8*	25.0	21.2	0.0
	中南部	553	404	33	112	5
		100.0	73.0	6.0	20.2	0.8
	離島	34	7	14	13	0
		100.0	*20.0*	42.2	37.8	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	56	32	7	17	0
		100.0	*58.1*	12.2	29.7	0.0
	ややゆとりがある	126	81	11	31	2
		100.0	64.7	9.0	24.6	1.8
	普通	222	165	12	42	2
		100.0	74.5	5.4	19.0	1.0
	やや苦しい	164	106	23	35	0
		100.0	64.7	14.2	21.1	0.0
	大変苦しい	62	49	4	9	0
		100.0	79.3	6.1	*14.6*	0.0

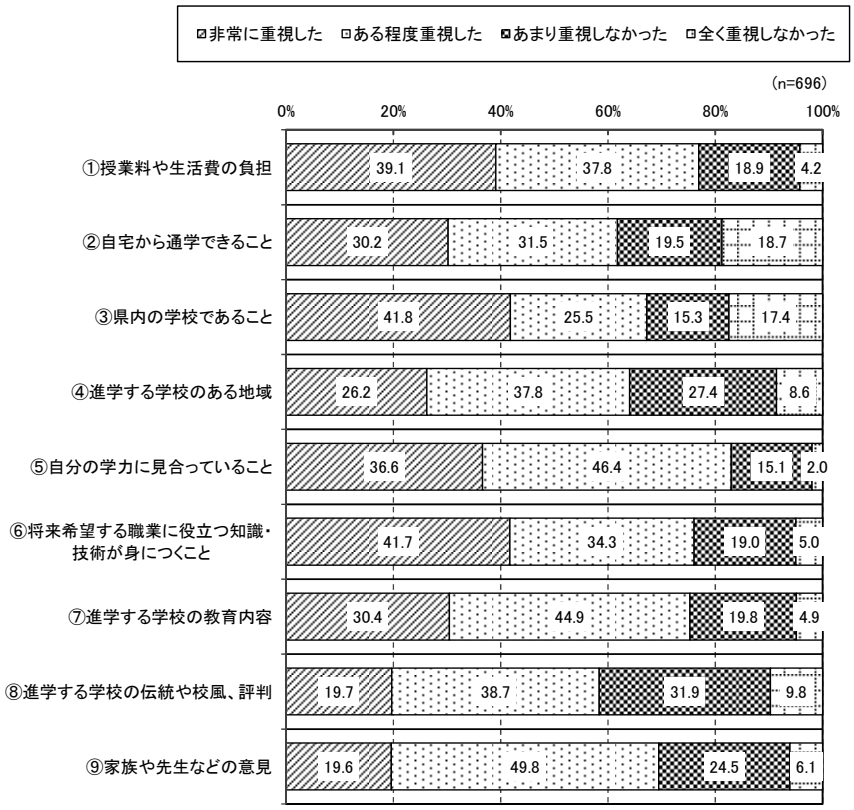
7) 進学する学校を決める際に重視したこと

進学する学校を決める際に重視したことのうち、「重視する」（「非常に重視する」＋「ある程度重視する」の合計）の割合が高い項目は、「⑤自分の学力に見合っていること」（83.0%）、「①授業料や生活費の負担」（76.9%）、「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」（76.0%）であり、現在の高校３年生の上位（「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」、「⑦進学する学校の教育内容」、「①授業料や生活費の負担」）とは若干の違いがある。

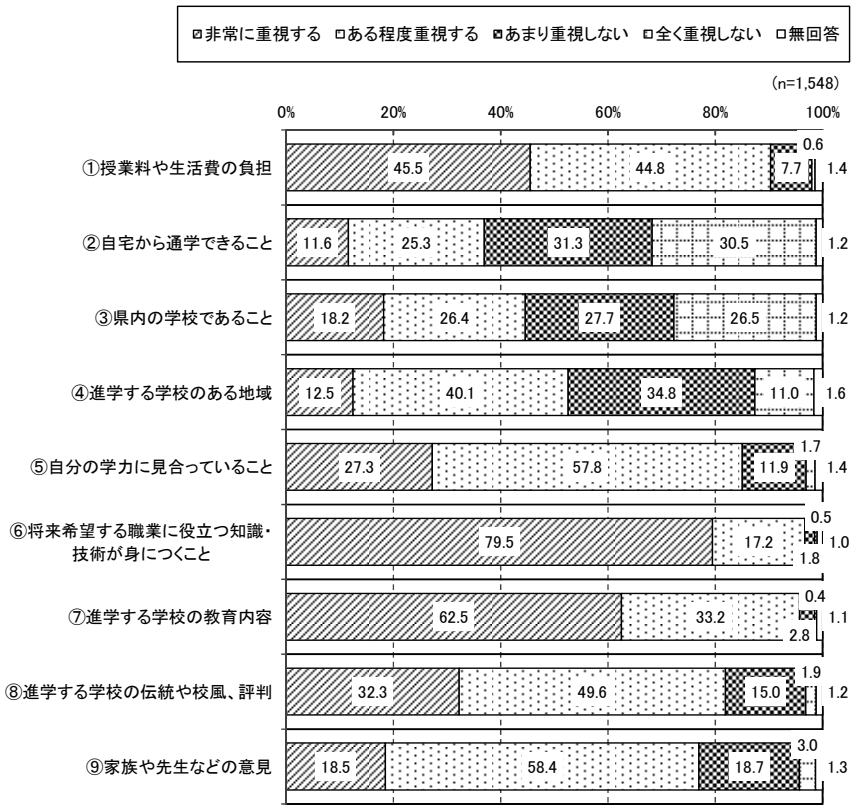
また、「非常に重視する」だけを見ると、上位は「③県内の学校であること」（41.8%）、「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」（41.7%）、「①授業料や生活費の負担」（39.1%）であり、現在の高校３年生の上位（「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」（79.5%）、「⑦進学する学校の教育内容」（62.5%）、「①授業料や生活費の負担」（45.5%））とは、順位も割合も大きく異なっている。

図表 III-134　進学する学校を決める際に重視したこと

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考）]



学校種別にみると、専門高校では、「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」（84.2%）、「⑦進学する学校の教育内容」（83.6%）、「⑧進学する学校の伝統や校風、評判」（63.8%）の割合が普通高校よりもやや高い。

高校３年生当時の暮らし向き別では、「大変苦しい」に近づくほど、「①授業料や生活費の負担」「②自宅から通学できること」「③県内の学校であること」の割合が高い傾向がみられる。また、「大変苦しい」では、「⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと」と「⑦進学する学校の教育内容」の割合が高くなっている。

図表 III-135　進学する学校を決める際に重視したこと
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	①授業料や生活費の負担	②自宅から通学できること	③県内の学校であること	④進学する学校のある地域	⑤自分の学力に見合っていること	⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと	⑦進学する学校の教育内容	⑧進学する学校の伝統や校風、評判	⑨家族や先生などの意見
全体		696	535	430	468	446	577	529	524	406	483
		100.0	76.9	61.8	67.3	64.0	83.0	76.1	75.3	58.4	69.4
学校種別	普通	578	442	360	385	375	484	430	425	330	395
		100.0	76.4	62.3	66.6	64.8	83.7	74.3	73.5	57.1	68.3
	専門	115	91	66	80	68	90	97	96	73	85
		100.0	79.6	57.9	69.7	59.2	78.9	**84.2**	**83.6**	**63.8**	74.3
地域別	北部	44	35	22	28	26	38	37	33	24	33
		100.0	79.7	***49.2***	62.7	59.3	84.7	**83.1**	74.6	54.2	**74.6**
	中南部	611	472	397	421	400	508	455	458	360	420
		100.0	77.3	64.9	68.9	65.6	83.2	74.4	74.9	58.9	68.8
	離島	38	26	8	17	16	29	35	30	20	27
		100.0	***68.0***	***22.0***	***44.0***	***42.0***	***76.0***	**92.0**	80.0	***52.0***	72.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	61	38	29	30	42	51	45	49	38	45
		100.0	***63.0***	***46.9***	***49.4***	**69.1**	84.0	74.1	80.2	63.0	74.1
	ややゆとりがある	142	95	85	94	101	124	112	109	93	106
		100.0	***67.0***	60.1	66.5	**71.3**	87.2	78.7	77.1	**65.4**	**75.0**
	普通	244	187	148	158	145	204	182	172	133	167
		100.0	76.5	60.5	64.8	59.3	83.3	74.4	70.4	54.6	68.2
	やや苦しい	176	149	114	130	114	142	127	130	93	115
		100.0	**84.5**	64.8	**73.8**	64.8	80.7	72.5	74.2	***52.8***	65.7
	大変苦しい	73	66	54	56	44	57	63	63	49	50
		100.0	**90.7**	**74.2**	**76.3**	59.8	78.4	**86.6**	**86.6**	**67.0**	68.0

（注）「非常に重視する」と「ある程度重視する」の合計。なお、構成比は、「非常に重視する」と「ある程度重視する」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「非常に重視する」と「ある程度重視する」の合計とは一致しないものがある。

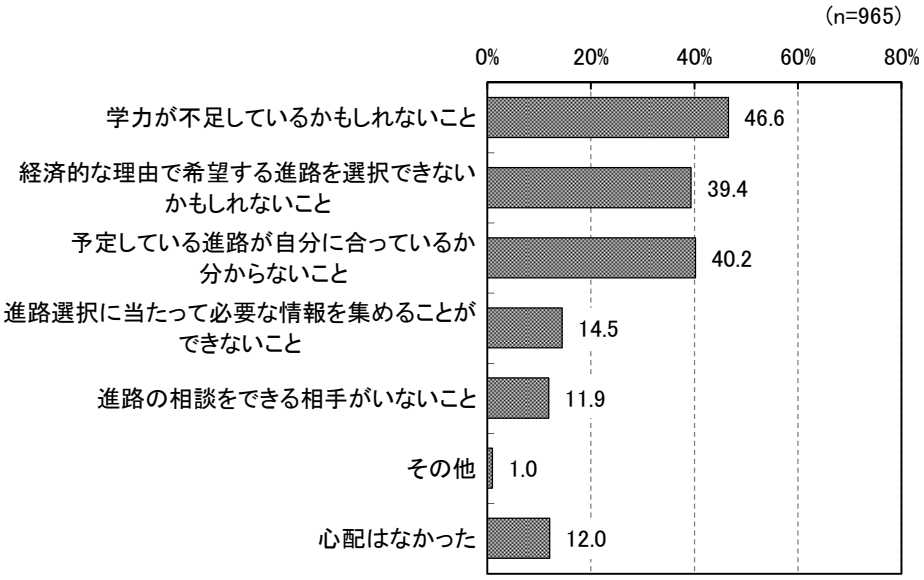
8) 進路を選択する際の心配ごと

進路を選択する際の心配ごとで、最も割合が高いのは「学力が不足しているかもしれないこと」（46.6%）で、次に「予定している進路が自分に合っているか分からないこと」（40.2%）、「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」（39.4%）が続く。

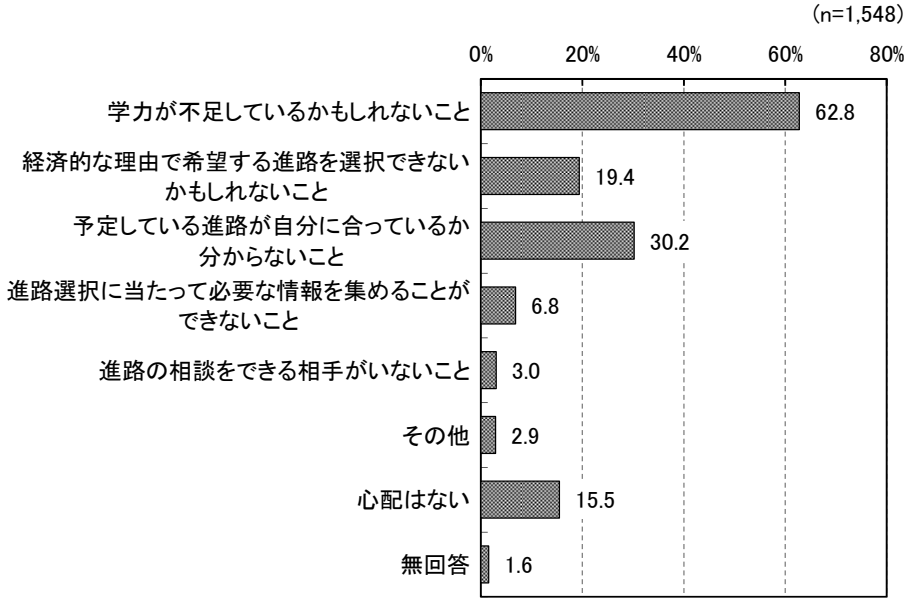
現在の高校３年生と比較すると、「学力が不足しているかもしれないこと」以外の項目では、全般的に Web アンケート回答者のほうが高い割合を示しているが、特に差が大きいのは、「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」で、約 20 ポイントの差がある。

図表 III-136　進路を選択する際の心配ごと

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考）]



高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「ゆとりがある」に近づくほど「学力が不足しているかもしれないこと」の割合が高く、また、「やや苦しい」と「大変苦しい」では、「経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと」の割合が高くなっている。

図表 III-137　進路を選択する際の心配ごと（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

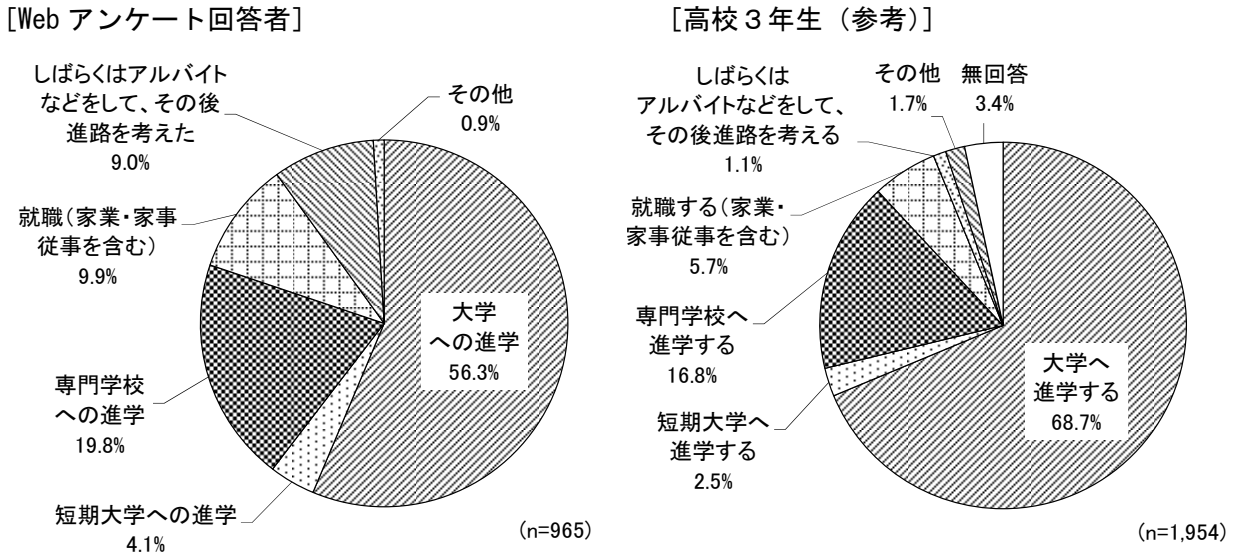
		サンプル数	学力が不足しているかもしれないこと	経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと	予定している進路が自分に合っているか分からないこと	進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと	進路の相談をできる相手がいないこと	その他	心配はなかった
全体		965	449	380	388	139	115	10	116
		100.0	46.6	39.4	40.2	14.5	11.9	1.0	12.0
学校種別	普通	754	348	293	308	109	90	7	83
		100.0	46.2	38.8	40.8	14.5	12.0	0.9	11.0
	専門	206	99	87	80	30	24	3	31
		100.0	48.0	42.1	38.8	14.7	11.7	1.5	15.0
地域別	北部	65	31	27	27	12	11	0	9
		100.0	47.7	41.9	41.9	18.6	16.3	0.0	14.0
	中南部	841	396	333	336	119	97	9	95
		100.0	47.1	39.6	40.0	14.2	11.5	1.1	11.3
	離島	54	20	19	24	8	8	1	10
		100.0	*37.5*	34.7	44.4	15.3	13.9	1.4	18.1
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	38	15	29	14	6	4	11
		100.0	52.1	*20.8*	39.6	18.8	8.3	5.2	14.6
	ややゆとりがある	169	84	49	81	23	20	1	20
		100.0	50.0	*29.0*	48.2	13.4	11.6	0.4	12.1
	普通	323	153	72	131	44	29	0	54
		100.0	47.4	*22.2*	40.7	13.6	8.9	0.0	16.8
	やや苦しい	271	128	155	107	38	41	3	19
		100.0	47.4	57.1	39.6	14.2	15.3	1.1	*7.0*
	大変苦しい	130	46	90	40	21	19	2	12
		100.0	*35.3*	68.8	*30.6*	16.2	14.5	1.7	9.2

9) 全く心配ごとがない場合の希望の進路

全く心配ごとがなく、自由に進路を選べるとした場合の希望の進路は、「大学への進学」（56.3%）の割合が最も高く、次いで「専門学校への進学」（19.8%）、「就職（家業・家事従事を含む）」（9.9%）が続く。

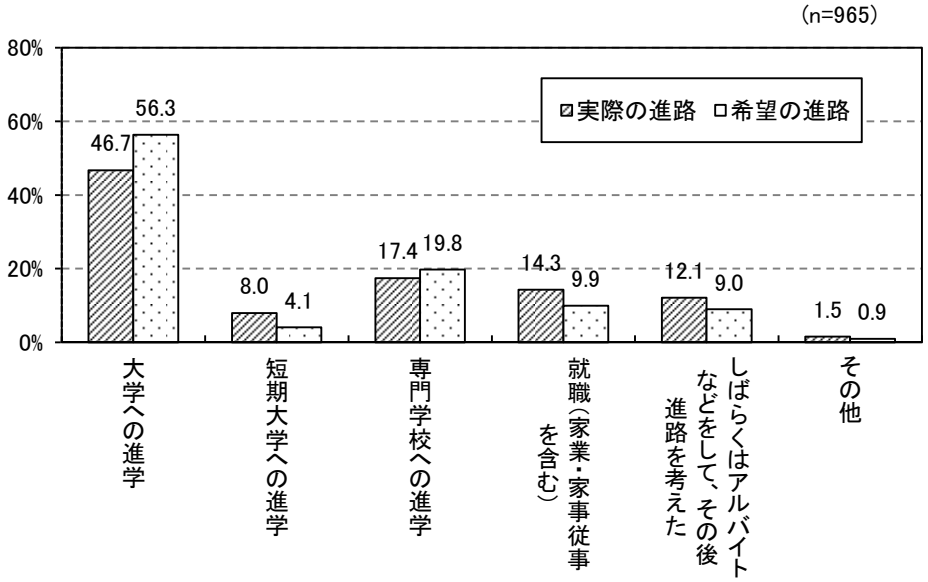
現在の高校３年生と比較すると、「大学へ進学する」の割合が約 12 ポイント低い。

図表 III-138　全く心配ごとがない場合の希望の進路



実際の進路と、心配ごとがない場合の希望の進路を比較すると、大学進学を希望していた回答者が 56.3%であるのに対し、実際に大学に進学した回答者は 46.7%であり、希望と現実には約 10%の差がある。

図表 III-139　実際の進路と全く心配ごとがない場合の希望の進路の比較



学校種別、地域別、世帯年収別に「大学への進学」の実際の進路と心配ごとがない場合の希望の差をみると、特に差が大きいのは、高校３年生当時の暮らし向き別の「大変苦しい」（約 25 ポイント差）である。

図表 Ⅲ-140　全く心配ごとがない場合の希望の進路（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

［心配ごとがない場合の希望］

		サンプル数	大学への進学	短期大学への進学	専門学校への進学	就職（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考えた	その他
全体		965	544	39	191	96	87	9
		100.0	56.3	4.1	19.8	9.9	9.0	0.9
学校種別	普通	754	458	32	134	58	66	6
		100.0	60.8	4.2	17.8	7.7	8.7	0.8
	専門	206	83	7	57	35	21	3
		100.0	40.3	3.3	27.5	17.2	10.3	1.5
地域別	北部	65	26	4	20	7	7	2
		100.0	40.7	5.8	30.2	10.5	10.5	2.3
	中南部	841	492	32	158	78	75	7
		100.0	58.5	3.8	18.7	9.2	9.0	0.8
	離島	54	23	3	14	9	5	1
		100.0	43.1	5.6	25.0	16.7	8.3	1.4
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	44	2	14	5	5	2
		100.0	61.5	3.1	18.8	6.3	7.3	3.1
	ややゆとりがある	169	105	8	29	12	14	2
		100.0	62.1	4.5	17.0	7.1	8.5	0.9
	普通	323	167	20	60	41	32	2
		100.0	51.6	6.1	18.7	12.9	10.0	0.7
	やや苦しい	271	159	8	56	26	20	2
		100.0	58.8	3.1	20.6	9.7	7.2	0.6
	大変苦しい	130	69	2	32	11	15	2
		100.0	52.6	1.2	24.9	8.7	11.6	1.2

［実際の進路（再掲）］

		サンプル数	大学への進学	短期大学への進学	専門学校への進学	就職（家業・家事従事を含む）	しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考えた	その他
全体		965	451	77	168	138	117	14
		100.0	46.7	8.0	17.4	14.3	12.1	1.5
学校種別	普通	754	397	60	121	84	81	10
		100.0	52.7	7.9	16.1	11.2	10.8	1.3
	専門	206	51	17	46	54	33	5
		100.0	24.9	8.4	22.3	26.0	16.1	2.2
地域別	北部	65	21	8	16	11	8	2
		100.0	32.6	11.6	24.4	16.3	11.6	3.5
	中南部	841	406	65	139	116	102	12
		100.0	48.3	7.7	16.6	13.8	12.1	1.4
	離島	54	21	5	12	11	5	0
		100.0	38.9	8.3	22.2	20.8	9.7	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	48	3	10	6	4	2
		100.0	66.7	4.2	13.5	8.3	5.2	2.1
	ややゆとりがある	169	99	12	31	11	13	3
		100.0	58.5	7.1	18.3	6.7	7.6	1.8
	普通	323	151	29	65	40	35	4
		100.0	46.7	8.9	20.1	12.4	10.7	1.2
	やや苦しい	271	117	21	38	49	44	2
		100.0	43.2	7.8	13.9	18.1	16.2	0.8
	大変苦しい	130	36	12	25	32	22	4
		100.0	27.7	9.2	19.1	24.3	16.8	2.9

10）希望の進路で学びたかった分野

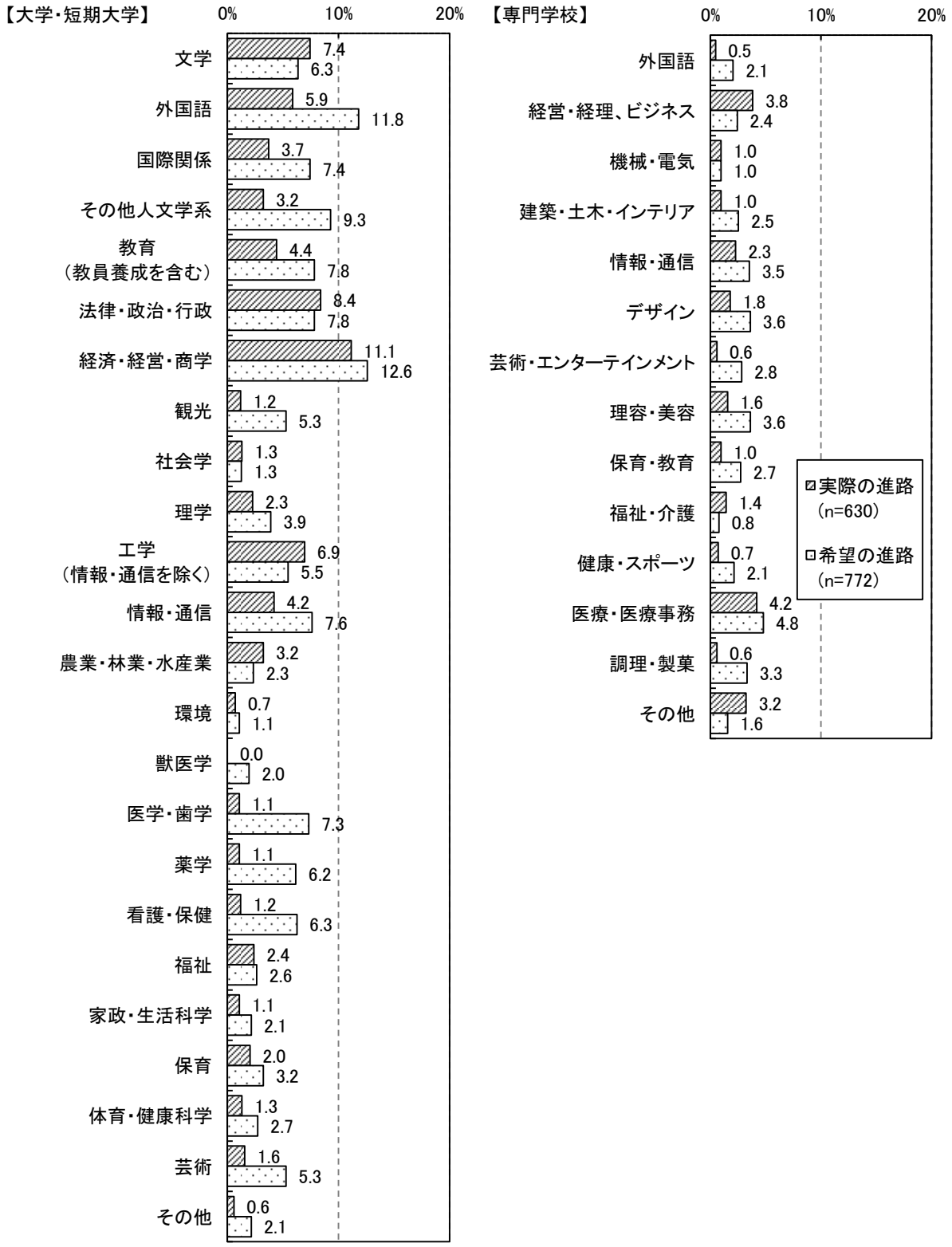
全く心配ごとがなく、自由に進路を選べると仮定した場合に、希望の進学先で学びたかった分野は、大学・短期大学では「経済・経営・商学」（12.6%）の割合が最も高く、次に「外国語」（11.8%）、「その他人文学系」（9.3%）が続く。また、専門学校等では、「医療・医療事務」（4.8%）の割合が最も高い。

心配ごとがない場合の希望と現実的な予定とを比較すると、現実よりも希望の割合のほうが高く、かつ比較的差が大きい分野は、大学・短期大学では「外国語」（約 5.9 ポイント差）、「その他人文学系」（同 6.1）、「医学・歯学」（同 6.2）、「薬学」「看護・保健」（いずれも同 5.1）である。

専門学校等では、大学・短期大学ほど現実と希望の差は大きくないものの、「芸術・エンターテインメント」や「理容・美容」、「調理・製菓」などで、現実よりも希望の割合が高く、かつ差が比較的大きくなっている。

なお、現在の高校３年生が希望の進学先で学びたい分野の上位は、大学・短期大学では「外国語」「国際関係」「看護・保健」で、専門学校等では「医療・医療事務」である。

図表 III-141　実際の進路の分野と希望の進路で学びたかった分野の比較



図表 III-142 ［参考］希望の進路で学びたかった分野
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

【大学・短期大学】

		サンプル数	文学	外国語	国際関係	その他人文学系	教育（教員養成を含む）	法律・政治・行政	経済・経営・商学	観光	社会学	理学	工学（情報・通信を除く）	情報・通信	農業・林業・水産業	環境	獣医学	医学・歯学	薬学	看護・保健	福祉	家政・生活科学	保育	体育・健康科学	芸術	その他
全体		772	49	91	57	72	60	60	97	41	10	30	42	59	18	8	15	57	47	48	20	17	25	21	41	17
		100.0	6.3	11.8	7.4	9.3	7.8	7.8	12.6	5.3	1.3	3.9	5.5	7.6	2.3	1.1	2.0	7.3	6.2	6.3	2.6	2.1	3.2	2.7	5.3	2.1
学校種別	普通	623	41	76	44	60	51	57	75	38	10	30	37	45	11	8	14	49	44	39	17	14	19	19	29	11
		100.0	6.5	12.2	7.1	9.6	8.2	9.1	12.0	6.1	1.6	4.8	5.9	7.3	1.8	1.2	2.2	7.9	7.0	6.3	2.8	2.2	3.0	3.0	4.6	1.8
	専門	146	7	15	13	12	9	4	21	3	0	0	5	14	7	1	2	8	4	9	3	3	6	2	12	5
		100.0	4.6	10.3	8.8	8.2	6.2	***2.6***	14.4	2.1	0.0	0.0	3.6	9.3	4.6	0.5	1.0	5.2	2.6	6.2	2.1	2.1	4.1	1.5	8.2	3.6
地域別	北部	49	2	2	1	3	4	5	5	5	2	0	2	2	2	2	1	2	4	4	1	2	2	4	0	0
		100.0	3.1	***3.1***	***1.5***	6.2	7.7	9.2	9.2	9.2	4.6	0.0	3.1	4.6	4.6	4.6	1.5	3.1	7.7	7.7	1.5	4.6	4.6	7.7	***0.0***	0.0
	中南部	680	43	87	55	63	53	56	91	35	8	29	39	54	15	6	13	53	42	43	20	12	20	17	33	16
		100.0	6.3	12.7	8.1	9.2	7.8	8.2	13.4	5.1	1.1	4.2	5.8	8.0	2.2	0.9	1.9	7.8	6.2	6.3	2.9	1.8	2.9	2.4	4.9	2.3
	離島	40	3	3	2	6	4	0	0	2	0	2	2	2	1	0	2	2	2	2	0	2	3	1	8	1
		100.0	7.5	7.5	3.8	**15.1**	9.4	***0.0***	***0.0***	3.8	0.0	3.8	3.8	5.7	1.9	0.0	3.8	5.7	3.8	3.8	0.0	5.7	7.5	1.9	**18.9**	1.9
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	60	5	10	8	4	7	9	8	5	2	0	4	3	0	0	4	6	5	4	0	1	2	0	5	2
		100.0	8.8	16.3	**13.8**	6.3	11.3	**15.0**	12.5	8.8	2.5	0.0	6.3	5.0	0.0	0.0	6.3	10.0	7.5	6.3	0.0	1.3	3.8	0.0	7.5	3.8
	ややゆとりがある	139	9	13	11	11	15	11	11	4	2	11	8	20	6	0	3	17	8	6	2	4	2	4	10	2
		100.0	6.5	9.2	8.1	8.1	10.8	8.1	8.1	2.7	1.1	7.6	5.9	**14.1**	4.3	0.0	2.2	11.9	5.4	4.3	1.1	2.7	1.1	2.7	7.0	1.1
	普通	247	15	23	14	16	15	20	34	13	2	13	17	10	9	4	3	16	17	17	8	5	11	5	11	6
		100.0	6.1	9.2	5.8	6.4	6.1	8.0	13.8	5.2	0.9	5.2	7.0	4.0	3.7	1.5	1.2	6.4	6.7	7.0	3.1	2.1	4.3	1.8	4.6	2.4
	やや苦しい	223	14	32	20	27	11	11	33	13	1	6	11	17	1	2	3	12	14	11	8	4	6	9	13	3
		100.0	6.1	14.5	8.8	12.2	4.7	5.1	14.9	5.7	0.3	2.7	4.7	7.4	0.3	1.0	1.4	5.4	6.1	5.1	3.4	1.7	2.7	4.1	5.7	1.4
	大変苦しい	103	6	14	4	14	13	9	11	6	4	1	2	10	2	2	2	6	5	10	4	3	5	4	2	4
		100.0	5.9	13.2	3.7	13.2	12.5	8.8	11.0	5.9	3.7	0.7	2.2	9.6	2.2	2.2	2.2	5.9	5.1	9.6	3.7	2.9	4.4	3.7	2.2	3.7

【専門学校】

		サンプル数	外国語	経営・経理、ビジネス	機械・電気	建築・土木・インテリア	情報・通信	デザイン	芸術・エンターテインメント	理容・美容	保育・教育	福祉・介護	健康・スポーツ	医療・医療事務	調理・製菓	その他
全体		772	16	19	8	20	27	28	22	28	21	6	17	37	26	12
		100.0	2.1	2.4	1.0	2.5	3.5	3.6	2.8	3.6	2.7	0.8	2.1	4.8	3.3	1.6
学校種別	普通	623	12	11	8	11	12	18	17	18	16	6	15	27	19	11
		100.0	1.9	1.8	1.2	1.8	1.9	2.9	2.7	2.9	2.5	1.0	2.4	4.4	3.0	1.7
	専門	146	4	8	0	8	15	10	5	10	5	0	2	10	7	2
		100.0	2.6	5.2	0.0	5.2	**10.3**	6.7	3.6	6.7	3.1	0.0	1.0	6.7	4.6	1.0
地域別	北部	49	2	1	0	2	2	2	0	3	2	0	3	5	2	2
		100.0	3.1	1.5	0.0	3.1	4.6	3.1	0.0	6.2	4.6	0.0	6.2	9.2	4.6	3.1
	中南部	680	12	17	8	14	24	22	20	24	17	6	13	31	20	10
		100.0	1.8	2.5	1.1	2.0	3.5	3.2	2.9	3.5	2.5	0.9	1.9	4.5	3.0	1.4
	離島	40	2	1	0	4	1	5	2	1	1	0	1	2	3	1
		100.0	5.7	1.9	0.0	**9.4**	1.9	**11.3**	5.7	1.9	1.9	0.0	1.9	3.8	7.5	1.9
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	60	0	2	0	1	2	2	1	4	2	2	2	4	2	0
		100.0	0.0	2.5	0.0	1.3	2.5	2.5	1.3	6.3	2.5	2.5	3.8	6.3	3.8	0.0
	ややゆとりがある	139	2	2	3	3	8	4	4	3	3	0	2	6	5	4
		100.0	1.6	1.1	2.2	2.2	5.4	2.7	2.7	2.2	2.2	0.0	1.1	4.3	3.2	2.7
	普通	247	2	2	3	7	5	8	6	8	8	3	5	8	6	4
		100.0	0.6	0.9	1.2	2.8	1.8	3.1	2.4	3.4	3.1	1.2	1.8	3.1	2.4	1.5
	やや苦しい	223	7	9	2	7	10	10	8	8	8	1	8	12	8	2
		100.0	3.0	4.1	0.7	3.0	4.4	4.4	3.7	3.4	3.4	0.3	3.4	5.4	3.7	1.0
	大変苦しい	103	5	5	0	2	4	5	3	5	2	1	1	8	5	2
		100.0	5.1	4.4	0.0	2.2	3.7	5.1	2.9	5.1	1.5	0.7	0.7	7.4	4.4	2.2

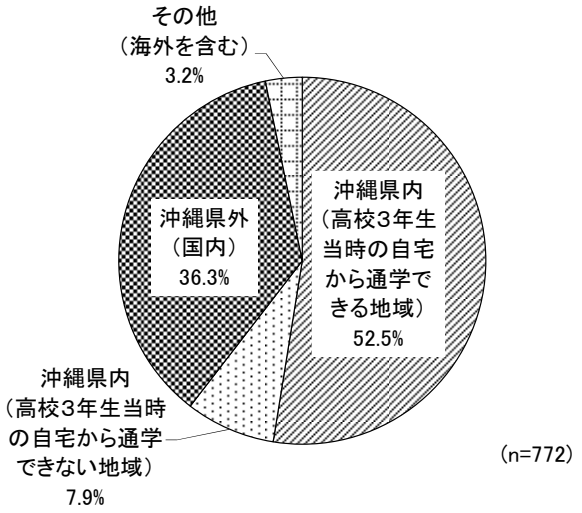
11）希望の進路の学校の所在地域

全く心配ごとがなく、自由に進路を選べると仮定した場合の、希望の進路の学校の所在地域は、「沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できる地域）」（52.5%）が約半数を占め、次に「沖縄県外（国内）」（36.3%）が続く。一方、現在の高校３年生では、「県外（国内）」（55.8%）の割合が半数を超えている。

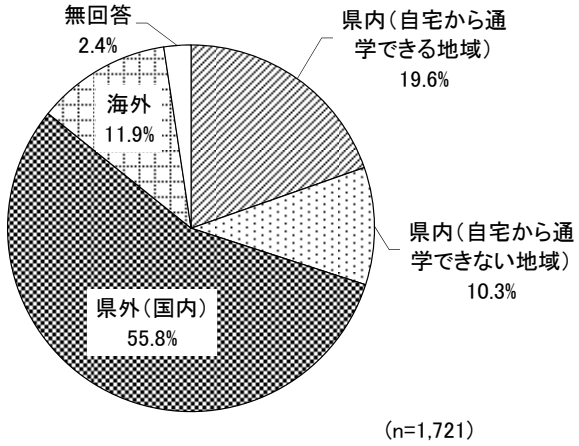
Web アンケート回答者は、約９割が中南部の高校を卒業しており、高校生アンケートとは高校所在地域の構成比が異なるが、高校の所在地域別クロス集計結果の「中南部」だけを取り出して比較した場合も、Web アンケート回答者のほうが「沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できる地域）」の割合が大幅に高いため、高校の所在地による回答の偏りではないことがわかる。

図表 III-143 希望の進路の学校の所在地域

[Web アンケート回答者]

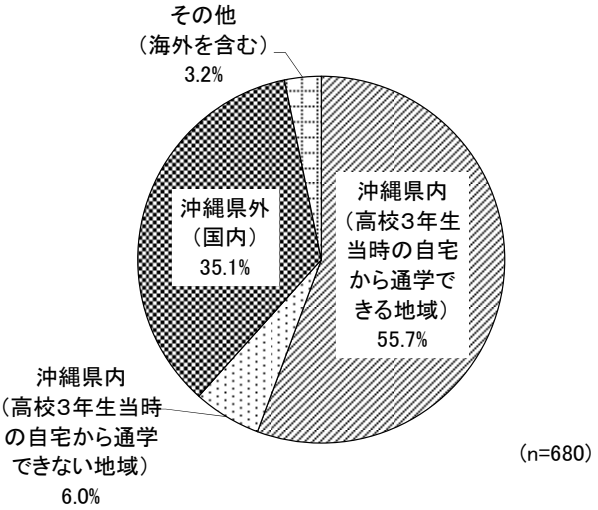


[高校３年生（参考）]

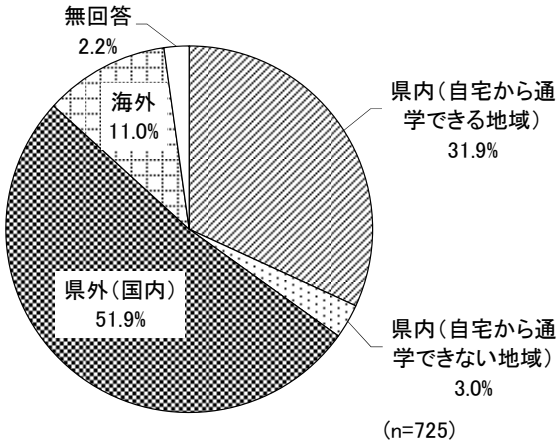


■（参考）高校の所在地が「中南部」の回答

[Web アンケート回答者]

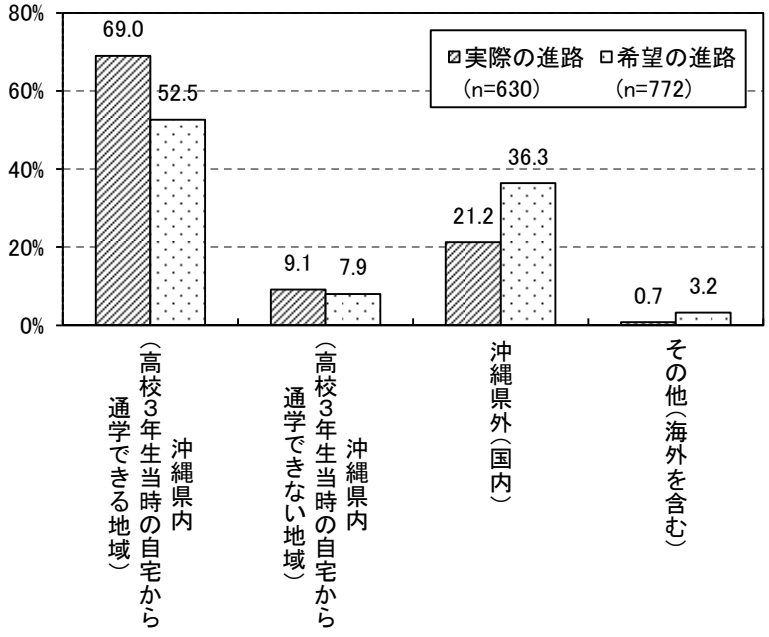


[高校３年生（参考）]



心配ごとがない場合、県外への進学を希望していた回答者の割合が 36.3%であるのに対し、現実的に県外に進学した回答者は 21.2%であり、15 ポイント程度の差がある。

図表 III-144 実際の進路と希望の進路の学校の所在地域の比較



学校種別、地域別、世帯年収別に、「沖縄県外（国内）」の実際の進路と心配ごとがない場合の希望の差をみると、特に差が大きいのは、地域別の「北部」（約 28 ポイント差）と、高校３年生当時の暮らし向き別の「大変苦しい」（約 22 ポイント差）である。

図表 III-145　希望の進路の学校の所在地域（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

［心配ごとがない場合の希望］

		サンプル数	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できる地域）	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できない地域）	沖縄県外（国内）	その他（海外を含む）
全体		772	406	61	280	25
		100.0	52.5	7.9	36.3	3.2
学校種別	普通	623	323	43	235	21
		100.0	51.9	6.9	37.8	3.4
	専門	146	79	18	45	4
		100.0	54.1	12.4	30.9	2.6
地域別	北部	49	14	8	24	3
		100.0	29.2	15.4	49.2	6.2
	中南部	680	378	41	239	22
		100.0	55.7	6.0	35.1	3.2
	離島	40	10	13	17	0
		100.0	24.5	32.1	43.4	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	60	28	6	26	1
		100.0	46.3	10.0	42.5	1.3
	ややゆとりがある	139	68	13	52	7
		100.0	48.6	9.2	37.3	4.9
	普通	247	146	14	77	10
		100.0	59.0	5.8	31.2	4.0
	やや苦しい	223	111	17	88	7
		100.0	49.7	7.8	39.5	3.0
	大変苦しい	103	54	11	38	1
		100.0	52.2	10.3	36.8	0.7

［実際の進路（再掲）］

		サンプル数	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できる地域）	沖縄県内（高校3年生当時の自宅から通学できない地域）	沖縄県外（国内）	その他（海外を含む）
全体		630	434	57	133	5
		100.0	69.0	9.1	21.2	0.7
学校種別	普通	527	362	42	119	4
		100.0	68.7	8.0	22.6	0.7
	専門	100	70	15	14	1
		100.0	70.5	15.2	13.6	0.8
地域別	北部	39	21	10	8	0
		100.0	53.8	25.0	21.2	0.0
	中南部	553	404	33	112	5
		100.0	73.0	6.0	20.2	0.8
	離島	34	7	14	13	0
		100.0	20.0	42.2	37.8	0.0
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	56	32	7	17	0
		100.0	58.1	12.2	29.7	0.0
	ややゆとりがある	126	81	11	31	2
		100.0	64.7	9.0	24.6	1.8
	普通	222	165	12	42	2
		100.0	74.5	5.4	19.0	1.0
	やや苦しい	164	106	23	35	0
		100.0	64.7	14.2	21.1	0.0
	大変苦しい	62	49	4	9	0
		100.0	79.3	6.1	14.6	0.0

12) 実際の進路と希望の進路との差異に関係する事項とその度合い

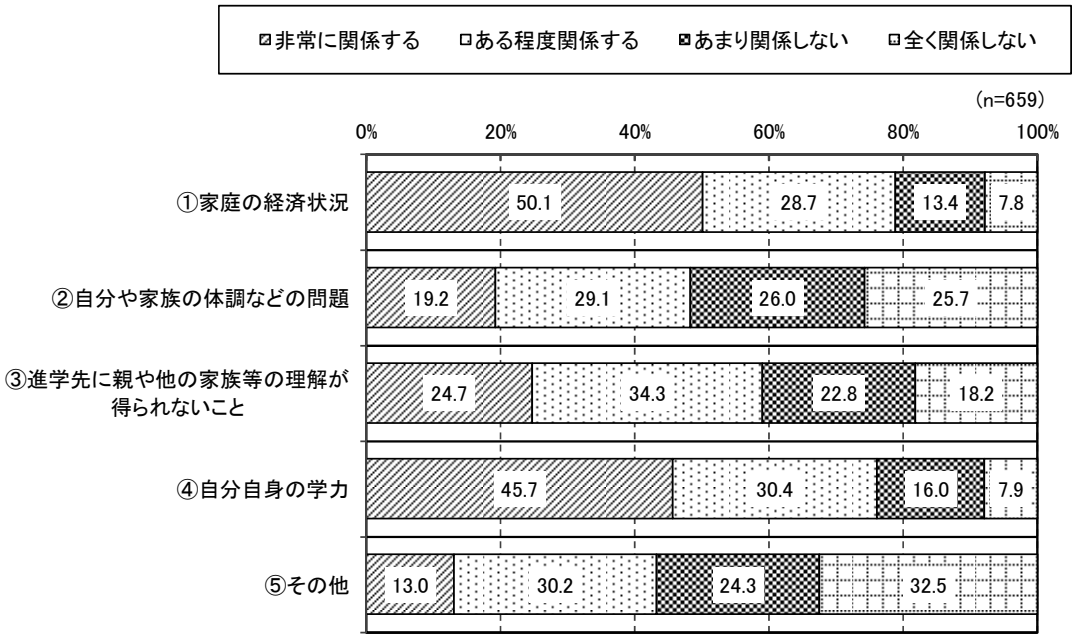
希望の進路と現実的な進路に違いがあった回答者に、違いに影響する事項と、その度合いについて尋ねた。

「非常に関係する」の割合は、「①家庭の経済状況」（50.1%）が最も高く、約半数を占め、次に「④自分自身の学力」（45.7%）が続く。現在の高校３年生も、上位２項目は共通しているが、「①家庭の経済状況」の割合は Web アンケート回答者のほうがやや高い。

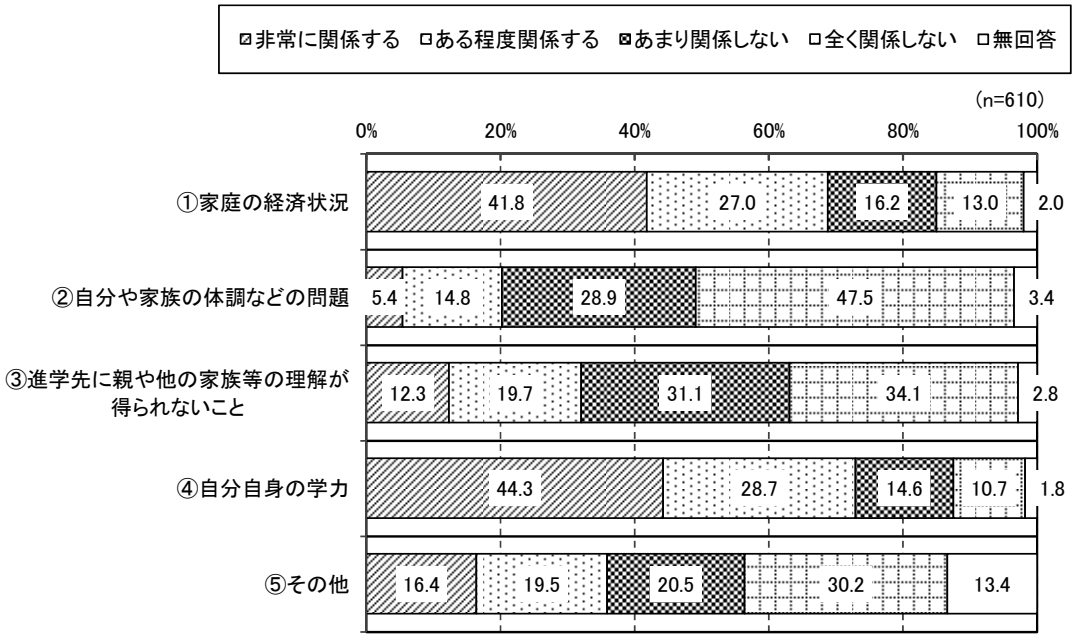
また、「関係する」（「非常に関係する」＋「ある程度関係する」の合計）の割合を、現在の高校３年生と比較すると、全般的に Web アンケート回答者が高い割合を示しているが、中でも特に差が大きいのは、「②自分や家族の体調などの問題」（約 28 ポイント差）と「③進学先に家族等の理解が得られないこと」（約 27 ポイント差）である。

図表 III-146 実際の進路と希望の進路との差異に関係する事項とその度合い

[Web アンケート回答者]



［高校３年生（参考）］



高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「大変苦しい」に近づくほど「①家庭の経済状況」の割合が高く、「ゆとりがある」に近づくほど、「④自分自身の学力」の割合が高い傾向がみられる。また、「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」では、「③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと」の割合が他よりも高い。

図表 III-147　実際の進路と希望の進路との差異に関係する事項とその度合い
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	①家庭の経済状況	②自分や家族の体調などの問題	③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと	④自分自身の学力	⑤その他
全体		659	519	318	389	501	285
		100.0	78.8	48.3	59.0	76.1	43.2
学校種別	普通	506	408	251	311	394	227
		100.0	80.6	49.6	61.4	77.8	44.9
	専門	149	109	65	76	106	56
		100.0	*73.2*	43.4	*51.0*	*70.7*	*37.4*
地域別	北部	45	38	20	26	34	20
		100.0	85.0	43.3	56.7	75.0	45.0
	中南部	575	456	282	341	440	248
		100.0	79.3	49.0	59.2	76.5	43.1
	離島	35	23	14	20	25	14
		100.0	*65.2*	*41.3*	58.7	71.7	41.3
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	44	31	23	30	38	20
		100.0	*69.5*	52.5	67.8	86.4	45.8
	ややゆとりがある	109	75	57	76	87	53
		100.0	*69.4*	52.8	70.1	79.9	48.6
	普通	198	139	87	116	158	82
		100.0	*70.3*	44.1	58.6	79.8	41.4
	やや苦しい	198	171	100	115	148	79
		100.0	86.6	50.8	58.4	74.8	40.1
	大変苦しい	110	103	50	51	70	51
		100.0	93.2	45.2	*46.6*	*63.7*	45.9

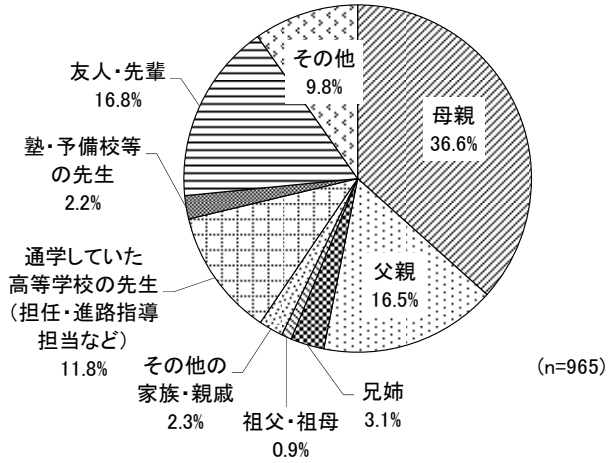
（注）「非常に関係する」と「ある程度関係する」の合計。

13) 進路の選択に一番大きな影響を与えた人

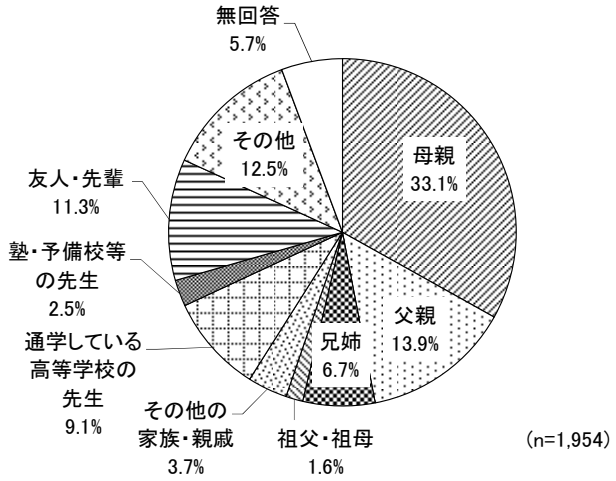
進路の選択に一番大きな影響を与えている人物で最も割合が高いのは「母親」(36.6%)であり、次に「友人・先輩」(16.8%)、「父親」(16.5%)「通学していた高等学校の先生(担任・進路指導担当など)」(11.8%)が続き、現在の高校３年生より「友人・先輩」の割合がやや高い。

図表 III-148 進路の選択に一番大きな影響を与えた人

[Web アンケート回答者]



[高校３年生（参考)]



図表 III-149 [参考]進路の選択に一番大きな影響を与えた人
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

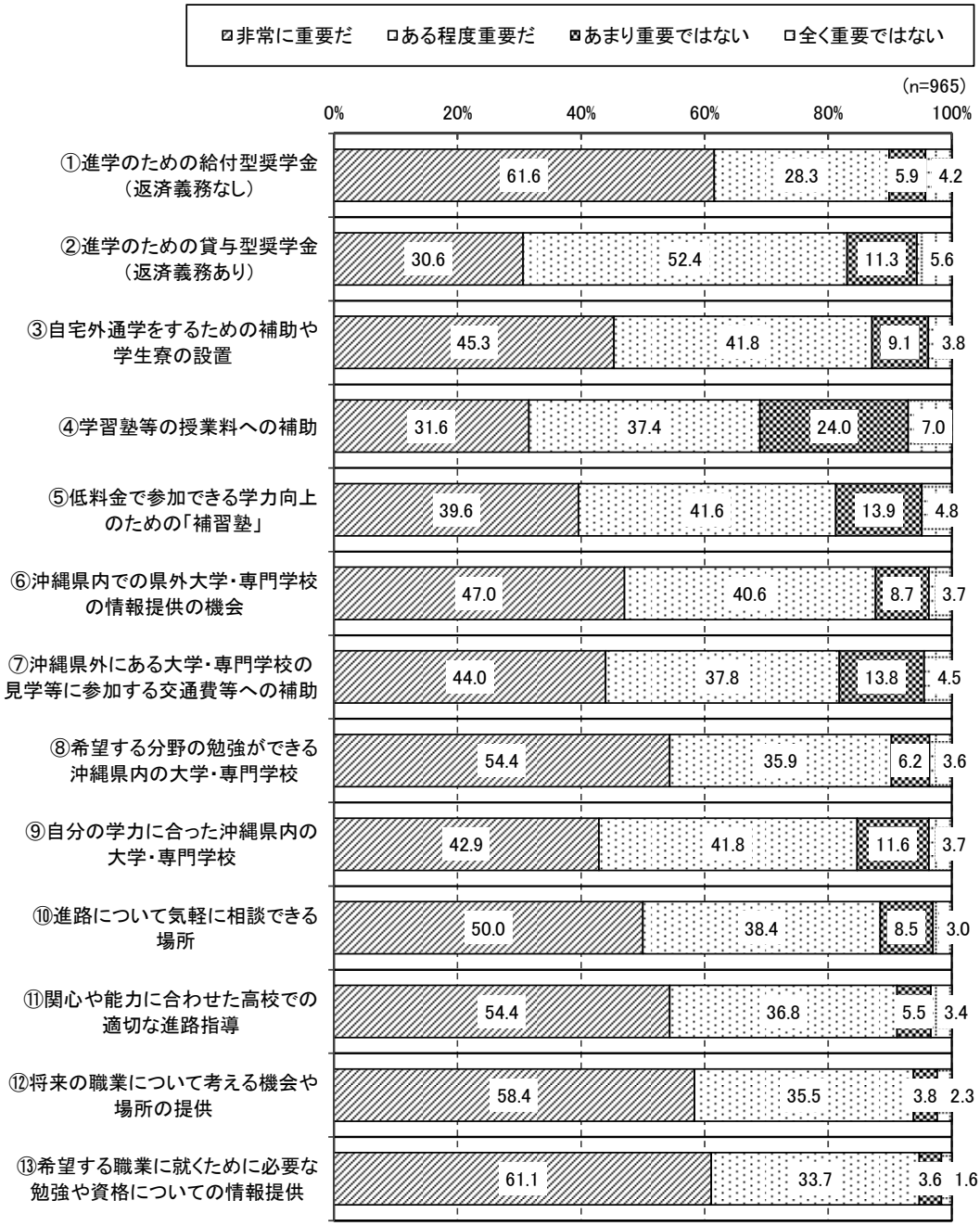
		サンプル数	母親	父親	兄姉	祖父・祖母	その他の家族・親戚	通学していた高等学校の先生（担任・進路指導担当など）	塾・予備校等の先生	友人・先輩	その他
全体		965	354	159	30	9	22	114	21	162	94
		100.0	36.6	16.5	3.1	0.9	2.3	11.8	2.2	16.8	9.8
学校種別	普通	754	279	124	24	7	16	85	20	125	73
		100.0	37.0	16.5	3.2	0.9	2.1	11.3	2.7	16.6	9.7
	専門	206	73	34	6	2	5	29	1	35	21
		100.0	35.5	16.5	2.9	1.1	2.6	13.9	0.4	16.8	10.3
地域別	北部	65	25	14	1	0	2	8	3	7	5
		100.0	38.4	**22.1**	1.2	0.0	3.5	11.6	4.7	***10.5***	8.1
	中南部	841	302	139	26	9	19	97	18	146	84
		100.0	36.0	16.5	3.1	1.1	2.2	11.6	2.2	17.4	10.0
	離島	54	25	5	3	0	0	9	0	7	5
		100.0	**45.8**	***9.7***	5.6	0.0	0.0	16.7	0.0	12.5	9.7
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	28	11	5	0	1	5	2	12	9
		100.0	38.5	15.6	6.3	0.0	1.0	7.3	2.1	16.7	12.5
	ややゆとりがある	169	63	30	8	0	3	23	9	21	11
		100.0	37.1	17.9	4.9	0.0	1.8	13.8	5.4	12.5	6.7
	普通	323	112	63	8	3	6	41	5	57	28
		100.0	34.8	19.4	2.3	0.9	1.9	12.9	1.4	17.8	8.6
	やや苦しい	271	104	35	6	2	10	25	5	54	31
		100.0	38.4	12.8	2.2	0.8	3.6	9.2	1.7	19.8	11.4
	大変苦しい	130	47	20	4	4	2	19	2	18	15
		100.0	35.8	15.6	2.9	2.9	1.7	14.5	1.2	13.9	11.6

14）沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援とその重要度

沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援について、「非常に重要だ」の割合が最も高いのは「①進学のための給付型奨学金（返済義務なし）」（61.6%）であり、次いで「⑬希望する職業に就くために必要な勉強や資格についての情報提供」（61.1%）、「⑫将来の職業について考える機会や場所の提供」（58.4%）が続く。

全般的に、「①進学のための給付型奨学金（返済義務なし）」以外の経済的支援に関する項目（②～⑤）では「非常に重要だ」の割合が比較的低く、⑥や⑧、⑩～⑬等、進路について考える機会や情報提供に関する項目の割合が比較的高い傾向がみられる。

図表 III-150　沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援とその重要度



高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「大変苦しい」に近づくほど、「④学習塾等の授業料への補助」の割合が高い傾向がみられるほか、「大変苦しい」で、「⑦沖縄県外にある大学・専門学校の見学等に参加する交通費への補助」の割合が、他よりもやや高くなっている。また、「ゆとりがある」では、「⑪関心や能力に合わせた高校での適切な進路指導」の割合が他よりもやや高い。

図表 III-151　沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援とその重要度（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	①進学のための給付型奨学金（返済義務なし）	②進学のための貸与型奨学金（返済義務あり）	③自宅外通学をするための補助や学生寮の設置	④学習塾等の授業料への補助	⑤低料金で参加できる学力向上のための「補習塾」	⑥沖縄県内での県外大学・専門学校の情報提供の機会	⑦沖縄県外にある大学・専門学校の見学等に参加する交通費への補助	⑧希望する分野の勉強ができる沖縄県内の大学・専門学校	⑨自分の学力に合った沖縄県内の大学・専門学校	⑩進路について気軽に相談できる場所	⑪関心や能力に合わせた高校での適切な進路指導	⑫将来の職業について考える機会や場所の提供	⑬希望する職業に就くために必要な勉強や資格についての情報提供
全体		965	867	801	841	666	784	846	789	871	817	853	880	905	914
		100.0	89.8	83.0	87.1	69.0	81.3	87.7	81.8	90.2	84.7	88.4	91.2	93.8	94.8
学校種別	普通	754	677	626	657	511	619	666	618	685	638	669	694	712	721
		100.0	89.8	83.1	87.2	67.8	82.1	88.4	82.0	90.8	84.6	88.7	92.1	94.4	95.6
	専門	206	186	171	178	151	161	176	167	182	174	179	182	190	190
		100.0	90.5	83.2	86.4	73.3	78.4	85.3	81.3	88.6	84.6	87.2	88.3	92.3	92.3
地域別	北部	65	60	53	58	51	54	57	50	60	56	60	63	62	63
		100.0	91.9	81.4	89.5	**79.1**	82.6	87.2	***76.7***	93.0	86.0	91.9	**96.5**	95.3	96.5
	中南部	841	753	705	730	574	684	738	688	760	707	743	764	792	797
		100.0	89.6	83.9	86.8	68.3	81.3	87.8	81.9	90.4	84.1	88.3	90.9	94.2	94.8
	離島	54	51	40	47	37	43	47	47	47	49	46	49	48	51
		100.0	93.1	***73.6***	87.5	68.1	79.2	87.5	**87.5**	86.1	**90.3**	84.7	90.3	88.9	94.4
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	63	63	63	46	51	62	57	66	60	66	70	70	70
		100.0	87.5	87.5	86.5	***63.5***	***70.8***	85.4	79.2	90.6	82.3	91.7	**96.9**	96.9	96.9
	ややゆとりがある	169	151	136	143	115	143	153	139	149	146	152	156	160	164
		100.0	89.3	80.8	84.8	67.9	84.8	90.6	82.1	88.4	86.2	89.7	92.4	94.6	96.9
	普通	323	280	262	274	209	258	277	254	284	274	284	290	299	300
		100.0	86.7	81.1	84.8	64.7	79.9	85.7	78.7	88.1	84.8	88.1	90.0	92.5	93.0
	やや苦しい	271	255	235	245	196	222	240	224	254	231	237	249	256	256
		100.0	94.2	86.9	90.5	72.4	82.2	88.9	82.7	93.9	85.2	87.7	91.9	94.4	94.7
	大変苦しい	130	118	105	116	100	109	114	115	118	108	114	115	121	124
		100.0	90.8	80.3	89.0	**76.9**	83.8	87.3	**88.4**	90.2	82.7	87.3	87.9	93.1	95.4

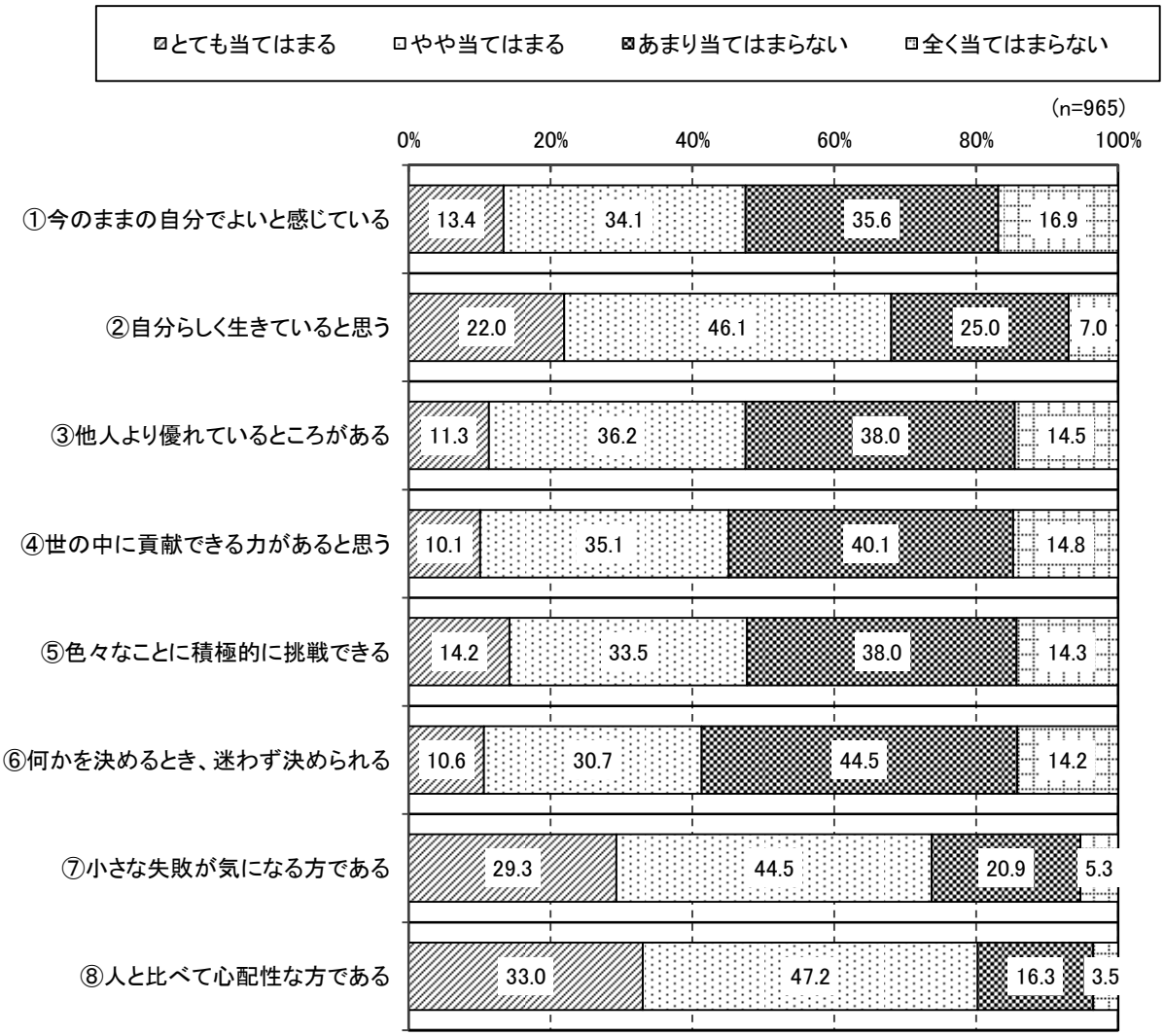
（注）「非常に重重要だ」と「ある程度重要だ」の合計。なお、構成比は、「非常に重要だ」と「ある程度重要だ」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「非常に重要だ」と「ある程度重要だ」の合計とは一致しないものがある。

15) 自分自身について感じていること

自分自身について「とても当てはまる」と回答している割合が高い項目は、否定的な項目である「⑧人と比べて心配性な方である」（33.0%）と「⑦小さな失敗が気になる方である」（29.3%）で、全体的に、自己肯定的な項目に対する「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合が低い。

また、「①今のままの自分でよいと感じている」の割合は、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合計しても、約半数（47.5%）にとどまっている。

図表 III-152　自分自身について感じていること



学校種別にみると、専門高校では、「③他人より優れているところがある」（41.4%）の割合が、普通高校よりもやや低い。

高校３年生当時の暮らし向き別では、「ゆとりがある」と「ややゆとりがある」で、自己肯定的な項目の割合が高いのに対し、「大変苦しい」では、自己肯定的な項目の割合が他より低い項目が多い。

図表 III-153　自分自身について感じていること
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	①今のままの自分でよいと感じている	②自分らしく生きていると思う	③他人より優れているところがある	④世の中に貢献できる力があると思う	⑤色々なことに積極的に挑戦できる	⑥何かを決めるとき、迷わず決められる	⑦小さな失敗が気になる方である	⑧人と比べて心配性な方である
全体		965	458	657	458	436	461	399	712	774
		100.0	47.5	68.0	47.5	45.2	47.7	41.3	73.8	80.2
学校種別	普通	754	361	517	369	345	365	312	548	600
		100.0	47.9	68.6	49.0	45.8	48.4	41.4	72.7	79.6
	専門	206	92	136	85	86	91	82	161	171
		100.0	44.7	65.9	*41.4*	41.8	44.3	39.9	78.0	83.2
地域別	北部	65	26	41	29	32	33	30	47	54
		100.0	*40.7*	*62.8*	45.3	48.8	51.2	**46.5**	73.3	83.7
	中南部	841	402	576	403	374	397	341	626	675
		100.0	47.8	68.5	47.9	44.5	47.2	40.5	74.4	80.3
	離島	54	25	36	23	26	26	23	35	42
		100.0	45.8	66.7	*41.7*	47.2	48.6	43.1	*65.3*	77.8
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	42	55	47	41	38	35	54	57
		100.0	**58.3**	**76.0**	**65.6**	**56.3**	52.1	**47.9**	74.0	79.2
	ややゆとりがある	169	105	133	98	89	98	97	124	133
		100.0	**62.1**	**79.0**	**58.0**	**52.7**	**58.0**	**57.1**	73.7	79.0
	普通	323	151	209	132	127	146	119	237	258
		100.0	46.7	64.7	*40.9*	*39.3*	45.3	36.9	73.4	79.9
	やや苦しい	271	111	186	129	129	124	99	196	214
		100.0	*40.9*	68.8	47.6	47.6	46.0	36.5	72.4	79.1
	大変苦しい	130	50	73	52	51	54	50	101	112
		100.0	*38.2*	*56.1*	*39.9*	*38.7*	*41.6*	38.2	77.5	**85.5**

（注）「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計。なお、構成比は、「とても当てはまる」と「やや当てはまる」を合計した値から算出しているため、四捨五入の関係で、前出のグラフに個別に表示した「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の合計とは一致しないものがある。

■自己肯定感と高校卒業後の進路の関係

生徒用アンケートの分析と同様に、この問の「①今のままの自分でよいと感じている」から「⑥何かを決めるとき、迷わずに決められる」の６つの項目[4]について、「とても当てはまる」を４点、「やや当てはまる」を３点、「あまり当てはまらない」を２点、「全く当てはまらない」を１点として回答者ごとに合計得点を求め、これを回答数（全ての項目に回答している場合６）で割って算出した平均得点より、以下のとおり「自己肯定感」を３つのカテゴリーに区分した。

●自己肯定感の区分

・平均得点２点未満：自己肯定感低位

・平均得点２点以上３点未満：自己肯定感中位

・平均得点３点以上：自己肯定感高位

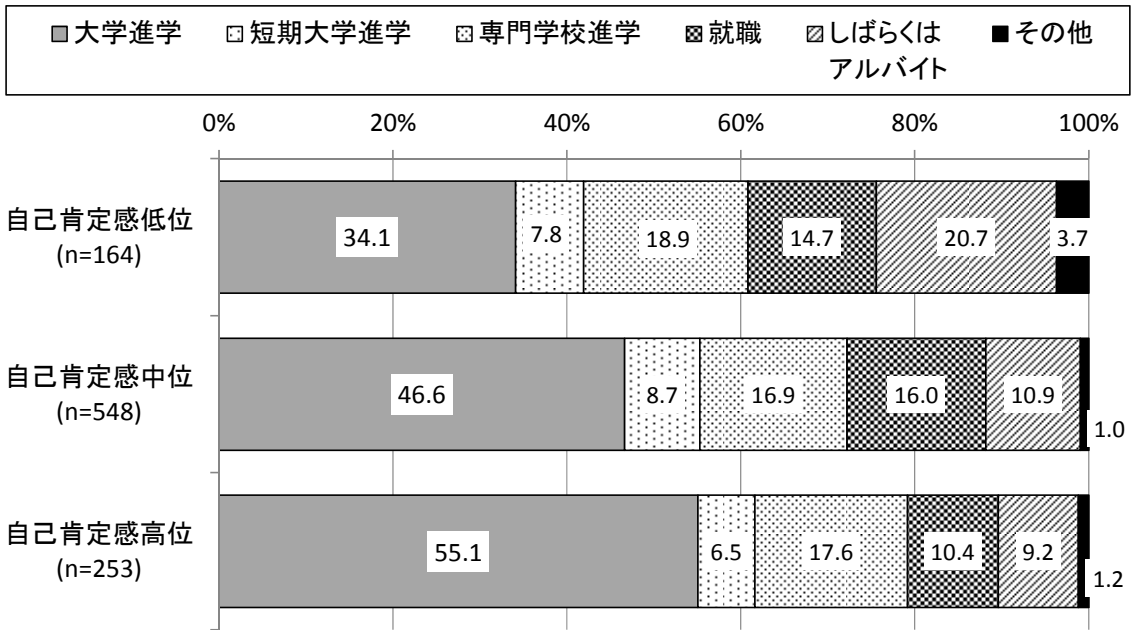
(注) ここでの「自己肯定感」は、現時点で「自分について感じていること」から判定したものであり、高校３年生の時点での「自己肯定感」ではないことに注意が必要である。

上記の基準より、この問の回答結果から区分した「自己肯定感」と高校卒業後の実際の進路の関係をみると、「自己肯定感」が高い回答者ほど「大学進学」の比率が高い。また、「自己肯定感」低位の回答者は、中位・高位の回答者と比べて「しばらくはアルバイト」の比率が高くなっている。

現在の高校３年生のアンケート結果と比べると、「しばらくはアルバイト」の比率が高く、高校３年生の時点では、進学や就職の予定、または、進路未定であった回答者の中に、実際には卒業後にアルバイトなどをしていた回答者が一定数いることがうかがわれる。

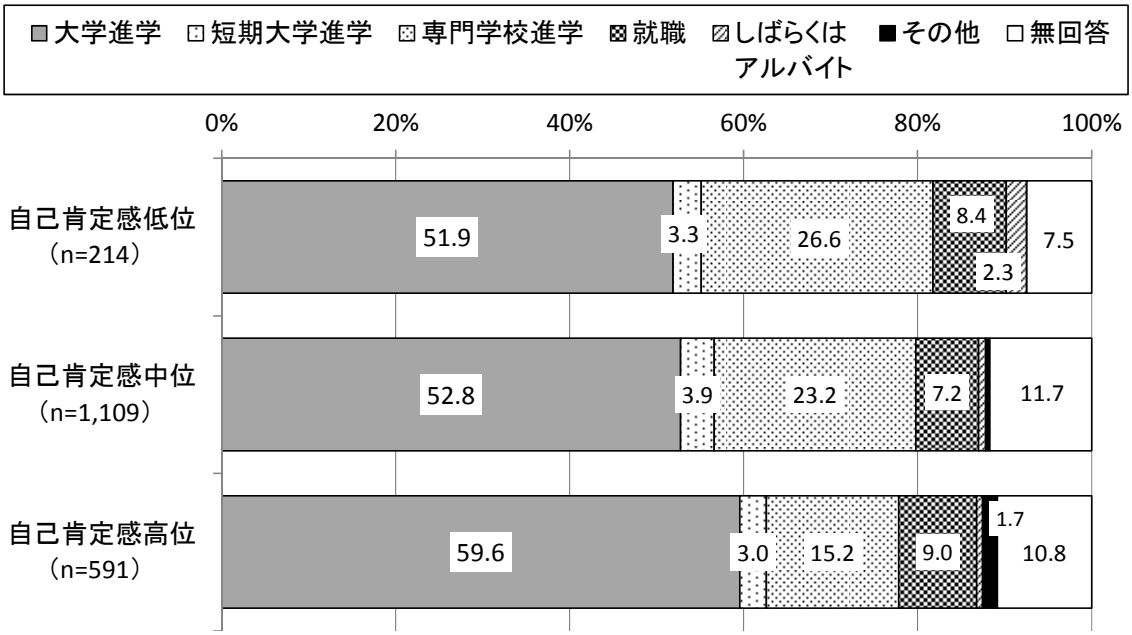
図表 III-154　高校卒業後の進路（自己肯定感区分別）

[Web アンケート回答者]（実際の進路）



[4] 問の「①今のままの自分でよいと感じている」から「⑥何かを決めるとき、迷わずに決められる」の6つの項目の回答データから算出したクロンバックのアルファ信頼性係数を算出したところ 0.825 であった。

［高校3年生（参考）］（現実的な予定）

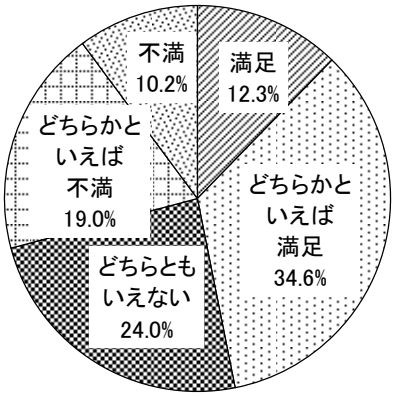


16) 現状の生活全般についての満足度

現状の生活全般についての満足度については、「満足」（12.3%）と「どちらかといえば満足」（34.6%）を合わせても、満足している回答者の割合が約半数にとどまっている。

一方で、「どちらかといえば不満」（19.0%）と「不満」（10.2%）を合わせると、現状の生活に不満を持っている回答者が約３割にのぼることがわかる。

図表 III-155 現状の生活全般についての満足度



（n=965）

高校３年生当時の暮らし向き別にみると、「ゆとりがある」では「満足」、「ややゆとりがある」では「どちらかといえば満足」の割合が高いのに対し、「大変苦しい」では「不満」の割合が高い。

図表 III-156 現状の生活全般についての満足度
（学校種別・高校所在地域別・高3時の暮らし向き別）

		サンプル数	満足	どちらかといえば満足	どちらともいえない	どちらかといえば不満	不満
全体		965	118	334	231	183	98
		100.0	12.3	34.6	24.0	19.0	10.2
学校種別	普通	754	97	270	175	139	73
		100.0	12.9	35.8	23.2	18.4	9.7
	専門	206	20	63	54	44	25
		100.0	9.5	30.8	26.4	21.2	12.1
地域別	北部	65	5	27	13	10	11
		100.0	*7.0*	41.9	19.8	15.1	16.3
	中南部	841	106	286	203	164	81
		100.0	12.6	34.0	24.1	19.6	9.7
	離島	54	6	20	14	8	6
		100.0	11.1	37.5	25.0	15.3	11.1
高3時の暮らし向き	ゆとりがある	72	23	24	7	10	8
		100.0	32.3	33.3	*9.4*	*13.5*	11.5
	ややゆとりがある	169	26	83	29	19	12
		100.0	15.2	49.1	*17.4*	*11.2*	7.1
	普通	323	35	106	91	72	18
		100.0	11.0	32.9	28.3	22.2	5.6
	やや苦しい	271	26	94	69	60	21
		100.0	9.7	34.8	25.3	22.3	7.8
	大変苦しい	130	8	26	35	23	38
		100.0	*5.8*	*20.2*	27.2	17.3	29.5

３．進学への影響要因の分析

(1) 大学進学を断念する生徒とその属性

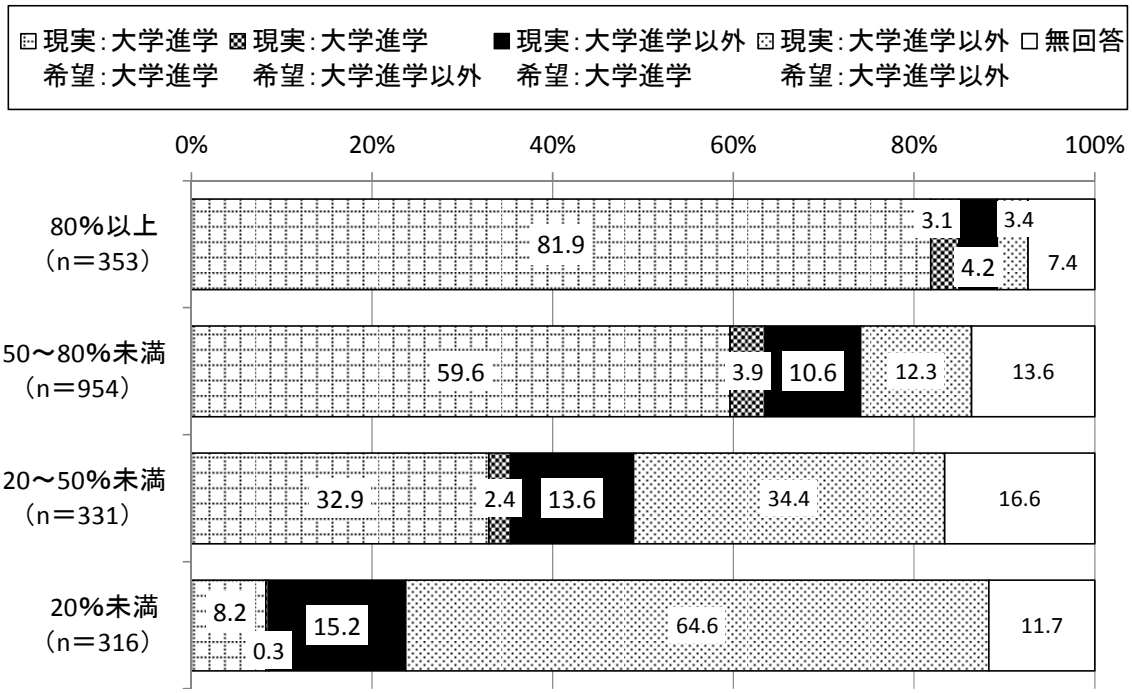
① 大学進学を断念する生徒の存在

高校３年生を対象としたアンケートで、心配ごとがなければ「大学進学」を希望するが現実には「大学進学」の予定ではない生徒がどの程度いるかについて、高校の大学進学（予定）者比率との関係からみたものが以下の図表である。

これをみると、「大学進学を希望しながらも現実には大学進学以外の進路の予定である生徒」は、大学進学（予定）者比率が「80%以上」の高校で 4.2%、「50～80%未満」の高校で 10.6%いることが分かる。（本調査での該当者は計 116 人。）

また、大学進学（予定）者比率が 50%未満の高校にも、同様に１割以上の比率で、「大学進学を希望しながらも現実には大学進学以外の進路の予定である生徒」が存在している。

図表 III-157　大学進学の現実（予定）と希望（高校の大学進学(予定)者比率別）



（注）大学進学（予定）者比率による高等学校の区分については、21 ページ参照。

② 大学進学を断念している生徒の属性

本調査では、大学進学（予定）者の比率が 50%以上の高等学校で、「大学進学を希望しながらも現実には大学進学以外の進路の予定である生徒」（該当者計 116 人）に着目し、これらの生徒の属性について分析を行った。なお、以下では「大学進学を希望しながらも現実には大学進学以外の進路の予定である生徒」を仮に「大学進学断念者」と呼ぶものとする。

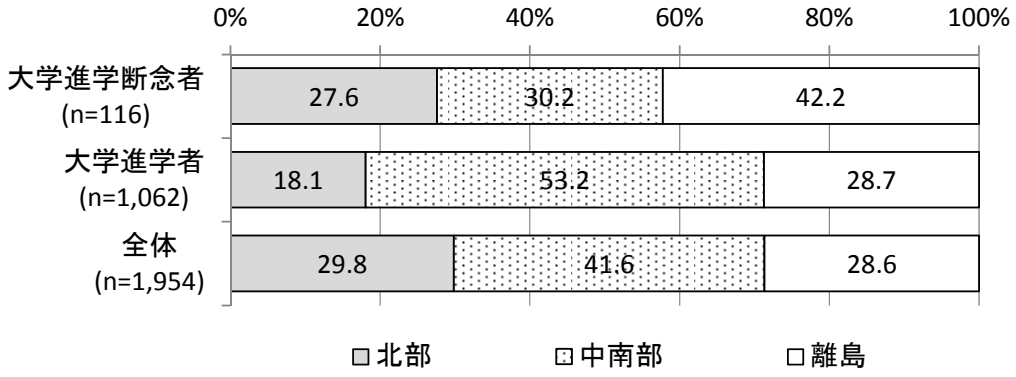
同じ大学進学（予定）者比率 50%以上の高校の大学進学（予定）の生徒（以下、「大学進学者」）と比べて、「大学断念者」の生徒の属性の構成比に明確な差が確認できるのは、

高校所在地域別の「北部」「離島」、性別の「女性」であり、これらの属性の生徒の中に「大学進学断念者」が比較的多いことが分かる。上記２つの属性ほどではないが、「高校充実度」の高位の比率は、「大学進学者」より「大学進学断念者」が 10 ポイント以上低い。同様に、「自己肯定感」の高位の比率も、「大学進学断念者」が９ポイント低くなっている。

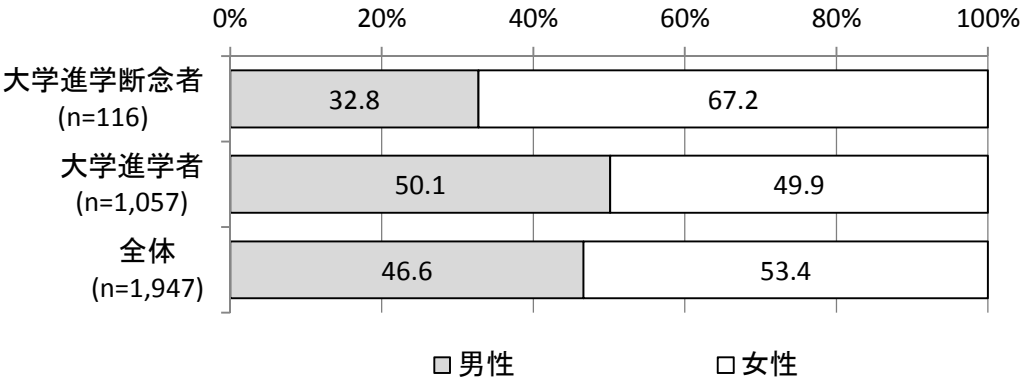
また、母親の最終学歴では、「大学進学断念者」の「短大・高専」「大学・大学院」の比率が「大学進学者」よりも 10～15 ポイント程度以上低くなっているほか、世帯年収別でも「大学進学断念者」は「600 万円以上 800 万円未満」「800 万円以上」の世帯の比率が６～８ポイント程度低くなっている。

なお、兄弟姉妹の人数、家族構成、父親の最終学歴については、「大学進学者」と「大学進学断念者」の間に差はみられない。

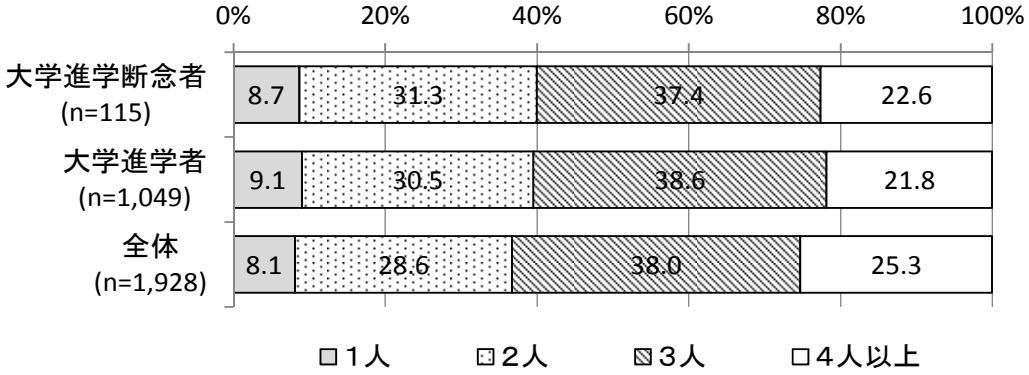
図表 III-158　大学進学断念者の属性（高校所在地域別）



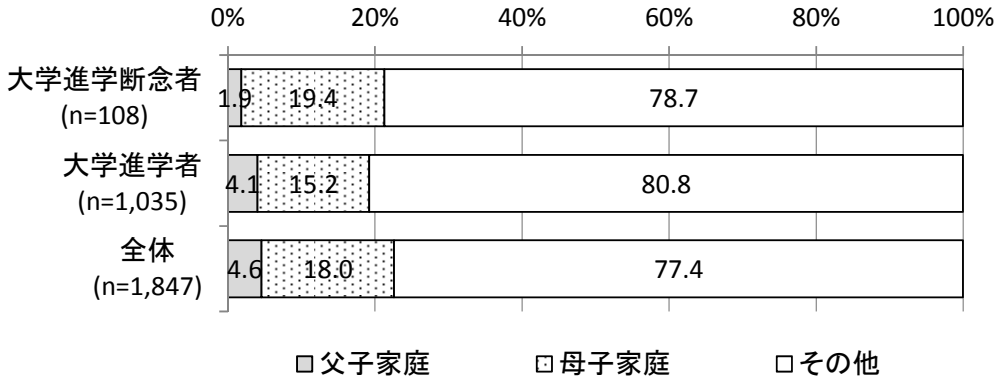
図表 III-159　大学進学断念者の属性（性別）



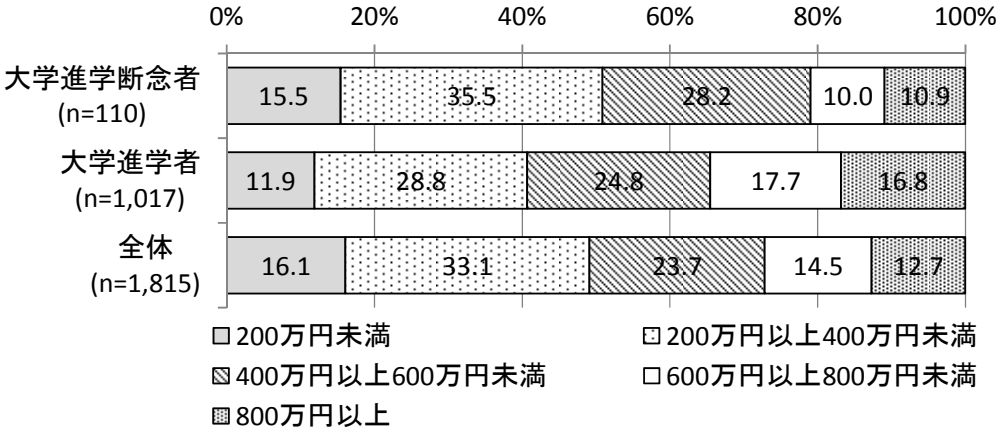
図表 III-160　大学進学断念者の属性（兄弟姉妹の人数別）



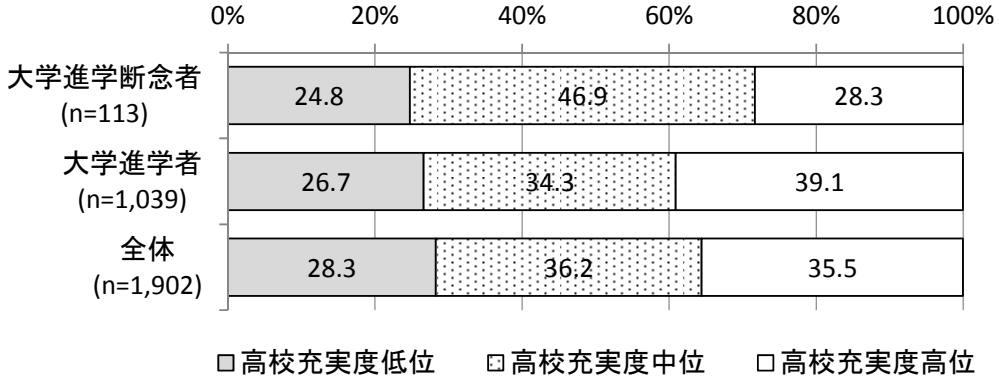
図表 III-161　大学進学断念者の属性（家族構成別）



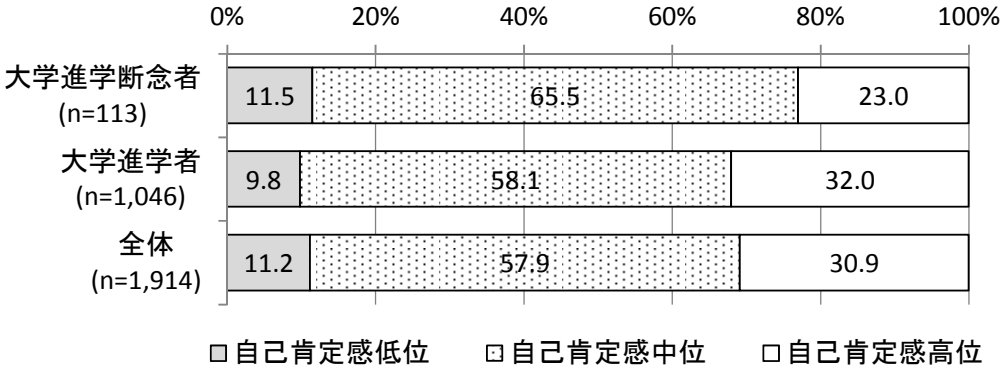
図表 III-162　大学進学断念者の属性（世帯年収別）



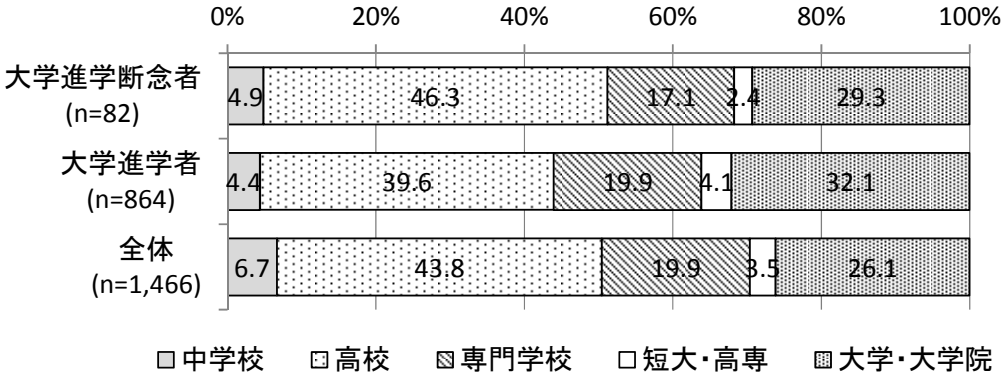
図表 III-163　大学進学断念者の属性（高校充実度区分別）



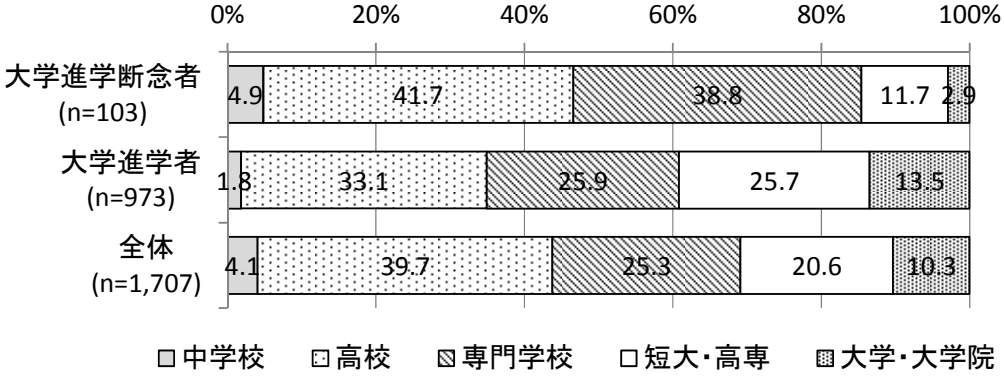
図表 III-164　大学進学断念者の属性（自己肯定感区分別）



図表 III-165　大学進学断念者の属性（父親の最終学歴別）



図表 III-166　大学進学断念者の属性（母親の最終学歴別）



(2) 大学進学への影響要因

高校生・保護者アンケートの回答データより、二項ロジスティック回帰分析[5]の手法を用いて、高等学校卒業後の進路（現実的な予定）が大学進学であるか否かに影響を与えている要因について分析を行った。

分析に当たり、大学進学であるか否か（目的変数）に影響を与えることが想定される要因（説明変数）として、以下に示す項目を想定した。

●大学進学であるか否かに影響を与える要因

・高校の大学進学（予定）者比率（４区分）
・高校所在地（北部、中南部、離島）
・学校種別（普通、専門）
・性別（男性、女性）
・兄弟姉妹の人数（０人、１人、２人、３人以上）
・進路選択時の心配（６選択肢）
・高校充実度（低位、中位、上位）
・自己肯定感（低位、中位、上位）
・家族構成（父子家庭、母子家庭、その他）＊
・父親・母親の学歴（各４区分）＊
・父親・母親の職業（各８区分）＊
・世帯年収（５区分）＊

（注）＊：保護者アンケートの問、その他は全て生徒用アンケートの問の回答を使用。

上記の全ての項目を説明変数とした分析の結果は、次ページの図表に示すとおりである。

高校の大学進学（予定）者比率、高校所在地域、性別、進路選択時の心配、高校充実度、自己肯定感、母親の学歴が、生徒が大学進学であるか否かに、有意に影響していることが確認される一方で、家族構成、母親の職業などは、生徒が大学進学であるか否かに影響していないという結果となった。

---

[5] **二項ロジスティック回帰分析**：回帰分析とは、原因と考えられる変数（説明変数）と結果となる変数（目的変数）の間に一方的な関係があると考え、目的変数の変動に説明変数がどの程度関係しているかを解析する手法である。目的変数が何らかの現象の発生の有無を表した0/1の2値型データの場合（本調査の分析では高校卒業後の進路（予定）が大学進学であるか否か）には、二項ロジスティック回帰分析が用いられる。

図表 III-167 大学進学(予定)への影響要因分析の結果(全変数)

変数	偏回帰係数	標準誤差	有意確率
高校の大学進学比率 (基準:20%未満)			
大学進学比率20～50%未満	1.697	.372	P < .001 **
大学進学比率50～80%未満	2.801	.419	P < .001 **
大学進学比率80%以上	3.609	.509	P < .001 **
高校所在地 (基準:中南部)			
北部	-.697	.228	.0022 **
離島	-.572	.222	.0099 **
学校種別:普通 (基準:専門)	-.129	.342	.7055
性別:男性 (基準:女性)	.717	.161	P < .001 **
兄弟姉妹の人数 [0人、1人、2人、3人以上]	-.155	.085	.0696
進路選択時の心配 (基準:心配はない)			
学力が不足しているかもしれないこと	1.493	.158	P < .001 **
経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと	-.187	.191	.3279
予定している進路が自分に合っているか分からないこと	-.049	.172	.7756
進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと	.497	.335	.1374
進路の相談をできる相手がいないこと	.159	.433	.7135
高校充実度 (基準:高校充実度中位)			
高校充実度低位	.016	.199	.9375
高校充実度高位	.422	.182	.0207 *
自己肯定感 (基準:自己肯定感中位)			
自己肯定感低位	-.217	.241	.3676
自己肯定感高位	.640	.184	P < .001 **
家族構成 (基準:父子・母子家庭以外)			
父子家庭	.844	.605	.1631
母子家庭	.139	.538	.7963
父親の学歴 (基準:中卒・高卒)			
専門学校卒	-.105	.217	.6303
短大・高専卒	.484	.497	.3303
大学・大学院卒	.186	.240	.4370
母親の学歴 (基準:中卒・高卒)			
専門学校卒	.356	.198	.0726
短大・高専卒	.447	.217	.0394 *
大学・大学院卒	.921	.341	.0070 **
父親の職業 (基準:その他)			
自営業(家族従業者を含む)	.024	.519	.9634
自由業(弁護士、開業医、芸術家など)	1.563	1.030	.1293
経営者・役員(民間企業、法人・団体等の経営者・役員)	.684	.634	.2808
民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員	.182	.496	.7142
民間企業・官公庁・団体などの契約社員・職員、嘱託社員・職員	-.047	.578	.9358
パート・アルバイト、臨時社員・職員、派遣社員・職員	.003	.607	.9962
無職(専業主夫を含む)	-.332	.772	.6672
母親の職業 (基準:その他)			
自営業(家族従業者を含む)	.227	.546	.6779
経営者・役員(民間企業、法人・団体等の経営者・役員)	.458	.796	.5654
民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員	.390	.484	.4209
民間企業・官公庁・団体などの契約社員・職員、嘱託社員・職員	.223	.518	.6672
パート・アルバイト、臨時社員・職員、派遣社員・職員	.375	.476	.4305
無職(専業主婦を含む)	.537	.513	.2954
世帯年収 (基準:200万円未満)			
200万円以上400万円未満	-.099	.259	.7017
400万円以上600万円未満	-.103	.291	.7242
600万円以上800万円未満	.402	.338	.2343
800万円以上	.189	.378	.6167
定数項	-2.795	.800	P < .001 **
尤度比	506.252		P < .001 **
-2対数尤度	1,100.060		
R2乗	.315		
Cox-Snell R2乗	.314		
Nagelkerke R2乗	.450		
判別的中率	81.2%		
N	1,344		

(注) **:1%水準で有意, *:5%水準で有意

次に、上記の説明変数の中から、変数増減法を用いて、目的変数の変動を説明する最適な説明変数の組み合わせを探索した。その結果は、以下の図表に示すとおりであり、高校の大学進学（予定）者比率、高校所在地、性別、兄弟姉妹の人数、進路選択時の心配、高校充実度、自己肯定感、父親・母親の学歴、父親の職業、世帯年収が説明変数として採用された。採用された上記の説明変数のうち、父親の学歴、父親の職業を除く変数については、生徒が大学進学であるか否かに、有意に影響していることが確認された。

説明変数の中でも、生徒が大学進学であるか否かに、特に大きく影響を与えているのは、高校の大学進学（予定）者比率であり、所属している高校の大学進学（予定）者比率が高くなるほど、生徒の大学進学（予定）の比率は高くなる。このことは、大学進学（予定）者比率の高い高校への入学が、大学進学の確率を高めることを示しており、中学校の段階で将来を見据えて進学する高校を慎重に選択すること、あるいは県内の高校が大学進学を目指す高校に変わっていくことが重要であることを示唆している。

図表 III-168　大学進学（予定）への影響要因分析の結果（変数増減法）

変数	偏回帰係数	標準誤差	有意確率
高校の大学進学比率 （基準:20％未満）			
大学進学比率20～50％未満	1.573	.311	P＜.001 **
大学進学比率50～80％未満	2.641	.266	P＜.001 **
大学進学比率80％以上	3.450	.360	P＜.001 **
高校所在地 （基準:中南部）			
北部	-.719	.216	P＜.001 **
離島	-.577	.212	.0065 **
性別:男性 （基準:女性）	.737	.157	P＜.001 **
兄弟姉妹の人数 ［0人、1人、2人、3人以上］	-.163	.083	.0487 *
進路選択時の心配 （基準:心配はない）			
学力が不足しているかもしれないこと	1.470	.155	P＜.001 **
進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと	.423	.327	.1958
高校充実度 （基準:高校充実度中位）			
高校充実度高位	.427	.162	.0084 **
自己肯定感 （基準:自己肯定感中位）			
自己肯定感高位	.675	.178	P＜.001 **
母親の学歴 （基準:中卒・高卒）			
専門学校卒	.326	.188	.0829
短大・高専卒	.432	.207	.0369 *
大学・大学院卒	.950	.327	.0037 **
父親の職業 （基準:その他）			
自由業（弁護士、開業医、芸術家など）	1.584	.916	.0838
経営者・役員（民間企業、法人・団体等の経営者・役員）	.595	.413	.1495
世帯年収 （基準:200万円未満）			
600万円以上800万円未満	.548	.235	.0194 *
800万円以上	.410	.262	.1179
定数項	-2.386	.389	P＜.001 **
尤度比	496.888		P＜.001 **
-2対数尤度	1,109.424		
R2乗	.309		
Cox-Snell R2乗	.309		
Nagelkerke R2乗	.443		
判別的中率	80.9%		
N	1,344		

(注) **:1％水準で有意, *:5％水準で有意

所属している高校の大学進学（予定）者比率の次に、生徒が大学進学であるか否かに、大きな影響を与えている変数は母親の学歴であり、母親の最終学歴が大学・大学院であると生徒の大学進学（予定）の比率は高くなる。また、自己肯定感、高校充実度が高位の生徒ほど、大学進学（予定）の比率は高くなっており、高校生活の充実度や高校生活等を通じて形成された自信などが大学への進学と関係していることがうかがわれる。

一方、北部地域や離島の高校に通う生徒は、中南部の生徒よりも大学進学の比率が低く、女子生徒の方が男子生徒よりも大学進学（予定）の比率が低くなっている。

なお、進路選択時の心配ごととして「学力が不足しているかもしれないこと」を選択している生徒は、大学進学（予定）の比率が高くなるが、これは、大学進学を予定しているために、学力不足への不安を感じるという関係にあるものと考えられる。

■高校の大学進学（予定）者比率と生徒の属性の関係

生徒が大学進学であるか否かに大きく影響を与えている高校の大学進学（予定）者比率について、生徒の属性とのクロス集計を行った結果は以下のとおりである。

高校の所在地域別にみると、「中南部」では大学進学（予定）者比率が「80%以上」の高校（43.5%）の割合が高いのに対し、「北部」では「20～50%未満」の高校（44.3%）、「離島」では「50～80%未満」の高校（73.5%）の割合が高くなっている。

世帯年収別では、年収が高くなるほど大学進学（予定）者比率の高い高校の割合が高くなっており、先の回帰分析による大学進学（予定）への影響要因分析では、世帯年収の影響は必ずしも明確にならなかったが、世帯年収は入学する高校の大学進学（予定）者比率の差を通じて生徒の大学進学（予定）に強く影響していることがうかがわれる。

親の最終学歴別でも、学歴が高くなるほど大学進学（予定）者比率の高い高校の割合が高くなっていることがはっきりと確認できる。

図表 III-169　高校の大学進学（予定）者比率と生徒の属性
（学校種別・高校所在地域別）

		サンプル数	高校の大学進学（予定）者比率の区分			
			80%以上	50～80%未満	20～50%未満	20%未満
全体		1,954	353	954	331	316
		100.0	18.1	48.8	16.9	16.2
学校種別	普通	1,562	353	954	222	33
		100.0	22.6	61.1	14.2	*2.1*
	専門	392	0	0	109	283
		100.0	*0.0*	*0.0*	27.8	72.2
地域別	北部	583	0	257	258	68
		100.0	*0.0*	44.1	44.3	11.7
	中南部	812	353	286	45	128
		100.0	43.5	*35.2*	*5.5*	15.8
	離島	559	0	411	28	120
		100.0	*0.0*	73.5	*5.0*	21.5

図表 III-170 高校の大学進学（予定）者比率と生徒の属性
（世帯年収別・男女別・家族構成別・親の最終学歴別）

		サンプル数	高校の大学進学（予定）者比率の区分			
			80%以上	50～80%未満	20～50%未満	20%未満
全体		1,954	353	954	331	316
		100.0	18.1	48.8	16.9	16.2
世帯年収別	200万円未満	292	24	140	55	73
		100.0	8.2	47.9	18.8	25.0
	200万円以上400万円未満	600	93	280	121	106
		100.0	15.5	46.7	20.2	17.7
	400万円以上600万円未満	430	77	229	71	53
		100.0	17.9	53.3	16.5	12.3
	600万円以上800万円未満	263	68	140	36	19
		100.0	25.9	53.2	13.7	7.2
	800万円以上	230	76	119	19	16
		100.0	33.0	51.7	8.3	7.0
男女別	男性	908	147	464	172	125
		100.0	16.2	51.1	18.9	13.8
	女性	1,039	205	485	158	191
		100.0	19.7	46.7	15.2	18.4
家族構成別	父子家庭	85	11	37	16	21
		100.0	12.9	43.5	18.8	24.7
	母子家庭	333	50	155	66	62
		100.0	15.0	46.5	19.8	18.6
	その他	1,429	285	727	228	189
		100.0	19.9	50.9	16.0	13.2
父親の最終学歴別	中学校	98	13	35	29	21
		100.0	13.3	35.7	29.6	21.4
	高校	642	105	311	119	107
		100.0	16.4	48.4	18.5	16.7
	専門学校	292	45	164	52	31
		100.0	15.4	56.2	17.8	10.6
	短大・高専	51	14	26	6	5
		100.0	27.5	51.0	11.8	9.8
	大学・大学院	383	116	207	32	28
		100.0	30.3	54.0	8.4	7.3
母親の最終学歴別	中学校	70	2	25	24	19
		100.0	2.9	35.7	34.3	27.1
	高校	678	106	307	144	121
		100.0	15.6	45.3	21.2	17.8
	専門学校	432	84	234	59	55
		100.0	19.4	54.2	13.7	12.7
	短大・高専	351	84	199	39	29
		100.0	23.9	56.7	11.1	8.3
	大学・大学院	176	53	93	20	10
		100.0	30.1	52.8	11.4	5.7

Ⅳ. 県内産業界等の人材ニーズの把握

１．調査の目的

県内で活動する経済団体や企業等の産業界における、県内産業及び企業の成長と発展を牽引する人材（商品開発等の専門的知識を要する職種、役員等の経営幹部、管理職層候補等）の育成・採用の状況のほか、今後の社会経済状況や事業活動を見据えて必要とされる人材像、それらの人材育成に係る県内高等教育機関及び行政への期待等を把握することを目的に、インタビュー調査を行った。

２．調査の概要

(1) インタビュー調査の対象とした団体・企業の概要

インタビュー調査の対象とした団体・企業は、以下のとおりである。

なお、対象団体については、県内の主要企業が会員となっている中央団体と、本県が重点を置く情報通信業及び観光業の団体を対象とした。

企業については、既に県内外を問わず広く事業活動を展開しており、今後も本県経済を牽引し、また高度人材の獲得にも意欲的と考えられる、比較的規模が大きい企業を対象とした。

図表 Ⅳ-1　意見聴取の対象とした団体・企業の概要

団体・企業	団体の概要・企業の業種
一般社団法人沖縄県経営者協会	提言活動のほか、会員企業に対する経済、経営、労務関係の情報提供、就職支援活動及び労使政策活動、各種調査等を実施。
公益社団法人沖縄県情報産業協会	県内情報通信関連産業の活性化や人材育成に資する取組を実施。
一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	国内外での誘致宣伝事業、受入体制整備事業、観光・リゾート関連産業の人材育成、イベントの開催等を実施。
A 社	建設業
B 社	製造業
C 社	製造業
D 社	情報通信業
E 社	卸・小売業
F 社	小売業
G 社	観光業
H 社	観光業

(2) インタビュー調査項目

インタビュー調査の項目は、以下のとおりである。

①団体・企業の概要と主要事業
②県内企業の（企業の場合は「自社の」。以下同様）人材確保（採用）・育成の状況
③県内企業の人材確保（採用）・育成における高等教育機関との連携の状況
④沖縄県内の高等教育機関への期待・要望
⑤沖縄県内の高等教育に関する環境整備についての行政への要望

(3) インタビュー調査実施期間

平成 29 年 12 月～平成 30 年 1 月。

３．調査結果

(1) 人材確保（採用）の状況

① 新卒採用

建築業や製造業では、主要業務や主要製品の研究開発等を担う人材を、関連する学部・学科から採用することを基本としている。一方、情報通信業では、情報系（理系）人材の不足を背景に、理系・文系を問わない採用を行っている。

また、県内に観光関連の学部があるものの、観光業に就職する卒業生は少なく、観光業の企業も、観光学部出身者に限らず、「幹部候補」や「求める人材」という視点で採用活動を行っている。卸・小売業では、新卒者の出身学部・学科を問わず採用している。

県内出身者と県外出身者では、県内出身者の採用が比較的多い。

■インタビュー結果概要

・建築が主業務であるため、大卒者も専門学校卒者も、工学系・建築系の学部・学科から採用。技術者の採用を優先している。県内出身者が、建設業界を目指して県外の大学で学び、戻ってくるケースも多い。高卒者の場合も、基礎的な教育がなされていて、経験を積めば施工管理技士の資格が取れるという点を考慮すると、大卒者に限る必要はないと考える。（Ａ社）
・県外での採用活動をほとんど行っていないため、県内の高等教育機関からの採用が多い。商品開発等を担う人材については、主要製品に関連する学部・学科出身の学生を「技術職」として採用する。（Ｂ社）
・唯一工学部がある琉球大学でも、情報系 60 人のうち半数は県外出身であり、残り半数の県内出身者も、進学か情報産業以外の就職、または情報産業でも待遇のよい首都圏等に就職するため、県内の情報産業に就職する学生はわずかである。高専や専門学校でも同様であるため、近年は情報系の学校・学科にとらわれず、文系からも採用し、採用後に育成している。（沖縄県情報産業協会）
・新卒は県内の高等教育機関の卒業生が多い。４、５年前までは情報系など理系を中心に採用していたが、今は集まらないので、理系・文系関係なく採用している。（Ｄ社）
・県内では琉大と名桜大に観光学部があるが、観光業への就職は少ない。一番の理由は、待遇面や勤務条件である。観光産業従事者の平均月収は全産業の平均より４万円低く、またシフト勤務で土日に休めないなど、条件的に敬遠される。（沖縄観光コンベンションビューロー）

・毎年新入社員を採用しているが、将来幹部候補になりうる人材の採用はまだ十分ではないと考えている。（G社）
・新卒採用は特に人数を決めておらず、求める人材がいれば採用する。配属地を想定して、県内・県外の拠点ごとに採用している。（H社）
・一部、業務に関係する知識を有する学生を募集しているが、採用に必須というわけではなく、基本的には学部・学科は不問である。（C社）
・幹部候補として、専門学校卒以上の人材を毎年採用している。対象学部や学科は特に制限せず、人物本位である。沖縄での採用活動を主としているが、県外からの採用者も２～３割程度である。（E社）
・昨年度の新卒者は全員沖縄県出身である。県外から就職するケースも稀にあるが、長く続かない傾向にある。採用における学部・学科の指定は特にないが、経済などの文系が多い。（F社）

② 中途採用

中途採用の場合は、有資格者のほか、特定分野における実務経験やノウハウの保有者等、専門性の高い人材が求められているが、同業他社や県外企業での経験に見合った水準の給与を提示できず、確保が難しいという課題もある。

■インタビュー結果概要

・即戦力となることから、県外の厳しい環境で働いた経験がある人材の中途採用ニーズは高い。ただし、給与水準が高い県外企業と同水準の給与を県内企業が提示することが難しいため、結果的に採用されるのは県内出身者が多い。（沖縄県経営者協会）
・各社即戦力を求めており、中途採用を募集していない企業はないが、思うように採用できていない。U・Ｉターン者の場合は、給与面の差が一番の問題である。また、データはないが、県内企業間での人材の流動も結構あると思われる。（沖縄県情報産業協会）
・新卒採用を控えていた時期があり、層が薄いミドル層（30 代～40 代前半）の人材も中途採用したいが、なかなかできていない。技術者、施工管理技士などの資格（特に１級）を有する経験者が望ましい。（A社）
・中途採用は県外が多く、UターンよりもＩターンの方が多い。沖縄に魅力を感じた人や、震災に伴う移住者もいる。中途採用の場合は、プログラマーを３年以上経験している人が望ましく、できればエンジニアがベストである。（D社）
・中途採用では、企画や財務、海外ビジネスの経験等、特定のキャリアやスキルを持った人材を採用している。また、事業部単位でも、IT 技術等の専門スキルを有する人材を採用している。（E社）
・中途採用は基本的に専門職として採用しており、昨年度は営業人材と、外国語人材を採用した。（F社）
・中途採用は、同業他社での実務経験やノウハウを持った人材を採用しているが、他社も同様のニーズを持っており、また給与を含めた待遇面の要望に 100%応えることもできないので、なかなかマッチングできない。（G社）
・中途採用ではマーケティングや人事経験者、ホテル支配人、主要業務のエキスパート等、専門性の高い人材を採用している。（H社）

③ 人材確保における課題

課題は、大きく量的不足と質的不足に分かれる。情報通信業では、そもそも関連分野の教育機関が県内に少ないことに加えて、マイナスイメージや県外大手志向の強さにより、人手不足が顕著になっている。また、建設業では若年者層の入職者が少ないこと、他業種では説明会の時点で学生が集まらないこと等が課題になっている。

また、質的な面では、コミュニケーション能力や業務に必要とされるスキル、仕事に対する意識等が、期待レベルに満たないという声が聞かれた。

■インタビュー結果概要

・ビジネスチャンスはあるものの、人手不足のために仕事を断っているケースがあり、特にホテル、飲食業、IT 関連、建築業、運輸業（バス運転手）等で、新規学卒者、中途採用ともに人手を探している企業が多い。（沖縄県経営者協会）

・人材が不足しており、一番の課題は、技術系、情報系の教育機関が少ないことである。技術人材を輩出する教育機関は、大学では琉球大学、沖縄国際大学、名桜大学の３校、他は高専、専門学校、沖縄ポリテクカレッジであり、北海道など他地域と比べると非常に少ない。（沖縄県情報産業協会）

・保護者は、県内の IT 業界に対してマイナスイメージを持っている。親は地元での就職を希望しているように思われているが、IT 業界に関しては、県外大手志向が強い。（Ｄ社）

・若年者層の入職者が少ないことが課題。業界としては、建設業界に親しみを持ち、理解を深めてもらうことを目的として、建設フェスタでの様々な技能体験や、学校での出張授業などに取り組んでいる。（Ａ社）

・新卒、中途とも毎年採用しているが、目標人数の半分程度にとどまっている。内定を出しても辞退して県外へ行ってしまうなど、理由は様々である。また、合同説明会にも参加しているが、なかなか学生が集まらず、先生のつてに頼っているのが実情である。（Ｄ社）

・人数は毎年想定どおりだが、「質」は必ずしも想定どおりではない。コミュニケーション能力を重視しているが、最近は学生向けの面接対策講座などもあり、面接での印象と採用後の印象にギャップがあるケースもある。（Ｂ社）

・海外での就職相談会を実施しているが、採用されるのは、結果的に「日本語ができる海外の人」が多くなっている。本来は日本の人も、高等教育で外国語を勉強しており、観光業等で活躍してもらえるはずだが、現状は異なる。（沖縄観光コンベンションビューロー）

・高等教育が進んでいる韓国の学生は、驚くほど日本語が堪能で、教育レベルも高く、職業に対する意識も非常に強いという点で、日本の学生とは大きく違う。自分の将来を見据えてキャリアを自ら築いていくという感覚は、日本の大学生のそれとは若干温度差がある。（Ｇ社）

・新卒者については今のところ計画通り採用できているが、中途採用者は不足している（もう少し採用したい）。（Ｅ社）

・中途採用者の役割に対する処遇（賃金）の適切な設定が難しい。（Ｈ社）

④ 必要とされる人材

様々な課題を自ら解決する力、あるいは周囲を巻き込みながら解決する力や、そのベースとなるコミュニケーション能力、情報収集力、分析力を備えた人材、また、県外や海外、今後の社会環境の変化の中でも生き抜き、活躍できる能力を持つ人材等が求められている。

個別の業種では、観光業で外国語人材の需要が急激に高まっているが、同時に、オンライントラベルやキャッシュレス化に対応できる IT スキル、マーケティングやデータ分析のスキル、Web デザインのスキル、多様化する旅行者のニーズに対応できる知識等、単一のスキルのみならず、複数のスキルを併せ持ち、業務の更なる拡大に資するような人材が求められている。また、現場では、専門的な調理の技術を持つ人材も不足している。

また、情報通信業では、プロジェクトの具体化やマネジメントができる人材が求められている。

■インタビュー結果概要

・商品開発のきっかけとして、「市場ニーズの動向」や「得意先からの要望」等が商品開発に繋がることがあり、営業スタッフの情報収集力や市場分析力、コミュニケーション力は非常に重要な能力といえる。（Ｂ社）

・販売職では、「コミュニケーション力がある」、「受け答えがしっかりできる」、「話が上手にできる」などの能力が大切であると考えている。（Ｆ社）

・観光業界では、ホスピタリティに加えて、「地域の課題を解決できる能力」や「地元や他の地域と連携できる能力」を備えた人材が必要と言われている。（沖縄県経営者協会）

・「考え抜く力」、「人を巻き込む力」を持った人材が重要である。AI の活用等により、仕事の構造が今後ますます変化していく中では、人としての強みが求められる。そのような環境の中でも「生き抜ける力」を持った人材が重要である。（Ｅ社）

・将来、海外展開を考えるなら、国際ビジネスに関する知識を持った人材が重要であると認識している。県内の人材はあまり県外・国外に出たがらない傾向があるが、沖縄の外で働く度胸を持った人材を採用したい。留学なども含め、沖縄の外で活動した経験を持った人材は重要であるため、今後は県外人材の採用にも力を入れる予定である。（Ｅ社）

・外国人観光客の増加に伴い、外国語人材の需要が急激に高まっている。外国語人材を特に必要としている業種は、飲食業、ホテル業、マリン業であり、最近はレンタカー業でのニーズも拡大している。また、マーケティングやデータ分析ができる専門人材も必要である。（沖縄観光コンベンションビューロー）

・グローバル化が進んでいることから、語学力がある（多言語対応可能な）人材を重要視している。業務の中には、英語や中国語ができないと対応が難しいものもある。（Ｆ社）

・海外（特に台湾、韓国、中国のほか、直行便があるタイ）からの客が非常に増えており、それに対応できる高度外国語人材として、外国語を母語とする人材を正社員として採用している。（Ｇ社）

・観光分野では、アレルギー対応、民泊、ムスリム対応、LGBT 対応など、新たに対応が必要な事柄が次々とたくさん出てくる。そこに対応できる考え方や企画力を持つ人材が必要である。（沖縄観光コンベンションビューロー）

・観光分野でも、オンライントラベルやキャッシュレス化が進むため、観光と IT 両方の知識を持つ人材が必要になるが、県内ではプログラミング人材が不足し、今後も需要に供給が追いつかないことが予想される。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・旅行会社ではインターネットでの旅行予約が加速しており、IT による顧客のニーズ分析等ができる人材が重要視されている。（沖縄県経営者協会）
・IT リテラシーは今後さらに重要になる。ビッグデータを戦略的に扱えるデータサイエンティストは引っ張りだこになるであろう。また、オンライントラベルでの収益が上がるような Web デザインができる人材など、観光関連の資格や語学力は当然持ち合わせたうえで、＋αのスキルも持つ人材が重要になる。（H社）
・さまざまな能力が求められるが、学んだ事を知識として活かす「技術力」、問題解決に必要な「コミュニケーション能力」は必須になる。（A社）
・調理に携わる人材が足りない。沖縄には飲食店が多く、非常にニーズの高い職種だが、数として足りておらず、中でもホテルのフルコースにも対応できるような、西洋料理の専門的な技術を持つ人材は少ない。（G社）
・プロダクトマネージャクラスの人材は育成に時間がかかるため、ニーズが高い。（沖縄県情報産業協会）
・県外から仕事を受注するうえで、プロジェクトの体制づくりやマネジメントができるリーダー人材が少ない。また、営業が繋いだ話をプロジェクトに落とし込める人材が足りない。エンジニアリングと営業の両方ができる人材が必要である。（D社）

(2) 人材育成の状況

① 階層・属性別研修等

新人向けには、社内研修、外部研修、OJT など、様々な形態の研修が行われている。また、社内研修だけではなく、外部研修を受講させるケースもみられる。

また、中堅以上では、中核人材育成のための研修や、管理職候補及び管理職を対象とした、マネジメントスキル等の向上のための研修が行われている。

上記以外にも、企業が求める人材像を育成するための取組や、メンター制度の導入等が行われている。

■インタビュー結果概要

［新入社員研修］

・新入社員は建設業協会の施工管理者講習（約２か月）を受講し、その後現場で OJT を行っている。（A社）
・新入社員には外部の新入社員研修を受講させている。（C社）
・人材不足で、情報系の学校・学科だけではなく、文系出身者も採用しているため、協会主催の新人向け研修は年々受講者が増えている。約３か月で、マナー教育から言語教育（主流の Java）まで、プログラマーとして初期段階の仕事ができるところまで教育する。（沖縄県情報産業協会）
・知識が少ない文系出身者は、自社のカリキュラムで教育している。（D社）
・幹部候補（新卒）には、「階層別研修」、「職能別研修」、「IT 研修」など様々な研修があり、入社後３ヵ月間は集合研修で職場をローテーションし、正式配属後には全ての部門を一通り経験する配置となる。また、入社前にもビジネスマナー等の社外研修を受

講させている（Ｅ社）
・新入社員は、通常は売り場から経験させ、その後、適材適所を考慮して異動させている。また、入社時研修のほか、１年後、２年後、３年後のフォロー研修を行っている。また、新入社員を中心に、グループ企業との合同研修会も実施している。（Ｆ社）
・新卒採用者には、当社が費用を負担して、入社前に自社の商品を顧客の立場で体験する機会を与え、入社時にレポートを提出させている。（H社）

［階層別研修（新入社員含む）］
・業界団体等のセミナーや研修に従業員を参加させている。初級・中級・上級等に分かれており、業務上重要な事項の分析力や、年々改正される法律の知識も身につけるようにしている。（Ｂ社）
・階層別研修として、マネジメント力、部下の育成力を向上させる管理職研修や、サブリーダー研修を実施している。（H社）

［中堅以上向け研修］
・幹部候補を協会として教育するのは難しいが、上流工程の業務を受注していくためには中核人材の育成が必要。中核人材育成に関する国の事業を運営しているが、ニーズはあるものの拘束時間が長く、企業も中核人材ほど研修に出す余裕がないため、難しいところがある。（沖縄県情報産業協会）
・中核人材育成、経営者向け、現場従事者向け等のセミナーを行っている。中核人材向けのセミナーの対象は、観光業界経験が５～10 年程度の人であり、企業のビジョンの明確化や部下の育成、マネジメントやコーチングスキル等、将来管理職になるにあたって必要となる知識やスキルを身につけることを目的としている。観光業界では人手不足が課題になっており、離職率を上げないためにも、部下を適切に管理できる人材が必要である。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・平成２年から、幹部候補育成を目的とした「かりゆし塾」を開催している。企業や自治体から価値観が異なる人材が集まり、それぞれがリーダーシップを発揮しながら地域活性化プランを作成し、最後にプレゼンを行うという研修内容である。卒業生には、経営者や組織の幹部、政治家になった人もいる。（沖縄県経営者協会）

［その他］
・一番の大きな方針は、課題発見から提案までを自立的にできる人材を育成することである。会社としても、提案に対しては迅速に対応しており、それが社員のやりがいにもつながっている。人事考課では、提案の有無も評価しており、経営的な指標と個人の行動・成果の二本柱で半期ごとに評価を行うことで、アウトプットとフィードバックをスピーディに行っている。（G社）
・メンター制度は、これまでも受入先でそれぞれに運用していたが正式に制度化した。メンター社員の個別研修から、フォローアップ研修なども行い、新入社員の育成・定着支援はもとより、メンターになる社員の意識向上にも役立つ制度として、企業一丸となって運用していく。（G社）
・外国籍の社員も多いため、日本人、外国人双方が多文化に適応できるよう、合同で研修を行っている。文化の違いよりも、笑顔や感謝の言葉など、共通する部分に着目することで、お互いの理解を深め合う工夫をしている。（H社）

・女性のスキルアップやモチベーションアップを目的とした「女性リーダー部会」が昨年 20 周年を迎えた。開催当初は、社内にロールモデルがおらず悩んでいる女性が多かったが、同じような境遇の女性が集まり、他の組織の話を聞いたりディスカッションをしたりすることで、自身の取組について考えるよい機会になっている。（沖縄県経営者協会）

② 資格取得等

いずれの企業でも資格取得は奨励されており、費用の助成や祝い金、手当の支給等が行われている。資格の種類は、業務に直接関係するもののほか、間接的に関係するものや、本業以外の領域を広げるようなものまで、幅広い資格の取得を奨励している企業もある。

■インタビュー結果概要

・免許取得やスキルアップを助成するケースはあるようだ。企業が一部負担する方法のほか、資格の内容によっては合格後に全額支給するケース（半額返金、半額賞与支給扱い等）もある。（沖縄県経営者協会）
・業界全体としては、２次、３次受けから、元受けや自前開発に移行したいと考えているが、そのためには中核人材の確保が必要である。しかし実際には不足しており、仕事があっても成長できないといったこともあるため、協会では、上流工程の仕事が取れるよう社員教育、資格取得をサポートしている。（沖縄県情報産業協会）
・中堅社員等への研修制度はないが、必要な資格は国の助成金を活用しながら取得させている。施工管理技士は必須なので、経験に応じて２級、１級と段階的に取得し、それ以外は現場で必要と判断した講習を受講させている。（A社）
・業務で必要になった資格の取得や研修の受講は、会社が費用負担している。（C社）
・「基本情報技術者」等の資格は、顧客へのアピールにもなるので、採用の目安になるし、入社後も取得を奨励している。（D社）
・資格取得奨励制度があり、資格取得者には祝い金や手当を支給している。対象資格は「取得義務」（本業に直接関連する資格）、「奨励」（本業に間接的であるが効率化が図れるもしくは精度向上に繋がる資格）、「その他」（本業以外の領域を広げる可能性のある資格）など、約 80 種類ある。（E社）
・売り場の一般職は「販売士３級」、管理職は「販売士２級」を取得すべき目安としている。資格取得は奨励しており、自己啓発小冊子などを発行しているほか、通信教育等の費用の半額支援（資格合格後）も行っている。また、リーダーや係長クラスの社員は、業界団体が開催する集合研修等にも参加させている。（F社）
・沖縄観光コンベンションビューローの制度を活用し、中国語講座を行っている。（F社）
・海外客に対応するため、全員で TOEIC の一定スコア獲得の目標を設けて、外国語習得に対する意識を高く持っているが、業界としては、業務上の資格の制度化はそれほど進んでいない。接遇等スキルの評価制度は全国にあるが、レベニュー・マネジメント等の評価制度はなく、社内の資格試験で対応している。（G社）
・外国籍の社員は、自己啓発の一環として「グローバル人材ビジネス実務検定」（日本企業で働きたい外国人材のための接遇力やビジネス基礎力の検定）を受けて、能力レベルの確認をおこなっている。（H社）
・クルーズコンサルタントなどの資格取得の支援も行っている。（H社）

③ その他

他社への出向や派遣等を通じて経験を積み、自社での業務に生かすための取組のほか、研究開発に資する情報収集のための展示会等への派遣、放送大学の講座受講、自社のダイバーシティを活用した人材育成等が行われている。

一方で、業務が多忙で、人材育成の機会が十分に創出できていないケースもある。

■インタビュー結果概要

・県内専門学校の副校長が、企業での働き方を自ら学び、求められる人材像を把握するために、県内企業に一定期間出向して働いている例がある。また、県内製造業が、技術取得のために、人材を県外の連携会社へ派遣しているケースもある。さらに、ホテルや IT 関連の業界では、転職でスキルアップする慣習がある。（沖縄県経営者協会）

・県外の同業他社に毎年１名社員を派遣し、連携した人材育成を実施している。主に中堅の人材を派遣（社内で希望者を募集）しており、雰囲気やシステムなども含め、多くのことが学べるよう、県外で経験させている。（Ｆ社）

・人材育成にかかる外部との連携として、取引先に人材を派遣することを検討中である。（Ｆ社）

・県外、海外の展示会等に人材を派遣し、新しいアイディア、知識、情報等を収集させて商品開発につなげている。ほかにも、機械や資材など、業務に関連する様々な展示会に参加させている。（Ｂ社）

・放送大学を活用した人材育成として、入社後の社員が放送大学の講義を受講できるよう、企業が補助しているケースがある。（沖縄県経営者協会）

・自己啓発への支援のひとつとして、放送大学の講座を受講する場合、費用を全額負担している。（Ｈ社）

・従業員の中に外国人がいることで、ダイバーシティを実践しているような形になっている。文化が異なると、仕事の仕方に対する感覚も異なるため、指示の出し方など、現場でのコミュニケーションの重要性を知る人材育成の機会にもなっており、その経験が、お客様への対応にも生きてくると考えている。（Ｇ社）

・低賃金のニアショアでの受注が常態化しているため、賃金向上ややりがいの面でも、そこから脱却して上流工程を受注する必要がある。低賃金では自己研鑽の時間すら取れないという問題が出てくる。（沖縄県情報産業協会）

・現状の観光産業では、総じて人が足りず、人材育成にまで手が回らないという状況である。（沖縄観光コンベンションビューロー）

(3) 人材確保・育成における高等教育機関との連携の状況

① 採用における高等教育機関（県内／県外）との連携

1) 採用活動

採用にあたって連携を行っている企業は少ないが、共同研究先や講師の派遣先からの採用があるケースがみられた。また、高専の協力会への加入や、合同説明会の開催等による採用活動をしている企業もある。

また、特に取組は行っていないものの、継続的に同じ高等教育機関から採用している企業が複数ある。

■インタビュー結果概要

・採用に関しては専門学校と連携しているが、近年は売り手市場で希望者がいない。（D社）
・特定の付き合いがある大学等には、募集を案内している。また、共同研究先の高等教育機関から、当社の求める人材を紹介してもらうケースもある。（B社）
・県内の専門学校に講師を派遣しており、採用にもつながっている。今後は、現場の最前線にいる若手社員を講師として教育の場に派遣できれば、おもしろいのではないか。（G社）
・採用についての連携は特にない。企業によっては高専の協力会に加入して人材確保を図っている。また、一部の企業は、県内出身者をターゲットに、県外で合同企業説明会を開催しており、学生も集まっているようである。（沖縄県情報産業協会）
・採用に関する高等教育機関との連携はないが、ここ数年継続して採用している高等教育機関はある。（A社）
・県内の高等教育機関からの採用が主であるが、毎年決まって採用しているところがあるわけではない。（F社）

2) インターンシップ

多くの企業がインターンシップを実施しているが、採用活動の一環として明確に位置付けている企業はなく、「就職先の選択肢の一つとして認識される」ことを重視した自社のPRや、社会貢献を目的としたものが多い。

ただし、インターンシップがきっかけとなり、採用につながったケースもみられる。

■インタビュー結果概要

・沖縄ファミリーマートがインターンシッププログラムとして開催している「学P沖縄リーグ」では、県内の大学の学生が、実際にファミリーマートで販売する商品を学校対抗でプロデュースしている。また、医療系の専門学校では、病院でのインターンシップから就職に繋がっている例もあるようだ。（沖縄県経営者協会）
・インターンシップは県内の大学、大学校、高校（建築・土木系）と県外の工業系大学から年間５件以上受け入れており、毎年受け入れている学校もある。現場で基礎的な業務の見学及び体験をしてもらい、現場の雰囲気やイメージとのギャップを感じ取ってもらったうえで、志望してくれるとよいと考えている。（A社）
・熱心な企業では、大学生の旅行企画コンテストや県外派遣、海外留学支援を行っている。また、ホテル業やダイビング業で、海外からの人材を受け入れている企業が増えている。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・10～20 名単位の職場見学を受け入れており、全ての学部・学科を対象としている。また、インターンシップは、学校側の要望に応じて相談をしながら受け入れている。（E社）
・インターンシップについては、希望する高等教育機関があれば受け入れのタイミングを調整し、実施している。昨年は、専門学校から受け入れたインターン生が１名採用されていることから、効果はあると感じている。（F社）
・インターンシップは、県内外からさまざまな形で受け入れており、大学生は年間 20～30 人である。採用につながったケースは、インターン中に、イメージと現実のギャップを調整できたのではないかと考えている。（G社）

・海外からのインターンは、半年から１年という長いスパンであり、70～80 人を受け入れている。様々なプログラムを経験して、就職先として当社を選んでくれればと考えている。（G社）
・国内大学等からのインターンシップは、要望があれば各拠点で受け入れている。採用目的ではなく、「現場を見て、業務を体験していただく」という観点で実施している。結果として当社に興味を持ってもらえれば歓迎するが、現場を見て学生が自分に向かないと感じれば、ミスマッチの解消にもつながると考えている。（H社）
・英国の大学のインターンシップ生(３年次の学生２名)を１年間受け入れている。社内の人材だけでは出ないアイディア、提案など、ダイバーシティによる相乗効果が得られ、インターンシップ生、会社にとって、win-win の関係となっている。インターンシップ生は両名とも日本語が話せないため、インターンシッププログラムはすべて英語で行っており、社員にとっても刺激になり、英語能力の向上にも寄与している。（H社）

3）その他

学校からの依頼により、学校での出張講座や講演を行う企業もある。

■インタビュー結果概要

・学校側から依頼があれば、県内大学 OB・OG 社員が出張講座を行っている。ボランティアの意味合いが強く、採用に直結するものではないが、学生に当社を知ってもらう良い機会になっていると認識している。（E社）
・学校からの依頼を受けて、経営陣（社長、専務等）が講演を行っている。（F社）

② 人材育成における高等教育機関（県内／県外）との連携

観光業では、大学と包括連携協定を締結して、人材育成に資する様々な取組を行う企業が複数ある。また、今後ニーズが高まると思われるデータサイエンティストの育成に、大学と連携して取り組む企業もある。

■インタビュー結果概要

・大学と包括連携協定を締結し、高等教育のあり方や、大学が企業に求めること、企業が大学に求めることについて活発に意見交換している。（G社）
・観光専攻や日本語専攻がある海外の大学と連携協定を結んでいる。学生のキャリア教育の場として力になり、将来的には採用に結びつけばよいと考えている。（G社）
・大学と包括連携協定を結び、複数の講義で協力している。また、寄附講座として、フィールドワークを含めた集中講義も担当している。（H社）
・キャリア教育支援団体と連携して、県内の複数の大学にキャリア教育用テキストを提供し、講義も行っている。また、グループにミッションを与えて企画提案をしてもらう形式のプログラムもある。（H社）
・ビッグデータを扱う県内企業が、データサイエンティストを育成する目的で滋賀大学や琉球大学と連携している事例はある。今後重要になる分野であり、人材ニーズも高く、育成段階から企業が関わっている。（沖縄県情報産業協会）
・以前は、研究の手伝い等で社員を高等教育機関に派遣していたが、無償であり、また一度派遣すると戻すことが難しくなってしまうことから、現在は行っていない。（B

社）
・学校に出向いて講義をすることはある。ただ、大学の工学部であっても、県内の IT 業界は知られておらず、学生の大半は県外での就職を想定しているようだ。（D社）

(4) 沖縄県内の高等教育機関への期待・要望

IT 関連人材や、データサイエンティスト等のニーズは、業種を問わず大きく、各業種の中で、手段としての IT の知識やデータ分析、マーケティングのスキル等を生かせる人材の育成が求められているほか、技術やスキルのみならず、将来幹部として経営を担うための知識を身につけた人材の育成を求める企業もある。

それらのニーズに合致する人材を育成する高等教育機関の拡充のほか、今後新設予定の学部に期待を寄せる企業もみられた。

さらに、学生の職業観の醸成や、県内の成長産業や企業への関心を高めるような機会の充実のほか、県外や海外で経験を積み、視野を広げるような機会を学生に提供することも求められている。

■インタビュー結果概要

・県内には工学系の大学がない。県内の情報産業界からすると、学者など学術的に高度な人材より、プログラマーなど技術者としての人材が求められており、技術者を育成する教育機関があるとよい。また、専門学校は未だ足りておらず、レベルの差も激しいし、２年間の教育では即戦力にはならない。（沖縄県情報産業協会）
・修士、博士課程のニーズは、現段階ではまだ少ない。それだけ高度な知識・技術を必要としている企業が少ないということである。一方で、データサイエンティストの育成に取り組んでいるような企業は先を見据えていると思われるし、セキュリティ分野でも今後高度な人材のニーズが出てくると思われる。（沖縄県情報産業協会）
・情報系学科の出身者でも、基礎的な知識はあっても、実際の業務では即戦力にならないということもあるため、ゼロから育成するつもりでなければ厳しい。大卒者と比べると、高専やポリテク出身者の方が習熟は早いと感じる。実践的なことを教える学校がもう少しあると良い。（D社）
・「基本情報技術者」の資格は必須であるため、最低限取得しておいてもらいたい。専門学校卒者は採用時にほとんどが取得しているが、大卒者はほとんど取得していない。（D社）
・「観光」×「IT」の両方の知識や能力を兼ね備えた人材の育成が求められている。（沖縄県経営者協会）
・現在の専門学校のカリキュラムは、おそらく旅行業、ホテル業、ウエディングなど、各分野への特化が進んでいると思われるが、それだけではなく、マーケティング等にも対応できる、ビジネス寄りの人材を育成する必要がある。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・観光関連産業のマネジメントを専門的に学び、その成果として MBA が取得できる大学があればよいと思う。専門学校は職業訓練に近く、即戦力にはなるが、将来の幹部候補としての知識は十分に身につかない。経営や政治の知識を一定持ち、かつ現場を大学教育の中で学べる場があれば非常によい。台湾や韓国にはそのような大学がある。（G社）

・高等教育機関に進学すれば、語学を 10 年近く勉強することになる。語学教育が効果的に行われ、学習期間に見合った語学力が全員についていれば、外国語人材は充足するはずで、現場で使えるような語学教育が必要である。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・沖縄大学が管理栄養士を養成する学科を設けると聞いている。本県では管理栄養士は貴重な人材であり、専門人材として期待している。（Ｂ社）
・もっと民間企業に目が向くような教育・指導をしてもらいたい。加えて、技術系人材は絶対数が足りないため、増員をお願いしたい。例えば、琉大工学部の建築系は 20～30 名だが、うち何割かは県外出身者で県内に残りにくく、さらに県内出身でも公務員志望者がいるため、県内の民間企業に就職する卒業生は限られてしまう。（Ａ社）
・県内の高等教育機関において、学生が、沖縄の文化や歴史をもっとしっかり学べる環境を整えて欲しい。そのような動きが沖縄の観光にも結びついていくと考えている。（Ｂ社）
・インターンシップ等の職場体験の期間をもっと長くできるようにしてほしい。教員の教育実習は１～２か月ほどだが、当社への職場体験は１週間程度であり、伝えられることが限られる。せめて２～３週間は設ける仕組みにしていただきたい。（Ｂ社）
・県内の高校生が高等教育に進まないのは、学校や家庭だけでは職業観が形成されないからではないか。県内の高校生で、実際に現場のサービスを利用したことがある生徒は少ない。現場がどんな場所かわからない生徒に説明しても伝わらないため、企業側が高校生のインターンシップの機会を提供することも必要であろう。（Ｇ社）
・社内からは、ビジネスマナーが欠落している新入社員が多いという声が挙がっている。知識もパソコンスキルも豊富で、プレゼンも上手くこなす点は良いと思うが、最低限の実務的な部分（ビジネスマナー等）もしっかり学ばせて欲しい。（Ｆ社）
・観光が様々な産業に関連し、地域経済にどの程度インパクトを与えているかをまず教員が理解し、高等教育の中でも成長分野として教えていただきたい。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・沖縄の学生は沖縄が大好きで、沖縄に貢献したいとよく言うが、そのためにはまず県外や海外に出て、世界で活躍できる実力をつけてから、沖縄に戻ってほしい。地域に貢献する人材育成は重要であるが、世界に通用する人材になってこそ地域に貢献できる。留学や県外での就労を通じて、厳しい競争の中でスキルやキャリアを磨いてほしい。（Ｈ社）
・交換留学や本土の大学との合同ゼミなど、視野を広げるようなプログラムがあるとよい。（Ｈ社）

(5) 沖縄県内の高等教育に関する環境整備についての行政への要望

学生への経済的支援の充実のほか、情報系の高等教育機関の拡充、海外のホテルスクールの誘致等が求められている。また、本島と比較すると教育機会が少ない離島における機会拡大のため、高等教育機関やサテライトの設置を求める声も聞かれた。

さらに、産業界のニーズを踏まえた人材育成の充実や、インターンシップ受入企業の受入環境に関する指針の作成、海外や県外で学び、「自分の目で見て経験する」機会の提供・拡充が求められている。

■インタビュー結果概要

・給付型の奨学金を増やして、もっと学生を支援して欲しい。（Ｂ社）
・県内には工学系の大学がない。県内の情報産業界からすると、学者など学術的に高度な人材より、プログラマーなど技術者としての人材が求められており、技術者を育成する教育機関があるとよい。また、専門学校は未だ足りておらず、レベルの差も激しいし、２年間の教育では即戦力にはならない。（沖縄県情報産業協会）（再掲）
・修士、博士課程のニーズは、現段階ではまだ少ない。それだけ高度な知識・技術を必要としている企業が少ないということである。一方で、データサイエンティストの育成に取り組んでいるような企業は先を見据えていると思われるし、セキュリティ分野も今後高度な人材のニーズが出てくると思われる。（沖縄県情報産業協会）（再掲）
・情報系学科の出身者でも、基礎的な知識はあっても、実際の業務では即戦力にならないということもあるため、ゼロから育成するつもりでなければ厳しい。大卒者と比べると、高専やポリテク出身者の方が習熟は早いと感じる。実践的なことを教える学校がもう少しあると良い。（Ｄ社）（再掲）
・海外の有名なホテルスクール（コーネル、ローザンヌ等）を沖縄に誘致すれば、県内人材の底上げにつながるのではないかという意見もある。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・離島には高等教育機関がなく、高校卒業後島外に転出してしまうため、宮古島からは、観光関連の専門学校設置の要望が出ているし、石垣島でも同様のニーズがある。ただし、観光学部出身者の観光業への就職状況を考えると、単純に学部を新設すればよいという話でもないのではないか。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・本島以外の人が、研修やセミナー等に参加する機会が制限されてしまっている。サテライト等を設置することで、那覇や本島南部だけではなく、県内のどこにいても平等に人材育成の機会を享受できる方策が必要である。（沖縄観光コンベンションビューロー）
・産学官の連携を強固に進めていただきたい。（Ｅ社）
・業界強化の意味でも、求める人材の共通項にターゲットを当てた行政の後押し・財政支援など、人材育成のサポートをお願いしたい。（Ｅ社）
・韓国では、国がインターンシップを支援している。観光は今後も伸ばすべき沖縄の基幹産業であり、観光特区として１つ先進的な事例ができれば、全国的な取組にもつながるのではないか。（Ｇ社）
・インターンに行ったが、単に労働力として扱われたことで、学生がその業界を敬遠するというケースもあるそうだ。行政がインターンの受入環境や対応に関する要件を示した指針を作成し、学校は、要件を満たした企業に限定して学生を派遣するような仕組みが必要ではないか。（Ｇ社）
・留学の支援等、グローバル人材の育成環境を整備していただきたい。また、グローバル人材を確保するルートを充実させたいことから、留学経験者を採用できるマッチングの場など、何らかの仕組みを構築して欲しい。（Ｅ社）
・学生を海外に短期留学で派遣する国の事業に関わっているが、応募者が少ないので、広く周知されるようもっと広報してはどうか。（Ｈ社）
・外で自ら学んで知識を得た学生は、伝聞ではなく、自分の考えを堂々と伝えることができる。自分で学ぶ機会は何事にも代えがたいため、高等教育で県外や海外で学ぶ機会を必須にし、経済面の支援もできればよいと思う。企業の基金等はあるが、一企業

ができる範囲は限られているので、行政が機会均等の観点から支援をしてほしい。（G社）

Ⅴ. 本県の高等教育のあり方に係る有識者の意見聴取

１．調査の目的

これまでの調査結果を踏まえるとともに、県内外の有識者の知見から、県内高校生の高等教育機関への進学率向上に向けた課題や、それらを解決するために有効な取組、また、本県の発展に資する人材育成につながる方策に関する助言を得ること目的とした。

２．調査の概要

(1) インタビュー調査の対象とした有識者

インタビュー調査の対象とした有識者は、以下のとおりである。

図表 Ⅴ-1　インタビュー対象とした有識者（インタビュー実施順）

所属	役職・氏名
東京大学 大学総合教育研究センター	教授 小林雅之 氏
沖縄大学	名誉教授 加藤彰彦 氏
一般社団法人 沖縄県キャリア支援・教育連携協議会	理事 翁長有希 氏
一般社団法人まちづくりうらそえ	代表理事 大城喜江子 氏 金城 円 氏 金城 悠 氏
沖縄県立美里高等学校	校長 宮城 薫 氏

(2) インタビュー項目

インタビュー調査の項目は、以下のとおりである。

①沖縄県の高校生の進学における課題と求められる支援策

1) 沖縄県内の高校生の進学率が低い（希望どおりの進学を実現できない）理由

2) 下記項目についての沖縄県内高校生の現状と求められる支援策

・家庭の経済状況
・生徒の学力
・進学に対する生徒（本人）の意識と意欲
・進学に対する保護者や家族の理解
・沖縄県内の高等教育機関の環境（進学したい大学・学科がないなど）
・高校生（または保護者）に対する進路や仕事に関する情報提供や指導

②沖縄県内の高校生の進学率の向上に有効な取り組み

③沖縄の発展に資する人材の育成・確保

(3) インタビュー実施期間

平成 30 年２月。

３．調査結果

(1) 高校生の進学における課題と求められる支援策

① 高校生が希望どおりの進学を実現できない理由

1) 進路を規定する要素

・進路を規定する要素は、大きくは「家庭の経済状況」という家族の特性と、「生徒の学力」という本人の特性の２つである。加えて、高等教育機関の収容力（そこで学べる分野の多寡を含む)、国や自治体の支援策の状況の４つの要因で概ね決まる。

・学力が足りない、経済的に厳しいという２点が理由として大きいので、学力を上げる方策と、経済的なハンディを除去する方策が、進学率を上げるであろう。

2) 経済的な要因

・家庭の経済状況は大きく影響する。沖縄は貧困率が高いが、貧困家庭では若年出産も多く、そうなると家庭教育も困難であり、親の状況が子どもに連鎖する。

・教育困難校と進路多様校では特に傾向が強いかもしれないが、家庭に経済的なゆとりがないためにアルバイトをしている子どもが多い。アルバイトをする理由は、必ずしも家計を助けることだけではない。小遣いがもらえないため、携帯電話を持つなど、「自分が高校生として普通の生活をする」ためにアルバイトをしているケースも多い。そうなると、目の前のことで精一杯で、将来に目が向きにくくなり、キャリア教育や進路指導をしても、大学進学を自分ごととして考えにくい。

3) 学力の低さ

・大学の進学率のみならず、合格率も全国より低く、その理由として学力不足、学習習慣未確立、家庭学習時間の不足が挙げられる、また、県外に比べて、動機付けとなるキャリア教育や進学指導の不十分さもある。

・教員が足りないので、子どもが勉強を理解していなくても、そのままにせざるを得ないし、子どももプライドがあるので「わからない」と言えない面もある。さらに中学生になると荒れてくるということもあるため、教員とは異なる視点で、小学校ぐらいの早い段階で外部の人材が関わり、中学、高校と切れ目なく支援することが必要である。特に中学と高校は、それぞれ市町村と県に管轄が分かれてしまうため、意識的に支援をつなげる必要がある。

4) 高等教育機関の収容力の低さ

・沖縄の場合は、進学先が県内か県外かという問題もある。大学の定員が少なく収容力がないこと、また希望する分野が学べないことから、県外に出ざるを得ないという点は、高等教育機関側の問題である。

・沖縄の場合、「離島」という条件が、他県と大きく異なる。高校から下宿する必要がある子どももかなり多いので、そうなると進学は考えにくい。また、県が寮を用意しているが、寮での集団生活に対するニーズの有無や、メリット・デメリットもある。

・大学進学率が低い理由の一つとして、専門学校が多いことも挙げられる。一括交付金を使った産業振興を目的に、IT 関連と観光関連の専門学校に進学する 300 名に奨学金を出すという施策も、高校生の進路を四年制大学から専門学校に誘導する結果となる。

5) 進学に対するイメージの欠如

・高校卒業後の進路は高校生の間に決まるのではなく、中学生までの間に、ある程度先の進路までを考えているため、高校に入った時点で、既に高校別の格差ができてしまっている。中学生の間に、自分の能力や可能性に気づかせ、「大学や専門学校に行けばこんなことが実現できるよ」という働きかけをすることが重要で、高校に入ってからでは遅い。

・保護者の最終学歴が中学校や高校という家庭の子どもは、「大学に進学しないのが当たり前」という環境の中で育っている。厳しい状況の家庭が多い地域で小中学生を対象とした学習支援をしているが、その中で、子どもたちがボランティアの大学生とふれあい、「大学に行く」というイメージを持てるよう、大学生に、自分が大学で学んでいることや、サークル活動、趣味などについて、毎回プレゼンをしてもらっている。大学生という存在を実際に見ることと、見ないままで生活することには大きな違いがあると考えている。

・そもそも進学が選択肢にない子どもまでを、施策の対象にするかという問題もある。例えば、身近に大学に行った人がいなければ、本人も大学に進学するという意味づけを理解できず、選択肢に挙がらないが、その場合にまで、大学進学を勧めるのか。また、学力の低い子どもが進学しても、中退に結びつきやすい。その辺りをどう考えるかはかなり重要な問題である。

6) 自己肯定感の低さ・自信のなさ

・高校によっては、「どうせ自分なんて」と最初から諦めている生徒も結構多く、高校間格差が非常に大きい。学力が中間層以上の意欲的な子どもは、少し手を入れるだけでも育っていくが、それよりも下の層は、地域社会の中で一定の仕事ができるように底上げするための教育や動機付けが必要である。そのような意味でも、学校の外にいる人と様々な形での出会いの場をつくり、意欲が出たときに寄り添って相談に乗れる教員やカウンセラーを丁寧に配置するとよい。

・進学校では少ないが、教育困難校と進路多様校では、自己肯定感が低い子どもが多い。親や先生から「お前にはできない」「この地域から出られない」と言われ続けることで、自分には無理だと思い込んでしまう。特に親の言葉は影響が大きい。また、成功体験も少ないため、「頑張って進学しよう」という気持ちになりにくい。「挑戦できる」「やってみよう」という意欲は、可能性が少しでも見えているからこそ湧いてくる。

・昔は、学部はどこであれ、大学さえ出ればいいところに就職できるという考え方だったが、最近の進路指導は「将来何になるために何を学ぶか」という方向性に変わっている。指定校推薦がある大学でも、その大学に行って何をするかがイメージできなければ、希望者が定員に満たないことがある。そして、自分が行きたい大学には一般入試で受験して合格する自信がないので、チャレンジしないで専門学校に行くという子どももいる。

7) その他

・大学進学率を全国並みの 50%にするには、県内高校の卒業生 14,000 人のうち、最低でも 7,000 人が大学に進学する必要があるが、平成 27 年 3 月 31 日時点で、短大を含めても進学希望者が 6,200 人しかおらず、そもそも根本的に希望者自体が足りていないという状況である。大学進学希望者は学年進行に伴って減少し、反対に専門学校進

学希望者が増加する。また、一般的に、大学に進学するのは普通科の生徒、専門学校等に進学するのは専門学科の生徒という傾向があるが、沖縄県は元来、専門学科の生徒の割合が全国よりも高い。

② 高校生の現状と求められる支援策

1) 家庭の経済状況

・経済的にゆとりがない家庭の割合が全体的に多く、生徒の約半数が市町村民税非課税世帯という高校もある。

・進学校でなければ、経済状況が厳しいこともあり、就職希望が増えている。専門学校も結局は年間 100 万円ほどかかるため、経済的にゆとりがない場合は、就職を選んでしまう。

・子ども本人は経済状況をあまり気にせず、進学にかかる費用もわかっていないものだが、実は保護者でもわかっていない人が多い。大学進学となると、国立でも年間 80 万円かかり、それ以外にも初年度納付金や、自宅外なら生活費など、様々な費用が必要になるため、それがネックになり、合格してもお金が払えないということも起きる。そのような情報を提供することも非常に重要である。

・大学が提供する給付型奨学金は結構あるが、その情報がどの程度高校に伝わっているかがわからない。また、進路指導担当と奨学金担当の教員が異なるケースのほうが多く、奨学金の情報提供についても、熱心な高校とそうでない高校の差が大きい。さらに、奨学金の制度が多様化・複雑化し過ぎて（例えば大学独自の奨学金のほか、医師会の奨学金等もある）、高校の教員も十分に把握しきれていないことが大きな問題になっている。また、自身が過去に奨学金を利用した教員の場合は、制度変更を知らずに、結果的に誤った情報を伝えているケースもある。

・高校では、進路指導と奨学金の担当が別なので、奨学金に詳しい外部講師を呼んで、保護者向け説明会を開催している高校もある。また、民間企業の給付型奨学金や市町村の奨学金を活用する生徒もいる。

・日本学生支援機構（JASSO）の奨学金返済が大変だということが大きな問題になっており、高校の進路指導の先生の中には、「奨学金を借りてまで進学しなくていいよ」と指導する人も結構いる。

・奨学金制度の有無を知っているかどうかだけではなく、それぞれの奨学金にメリット・デメリットがあるので、それを理解して、個別の状況に応じたパッケージで情報提供できれば理想的だが、教員もかなり忙しく、これ以上の負担を強いることも難しい。昨年の 11 月から、ファイナンシャルプランナーが奨学金制度を理解し、高校で説明する「スカラシップ・アドバイザー」という制度が新設されているので、是非県でも活用してもらいたい。

2) 生徒の学力

・全国学力・学習状況調査で小学校は全国平均並になったが、中学校から差が出るため、高校入学時点で、既に県外の高校生との間に学力の差がある。小学校は１人の先生が教えるので状況が把握しやすいが、中学校は教科によって先生が変わるため、連携が取りにくいということもある。また、小学生の段階では家で宿題をやるが、中学生は宿題が出てもやらなくなるので、家庭学習の量が圧倒的に足りなくなる。親が働いていて、勉強しているかどうかを確認できないという理由も大きい。

・県外の生徒に比べて、学習に向かう姿勢が弱いため、学力の低さは学習量の不足ではないか。昔から沖縄では、「高校は４年制」といって、３年間部活動をして、１年浪人すればいいという考え方が一部にあり、県外のように勉強も部活もするという習慣が確立されていない。
・中堅クラスの高校では、入学当初は国公立志望が多いが、だんだん絞り込まれてくる。学年進行に学力が伴わず、県内の私立大学に流れる。琉大に入るには学力が足りなくても、他地域には琉大より入りやすい国公立大学があるが、他地域に進学する場合は、経済状況が問題になる。部活動を通じた指定校推薦もあるので、そちらで進学する生徒もいる。

3) 進学に対する生徒（本人）の意識と意欲

・進路を決めるまでに出会う大人のロールモデルが圧倒的に少ない。経済的にゆとりがない家庭で育っても、立派な社会人になっている人に１人でも出会えたらよいが、出会いの機会は圧倒的に少なく、多くは親や家庭の影響だけが強いという状況にある。
・学校でのキャリア教育には、仕事の内容は紹介できても、人の生き方までは見せられていないという課題がある。子どもにとっては、仕事への興味よりも、その人の生き方への興味のほうが、共感しやすいため、動機付けへの影響も強く、「自分と同じ境遇なんだ」「この人の生き方っておもしろいな」というストーリーに突き動かされることが多い。
・大人と出会う機会が減っている要因として大きいのは、社会教育の衰退である。公民館や子ども会・青年会等の地域の取組が衰退していることで、子どもが地域の大人や、ロールモデルとなり得る少し年上の世代と関わる機会が減っている。教育は学校・社会・家庭の３つから成るが、その中で極端に衰退しているのは社会教育であり、そのしわ寄せとして、学校でキャリア教育が行われるようになっている。
・中学生を対象とした学習支援では、高校生と大学生が教えているが、中学生にとっては年齢が近い身近な先輩なので、大学生は自身の大学生活の楽しさを伝え、高校生は中学生の悩みを聞いている。「勉強する意味がわからない」と言っていた中学生も、身近に具体的な姿が見えることで、良さを感じやすく、理解しやすい。また、大学生には、勉強を教えるだけではなく、大学生と触れ合い、信頼関係を築くことの大事さを伝えている。信頼関係ができれば、もっと話を聞こうという意欲が中学生に湧き、より楽しさが伝わりやすくなる。

4) 進学に対する保護者や家族の理解

・そもそも「大学に行く必要がない」という考え方もあり、地域によっては、リベラルアーツ（教養教育）ではなく、医療系や看護系の専門学校に進学して手に職を付けたほうがいいという考え方の保護者も多い。また、女子の場合は、県外に行かせると帰って来ないので行かせたくない、という風潮もある。

5) 高校生（または保護者）に対する進路や仕事に関する情報提供や指導

・大学進学は出身高校との関係が強く、また高校の選択には中学時点での情報提供が必要である。進学を考えない、または諦める子どもは、専門高校に進学することが多いため、ますます高等教育機関への進学が難しくなるという問題がある。ただし、専門高校の中にも、推薦等で進学に力を入れているところがある。その先にどのようなキ

ャリアパスがあるかを、中学の段階から正確に知らせることは、かなり重要である。
・最近は、偏差値を目安にするだけではなく、生徒の適性なども含めた進路指導が求められている。その場合は、進学先のことと生徒個人のことの両方をよく知らなければ、マッチングがうまくいかない。本来生徒のことを最もよく知っているのは担任だが、負担増の問題もあるため、スクールカウンセラーと同じような形で、進路指導をする専門家を入れることも一つの方法である。

(2) 高校生の進学率の向上に有効な取り組み

1) 経済的支援（大学進学支援）

・学費が高いので、給付型奨学金の充実が必要である。「専門学校に行って手に職を付けて社会に出る」という考え方を持つ子どもも多く、大学進学を考えない。
・進学に影響する要因は１つではなく、学力、経済力、学習意欲等が絡み合っているため、どこから着手するかが問題になる。政策的な着手のしやすさという観点では、国の政策とも関わるが、高校の就学支援金や奨学給付金、大学では給付型奨学金、授業料減免等、経済的支援に関する情報を、中学の時点から提供することが重要である。
・国の新しい経済政策パッケージに示された給付型奨学金では、授業料全額免除で生活費も相当出ることになっている。また、生活保護世帯、住民税非課税世帯なら、既に他の支援がかなり手厚く入っている。問題はむしろ中所得層で、子どもが２人進学するとなると、かなりの負担になるため、その層の負担を軽減すると、進学を促進する効果があると思われる。また、日本では、きょうだいが男女なら、男の子は進学させるが女の子はさせないというケースが今でも結構多い。そこを男女とも進学できるようにするというのが１つである。
・所得と学力は関係していて、所得が低いと学力も低い傾向があるため、大学進学まで行きつけないという課題がある。その場合は、むしろ高校でどの程度てこ入れするかだが、学力の向上には時間がかかるため、政策的な対応は簡単ではない。一方、経済状況はある程度政策的に支援できるので、まずは「学力はあるが経済的に進学できない子ども」の支援から着手するのがよいのではないか。
・最も大きいのは経済的な問題だが、就学援助や奨学金等の制度が、子どもにも保護者にも知られていない。配布物を渡しても読まれず、難しい制度だと「どうせダメだろう」と思われているようだ。実際に制度を利用した人が、子どもの前で「自分も経済的に大変だったけど、この制度を使って大学まで行けた」という説明をしてあげれば、子どもたちも理解しやすく、活用が進むのではないか。

2) 経済的支援（学力向上支援）

・経済的にゆとりがない高校生向けには、無料塾や奨学金の制度があるので、現状の取組を推進すれば、学力は向上すると思われる。また、奨学金の所得制限を、現状の市町村民税非課税から緩和すれば、モチベーションが上がり、大学進学希望者が出てくるのではないか。さらに、内閣府の専門学校生への奨学金を、大学進学にも使えば、大学進学率は上がるのではないか。
・現状の無料塾は、市町村民税非課税の子どもが対象なので、対象を年収 400 万円に緩和するとか、または普通の塾の費用を補助するなど、工夫の余地はいろいろとあるであろう。
・文科省は、小中高大をひとくくりに見る「総合政策局」を新設する。結局は、子ども

の貧困が進路に関係するので、縦割りではなく全体を見られる組織を作ることも重要である。

3) 進学に対する意欲の向上

・子どもの意欲や将来への夢、可能性は、学習ではなく、出会った人や経験によって形成されるため、様々な職業の社会人の体験談に触れる機会を、授業の中などでつくることが非常に重要になる。具体的な人物像が身近にあり、「こんなことをやってみたい」という意欲が出れば、次は教員やカウンセラーが相談に乗れるような体制があるとよい。このような取組が中学からできれば、高校の選び方も変わってくる。

・教員も、自分が失敗した時や苦しかった時にどう乗り越えたかなど、自身の体験談を話すと、子どもたちは結構反応してくる。いかに意識づけをするかが重要である。

・県庁職員も含めて、企業人が体験を話す授業をすることは絶対に必要である。これは、話を聞く生徒のほうにメリットがあるだけではなく、話すほうにも、準備の中で職業を選択した時のことを思い出したり、仕事に対する意欲について再考したりしながらリフレッシュする機会になるというメリットがある。

・神奈川県立田奈高校では、学校内に設けたカフェに、卒業生を含めた様々な職業の社会人が来て、生徒とおしゃべりをするという取組を行っている。何度も来てくれる人もいて、だんだん親しくなると、生徒が「こんな仕事がしたい」と言うようになり、夢に向かって意欲を持つようになる。田奈高校では、過去に５割程度であった退学率が、２割を下回る程度にまで改善している。（注：神奈川県立高校には、学力を問わず無試験で入学できる「クリエイティブスクール」が複数あるが、退学率が高いため、退学防止のための様々な取組が行われている。）

・現在、教科の中にキャリア教育を取り入れることに取り組んでいる。例えば、油圧の単元で、授業に重機のリースをしている企業の社員が出向いて、油圧の活用事例を紹介するが、その中に、「社長に惚れ込んで、社長とゼロから会社を立ち上げた」という「生き様」の話が入ってくる。この人は実は世界中からどんな部品でも調達できる情報収集力と語学力があるとか、取得が難しい資格を持って仕事をしているとか、「生き様」の話が聞けると、子どもの動機付けにつながる。沖縄の子どもはあまり忍耐力がなく、目的を示さずに「ひたすら勉強しなさい」と言っても難しいところがあるが、人の生き方に憧れたり、「かっこいい」と思ったりなど、突き動かされるものに出会うと能力を発揮する。教科とキャリア教育の融合を通じて人の生き方に触れ、「今の勉強がこんなことにつながる」とか、「自分たちはすごいことを勉強している」という意識が芽生えれば、学力の向上にもつながる。

・大学の教員が進路講話に来るが、話が難しくてわからないという話を聞く。

・大学は、出前授業は実施しているが、担当するのは教員で、子どもにとっては面白くないことも多い。それよりも、大学生と高校生が直接交流するほうが、高校生には響くので、そのような機会の創出が必要である。修学旅行の際に、県外大学の見学に行っているようだが、そこの学生と交流するなど、工夫次第でいろいろできるであろう。

・キャリア教育の場に多様な人材を巻きこむ方法としては、企業団体や商工会議所等とのネットワーク形成が有効である。福井県では、商工会議所の青年部等、３つの団体がそれぞれ小中高の窓口機能を担うなど、役割をうまく分担してキャリア教育に取り組んでいる。

・生徒は１対１で話せばたくさん話すし、もっと話を聞いてほしいと思っているが、教

員は忙しく、子どもと向き合う時間を確保できないため、民間の力を借りたいと考えているであろう。

・親の学歴が影響するとしても、親の学歴は変えられないので、親が大卒者でない子どもが大学進学に関心を持つ環境をつくることが大事である。大卒者のほうが給料が高い、医師や公務員になれば経済的な豊かさが得られるとわかれば、大学に行くモチベーションが高まるのではないか。

(3) 沖縄の発展に資する人材の育成・確保

1) 地域貢献につながる学部・学科の設置や海外への進学

・本質的な問題は、就業機会の確保である、これがないと、結局進学率が上がっても、県外に出てしまっておしまいということになりかねない。一つ考えられるのは、県立芸術大学に、CG や VR 等の芸術系に近い最先端の分野を入れることである。この分野は地理的な制約がかなり少なく、かつ今後伸びることが予想される。そのような分野を導入することも考えられる。

・もう一つは、全く逆に、地元密着型で地元に貢献する人材を育てるような大学を考えるということもある。世間で言われているグローバル人材ではなく、むしろ偏差値 50 以下の子どもを集めて、地元に貢献できるような人材を育てるという、地域志向の大学がいくつか出てきている。地元への就職も多く、評判がよい。理工系は、学力の問題もあるし、大学側も学生側もお金がかかるので、社会科学系の学部・学科がよいであろう。

・おそらく、大学新設はかなり難しいと思われるため、学部の新設や既存学部の改組などを検討するとよいのではないか。また、国立は今後定員を増やさないという方針であるため、基本的には私立か県立で対応することになると思われるが、県の政策なら県立のほうがやりやすいであろう。

・大学の学部としては、高齢化も見据えると、医療系や栄養系にニーズがあるのではないか。沖縄大学に来年度から栄養学科ができるが、専門学校ではなく大学なら行きたいという人が結構多いようだ。アンケートでも医療や体育を希望する割合が高めだが、本当の医療は難しいので、医療と体育をつなげたような、作業療法士や理学療法士を育成する学部があればよいのではないか。学力はあまり高くなくても、「人の役に立ちたい」「自分にもできるかな」と思う高校生の受け皿となり、また現実に役に立つ職業につながる分野であろう。

・健康づくりを指導できる人を養成するような学部で、卒業生が長期滞在型で健康づくりをするようなホテルに就職するという形ができれば、沖縄の特徴にもなるであろう。いずれにしても、今の若者のニーズを把握してそれを大学に位置付け、そこをきちんと卒業させるということも考えるとよい。

・今、フィリピンが大学教育に力を入れているが、沖縄はアジアに近く、国内の他県に出るよりもアジアに出たほうが、コストをかけずに行ける大学や専門学校が結構ある。県が説明会等を誘致して、県外と同じような感覚でアジアへの進学も視野に入るような情報をもっと発信してもよいのではないか。今後の企業活動を考えても、東京よりもアジアに進出するほうがビジネスチャンスは大きいと思われるが、アジアに出た経験を持つ人材を採用していれば、進出のハードルが低くなる。

・県外大学のサテライトは、設置基準が緩く、スクーリングも少なくてよいため、可能性としては考えられるが、それが進学率の向上にどの程度関係するかはわからない。

また、放送大学は、基本的にはリカレント教育の色合いが濃いため、高卒者の進学率向上という点では、方向性が合致しないであろう。

・県は県外大学への進学を支援しているが、県外に出ると県外に就職し、地元に貢献しない。他県では、いかに若者を地元に留めるかに腐心しているのに、沖縄県はなぜわざわざ県外に行かせるのかと、他県の人から聞かれることがある。

2) 産業界との連携

・産学官連携の組織で、小中高でキャリア教育を行っている。中学校では職業人講話を実施しており、商工会議所と連携して、地域に本社がある企業や個人事業主等、様々な職業人を招聘している。高校では、県の地域型就業意識向上支援事業を活用したグローカルリーダー育成事業を実施しており、地域の中高から生徒を公募で選抜して、課題解決型のプログラムに取り組んでいる。参加者は地域の課題を自ら抽出し、議論やフィールドワークを通じて解決方策を導いており、成果のプレゼンは英語で行う。取組の過程で様々な大人と出会い、地域の将来を担う人材になってほしいと考えている。

・人材育成には、県、企業、大学が一体になって取り組む必要がある。観光が伸びているが、では観光を支える人材が育っているかと言えば、そうではない。北部や離島では医師が不足しているので、県が琉大医学部の授業料免除と生活費を支給する制度を設置しており、卒業後に北部や離島の病院に勤務すれば返済不要として、人材を確保している。同様に、人材が必要な企業が学費を負担して、その大学を卒業すれば採用するというシステムができないか。

・台湾では、政府が IT 産業を育てるために新竹に工業団地や大学をつくり、人材も戦略的に育成して、インテルやアップルが進出し、アジアのシリコンバレーと言われた。沖縄県にも IT 津梁パークはあるが、必要であれば情報系の大学をつくるなど、もっと戦略的に考える必要がある。

Ⅵ. 高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る主な手法の整理

１．高等教育を受ける機会の創出・環境整備に向けた取組の方向性

上記のアンケート調査及び有識者ヒアリングの結果を踏まえ、県内の高校生が高等教育を受ける（大学に進学する）機会を拡大するための取組の方向性を大きく以下の４つに整理した。

アンケート調査結果でも確認されたように、県内の高校生の多くが県外進学を希望していることや、高校生が学びたいとする分野が多岐にわたっていること、さらには、県内の大学進学を取り巻く環境を考慮すると、大学新設などのハード的な整備を検討する前に、県内の現状を踏まえてきめ細かく対応することが重要と考えられる。

(1) 大学進学を断念する生徒への経済的支援

アンケート調査の結果からも明らかなように、世帯年収や経済的な暮らし向きが、高校生の大学進学に大きく影響を与えている。

大学に進学できるだけの学力がありながら、経済的理由から大学進学を断念している生徒が一定数存在すると推察され、これらの生徒を対象とした各種奨学金等による経済支援が必要となっている。

また、世帯年収がそれほど低くなくても、兄弟姉妹がいて同時期に大学進学をすることが困難な世帯もあり、世帯の実情に合わせたきめ細かな支援が求められる。

(2) 生徒の学力の向上

アンケート調査では生徒の学力の水準は把握できないが、進路選択に当たっての心配ごとを尋ねた問では、大学進学（予定）の生徒の約３/４が学力不足を心配している。また、有識者ヒアリングでは、中学生になると家庭学習の絶対量の不足から、他府県の生徒（全国平均）との学力の差が拡大し、結果的に大学受験での合格率も低くなっているとの指摘があった。

生徒の学力は、塾に通うことができるゆとりの有無など、世帯の経済状況とも大きく関係しているため、こうした学校外での学習の支援も必要と考えられる。

一方、高校３年生のアンケート調査では、大学進学者比率の比較的高い高校の生徒の中に、中所得層以上の世帯収入がありながらも大学進学を断念している生徒が一定数いることも確認されており、大学進学機会を拡げるためには、生徒の学力の向上が欠かせない。

(3) 生徒の進学意欲の向上

有識者の指摘では、県内の高校生で大学・短大への進学を希望する生徒の比率は 45%程度であり、全国並みの大学進学率（約 55%）を目指すためには、まず、大学進学を希望する生徒が増えなければならない。

アンケートのデータを用いた統計分析の結果からも分かるように、大学への進学を実現する上では、大学進学者の比率の高い高校への入学が重要となるため、中学校の段階から将来を見据えた高校進学を考える機会をつくることが重要となる。

また、生徒の大学進学意欲の形成には、大学を卒業して活躍する身近な大人（ロールモデル）の存在の有無が影響するため、こうした大人との接点の少ない生徒には、交流の機会を設けることも必要となる。

(4) 県内高等教育機関の受け皿の拡大

現在、沖縄県では大学進学者のほぼ半数が県外に進学している。県内大学の定員が限られていることもあり、現状のままでは、大学進学者を増やすためには、県外進学者を増やすしか方法がない。経済的な理由から県外への進学を断念している生徒が相当数存在すると推察されるため、大学進学者の増加には、県内大学の受け皿拡大の検討も必要と考えられる。

２．高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る主な手法

(1) 大学進学を断念する生徒への経済的支援

① 給付型奨学金の拡充

進学・進路決定者を対象としたWebアンケートで、沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるための支援として重要とする回答が最も多かったのは、「給付型奨学金」である。また、有識者ヒアリングでも、大学卒業後の奨学金の返済負担を嫌って、大学進学を断念する生徒も少なくないとの指摘もあった。

世帯の経済的な状況によって、大学進学を断念する生徒を少しでも減らすためには、給付型奨学金の充実が重要と考えられる。

以下では、一定水準以上の学力を備えているが、経済的な理由から大学進学を断念する可能性のある生徒のうち、世帯年収が一定金額より下の者を対象に、現在の「沖縄県県外大学生奨学金」と同程度の給付を行うものとして試算を行った。

【試算例1】給付型奨学金

１）給付対象

学生数：290人（１年当たり新規対象者）（うち、医歯薬学部進学者36人）

（給付対象学生数の想定）

1) 沖縄県内の高校卒業者数:14,500人/年(注1)
2) 経済的理由による県外大学進学断念者数:290人/年(進学断念者比率:2.0%(注2))
3) 経済的理由による県外大学(医歯薬学部)進学断念者数:36人/年(進学断念者比率:0.25%(注3))。

２）支給額

①月額奨学金：７万円（年間支給額：84万円、支給期間：４年間）
※医歯薬学部進学者の支給期間は６年間。
②入学支度金：30万円

（支給額の想定）

沖縄県による「沖縄県県外進学大学生奨学金」における支給額と同額とした。

３）費用　11.2億円

［医歯薬学部進学者以外］

支給額：930百万円（254人（給付対象者数）×3.66百万円/人）

［医歯薬学部進学者］
支給額：192 百万円（36 人（給付対象者数）×5.34 百万円/人）

（注 1）文部科学省「学校基本調査」の結果では、平成 29 年3月の沖縄県内の高校卒業者は 14,607 人。
（注 2）高校生アンケートの結果では、回答者（1,954 人）のうち、大学進学（予定）者比率が 50%以上の高校の生徒で、県外大学への進学を希望しながらも、現実的には県内の短大・専門学校への進学または就職の予定とする回答者の中で、世帯年収が 400 万円未満の生徒（42 人）の比率は 2.15%。
（注 3）上記 42 人のうち、進学希望の学部に医歯薬学部が含まれる生徒（5人）の全回答者に対する比率は 0.25%。

② 中所得層を対象とする奨学金制度の充実

生活保護世帯、住民税非課税世帯については、各種制度による手厚い支援が行われている。その一方で、中所得層についてはこうした支援が相対的に薄いため、子どもが２人進学する場合の費用負担ができず、大学進学を断念している可能性があることが指摘された。

このため、中所得層を対象に、奨学金制度の利用に当たっての所得制限の緩和などを検討することが必要と考えられる。

③ 各種奨学金制度に関する情報提供と理解促進

高校３年生のアンケート調査では、「日本学生支援機構」以外の奨学金など、進学を支援する制度について、必ずしも十分に認知されていないことがうかがわれた。また、有識者ヒアリングでも、非常に複雑な奨学金制度を教師が十分に理解して説明できていないとの指摘もあった。

上記①②に拡充の必要性を示した奨学金を含め、様々な進学支援の制度等について、わかりやすく情報提供するとともに、十分な理解と活用を促進するため、専門家を活用した説明会等の実施が必要と考えられる。

(2) 生徒の学力の向上

① 高校生の学習支援

生徒の学力は、世帯年収とともに、大学進学に大きく影響を与えている。大学合格に必要な学力を身につけるためには、塾などの学校以外の場所での追加的な学習が必要となることも多いが、家庭の経済的な状況によって通塾が困難な生徒も多い。

現在、市町村民税の非課税世帯については、無料塾を利用できるなどの制度が用意されているが、有識者から無料塾利用の年収制限の緩和や、普通の塾の費用負担への支援対象の拡大などの検討が必要との指摘もあった。

② 高校における進学率向上への取組

アンケートのデータを用いた統計分析の結果からも、高校の大学進学者比率が生徒の大学進学に大きく影響していることが確認された。現状で大学進学者比率の高い高校の数は限られており、これらの高校に定員以上の生徒が通学することはできない。このため、現状で大学進学者の比率がそれほど高くない高校が、進学率向上に取り組むことにより、県全体として大学進学者比率の高い高校を増やしていく必要がある。

⑶ 生徒の進学意欲の向上

① 大学進学の意義を感じることができる環境づくり

生徒が大学進学を希望するか否かには、親の学歴などが影響しており、親の学歴が高いほど大学進学（予定）の生徒の比率は高くなる。また、有識者も指摘しているように、身近に大学進学の意義を感じさせる大人が存在していることが、生徒の大学進学意向に強く影響するが、親や周囲の大人の中に、大学進学の意義を伝えられる大人がいない環境に置かれている生徒も多い。

このため、大学を卒業して社会で活躍する大人や年齢の近い大学生と交流する機会を提供することで、高校生に大学進学の意義を感じてもらうことが重要となる。

② 中学校からの進学指導の充実

アンケートのデータを用いた統計分析の結果からも、大学進学比率の高い高校に入学することが、大学進学への可能性を高めることが確認されており、中学校の段階で将来を見据えて進学する高校を慎重に選択することが重要となる。

また、有識者からも、中学生を対象とするキャリア教育や大学生、高校生との交流を通じて、早い段階から大学進学のイメージを形成する指導の必要性が指摘された。

③ 大学に関する情報提供を含む進路指導の充実

高校３年生のアンケート調査で、進路指導に関する要望を尋ねたところ、「生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい」とする回答が最も多くみられた。

また、有識者からも、高校では教師が多忙で十分な進路指導が実施できていない可能性が指摘されるとともに、指定校推薦の枠が余っていても大学進学を希望しない生徒がいることなども紹介された。

一人一人の生徒に向き合い、適性を踏まえた適切な進路相談と大学進学を支援する各種制度に関する情報提供などが行える体制を整えることにより、納得して大学進学を目指すことができる生徒が増えるものと考えられる。

④ 進学に対する保護者や家族の理解の促進

高校３年生のアンケート調査にて、大学進学（予定）者の比率が 50%以上の高校で大学進学を断念した生徒の属性をみると、女子生徒の比率が高いことが確認されており、経済的な理由の他に、保護者や家族の理解が生徒の大学進学の影響要因となっていることがうかがわれる。

また、アンケート調査の結果より、生徒の進学に保護者とりわけ母親が大きな影響を与えていることが確認されており、生徒の大学進学に対する親の理解を深めるための取組も必要と考えられる。

(4) 県内高等教育機関の受け皿の拡大

① 進学ニーズに対応した学部・学科の設置

高校３年生のアンケート調査結果より、大学・短大で学びたい分野について、希望と現実的な予定のギャップを分析したところ、「医学・歯学」「薬学」「体育・健康科学」「芸術」など県内に学部等がない（または少ない）分野で、現実よりも希望の割合が高くなっていることが確認された。

特に、世帯年収が低い生徒や現実的な進学先が県内（自宅から通学できる地域）の生徒において、こうした傾向が強くなっており、県内でこれらの学部・学科の新設・拡充が行われれば、希望する分野以外の学部・学科に進学した生徒や県内にそれらの学部がないために、県外大学に進学したり、大学進学そのものを断念した学生の受け皿となるものと考えられる。

ただし、沖縄県内の高校生は、県外大学への進学を希望する生徒の比率が高く、特に、県外大学の志望者では、県内に志望する分野の学部・学科が新設されても進学先の候補の一つとして考えないと回答する生徒も多いことを踏まえて、学部・学科の新設の実現性を慎重に判断する必要がある。

現時点で、設置する学部等の詳細を想定することは困難であるため、以下では、県内の既存（私立）大学に、文系学部または理工系学部が設置されると仮定して、これに必要な費用等の試算を行った。

なお、県内の既存大学が、専門職学部を設置する場合についても、原則として必要となる費用等は、大学の学部新設と同様と考えられる。

【試算例2】県内既存（私立）大学での学部新設（文系学部）

１）学生・教職員数，施設規模等

［学生］

学部生：1,000 人（１学年：250 人）

（学生数の想定）

1) 沖縄県内の高校卒業者数:14,500 人/年
2) 大学入学志願者数:6,525 人/年（大学入学志願者比率:45%(注1)）
3) 県外大学進学断念者数:522 人/年（県外大学進学断念者比率:8.0%(注2)）
4) 上記 3)の約半数の大学進学希望者の受け皿となることを想定して学生数を 250 人とした。

［教職員］

専任教員：40 人、専任職員：34 人

（教職員数の想定）

日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 文系学部 社会科学系学部）を参考に、専任教員数、専任職員数を設定。

［土地］

土地：20,000 ㎡

（敷地面積の想定）

県内私立大学の例を参考に設定。

［建物］

教育・研究棟：15,000 ㎡

（各種施設床面積の想定）
県内私立大学の例を参考に設定。図書館・体育館、管理棟などは既設の施設を利用し、新設なしと仮定。

２）費用

［イニシャルコスト］ 約 78.5 億円

①土地：36 億円（20,000 ㎡（土地面積）×18 万円/㎡）
②建物：37.5 億円（15,000 ㎡（床面積）×25 万円/㎡）
③設備費：3.0 億円（研究施設内容により変動）
④図書費：2.0 億円（5 万冊（蔵書数）×0.4 万円/冊）

（土地価格の想定）
国土交通省「地価公示」における那覇市の平均価格(注 3)を参考に設定。

（建築価格の想定）
国土交通省「建築着工統計調査」における那覇市（鉄筋コンクリート造）の平均価格(注 4)を参考に設定。

（設備費・図書費）
他大学等の例を参考に設定。図書費は、既存学部との共用も想定し、他大学比半数を新規購入と設定。

［ランニングコスト］ 約 12.5 億円

①人件費：6.4 億円（40 人（専任教員）×997 万円/人、34 人（専任職員）×713 万円/人）
②教育研究費：4.4 億円（1,000 人（学生数）×44 万円/人）
③管理費：1.7 億円（1,000 人（学生数）×17 万円/人）

（人件費・教育研究費・管理費の想定）
日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 文系学部 社会科学系学部）を参考に設定。

３）収入 約 12.5 億円

①学生生徒等納付金：11.1 億円（1,000 人（学生数）×111 万円/人）
②手数料：0.2 億円（1,000 人（学生数）×2 万円/人）
③補助金：1.2 億円（1,000 人（学生数）×12 万円/人）

（学生生徒等納付金・手数料・補助金の想定）
日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 文系学部 社会科学系学部）を参考に設定。

（注 1）文部科学省「学校基本調査」の結果では、平成 29 年3月の沖縄県内の高校卒業者は 14,607 人、大学入学志願者数は 6,452 人であり、大学入学志願者比率は 44.2%。
（注 2）高校生アンケートの結果では、大学進学を希望する回答者（1,309 人）のうち、県外大学への進学を希望しながらも、現実的には県内の短大・専門学校への進学または就職の予定とする回答者（104 人）の比率は 7.9%。
（注 3）一般財団法人土地情報センター「地価公示（平成 29 年）『都道府県市区町村別・用途別』平均価格・対前年平均変動率表」では、那覇市の平均価格（全用途）は 177,100 円/㎡。
（注 4）国土交通省「建築着工統計調査（平成 28 年度）」における那覇市の「鉄筋コンクリート造」の1㎡当たりの工事費予定額は 24.3 万円。

【試算例3】県内既存（私立）大学での学部新設（理工系学部）

１）学生・教職員数，施設規模等

［学生］

学部生：1,000 人（１学年：250 人）

（学生数の想定）
【試算例2】（文系学部）と同様。

［教職員］

専任教員：64 人、専任職員：29 人

（教職員数の想定）
日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 理工系学部）を参考に、専任教員数、専任職員数を設定。

［土地］

土地：35,000 ㎡

（敷地面積の想定）
県内私立大学の例を参考に、建物床面積を考慮して設定。

［建物］

教育・研究棟：27,000 ㎡

（各種施設床面積の想定）
県内私立大学の例を参考に設定。図書館・体育館、管理棟などは既設の施設を利用し、新設なしと仮定。

２）費用

［イニシャルコスト］約 138.5 億円

①土地：63 億円（35,000 ㎡（土地面積）×18 万円/㎡）
②建物：67.5 億円（27,000 ㎡（床面積）×25 万円/㎡）
③設備費：6.0 億円（研究施設内容により変動）
④図書費：2.0 億円（5 万冊（蔵書数）×0.4 万円/冊）

（土地・建築価格の想定）
【試算例2】（文系学部）と同様。

（設備費・図書費）
他大学等の例を参考に設定。図書費は、既存学部との共用も想定し、他大学比半数を新規購入と設定。

［ランニングコスト］約 16.1 億円

①人件費：8.0 億円（64 人（専任教員）×934 万円/人、29 人（専任職員）×668 万円/人）
②教育研究費：6.2 億円（1,000 人（学生数）×62 万円/人）
③管理費：1.9 億円（1,000 人（学生数）×19 万円/人）

（人件費・教育研究費・管理費の想定）
日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 理工系学部）を参考に設定。

３）収入 **約 16.1 億円**

①学生生徒等納付金：14.1 億円（1,000 人（学生数）×141 万円/人）
②手数料：0.3 億円（1,000 人（学生数）×3 万円/人）
③補助金：1.6 億円（1,000 人（学生数）×16 万円/人）

（学生生徒等納付金・手数料・補助金の想定）
日本私立学校振興・共済事業団「平成 29 年度版 今日の私学財政（大学・短期大学編）」における事業活動収支（単一学部 理工系学部）を参考に設定。

県内高等教育機関の受け皿の拡大という意味では、大学の新設や誘致も方策として考えられる。有識者からは、大学新設はかなり難しいとの指摘があったが、先に示した県内の既存（私立）大学における学部の新設の試算を踏まえて、大学を新設する場合に必要な費用等の試算を行った結果は以下のとおりである。

なお、県内の学校法人が、専門職大学を設置する場合についても、原則として必要となる費用等は、大学の新設と同様と考えられる。

【試算例4】(私立)大学の新設(文系学部)

1) 学生・教職員数，施設規模等

[学生]

学部生：1,000 人（1 学年：250 人）

(学生数の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

[教職員]

専任教員：40 人、専任職員：34 人

(教職員数の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

[土地]

土地：22,000 ㎡

(敷地面積の想定)
【試算例2】(文系学部)の土地に、管理棟(交流施設を含む)用の土地面積(2,000 ㎡)を加算。

[建物]

①教育・研究棟：15,000 ㎡
②図書館・体育館：3,000 ㎡
③管理棟：1,500 ㎡（交流施設を含む）[合計:19,500 ㎡]

(各種施設床面積の想定)
【計算例2】(文系学部)の建物に加えて、県内私立大学の例を参考に図書館・体育館、管理棟(交流施設等を含む)の新設を想定。

2) 費用

[イニシャルコスト] 約 95.9 億円

①土地：39.6 億円（22,000 ㎡（土地面積）×18 万円/㎡）
②建物：48.8 億円（19,500 ㎡（床面積）×25 万円/㎡）
③設備費：3.5 億円（研究施設内容により変動）
④図書費：4.0 億円（10 万冊（蔵書数）×0.4 万円/冊）

(土地・建築価格の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

(設備費・図書費)
他大学等の例を参考に設定。

[ランニングコスト] 約 12.5 億円

①人件費：6.4 億円（40 人(専任教員)×997 万円/人、34 人(専任職員)×713 万円/人）
②教育研究費：4.4 億円（1,000 人(学生数)×44 万円/人）
③管理費：1.7 億円（1,000 人(学生数)×17 万円/人）

(人件費・教育研究費・管理費の想定)
【計算例2】(文系学部)と同様。

3)収入 約 12.5 億円

①学生生徒等納付金：11.1 億円（1,000 人(学生数)×111 万円/人）
②手数料：0.2 億円（1,000 人(学生数)×2 万円/人）
③補助金：1.2 億円（1,000 人(学生数)×12 万円/人）

(学生生徒等納付金・手数料・補助金の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

【試算例5】(私立)大学の新設(理工系学部)

1) 学生・教職員数，施設規模等

[学生]

学部生：1,000 人（1 学年：250 人）

(学生数の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

[教職員]

専任教員：64 人、専任職員：29 人

(教職員数の想定)
【試算例3】(理工系学部)と同様。

[土地]

土地：37,000 ㎡

(敷地面積の想定)
【計算例2】(文系学部)の土地に、管理棟(交流施設を含む)用の土地面積(2,000 ㎡)を加算。

[建物]

①教育・研究棟：27,000 ㎡
②図書館・体育館：3,000 ㎡
③管理棟：1,500 ㎡（交流施設を含む）[合計:31,500 ㎡]

(各種施設床面積の想定)
【試算例3】(理工系学部)の建物に加えて、県内私立大学の例を参考に図書館・体育館、管理棟(交流施設等を含む)の新設を想定。

2) 費用

[イニシャルコスト] 約 155.9 億円

①土地：66.6 億円（37,000 ㎡（土地面積）×18 万円/㎡）
②建物：78.8 億円（31,500 ㎡（床面積）×25 万円/㎡）
③設備費：6.5 億円（研究施設内容により変動）
④図書費：4.0 億円（10 万冊（蔵書数）×0.4 万円/冊）

(土地・建築価格の想定)
【試算例2】(文系学部)と同様。

(設備費・図書費)
他大学等の例を参考に設定。

[ランニングコスト] 約 16.1 億円

①人件費：8.0 億円（64 人(専任教員)×934 万円/人、29 人(専任職員)×668 万円/人）
②教育研究費：6.2 億円（1,000 人(学生数)×62 万円/人）
③管理費：1.9 億円（1,000 人(学生数)×19 万円/人）

(人件費・教育研究費・管理費の想定)
【試算例3】(理工系学部)と同様。

3)収入 約 16.1 億円

①学生生徒等納付金：14.1 億円（1,000 人(学生数)×141 万円/人）
②手数料：0.3 億円（1,000 人(学生数)×3 万円/人）
③補助金：1.6 億円（1,000 人(学生数)×16 万円/人）

(学生生徒等納付金・手数料・補助金の想定)
【試算例2】(理工系学部)と同様。

現在、サテライトキャンパスを設置している大学が多数あるが、そのほとんどは、交流施設としての機能が主であり、教育・研究の場として活用されている例はほとんどない。大学に進学する学生の立場からみても、他の学生との交流の機会や教師との接点などが極めて限定されるサテライトキャンパスのみの大学に入学することは、例え、県外本校での授業が一定組み込まれているとしても考えにくい。

こうした現状を踏まえて、県内の高校生（またはその保護者）に対して、県外の複数大学による公開授業の聴講、大学に関する各種情報の入手、大学生との交流等の機会を提供する場（共同施設）として、サテライトキャンパスを設置することを想定し、このために必要となる施設等の費用の試算を行った。

【試算例6】県外大学のサテライトキャンパス等の設置（文系学部）

1）施設規模

［土地］

土地：1,750 ㎡

（敷地面積の想定）

下記の建物の延床面積に対する敷地を 25%と想定。

［建物］

教育棟：7,000 ㎡

（施設床面積の想定）

県内大学の施設の規模等を参考に設定。

2）費用

［イニシャルコスト］約 21.2 億円

①土地：3.2 億円（1,750 ㎡（土地面積）×18 万円/㎡）
②建物：17.5 億円（7,000 ㎡（床面積）×25 万円/㎡）
③設備費等：0.5 億円（設備内容により変動）

（土地・建築価格の想定）

【試算例2】（文系学部）と同様。

（設備費）

他大学等の例を参考に設定。

② 地域の人材ニーズに対応する学部・学科の設置

今後の成長が期待され、県内産業でニーズのある分野（観光、情報、医療など）、または、地域づくりに貢献できるような人材を育成する学部・学科を設置することが考えられる。有識者からは、これらの学部・学科を卒業すれば、県内で就業機会を得やすくなり、人材の流出抑制にもつながるとの指摘もあった。

③ 県内企業との連携

県内企業へのヒアリングでは、連携協定の締結、寄附講座の提供など、様々な形で企業が大学と連携していることが確認された。

こうした企業と大学の連携をさらに発展させ、人材を必要とする企業が大学の学費を負

担し、卒業後は優先的に採用するなどの仕組みができれば、大学進学者の増加と企業の人材確保の両方が実現される可能性がある。

(5) その他

（海外大学への進学の促進）

アジアに近いという沖縄の立地と費用の相対的な安さの観点から、アジアで大学教育に力を入れている国々の大学への進学も大学進学者を増やすことにつながる。海外大学に進学すれば、語学の修得、アジアでのビジネス拡大を目指す企業での活躍の可能性など、国内大学への進学では得られないメリットも期待できる。

海外大学への進学を促進するための取組としては、海外大学を集めた説明会の開催や海外大学の情報を集約して提供する機能の整備などが考えられる。

参 考 資 料

生徒用アンケート 調査票

高校生の進路選択に関するアンケート調査 調査票

A．あなたご自身のことについて

問１　あなたが現在通っている学校名と学科またはコース名をお答えください。

高等学校	学科・コース

問２　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）

１．男性　　２．女性

問３　あなたには、兄弟姉妹が何人いますか。（**あなた自身を除く**人数をお答え下さい）

兄弟姉妹：　　人（あなた自身を除く）

問４　高校卒業後のあなたの進路（**現実的な予定**）をお答えください。（○は１つ）

１．大学へ進学する　→**問６へ**

２．短期大学へ進学する
３．専門学校へ進学する
} **問７へ**

働きながら、「大学」「短期大学」「専門学校」に通う予定の方は、**進学予定の学校**を左の１～３の中から選択してください。

４．就職する（家業・家事従事を含む）　→**問５へ**

５．しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える　→**問 13 へ**

６．その他　（よろしければ具体的な進路などを書いて下さい　）　→**問 13 へ**

問５は、問４で「４．就職する」と回答した方にお尋ねします。

問５　あなたが就職する理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

１．進学のための経済的な負担が大きいから
２．自宅から通学できるところに進学したい学校がないから
３．進学したい学校が県内にないから
４．自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから
５．勉強は高校までで十分だと思うから
６．早くお金を稼ぎたいから
７．仕事をする方が自分に向いていると思うから
８．やりたい仕事があるから
９．家族や先生などに就職をすすめられたから
10．特に理由はない
11．その他（具体的に：　　）

→ **５ページ 問 13 にお進みください。**

問６は、問４で「１．大学へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問６　あなたが大学へ進学する理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

１．　大学に進学するのは当然だと思っているから
２．　幅広い教養を身につけたいから
３．　専門的な知識や技術を身につけたいから
４．　なりたい職業に就くための資格を取得したいから
５．　就職に有利だと思うから
６．　幅広い多くの人と知り合うことができるから
７．　学生生活を楽しみたいから
８．　県外・島外で生活してみたいから
９．　進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
10．家族や先生などに大学進学をすすめられたから
11．特に理由はない
12．その他（具体的に：　　）

→ 次ページ 問８ にお進みください。

問７は、問４で「２．短期大学へ進学」「３．専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問７　あなたが短期大学または専門学校へ進学する理由は何ですか。（当てはまるもの全てに○）

１．　大学進学は経済的な負担が大きいから
２．　自宅から通学できるところに進学したい大学がないから
３．　進学したい大学が県内にないから
４．　自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから
５．　大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから
６．　専門的な知識や技術を身につけたいから
７．　なりたい職業に就くための資格を取得したいから
８．　就職に有利だと思うから
９．　県外・島外で生活してみたいから
10．進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
11．家族や先生などに短期大学や専門学校への進学をすすめられたから
12．特に理由はない
13．その他（具体的に：　　）

→ 次ページ 問８ にお進みください。

B. 進学に関する質問（進学予定の方にお尋ねします）

問８～問 12 は、問４で「１. 大学へ進学」「２. 短期大学へ進学」「３. 専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問８　あなたが進学を予定している学校で学びたい分野はどれですか。（３つまで○）

【大学・短期大学】

1．　文学　　2．　外国語　　3．　国際関係

4．　その他人文学系（哲学・心理学・歴史学・文化人類学等）

5．　教育（教員養成を含む）　　6．　法律・政治・行政

7．　経済・経営・商学　　8．　観光　　9．　社会学

10．理学　　11．工学（情報・通信を除く）　　12．情報・通信

13．農業・林業・水産業　　14．環境

15．獣医学　　16．医学・歯学　　17．薬学

18．看護・保健　　19．福祉　　20．家政・生活科学

21．保育　　22．体育・健康科学　　23．芸術

24．その他（具体的に：　　）

【専門学校・専修学校・各種学校】

25．外国語　　26．経営・経理、ビジネス　　27．機械・電気

28．建築・土木・インテリア　　29．情報・通信　　30．デザイン

31．芸術・エンターテインメント　　32．理容・美容

33．保育・教育　　34．福祉・介護　　35．健康・スポーツ

36．医療・医療事務　　37．調理・製菓

38．その他（具体的に：　　）

問９　進学を予定している第１志望、第２志望の学校のある地域はどこですか。

【 第１志望 】（○は１つ）

1．県内（自宅から通学できる地域）　　2．県内（自宅から通学できない地域）

3．県外（国内）　　4．海外

【 第２志望 】（○は１つ）

1．県内（自宅から通学できる地域）　　2．県内（自宅から通学できない地域）

3．県外（国内）　　4．海外

問 10　現在あなたが進学して学びたいと考えている分野について、**沖縄県内の大学や専門学校等に新たに学部・学科等が新設された場合**、あなたはその学部・学科等への進学についてどのように考えますか。（○は１つ）

1．進学先の候補の一つとして考える　　2．進学先の候補としては考えない

3．わからない

問 11　あなたは進学する学校を決める際に、以下の①～⑨についてどの程度重視しますか。
（項目ごとに１つずつ〇）

進学する学校を決める際に考えたこと	1 非常に重視する	2 ある程度重視する	3 あまり重視しない	4 全く重視しない
①授業料や生活費の負担	1	2	3	4
②自宅から通学できること	1	2	3	4
③県内の学校であること	1	2	3	4
④進学する学校のある地域	1	2	3	4
⑤自分の学力に見合っていること	1	2	3	4
⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと	1	2	3	4
⑦進学する学校の教育内容	1	2	3	4
⑧進学する学校の伝統や校風、評判	1	2	3	4
⑨家族や先生などの意見	1	2	3	4

問 12　あなたは進路選択に当たって、どのようなことが心配ですか。（当てはまるもの全てに〇）
（進学する学校が決まっている方は、進路選択するまでに心配だったことを回答してください。）

１．学力が不足しているかもしれないこと
２．経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと
３．予定している進路が自分に合っているか分からないこと
４．進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと
５．進路の相談をできる相手がいないこと
６．その他（具体的に：　　）
７．心配はない

→ 次ページ 問 13 にお進みください。

C. 共通質問（全ての方にお尋ねします）

問 13　もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、あなたは高校卒業後にどのような進路を希望しますか。（○は１つ）

１．大学へ進学する
２．短期大学へ進学する
３．専門学校へ進学する
　　→ **問 14 へ**

働きながら、「大学」「短期大学」「専門学校」に通う予定の方は、**進学予定の学校**を左の１～３の中から選択してください。

４．就職する（家業・家事従事を含む）　→**問 16 へ**

５．しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える　→**問 16 へ**

６．その他　（よろしければ具体的な進路などを書いて下さい　）　→**問 16 へ**

問 14・問 15 は、問 13 で「１. 大学へ進学」「２. 短期大学へ進学」「３. 専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問 14　もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、あなたは進学してどのような分野を学びたいと思いますか。（３つまで○）

【大学・短期大学】

１．文学　２．外国語　３．国際関係
４．その他人文学系（哲学・心理学・歴史学・文化人類学等）
５．教育（教員養成を含む）　６．法律・政治・行政
７．経済・経営・商学　８．観光　９．社会学
10．理学　11．工学（情報・通信を除く）　12．情報・通信
13．農業・林業・水産業　14．環境
15．獣医学　16．医学・歯学　17．薬学
18．看護・保健　19．福祉　20．家政・生活科学
21．保育　22．体育・健康科学　23．芸術
24．その他（具体的に：　　）

【専門学校・専修学校・各種学校】

25．外国語　26．経営・経理、ビジネス　27．機械・電気
28．建築・土木・インテリア　29．情報・通信　30．デザイン
31．芸術・エンターテインメント　32．理容・美容
33．保育・教育　34．福祉・介護　35．健康・スポーツ
36．医療・医療事務　37．調理・製菓
38．その他（具体的に：　　）

問 15　もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、あなたはどの地域の学校に進学したいと思いますか。（○は１つ）

１．県内（自宅から通学できる地域）　２．県内（自宅から通学できない地域）
３．県外（国内）　４．海外

問 16　仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとした場合にあなたが「希望する進路」**と、高校卒業後のあなたの「**現実的な進路**」（予定）に違いがありますか。（○は１つ）

１．全く心配ごとがない場合に「希望する進路」と「現実的な進路」に**違いはない**　→**問 18 へ**
２．全く心配ごとがない場合に「希望する進路」と「現実的な進路」に**違いがある**　→**問 17 へ**

問 17 は、問 16 で「２.「希望する進路」と「現実的な進路」に違いがある」と回答した方にお尋ねします。

問 17　**全く心配ごとがない場合に「希望する進路」**と「**現実的な進路**」（予定）の違いは、次の①～⑤とどの程度関係がありますか。（項目ごとに１つずつ○）

「希望する進路」と「現実的な進路」の違いと関係すること	1 非常に関係する	2 ある程度関係する	3 あまり関係しない	4 全く関係しない
①家庭の経済状況	1	2	3	4
②自分や家族の体調などの問題	1	2	3	4
③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと	1	2	3	4
④自分自身の学力	1	2	3	4
⑤その他	1	2	3	4

問 18　あなたは、以下の①～⑥の進学を支援する制度について、どの程度知っていますか。（項目ごとに１つずつ○）

進学を支援する制度	1 制度があることを知らない	2 制度があることは知っているが内容は知らない	3 制度内容を知っている	4 制度の利用を検討した（または、利用予定）
①日本学生支援機構の奨学金	1	2	3	4
②進学予定の学校による奨学金･学費減免	1	2	3	4
③沖縄県の給付型（返済不要）奨学金	1	2	3	4
④その他の奨学金	1	2	3	4
⑤就職先が学費を負担してくれる制度	1	2	3	4
⑥沖縄県が運営する県外の学生寮	1	2	3	4

問 19　あなたの進路の選択に、**一番大きな**影響を与えているのは誰の意見ですか。（○は１つ）

１．母親	２．父親	３．兄姉
４．祖父・祖母	５．その他の家族・親戚	
６．通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）		
７．塾・予備校等の先生	８．友人・先輩	
９．その他（具体的に：　　）		

問 20　あなたは、進路に関する情報をどこから入手していますか。（当てはまるもの全てに○）

1．　通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）
2．　塾・予備校等の先生など
3．　親や親戚
4．　学校や企業等の案内やパンフレット
5．　学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど
6．　学校や企業等のホームページ
7．　学校や企業等の情報がまとめて掲載されている Web サイト
8．　進学・就職に関する情報誌
9．　新聞、テレビ、ニュースサイト
10．SNS
11．その他（具体的に：　　）

問 21　あなたは、進路に関する以下の①～⑤の話題について、家庭内でどの程度話をされていますか。（項目ごとに１つずつ○）

進路に関する話題	1 よく話をする	2 ときどき話をする	3 あまり話をしない	4 全く話をしない
①高等学校卒業後の具体的な進路（学校、学部・学科、就職先など）	1	2	3	4
②将来の職業	1	2	3	4
③将来の夢	1	2	3	4
④高等学校での成績	1	2	3	4
⑤進学費用	1	2	3	4

問 22　あなたが通っている高等学校の進路指導について、どのような要望がありますか。（当てはまるもの全てに○）

1．　もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい
2．　生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい
3．　生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい
4．　もっと進路指導の機会を増やしてほしい
5．　その他（具体的に：　　）
6．　特に要望はない

アンケートの回答が先生に見られる心配はありません。
安心してご回答ください。

問 23　あなたが通っている高等学校について、あなたはどのように感じていますか。（当てはまるもの全てに○）

１．自分の進路について深く考える機会が得られた
２．なりたい職業について学べた
３．社会生活を送る上で必要な知識やルールなどを学べた
４．進路・職業・社会生活には役立たないかもしれないが興味深いことを学べた
５．自分の力で色々なことに取り組む自信がついた
６．今後、長く付き合っていけそうな友人ができた
７．この学校に入学できたことに満足している
８．上記に当てはまるものはない

問 24　あなたは、自分自身について考えたとき、次の①～⑧について、どの程度当てはまると思いますか。（項目ごとに１つずつ○）

自分自身で感じていること	1 とても 当てはまる	2 やや 当てはまる	3 あまり 当てはまらない	4 全く 当てはまらない
①今のままの自分でよいと感じている	1	2	3	4
②自分らしく生きていると思う	1	2	3	4
③他人より優れているところがある	1	2	3	4
④世の中に貢献できる力があると思う	1	2	3	4
⑤色々なことに積極的に挑戦できる	1	2	3	4
⑥何かを決めるとき、迷わず決められる	1	2	3	4
⑦小さな失敗が気になる方である	1	2	3	4
⑧人と比べて心配性な方である	1	2	3	4

問 25　あなたは、今の生活全般について、どの程度満足していますか。（○は１つ）

1． 満足	2． どちらかと いえば満足	3． どちらとも いえない	4． どちらかと いえば不満	5． 不満

問 26　あなたの世帯の**経済的な面から見た暮らし向き**について、あなたはどのように感じていますか。（○は１つ）

1． ゆとりがある	2． ややゆとりがある	3． 普通	4． やや苦しい	5． 大変苦しい

ご協力ありがとうございました。

最後に、記入漏れがないかご確認ください。
お答えいただいた調査票は、折りたたんで1**生徒用の封筒**に入れて封をしてください。

保護者用アンケート　調査票

高校生の進路選択に関するアンケート調査 調査票

A．あなたとお子さんの関係について

問１　あなたと高校３年生のお子さんとの続柄をお答えください（○は１つ）

１．母親	２．父親	３．祖父・祖母	４．その他（　　）

★以下では、お子さんの進路などについてご質問しますが、**お子さんに尋ねることなく**、あなたが日頃、理解していることに基づいてご回答願います。

B．お子さんの進路について

問２　高校3年生のお子さんの高校卒業後の進路（**現実的な予定**）をお答えください。（○は1つ）

１．大学へ進学する　→**問４へ**

２．短期大学へ進学する
３．専門学校へ進学する
　　→**問５へ**

働きながら、「大学」「短期大学」「専門学校」に通う予定の方は、**進学予定の学校**を左の１～３の中から選択してください。

４．就職する（家業・家事従事を含む）　→**問３へ**

５．しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える　→**問 10 へ**

６．その他　（よろしければ具体的な進路などを書いて下さい　　）　→**問 10 へ**

７．わからない　→**問 10 へ**

問３は、問２で「４. 就職する」と回答した方にお尋ねします。

問３　高校３年生のお子さんが就職する理由は何だと思われますか。（当てはまるもの全てに○）

１．進学のための経済的な負担が大きいから
２．自宅から通学できるところに進学したい学校がないから
３．進学したい学校が県内にないから
４．自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから
５．勉強は高校までで十分だと思うから
６．早くお金を稼ぎたいから
７．仕事をする方が自分に向いていると思うから
８．やりたい仕事があるから
９．家族や先生などに就職をすすめられたから
10．その他（具体的に：　　）
11．わからない

→ ５ページ 問 10 にお進みください。

問４は、問２で「１．大学へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問４　高校３年生のお子さんが大学へ進学する理由は何だと思われますか。（当てはまるもの全てに○）

１．　大学に進学するのは当然だと思っているから
２．　幅広い教養を身につけたいから
３．　専門的な知識や技術を身につけたいから
４．　なりたい職業に就くための資格を取得したいから
５．　就職に有利だと思うから
６．　幅広い多くの人と知り合うことができるから
７．　学生生活を楽しみたいから
８．　県外・島外で生活してみたいから
９．　進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
10．家族や先生などに大学進学をすすめられたから
11．その他（具体的に：　　）
12．わからない

→ 次ページ 問６ にお進みください。

問５は、問２で「２．短期大学へ進学」「３．専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問５　高校３年生のお子さんが短期大学または専門学校へ進学する理由は何だと思われますか。（当てはまるもの全てに○）

１．　大学進学は経済的な負担が大きいから
２．　自宅から通学できるところに進学したい大学がないから
３．　進学したい大学が県内にないから
４．　自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから
５．　大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから
６．　専門的な知識や技術を身につけたいから
７．　なりたい職業に就くための資格を取得したいから
８．　就職に有利だと思うから
９．　県外・島外で生活してみたいから
10．進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
11．家族や先生などに短期大学や専門学校への進学をすすめられたから
12．その他（具体的に：　　）
13．わからない

→ 次ページ 問６ にお進みください。

C．進学に関する質問（進学予定の方にお尋ねします）

問６～問９は、問２で「１．大学へ進学」「２．短期大学へ進学」「３．専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問６　高校３年生のお子さんが進学を予定している学校で学びたいと考えている分野はどれだと思われますか。（３つまで○）

【大学・短期大学】

１．文学　２．外国語　３．国際関係
４．その他人文学系（哲学・心理学・歴史学・文化人類学等）
５．教育（教員養成を含む）　６．法律・政治・行政
７．経済・経営・商学　８．観光　９．社会学
10．理学　11．工学（情報・通信を除く）　12．情報・通信
13．農業・林業・水産業　14．環境
15．獣医学　16．医学・歯学　17．薬学
18．看護・保健　19．福祉　20．家政・生活科学
21．保育　22．体育・健康科学　23．芸術
24．その他（具体的に：　　）　25．わからない

【専門学校・専修学校・各種学校】

26．外国語　27．経営・経理、ビジネス　28．機械・電気
29．建築・土木・インテリア　30．情報・通信　31．デザイン
32．芸術・エンターテインメント　33．理容・美容
34．保育・教育　35．福祉・介護　36．健康・スポーツ
37．医療・医療事務　38．調理・製菓
39．その他（具体的に：　　）　40．わからない

問７　高校３年生のお子さんが進学を予定している第１志望、第２志望の学校のある地域はどこだと思われますか。

【 第１志望 】（○は１つ）

１．県内（自宅から通学できる地域）　２．県内（自宅から通学できない地域）
３．県外（国内）　４．海外　５．わからない

【 第２志望 】（○は１つ）

１．県内（自宅から通学できる地域）　２．県内（自宅から通学できない地域）
３．県外（国内）　４．海外　５．わからない

問８　お子さんは、進学する学校を決める際に、以下の①～⑨についてどの程度重視していると思われますか。（項目ごとに１つずつ〇）

進学する学校を決める際に考えたこと	1 非常に重視する	2 ある程度重視する	3 あまり重視しない	4 全く重視しない
①授業料や生活費の負担	1	2	3	4
②自宅から通学できること	1	2	3	4
③県内の学校であること	1	2	3	4
④進学する学校のある地域	1	2	3	4
⑤自分の学力に見合っていること	1	2	3	4
⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと	1	2	3	4
⑦進学する学校の教育内容	1	2	3	4
⑧進学する学校の伝統や校風、評判	1	2	3	4
⑨家族や先生などの意見	1	2	3	4

問９　**あなたは**、お子さんの進路選択に当たって、どのようなことが心配ですか。
（当てはまるもの全てに〇）
（進学する学校が決まっている場合は、進路選択するまでに心配だったことを回答願います。）

１．お子さんの学力が不足しているかもしれないこと
２．経済的な理由でお子さんが希望する進路を選択できないかもしれないこと
３．予定している進路がお子さんに合っているか分からないこと
４．進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと
５．お子さんが進路の相談をできる相手がいないこと
６．その他（具体的に：　　）
７．心配はない

→ 次ページ 問 10 にお進みください。

D．共通質問（全ての方にお尋ねします）

問 10　もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、お子さんは高校卒業後にどのような進路を希望すると思われますか。（○は１つ）

1．大学へ進学する
2．短期大学へ進学する
3．専門学校へ進学する
→**問 11 へ**

働きながら、「大学」「短期大学」「専門学校」に通う予定の方は、**進学予定の学校**を左の１～３の中から選択してください。

4．就職する（家業・家事従事を含む）　→**問 13 へ**
5．しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考える　→**問 13 へ**
6．その他　（よろしければ具体的な進路などを書いて下さい　）　→**問 13 へ**
7．わからない　→**問 13 へ**

問 11・問 12 は、問 10 で「1．大学へ進学」「2．短期大学へ進学」「3．専門学校へ進学」と回答した方にお尋ねします。

問 11　もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、お子さんは進学してどのような分野を学びたいと考えると思いますか。（３つまで○）

【大学・短期大学】

1．文学　2．外国語　3．国際関係
4．その他人文学系（哲学・心理学・歴史学・文化人類学等）
5．教育（教員養成を含む）　6．法律・政治・行政
7．経済・経営・商学　8．観光　9．社会学
10．理学　11．工学（情報・通信を除く）　12．情報・通信
13．農業・林業・水産業　14．環境
15．獣医学　16．医学・歯学　17．薬学
18．看護・保健　19．福祉　20．家政・生活科学
21．保育　22．体育・健康科学　23．芸術
24．その他（具体的に：　）　25．わからない

【専門学校・専修学校・各種学校】

26．外国語　27．経営・経理、ビジネス　28．機械・電気
29．建築・土木・インテリア　30．情報・通信　31．デザイン
32．芸術・エンターテインメント　33．理容・美容
34．保育・教育　35．福祉・介護　36．健康・スポーツ
37．医療・医療事務　38．調理・製菓
39．その他（具体的に：　）　40．わからない

問 12 もし仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとしたら**、お子さんはどの地域の学校に進学したいと考えると思いますか。（○は１つ）

1．県内（自宅から通学できる地域）　2．県内（自宅から通学できない地域）
3．県外（国内）　4．海外　5．わからない

問 13　仮に、**全く心配ごとがなく自由に進路を選べるとした場合にお子さんが「希望する進路」**と、高校卒業後のお子さんの「**現実的な進路**」（予定）に違いがあると思いますか。（○は１つ）

１．全く心配ごとがない場合に「希望する進路」と「現実的な進路」に**違いはない**　→**問 15 へ**
２．全く心配ごとがない場合に「希望する進路」と「現実的な進路」に**違いがある**　→**問 14 へ**

問 14 は、問 13 で「２.「希望する進路」と「現実的な進路」に違いがある」と回答した方にお尋ねします。

問 14　**全く心配ごとがない場合にお子さんが「希望する進路」**とお子さんの「**現実的な進路**」（予定）の違いは、次の①～⑤とどの程度関係がありますか。（項目ごとに１つずつ○）

「希望する進路」と「現実的な進路」の違いと関係すること	1 非常に関係する	2 ある程度関係する	3 あまり関係しない	4 全く関係しない
①家庭の経済状況	1	2	3	4
②お子さん本人や家族の体調などの問題	1	2	3	4
③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと	1	2	3	4
④お子さん自身の学力	1	2	3	4
⑤その他	1	2	3	4

問 15　**あなたは**、以下の①～⑥の進学を支援する制度について、どの程度知っていますか。（項目ごとに１つずつ○）

進学を支援する制度	1 制度があることを知らない	2 制度があることは知っているが内容は知らない	3 制度内容を知っている	4 制度の利用を検討した（または、利用予定）
①日本学生支援機構の奨学金	1	2	3	4
②進学予定の学校による奨学金･学費減免	1	2	3	4
③沖縄県の給付型（返済不要）奨学金	1	2	3	4
④その他の奨学金	1	2	3	4
⑤就職先が学費を負担してくれる制度	1	2	3	4
⑥沖縄県が運営する県外の学生寮	1	2	3	4

問 16　**あなたは**、お子さんと進路に関する以下の①～⑤の話題について、家庭内でどの程度話をされていますか。（項目ごとに１つずつ○）

進路に関する話題	1 よく話をする	2 ときどき話をする	3 あまり話をしない	4 全く話をしない
①高等学校卒業後の具体的な進路（学校、学部・学科、就職先など）	1	2	3	4
②将来の職業	1	2	3	4
③将来の夢	1	2	3	4
④高等学校での成績	1	2	3	4
⑤進学費用	1	2	3	4

問 17　**あなたは**、お子さんの進路に関する情報をどこから入手していますか。（当てはまるもの全てに○）

1．　通学している高等学校の先生（担任・進路指導担当など）
2．　塾・予備校等の先生など
3．　配偶者や親戚
4．　学校や企業等の案内やパンフレット
5．　学校や企業等の説明会やオープンキャンパスなど
6．　学校や企業等のホームページ
7．　学校や企業等の情報がまとめて掲載されている Web サイト
8．　進学・就職に関する情報誌
9．　新聞、テレビ、ニュースサイト
10．SNS
11．その他（具体的に：　　）

問 18　お子さんが通われている高等学校の進路指導について、どのような要望がありますか。（当てはまるもの全てに○）

1．もっと進路に関する具体的な情報提供をしてほしい
2．生徒一人ひとりのことを理解した指導をしてほしい
3．生徒の適性や可能性を気づかせてくれるような指導をしてほしい
4．もっと進路指導の機会を増やしてほしい
5．その他（具体的に：　　）
6．特に要望はない

アンケートの回答が先生に見られる心配はありません。
安心してご回答ください。

E．ご家族のことについて

問 19　**高校３年生のお子さんからみた**、家族の構成員をお答えください。（当てはまるもの全てに○）

1．父親	2．母親	3．祖父・祖母
4．兄弟姉妹	5．その他の親族	6．親族以外

問 20　高校３年生のお子さんのお父様、お母様の年齢をお答えください。
（数字でご記入ください。いない場合には「－」をご記入ください。）

父親：　　歳　（いない場合には「－」を記入）	
母親：　　歳　（いない場合には「－」を記入）	

問 21　お父様、お母様が**最後に卒業**された学校をお答えください。

【 **お父様** 】（○は１つ）（いない場合には回答不要）

１．中学校	２．高等学校	３．専門学校
４．短期大学・高専	５．大学・大学院	

【 **お母様** 】（○は１つ）（いない場合には回答不要）

１．中学校	２．高等学校	３．専門学校
４．短期大学・高専	５．大学・大学院	

問 22　お父様、お母様のお仕事をお答えください。

【 **お父様** 】（○は１つ）（いない場合には回答不要）

１．自営業（家族従業者を含む）
２．自由業（弁護士、開業医、芸術家など）
３．経営者・役員（民間企業、法人・団体等の経営者・役員）
４．民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員
５．民間企業・官公庁・団体などの契約社員・職員、嘱託社員・職員
６．パート・アルバイト、臨時社員・職員、派遣社員・職員
７．無職（専業主夫を含む）
８．その他（具体的に：　　）

【 **お母様** 】（○は１つ）（いない場合には回答不要）

１．自営業（家族従業者を含む）
２．自由業（弁護士、開業医、芸術家など）
３．経営者・役員（民間企業、法人・団体等の経営者・役員）
４．民間企業・官公庁・団体などの正社員・正職員
５．民間企業・官公庁・団体などの契約社員・職員、嘱託社員・職員
６．パート・アルバイト、臨時社員・職員、派遣社員・職員
７．無職（専業主婦を含む）
８．その他（具体的に：　　）

問 23　あなたの**世帯の１年間の収入（税引前）**をお答えください。（○は１つ）
（給与、年金、各種手当、給付金などを含む世帯の全ての収入を合計してお答えください。）

１．100 万円未満	２．100 万円以上 200 万円未満
３．200 万円以上400 万円未満	４．400 万円以上600 万円未満
５．600 万円以上800 万円未満	６．800 万円以上 1,000 万円未満
７．1,000 万円以上 1,500 万円未満	８．1,500 万円以上

ご協力ありがとうございました。

最後に、記入漏れがないかご確認ください。
お答えいただいた調査票は、折りたたんで**2 保護者用の封筒**に入れて封をしてください。

進学・進路決定者アンケート　調査票

［スクリーニング用設問］

■調査Ａ・Ｂ共通

問１　あなたは 18 歳（高校卒業年齢）の時に、どちらの都道府県に住んでいましたか。

※都道府県リスト＋**「海外」**から選択。

問２　あなたが最後に卒業した（中退は含まない）学校をお答えください。

１．中学校　★調査対象外
２．高等学校
３．高等専門学校（高専）　★調査対象外
４．専門学校
５．短期大学
６．大学・大学院

《現実／希望の進路》

問３　高校卒業後の実際の進路と仮に**全く心配ごとがなく自由に進路を選ぶことができたとした場合に進みたかった進路**をお答えください。（それぞれ１つずつ選択）

※働きながら「大学」「短期大学」「専門学校」に通った方は、進学した学校を１～３の中から選択してください。

	実際の進路	全く心配ごとがない場合の希望の進路
１．大学への進学		
２．短期大学への進学		
３．専門学校への進学		
４．就職（家業・家事従事を含む）（注１）		
５．しばらくはアルバイトなどをして、その後進路を考えた（注２）		
６．その他（　　）		

（注１）仕事をしながら定時制高校に通い、卒業後に進学せずにそのまま仕事を続けた場合を含む。
（注２）アルバイトなどをしながら定時制高校に通い、卒業後に進学せずにそのままアルバイトなどを続けた場合を含む。

★スクリーニング問３の「実際の進路」で１～３（進学）、「希望の進路」で４～６（就職等）を選択した方については、本調査の問５・６を回答不要として、問７に進む。

★スクリーニング問３の「実際の進路」と「全く心配ごとがない場合の進路」のどちらにも１～３（進学）を含まない方は、本調査の問５・６・７を回答不要として、問８に進む。

■調査Ｂのみ

問２　現在あなたが在学中の学校をお答えください。

１．大学・大学院
２．短期大学
３．専門学校

［本調査用設問］

問１　あなたは、どのような高校を卒業しましたか。

１．全日制
２．定時制
３．通信制
４．高校は卒業していない

★問１で「４．高校は卒業していない」と回答した方は、問２・３を回答不要として、問４に進む。

問２　あなたが卒業した高校の学科をお答えください。

１．普通科
２．英語・国際・人文系学科
３．理数系学科
４．工業・デザイン系学科
５．商業系学科
６．情報系学科
７．農業系学科
８．水産系学科
９．家政・福祉・調理・看護系学科
10．芸術・体育系学科
11．総合学科
12．その他（　　）

問３　あなたが卒業した高校のある（あった）地域名をお答え下さい。

１．沖縄本島北部
２．沖縄本島中南部
３．沖縄本島以外の離島
４．その他（　　）

問４　あなたには、兄弟姉妹が何人いますか。（**あなた自身を除く**人数をお答え下さい）

１．１人
２．２人
３．３人
４．４人
５．５人以上
６．兄弟姉妹はいない

問５　高校卒業後に実際に進学した学校であなたが学んだ分野と仮に**全く心配ごとがなく自由に進路を選ぶことができたとした場合に学びたかった分野**をお答えください。（実際の進路は１つ、希望の進路は３つまで選択）

	実際の進路	全く心配ごとがない場合の希望の進路
【大学・短期大学】		
１．文学		
２．外国語		
３．国際関係		
４．その他人文学系（哲学・心理学・歴史学・文化人類学等）		
５．教育（教員養成を含む）		
６．法律・政治・行政		
７．経済・経営・商学		
８．観光		
９．社会学		
10．理学		
11．工学（情報・通信を除く）		
12．情報・通信		
13．農業・林業・水産業		
14．環境		
15．獣医学		
16．医学・歯学		
17．薬学		
18．看護・保健		
19．福祉		
20．家政・生活科学		
21．保育		
22．体育・健康科学		
23．芸術		
24．その他（　　）		
【専門学校・専修学校・各種学校】		
25．外国語		
26．経営・経理、ビジネス		
27．機械・電気		
28．建築・土木・インテリア		
29．情報・通信		
30．デザイン		
31．芸術・エンターテインメント		
32．理容・美容		
33．保育・教育		
34．福祉・介護		
35．健康・スポーツ		
36．医療・医療事務		
37．調理・製菓		
38．その他（　　）		

★スクリーニング問3の「実際の進路」で4～6（就職等）、「希望の進路」で1～3（進学）を選択した方については、問5の「実際の進路」の回答欄を非表示とする。

問６　高校卒業後に実際に進学した学校のあった（ある）地域と仮に**全く心配ごとがなく自由に進路を選ぶことができたとした場合に進学したかった学校のある地域**をお答えください。（それぞれ１つ選択）

	実際の進路	全く心配ごとがない場合の希望の進路
１．沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できる地域）		
２．沖縄県内（高校３年生当時の自宅から通学できない地域）		
３．沖縄県外（国内）		
４．海外（調査Ｂは「その他」）		

★スクリーニング問3の「実際の進路」で4～6（就職等）、「希望の進路」で1～3（進学）を選択した方については、問6の「実際の進路」の回答欄を非表示とする。

【上の3つの問で、「実際の進路」と「希望の進路」に一部でも違いがある場合に、以下の問に誘導】

問７　全く心配ごとがない場合に「希望する進路」と「実際の進路」の違いは、次の①～⑤とどの程度関係がありますか。（項目ごとに１つずつ選択）

「希望する進路」と「実際の進路」の違いと関係すること	1 非常に関係する	2 ある程度関係する	3 あまり関係しない	4 全く関係しない
①家庭の経済状況	1	2	3	4
②自分や家族の体調などの問題	1	2	3	4
③進学先に親や他の家族等の理解が得られないこと	1	2	3	4
④自分自身の学力	1	2	3	4
⑤その他	1	2	3	4

問８　**<u>沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるために</u>**、次の①～⑬の進路選択に当たっての支援は、どの程度重要だと思いますか。（項目ごとに１つずつ選択）

「希望する進路」を選べるようにするための支援	1 非常に重要だ	2 ある程度重要だ	3 あまり重要ではない	4 全く重要ではない
①進学のための給付型奨学金（返済義務なし）	1	2	3	4
②進学のための貸与型奨学金（返済義務あり）	1	2	3	4
③自宅外通学をするための補助や学生寮の設置	1	2	3	4
④学習塾等の授業料への補助	1	2	3	4
⑤低料金で参加できる学力向上のため「補習塾」	1	2	3	4
⑥沖縄県内での県外大学・専門学校の情報提供の機会	1	2	3	4
⑦沖縄県外にある大学・専門学校の見学等に参加する交通費等への補助	1	2	3	4
⑧希望する分野の勉強ができる沖縄県内の大学・専門学校	1	2	3	4
⑨自分の学力に合った沖縄県内の大学・専門学校	1	2	3	4
⑩進路について気軽に相談できる場所	1	2	3	4
⑪関心や能力に合わせた高校での適切な進路指導	1	2	3	4
⑫将来の職業について考える機会や場所の提供	1	2	3	4
⑬希望する職業に就くために必要な勉強や資格についての情報提供	1	2	3	4

問９　**<u>沖縄県の高校生が「希望する進路」を選べるようになるために</u>**、どのような支援が重要だと思いますか。（ご意見があれば、ご記入下さい。）

《進路選択の背景》

問 10　高校卒業後のあなたの進路の選択に、**一番大きな**影響を与えたのは誰の意見ですか。（１つ選択）

1．母親
2．父親
3．兄姉
4．祖父・祖母
5．その他の家族・親戚
6．通学していた高等学校の先生（担任・進路指導担当など）
7．塾・予備校等の先生
8．友人・先輩
9．その他（　　）

問 11　あなたは高校卒業後に進学する学校を決める際に、以下の①～⑨についてどの程度重視しましたか。（項目ごとに１つずつ選択）

進学する学校を決める際に考えたこと	1 非常に重視した	2 ある程度重視した	3 あまり重視しなかった	4 全く重視しなかった
①授業料や生活費の負担	1	2	3	4
②自宅から通学できること	1	2	3	4
③県内の学校であること	1	2	3	4
④進学する学校のある地域	1	2	3	4
⑤自分の学力に見合っていること	1	2	3	4
⑥将来希望する職業に役立つ知識・技術が身につくこと	1	2	3	4
⑦進学する学校の教育内容	1	2	3	4
⑧進学する学校の伝統や校風、評判	1	2	3	4
⑨家族や先生などの意見	1	2	3	4

問 12　高校卒業後の進路を選択する際に、あなたはどのようなことが心配でしたか。（当てはまるもの全て選択）

1．学力が不足しているかもしれないこと
2．経済的な理由で希望する進路を選択できないかもしれないこと
3．予定している進路が自分に合っているか分からないこと
4．進路選択に当たって必要な情報を集めることができないこと
5．進路の相談をできる相手がいないこと
6．その他（　　）
7．心配はなかった

《進路選択理由：高校卒業後に就職した方》（調査Ａのみ）

問 13　高校卒業後にあなたが就職した理由は何ですか。（当てはまるもの全て選択）

１．進学のための経済的な負担が大きいから
２．自宅から通学できるところに進学したい学校がないから
３．進学したい学校が県内にないから
４．自分の学力では希望する学校に進学できそうもないから
５．勉強は高校までで十分だと思うから
６．早くお金を稼ぎたいから
７．仕事をする方が自分に向いていると思うから
８．やりたい仕事があるから
９．家族や先生などに就職をすすめられたから
10．その他（　　）
11．特に理由はない

《進路選択理由：高校卒業後に大学に進学した方》

問 14　高校卒業後にあなたが大学へ進学した理由は何ですか。（当てはまるもの全て選択）

１．大学に進学するのは当然だと思っているから
２．幅広い教養を身につけたいから
３．専門的な知識や技術を身につけたいから
４．なりたい職業に就くための資格を取得したいから
５．就職に有利だと思うから
６．幅広い多くの人と知り合うことができるから
７．学生生活を楽しみたいから
８．県外・島外で生活してみたいから
９．進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
10．家族や先生などに大学進学をすすめられたから
11．その他（　　）
12．特に理由はない

《進路選択理由：高校卒業後に短大・専門学校に進学した方》

問 15　あなたが短期大学または専門学校へ進学する理由は何ですか。（当てはまるもの全て選択）

１．大学進学は経済的な負担が大きいから
２．自宅から通学できるところに進学したい大学がないから
３．進学したい大学が県内にないから
４．自分の学力では希望する大学に進学できそうもないから
５．大学に進学してまで勉強する必要はないと思うから
６．専門的な知識や技術を身につけたいから
７．なりたい職業に就くための資格を取得したいから
８．就職に有利だと思うから
９．県外・島外で生活してみたいから
10．進学すれば自分のやりたいことが見つかると思うから
11．家族や先生などに短期大学や専門学校への進学をすすめられたから
12．その他（　　）
13．特に理由はない

《現在の生活などの満足度》

問 16　あなたは、自分自身について考えたとき、次の①～⑧について、どの程度当てはまると思いますか。（項目ごとに１つずつ選択）

自分自身で感じていること	1 とても 当てはまる	2 やや 当てはまる	3 あまり 当てはまらない	4 全く 当てはまらない
①今のままの自分でよいと感じている	1	2	3	4
②自分らしく生きていると思う	1	2	3	4
③他人より優れているところがある	1	2	3	4
④世の中に貢献できる力があると思う	1	2	3	4
⑤色々なことに積極的に挑戦できる	1	2	3	4
⑥何かを決めるとき、迷わず決められる	1	2	3	4
⑦小さな失敗が気になる方である	1	2	3	4
⑧人と比べて心配性な方である	1	2	3	4

問 17　あなたは、今の生活全般について、どの程度満足していますか。（１つ選択）

１．満足
２．どちらかといえば満足
３．どちらともいえない
４．どちらかといえば不満
５．不満

問 18　**高校３年生の時点で**、あなたの世帯の経済的な面から見た暮らし向きについて、あなたはどのように感じていましたか。（１つ選択）

１．ゆとりがある
２．ややゆとりがある
３．普通
４．やや苦しい
５．大変苦しい

■調査Ｂのみ

問 22　あなたの性別をお答えください。

１．男性
２．女性

問 23　あなたが現在お住まいの地域をお答えください。

※都道府県リスト＋「海外」から選択。

平成 29 年度 高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る調査 報告書

平成 30 年３月

【実 施 主 体】沖 縄 県 企 画 部 企 画 調 整 課

【調査委託先】高等教育を受ける機会の創出・環境整備等に係る調査委託業務共同企業体

（三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社・株式会社おきぎん経済研究所）